

鳥栖市文化財調査報告書第78集

勝尾城筑紫氏遺跡

勝尾城筑紫氏（勝尾城下町）遺跡確認調査報告書(2)

2006

鳥栖市教育委員会

鳥栖市文化財調査報告書第78集

勝尾城筑紫氏（勝尾城下町）遺跡確認調査報告書(2)

かつのおじょう ちくし し
勝尾城筑紫氏遺跡



2006

鳥栖市教育委員会



1. 勝尾城筑紫氏遺跡全景（南東上空から）



2. 勝尾城石垣（北から）



3. 勝尾城から葛籠城・総構方面



4. 勝尾城から高取城（手前）朝日山城（奥）方面

序

戦国時代の城下町「勝尾城下町遺跡」は、佐賀県東部の鳥栖市街地から北西へ4.5km、標高501.3mの城山南麓一帯にあります。この城山山頂に勝尾城があり、その存在は城主筑紫広門と島津合戦の伝承とともに、「城山^{じょうやま}」という呼称で親しまれてきました。

鳥栖市教育委員会では、この勝尾城下町遺跡について平成7年度から平成16年度まで、国庫補助事業で遺跡の確認調査を実施してまいりました。この調査によって、山城や家臣屋敷、寺社、町屋など城下町全体がほぼ完全な形で残っていることが明らかになり、戦国時代を代表する典型的な城下町跡として各方面から高い評価を受けることになりました。

このように戦国時代の城下町全体がそっくり残っている例は全国的にも稀であり、平成18年1月には「戦国期における城下町の様子をよく表しており、保存状態が良好であり、戦国期の歴史を考える上で重要」な遺跡として、「勝尾城筑紫氏遺跡」の名称で国の史跡に指定されました。

本報告書は、その遺跡確認調査の平成11年度から平成16年度までの調査報告書でございます。国指定史跡の報告書としては必ずしも十分なものではございませんが、城郭研究の資料として活用していただきますとともに、文化財への理解と認識を深める一助になれば幸いです。

最後になりましたが、発掘調査について終始ご協力いただきました地権者並びに地元の方々、さらには史跡指定にご支援いただきました皆様に感謝する次第でございます。今後とも、よろしくご高配のほどお願いいたします。

平成18年3月31日

鳥栖市教育委員会

教育長 中尾 勇二

例 言

1. 本書は、鳥栖市教育委員会が平成11年度から16年度にかけて発掘調査を実施した鳥栖市牛原町、山浦町、河内町に所在する勝尾城筑紫氏遺跡の確認調査報告書である。
2. 遺跡名は「勝尾城下町遺跡」として周知化している。平成18年1月に「勝尾城筑紫氏遺跡」の名称で国史跡に指定された。
3. 事業は平成11年度～16年度に発掘調査、平成17年度整理報告を、それぞれ文化庁国宝重要文化財整備費補助金、及び佐賀県文化財保存事業補助金をうけて、鳥栖市教育委員会が行った。
4. トレンチ及び、遺構の実測は尼寺征子・権藤イツヨ・杉岡俊昭・谷川久美子・松崎友子が行い、現場写真撮影は、各年度の調査担当者が行った。
5. 出土遺物の整理作業及び、報告書作成は当初は鳥栖市田代文化財整理室で行い、平成17年5月から牛原町文化財整理室で行った。
 - (1) 遺物の実測は、権藤由美子・中島貞子・毛利よし子・山本美代子が行い、一部を株式会社埋蔵文化財サポートシステムに委託した。
 - (2) 遺物の写真撮影は湯浅満暢・島孝寿が行った。
 - (3) 遺構・遺物の製図は、権藤由美子・松崎友子・毛利よし子が行った。
6. 本書の執筆は第1章を鹿田昌宏、第2章を石橋新次・久山高史、第3章を石橋・向田雅彦・内野武史・鹿田、第4章を石橋が担当した。
7. 本書の編集は、文化財担当職員の協力のもと、鹿田がおこなった。
8. 出土遺物のうち陶磁器は、佐賀県立九州陶磁文化館副館長 大橋康二氏のご教示を得た。

凡 例

1. トレンチの番号については調査年度の地区ごとに番号を付した。
2. 測定値は遺構についてはm単位、遺物についてはcm単位とした。
3. 遺物一覧表の法量は（ ）：復原、〈 〉：残存で表記し、世紀はCで表記した。
4. 本報告書表示した方位は地形図・トレンチ位置図については座標北、遺構図・トレンチ図については磁北で、座標北は6°30′右方向である。

本文目次

第1章 調査の概要

- | | |
|---------------|---|
| I. 調査に至る経緯と経過 | 1 |
| II. 調査の組織 | 5 |

第2章 地理的・歴史的環境	
I. 地理的環境	7
II. 歴史的環境	7
III. 勝尾城の歴史	13
第3章 調査の記録	
I. 平成11年度の調査	15
II. 平成12年度の調査	89
III. 平成13年度の調査	115
IV. 平成14年度の調査	135
V. 平成15年度の調査	153
VI. 平成16年度の調査	205
第4章 まとめ	237

挿図目次

第1図 勝尾城筑紫氏遺跡全体図 (1/18,000)	3
第2図 勝尾城筑紫氏遺跡調査位置図 (1/18,000)	4
第3図 周辺地形図 (1/200,000)	8
第4図 鳥栖市遺跡分布図	11
平成11年度	
第5図 平成11年度調査地区トレンチ位置図 (1/2,000)	21
第6図 A地区2・4・6・7・9・10・11・12・13トレンチ (1/100)	22
第7図 A地区5トレンチ (1/100)	23
第8図 A地区5トレンチ石積列①・② (1/40)	24
第9図 A地区8トレンチ (1/40)	25
第10図 A地区14トレンチ (1/40)	26
第11図 A地区16・17トレンチ (1/40)	27
第12図 B地区1・2・5・6トレンチ (1/150)	28
第13図 B地区7トレンチ (1/40)	29
第14図 C地区1・2・3・4・5・6・7・9トレンチ (1/100) 8トレンチ (1/40)	30
第15図 A地区1・3・4トレンチ出土遺物 (1/3)	31
第16図 A地区5トレンチ出土遺物1 (1/3)	32
第17図 A地区5トレンチ出土遺物2 (1/3)	33
第18図 A地区5トレンチ出土遺物3 (1/3)	34
第19図 A地区5トレンチ出土遺物4 (1/3)	35

第20図	A地区5トレンチ出土遺物5 (1/3)	36
第21図	A地区5トレンチ出土遺物6 (1/3)	37
第22図	A地区5トレンチ出土遺物7 (1/3)	38
第23図	A地区5・6・7・8・10・11トレンチ出土遺物 (1/3)	39
第24図	A地区13・14・16・17トレンチ出土遺物 (1/3)	46
第25図	A地区16トレンチ出土遺物 (1/3)、A地区内出土遺物 (1/2)	41
第26図	A地区1・4・5・6トレンチ出土瓦 (1/4)	42
第27図	A地区8トレンチ出土瓦 (1/4)	43
第28図	A地区8トレンチ出土瓦2 (1/4)	44
第29図	A地区8トレンチ出土瓦3 (1/4)	45
第30図	A地区8トレンチ出土瓦4 (1/4)	46
第31図	A地区8トレンチ出土瓦5 (1/4)	47
第32図	A地区8トレンチ出土瓦6 (1/4)	48
第33図	A地区8・15・17トレンチ出土瓦 (1/4)	49
第34図	A地区17トレンチ出土瓦1 (1/4)	50
第35図	A地区17トレンチ出土瓦2 (1/4)	51
第36図	A地区17トレンチ出土瓦3 (1/4)	52
第37図	A地区17トレンチ出土瓦4 (1/4)	53
第38図	A地区17トレンチ出土瓦5 (1/4)	54
第39図	A地区17トレンチ出土瓦6 (1/4)	55
第40図	A地区17トレンチ出土瓦7 (1/4)	56
第41図	A地区17トレンチ出土瓦8 (1/4)	57
第42図	A地区16・17トレンチ出土瓦、A地区内出土石製品 (1/4)	58
第43図	A地区内出土石製品 (1/4)	59
第44図	B・C地区内出土遺物 (1/3)	60
平成12年度		
第45図	平成12年度調査A地区トレンチ位置図 (1/2,000)	92
第46図	A地区1・2・3・4・5・6・7・8・9・10・11トレンチ (1/100)	93
第47図	A地区12・13・14・15・17・18・19・20トレンチ (1/100)	94
第48図	A地区16トレンチ主要部 (1/60)	95
第49図	平成12年度調査B地区トレンチ位置図 (1/2,500)	
	B地区1・2・3・4・6・7・8・9・10トレンチ (1/100)	96
第50図	B地区5トレンチ (1/100)	97
第51図	平成12年度調査C地区トレンチ位置図 (1/2,000)	
	C地区1・2・3トレンチ (1/100)	98

第52図	C地区4・5・6トレンチ(1/100) C地区2トレンチ主要部・土層(1/40)	99
第53図	C地区3・6トレンチ土層(1/40)	100
第54図	A地区6・13・14・16トレンチ、B地区2・3トレンチ出土遺物(1/3)	101
第55図	B地区3・5トレンチ出土遺物(1/3)	102
第56図	B地区5トレンチ、C地区2トレンチ出土遺物(1/3)	103
第57図	C地区2トレンチ出土遺物(1/3)	104
第58図	C地区2・3・4・5トレンチ出土遺物(1/3)	105
平成13年度		
第59図	平成13年度調査A・C地区トレンチ位置図(1/2,000)	118
第60図	A地区1・2・3・4・5・6・7・8・9・10・11・12・13・14トレンチ(1/100)	119
第61図	A地区15・16・17トレンチ(1/100)	
	A地区2トレンチ土層(1/40) 若山砦縄張り図(1/800)	120
第62図	平成13年度調査B地区トレンチ位置図(1/2,000)	121
第63図	B地区1・2・3・4・5・6・7・8・9・10トレンチ(1/100)	122
第64図	C地区1・2・3・4・5・6・7・8・9・10・11トレンチ(1/100)	
	C地区5トレンチ土層(1/40)	123
第65図	平成13年度調査D地区トレンチ位置図(1/2,000)	
	D地区1・2・3トレンチ(1/100)	124
第66図	平成13年度調査E地区トレンチ位置図(1/2,000)	
	E地区1・2・3・4・5・6・7トレンチ(1/100)	125
第67図	A地区2・4・10トレンチ、B地区2・7トレンチ出土遺物(1/3)	126
第68図	B地区7トレンチ、C地区2・4・7トレンチ出土遺物(1/3)	127
平成14年度		
第69図	平成14年度調査A・B・C・D地区トレンチ位置図(1/2,000)	138
第70図	A地区1・2・3・4・5・6・7・8・9・10・11・12トレンチ(1/100)	139
第71図	A地区10・11トレンチ土層(1/40)	140
第72図	B地区1・2・3・4・5・6・7・8・9・10・11・12トレンチ(1/100)	141
第73図	C地区1・2・3・4・5・6・7・8 D地区1・2・3・4・5トレンチ(1/100)	142
第74図	平成14年度調査E・F地区トレンチ位置図(1/2,000)	143
第75図	E地区1・2・3・4・5・6・7トレンチ(1/100)	
	E地区3・4トレンチ土層(1/40)	
	F地区1・2・3・4トレンチ(1/100)	144
第76図	A地区1トレンチ、	
	B地区1・2・3・4・5・6・7・8・9・12トレンチ出土遺物(1/3)	145
第77図	B地区12トレンチ・表採、C地区1トレンチ出土遺物(1/3)	146

平成15年度

第78図	平成15年度調査勝尾城A・B・C地区トレンチ位置図 (1/2,000)	157
第79図	勝尾城A地区1・2・3トレンチ (1/100) 2トレンチ配石遺構 (1/40)	158
第80図	勝尾城A地区4トレンチ (1/40)	159
第81図	勝尾城A地区5トレンチ (1/40) 7・8・9・10トレンチ (1/100)	160
第82図	勝尾城A地区6トレンチ (1/40)	161
第83図	勝尾城A地区11トレンチ (1/60)	162
第84図	勝尾城A地区12・13・14・15・16・18トレンチ (1/100) 7・18トレンチ土層 (1/40)	163
第85図	勝尾城A地区17トレンチ (1/40)	164
第86図	勝尾城B地区1・2・3・4・5・6・7・8・9トレンチ (1/100)	165
第87図	勝尾城B地区10・11・12トレンチ (1/100) 2トレンチ土層 (1/40)	166
第88図	勝尾城B地区10トレンチ土層 (1/60)	167
第89図	勝尾城C地区1・2・3・4・5・6・7・8・9トレンチ (1/100)	168
第90図	勝尾城C地区1トレンチ主要部 (1/60)	169
第91図	平成15年度鬼ヶ城地区トレンチ位置図 (1/2,000)	170
第92図	鬼ヶ城地区1・2・3・5・6・7・8・9・10・11トレンチ (1/100) 3トレンチ土層 (1/40)	171
第93図	鬼ヶ城地区4トレンチ (1/40)	172
第94図	勝尾城A地区1・2トレンチ出土遺物 (1/3)	173
第95図	勝尾城A地区2・3トレンチ出土遺物 (1/3)	174
第96図	勝尾城A地区3・4トレンチ出土遺物 (1/3)	175
第97図	勝尾城A地区4・5トレンチ出土遺物 (1/3)	176
第98図	勝尾城A地区6トレンチ出土遺物 (1/3)	177
第99図	勝尾城A地区7・8・9・10・11トレンチ出土遺物 (1/3)	178
第100図	勝尾城A地区11トレンチ出土遺物 (1/3)	179
第101図	勝尾城A地区11・17・18トレンチ、 B地区1・2・3・4・5・6トレンチ出土遺物 (1/3)	180
第102図	勝尾城B地区10トレンチ出土遺物 (1/3)	181
第103図	勝尾城B地区10トレンチ出土遺物2瓦 (1/4) 砥石 (1/3)	182
第104図	勝尾城B地区11トレンチ、C地区1トレンチ出土遺物 (1/3)	183
第105図	勝尾城C地区2・5・7・8トレンチ・表採、鬼ヶ城地区出土遺物 (1/3)	184
第106図	勝尾城地区内出土遺物 (1/2)	185

平成16年度

第107図	平成16年度調査葛籠城地区トレンチ位置図 (1/3,000)	208
-------	--------------------------------	-----

第108図	葛籠城地区1・2・3・4・5・6・7・8・9・10・12・13・14トレンチ (1/100)	209
第109図	葛籠城地区11トレンチ (1/60)	210
第110図	葛籠城地区15・16・17・18・19・20・21・22・23・24・25・26・27トレンチ (1/100)	211
第111図	葛籠城地区28・29・30・31・32・33トレンチ (1/100) 12・14トレンチ土層 (1/40)	212
第112図	葛籠城地区15・16・26トレンチ土層 (1/40)	213
第113図	葛籠城地区22トレンチ土層 (1/40) 23トレンチ土層 (1/60)	214
第114図	葛籠城地区24トレンチ土層 (1/40)	215
第115図	葛籠城地区27・29・33トレンチ土層 (1/40)	216
第116図	平成16年度調査高取城地区トレンチ位置図 (1/3,000)	217
第117図	高取城地区1・2・3・4・5・6・7・8・9・10・11・12トレンチ (1/100)	218
第118図	高取城地区5・11・12トレンチ土層 (1/40)	219
第119図	平成16年度調査鏡城地区トレンチ位置図 (1/2,000)	220
第120図	鏡城地区1・2・3・4・5・6・7・8・9トレンチ (1/100)	221
第121図	鏡城地区1・2トレンチ土層 (1/40)	222
第122図	葛籠城地区、高取城地区、鏡城地区1トレンチ出土遺物 (1/3) (1/2)	223
第123図	鏡城地区2・7トレンチ出土遺物 (1/3)	224
第124図	武家屋敷地区表採石製品 (1/3)	225

表目次

表1	鳥栖市内遺跡	12
表2	平成11年度トレンチ	61
表3	平成11年度出土遺物	62
表4	平成12年度トレンチ	106
表5	平成12年度出土遺物	107
表6	平成13年度トレンチ	128
表7	平成13年度出土遺物	129
表8	平成14年度トレンチ	147
表9	平成14年度出土遺物	148
表10	平成15年度トレンチ	186
表11	平成15年度出土遺物	187
表12	平成16年度トレンチ	226
表13	平成16年度出土遺物	227
表14	武家屋敷地区表採石製品	227

写真図版目次

- 巻頭 1. 勝尾城筑紫氏遺跡全景（南東上空から） 2. 勝尾城石垣（北から）
3. 勝尾城から葛籠城・総構方面 4. 勝尾城から高取城（手前）朝日山城（奥）方面

平成11年度

- 図版1 1. A地区5トレンチ 2. A地区5トレンチ柱穴出土状態
3. A地区5トレンチ石積列①
- 図版2 1. A地区5トレンチ石積列② 2. A地区5トレンチ石積列②
3. A地区5トレンチ石積列②遺物出土状態 4. A地区5トレンチ石積列②遺物出土状態
- 図版3 1. A地区5トレンチ遺物出土状態（陶器・青花等） 2. A地区5トレンチ遺物出土状態（硯）
3. A地区5トレンチ遺物出土状態（土師器皿・蓋） 4. A地区5トレンチ遺物出土状態
5. A地区5トレンチ遺物出土状態 6. A地区5トレンチ遺物出土状態
- 図版4 1. A地区5トレンチ石臼・焼けた土壁出土状態 2. A地区5トレンチ青花出土状態
3. A地区8トレンチ 4. A地区8トレンチ
- 図版5 1. A地区8トレンチ石積みの状態 2. A地区8トレンチ石積みの状態
3. A地区8トレンチ石積みの状態
- 図版6 1. A地区8トレンチ北壁土層 2. A地区17トレンチ
3. A地区17トレンチ北壁隅遺物流入状態
- 図版7 1. A地区3トレンチ 2. A地区14トレンチ溝出土状態
3. A地区14トレンチ中国銭（洪武通宝）出土状態
- 図版8 1. B地区1トレンチ 2. B地区1トレンチ焼けた土壁・柱穴検出状態
3. B地区1トレンチ焼けた土壁検出状態
- 図版9 1. B地区1トレンチ焼けた土壁検出状態 2. B地区1トレンチ土坑検出状態
3. B地区2トレンチ出入口（石段）状態
- 図版10 1. C地区2トレンチ 2. C地区8トレンチ並びに石積みの状態
3. B地区2トレンチ出入口（石段）状態
- 図版11 1. A地区1トレンチ出土遺物（青花） 2. A地区1トレンチ出土遺物（青花）
3. A地区5トレンチ出土遺物（青花）
- 図版12 1. A地区5トレンチ出土遺物（青花） 2. A地区5トレンチ出土遺物（青花）
3. A地区5トレンチ出土遺物（陶磁器）
- 図版13 1. A地区5トレンチ出土遺物（土師器） 2. A地区5・7トレンチ出土遺物（土師器）
3. A地区14トレンチ出土遺物（陶器）
- 図版14 1. A地区16トレンチ出土遺物（土師器） 2. A地区出土遺物
3. A地区17トレンチ出土遺物（瓦）

- 図版15 1. A地区出土遺物（瓦） 2. A地区出土遺物（石製品）
3. B・C地区出土遺物（陶磁器）

平成12年度

- 図版1 1. A地区16トレンチ 2. A地区16トレンチ石積みの状態
3. A地区16トレンチ石積みの状態
- 図版2 1. A地区16トレンチ石積みの状態S 2. A地区19・20トレンチ地点（墓石列）
3. A地区19・20トレンチ地点墓石の状態
- 図版3 1. B地区5トレンチ 2. B地区5トレンチ焼土・土坑検出状態
3. B地区5トレンチ遺物出土状態
- 図版4 1. C地区2トレンチ 2. C地区2トレンチ柱穴並びに下層の状態
3. C地区2トレンチ炭化物出土状態
- 図版5 1. A地区出土遺物 2. B地区出土遺物 3. C地区2トレンチ出土遺物
- 図版6 1. C地区2トレンチ出土遺物 2. C地区3・4・5トレンチ出土遺物

平成13年度

- 図版1 1. 若山砦遠景（東から） 2. 若山砦の曲輪
3. A地区2トレンチ土層（堀切）
- 図版2 1. B地区7トレンチ 2. C地区4トレンチ 3. C地区5トレンチ
- 図版3 1. D地区2トレンチ 2. E地区5トレンチ 3. A地区1トレンチ出土遺物
- 図版4 1. A地区4トレンチ出土遺物（青花） 2. B地区7トレンチ出土遺物
3. C地区出土遺物

平成14年度

- 図版1 1. A地区16トレンチ 2. A地区16トレンチ土層 3. B地区11トレンチ
- 図版2 1. E地区3トレンチ土層 2. E地区4トレンチ 3. E地区6トレンチ
- 図版3 1. A・B地区出土遺物（磁器類） 2. B地区12トレンチ出土遺物
3. C地区1トレンチ出土遺物（青花）

平成15年度

- 図版1 1. 勝尾城遠景（南東から） 2. 勝尾城A地区3トレンチ（東から）
3. 勝尾城A地区2トレンチ配石遺構（南東から）
- 図版2 1. 勝尾城A地区4トレンチ石段（南西から） 2. 勝尾城A地区6トレンチ（北西から）
3. 勝尾城A地区11トレンチ石敷遺構（北東から）
- 図版3 1. 勝尾城A地区7トレンチ横堀（南東から） 2. 勝尾城A地区18トレンチ堀切（北東から）
3. 勝尾城B地区石垣（東から）
- 図版4 1. 勝尾城B地区3トレンチ通路（南西から） 2. 勝尾城B地区5トレンチ（西から）
3. 勝尾城B地区8トレンチ虎口（北から）
- 図版5 1. 勝尾城B地区10トレンチ（東から） 2. 勝尾城C地区石垣（南西から）

- 3. 勝尾城C地区1トレンチ(南東から)
- 図版6 1. 勝尾城C地区1トレンチ石敷通路部分(南西から)
2. 勝尾城C地区1トレンチ(北西上段曲輪から) 3. 鬼ヶ城遠景(東から)
- 図版7 1. 鬼ヶ城3トレンチ(東から) 2. 鬼ヶ城4トレンチ石段(南東から)
3. 鬼ヶ城8トレンチ(南西から)
- 図版8 1. 勝尾城A地区3トレンチ出土遺物(陶磁器) 2. 勝尾城A地区4トレンチ出土遺物(陶磁器)
3. 勝尾城A地区6トレンチ出土遺物
- 図版9 1. 勝尾城B地区10トレンチ出土遺物(陶磁器) 2. 勝尾城B地区10トレンチ出土遺物(瓦)
3. 勝尾城B地区10トレンチ出土遺物(磁器)
- 図版10 1. 勝尾城C地区出土遺物(陶磁器) 2. 勝尾城地区内出土遺物
3. 鬼ヶ城出土遺物

平成16年度

- 図版1 1. 葛籠城(手前)高取城(奥)(南東から) 2. 葛籠城11トレンチ石段(東から)
3. 葛籠城14トレンチ(南東から)
- 図版2 1. 葛籠城29トレンチ(東から) 2. 葛籠城26トレンチ(北から)
3. 葛籠城15トレンチ主郭横堀(南から)
- 図版3 1. 葛籠城12トレンチ(北東から) 2. 葛籠城16トレンチ横堀埋没状態(南東から)
3. 葛籠城22トレンチ土層(東面)
- 図版4 1. 葛籠城24トレンチ土層(西面) 2. 葛籠城27トレンチ(南から)
3. 高取城遠景(西から)
- 図版5 1. 高取城5トレンチ虎口(東から) 2. 高取城6トレンチ(西から)
3. 高取城西尾根上の土墨状の遺構(東から)
- 図版6 1. 高取城11トレンチ土層(南東から) 2. 高取城12トレンチ土層(東から)
3. 鏡城遠景(南西から)
- 図版7 1. 鏡城1トレンチ(北西から) 2. 鏡城2トレンチ(東から)
3. 鏡城2トレンチ遺物出土状態(東から)
- 図版8 1. 高取城5トレンチ出土銅製品 2. 高取城6トレンチ出土遺物(磁器)
3. 鏡城出土遺物

第1章 調査の概要

I. 調査に至る経緯と経過

調査に至る経過と遺跡の概要については、鳥栖市文化財調査報告書第57集「勝尾城下町遺跡」に詳しく報告されている。本報告では、調査に至った経緯から平成7年度より開始された本事業の経過について述べる。

勝尾城筑紫氏遺跡が注目されるに至ったのは、平成元年度の県営圃場整備事業に伴う文化財調査によって、「山浦新町遺跡」の町屋跡及び、現在「総構」と呼んでいる空堀、土塁が発掘調査されたことによる。これを受けて、鳥栖市教育委員会では、遺跡の全容を確認すべく地表面観察のための踏査を開始し、勝尾城、高取城、葛籠城などの踏査を行った。この結果、城跡は良好な状態で残されていることが明らかとなり、また勝尾城は、城域が従来考えられていたよりはるかに広いことや、石垣を多用し、枡形の虎口を有することなどが新たに確認され、葛籠城では、主郭の前面に二条の横掘が谷を遮断するように配されていることなどが確認された。このほかにも筑紫氏館跡、鬼ヶ城、鏡城といった支城や、屋敷跡と思われる遺構が谷内に確認され、遺跡の規模は、東西約2.5km、南北約2kmに及ぶことが明らかとなり、国の特別史跡福井県「一乗谷朝倉氏遺跡」に匹敵する城下町遺跡であるとの評価を受けるに至った。

この後、シンポジウムを開催、市民を対象とした「鳥栖の町づくりと歴史・文化講座」のテーマとして取り上げ現在も継続するなど啓蒙、普及に努め、葛籠城の測量図を作成するなどの事業を行ってきた。平成3年には「城山山麓史跡整備構想」を作成し、保存・整備・活用の一定の方向性を示した。

平成4年度に「城山山麓史跡調査・整備委員会」（現：勝尾城下町遺跡調査・整備委員会）を発足した。この委員会は、考古、文献などの城下町研究、植生、建築等の専門家による組織で、遺跡の調査研究、保存整備についての検討を進めてきた。平成6年の委員会において、これまでのような地表面観察の成果のみでは情報が限られ、今後の方針策定が困難であるので、発掘調査を実施し、遺跡の広がり、残存状況、時期等の把握を行い、遺跡の保存、活用のための情報を得るべきであるとの指摘がなされた。これを受け、鳥栖市教育委員会では、国庫補助を受け平成7年度より、遺跡の確認調査を実施することになった。

確認調査は平成7年度から平成9年度までの3年間で実施し、平成10年度に調査報告書を作成した。調査の対象は、水田化されて地表面観察では遺構の存在が明らかでなく、開発の対象にもなりやすい、館跡や屋敷跡の所在する谷内部を中心とし、地表面観察で遺構の存在が明らかな、山城部分は当面は行わないこととした。

平成7年度の調査は、谷のもっとも奥の空間を対象として実施した。この地区は、筑紫氏の領地支配の中核部と思われる地区で、筑紫氏館跡、(伝)諸氏の屋敷跡、(伝)春門屋敷等の伝承地が多く所在する。調査は、これらの状況の確認から開始した。筑紫氏館跡は現在、筑紫神社と呼ばれ民間信仰の場となっているが、「オタチ」という地名が残り、従来から石垣や切岸、塁段の平場等が確認されていたが、調査により埋没した石垣、虎口の石段等の遺構が良好な状態で確認されると共に、16世紀後半を主体とする陶磁器類が出土した。このことは筑紫氏の領域支配の時期及び、天正15年(1587)にこの地を離れる時期と一致しておりこの遺跡が、筑紫氏によるものであることが確認された。このほかにも(伝)春門屋敷では屋敷区画の石組や、

筑紫氏館跡に先行すると見られる15世紀末から16世紀前半の遺物がみとめられ、遺跡の形成過程を考えるうえで重要な発見があるなどの成果をあげた。

平成8年度の調査は、葛籠城周辺一帯を対象にした。葛籠城周辺の地表面観察により屋敷地と見られる箇所状況及び、時期の確認。また、現在集落となっている「山浦新町地区」と、葛籠城の南の「中原地区」の調査を実施した。屋敷跡は5地点において戦国期の遺構、遺物が確認され、葛籠城周辺にかなりの密度で展開していたことが明らかになった。また、葛籠城西端の屋敷地では16世紀前半代の青花皿が出土しており遺跡内でも早い時期の利用を窺わせた。「山浦新町地区」では埋没した葛籠城の横堀が確認され、葛籠城の堀が谷を遮断していたことがほぼ確かめられた。「中原地区」では、中世の遺物の出土はわずかであったものの地割から屋敷地等の遺構は、現在の集落下にあるものと推定された。

平成9年度調査は、四阿屋神社を中心とする地域と、過去2年間で調査ができなかった地区を対象としたが、四阿屋神社周辺は、ほとんど水田であったため調査ができず今後課題を残したが、(伝)春門屋敷の東に連続する平場では多くの柱穴群と腐らずに残った柱、区画の石列などとともに多くの戦国期の陶磁器、土師器等が出土し、遺跡内で最も屋敷の集中する地区であることが判明した。(伝)全慶寺跡の東側では焼けた壁土とともに多くの陶磁器類が出土し、規模の大きい屋敷跡であることが確認された。

3年間の調査は、多くの成果をあげたが、調査地点が少なく不明な点や、多くの未調査地を残した。さらに、遺跡の保存、活用のためにかねてから史跡指定の必要性が指摘されてきていた。このため史跡指定の資料として遺跡の範囲、時期等の確認。また、当初調査を見送った山城部分においても時期、遺構の内容、性格、城域等を確認する必要や、谷中の遺構との関連を把握する必要が出てきたことから調査を延長し、引き続き平成11年度から平成16年度まで調査を行うことになり、次のように実施した。

平成11年度の調査は、前回の調査で良好な状態で遺構が存在することが確認された、筑紫氏館跡の詳細な確認調査を行い、焼けた壁土、庭園等の遺構を確認し、また多量の瓦をはじめ多くの遺物が出土した。

平成12年度には勝尾城の北側、勝尾城の搦手口と考えられる地区で調査を行い、戦国期の遺構は確認できなかったものの、近世初期の集落が確認され、勝尾城以後の様相が確認された。

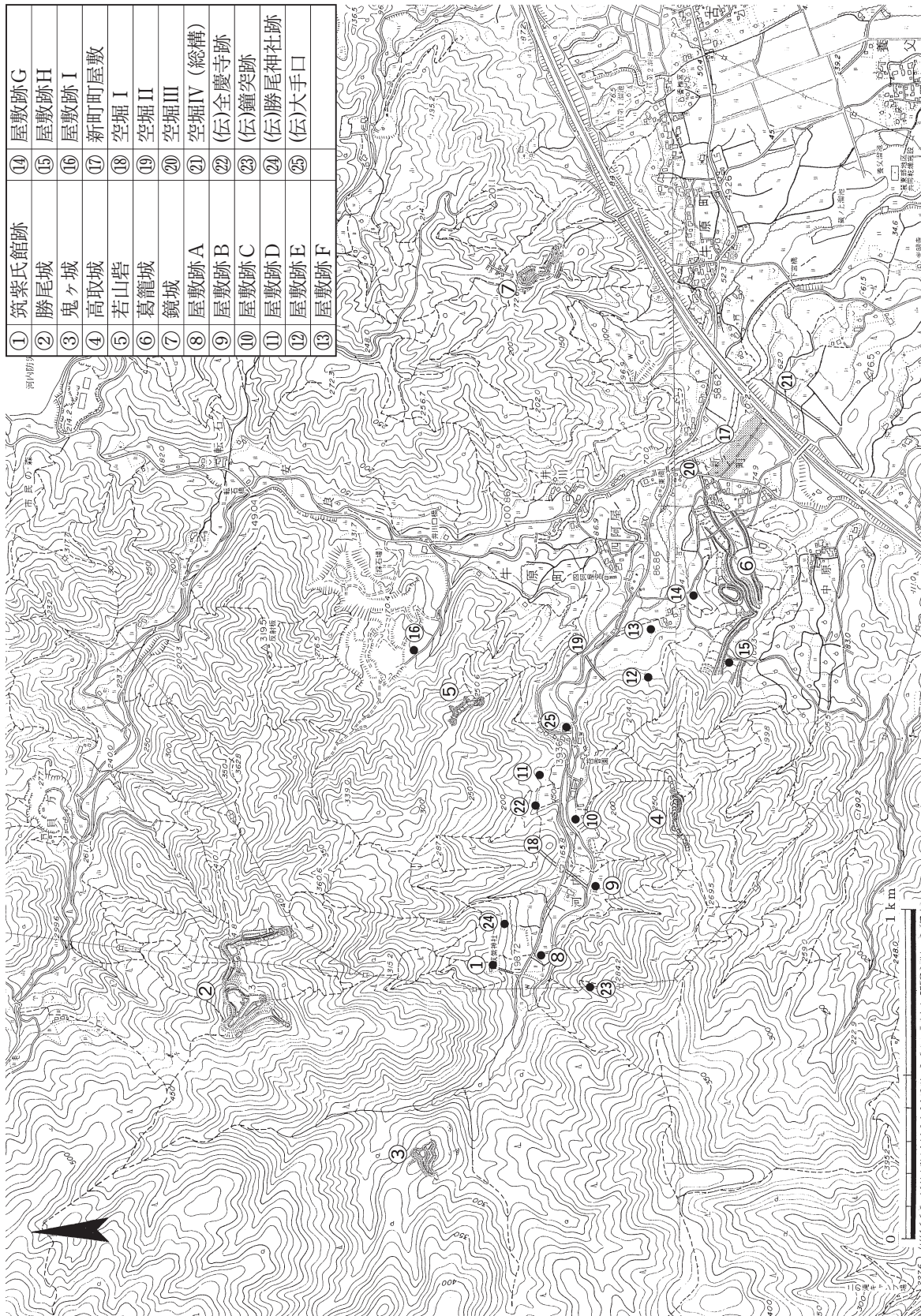
平成13年度は、これまで位置が不明であった「若山砦」の位置を確認し、曲輪、空堀を確認し調査を行い、その周辺部及び、鬼ヶ城周辺の調査を行った。

平成14年度は、勝尾城北斜面の範囲確認調査を行い、北斜面で曲輪の広がりや空堀等を確認し勝尾城の城域の広がりを確認した。

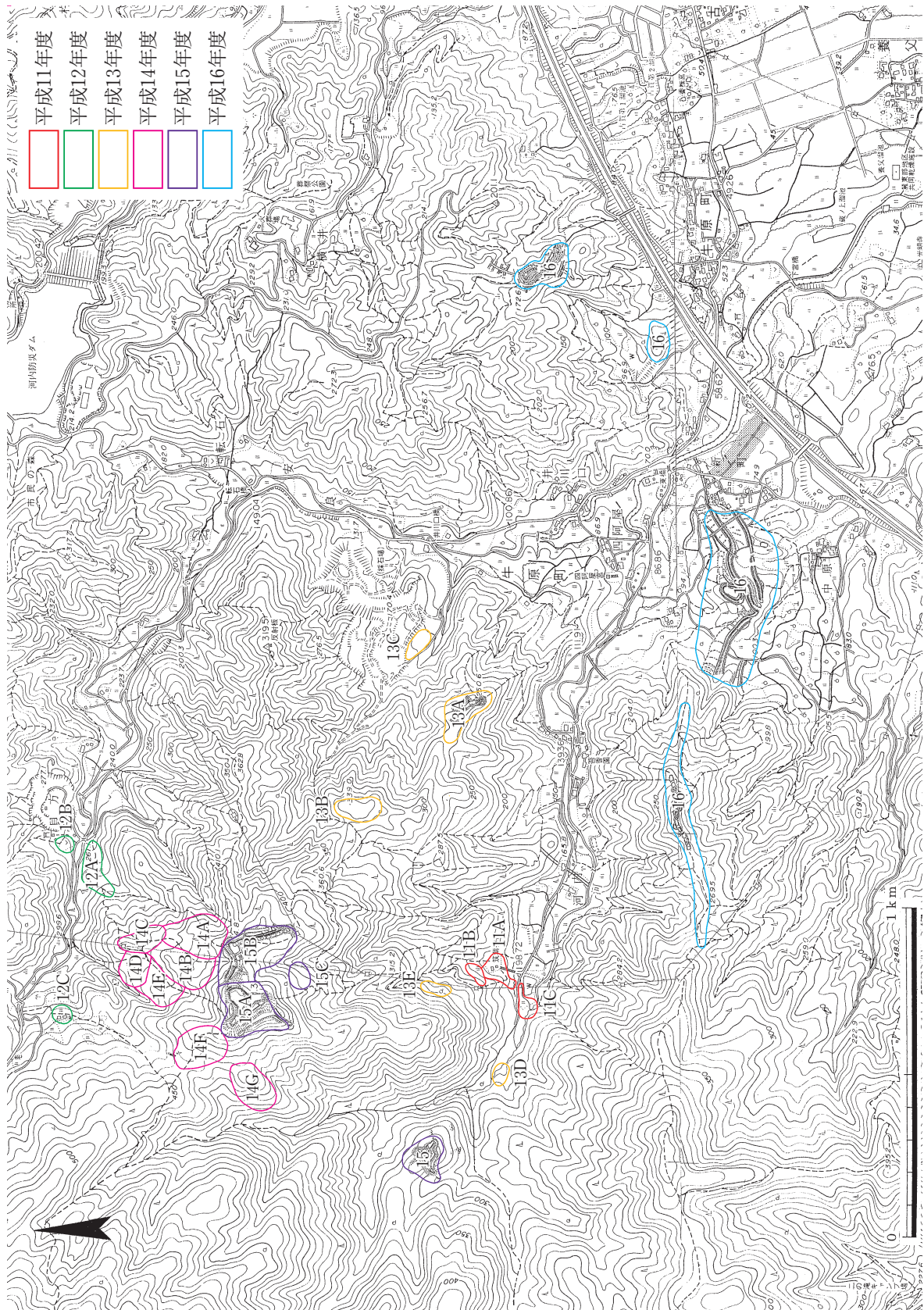
平成15年度は、勝尾城と鬼ヶ城の主要部の調査を行い、勝尾城では主郭部の整地の状況や虎口の状態等の確認を行い、鬼ヶ城では虎口の石段、石積みの虎口等を確認した。

平成16年度は、葛籠城、高取城、鏡城の主要部及び周辺部の調査を行い、葛籠城では空堀の埋没状況、土塁の構築状況、高取城では曲輪の状況及び、葛籠城から連続するラインの確認、鏡城では主郭部の状況および城域の確認を主に行った。

出土遺物及び調査記録の整理は、各年度に田代文化財整理室で基礎整理作業を行い、報告書作成業務は、平成17年度事業として田代文化財整理室で開始し、5月から牛原町文化財整理室で行った。



第1図 勝尾城筑紫氏遺跡全体図 (1/18,000)



第2図 勝尾城筑紫氏遺跡調査位置図 (1/18,000)

II. 調査の組織

発掘調査は鳥栖市教育委員会が主体となって実施した。調査の組織は以下のとおりである。発掘調査ならびに整理作業に従事いただいた作業員の方々、及び関係各位の協力と援助によって調査が成果をあげ、無事終了したことをここに明記し、感謝申し上げたい。

調査主体	鳥栖市教育委員会		
総括	教育長	柴田 正雄	(平成12年9月まで)
		中尾 勇二	(平成12年10月から)
教育部長		井上 彦人	(平成11年度)
		原 正弘	(平成12年度)
		水田 孝則	(平成13年度から平成14年度)
		近藤 繁美	(平成15年度から平成16年度)
		篠原 正孝	(平成17年度)
	教育部次長	木塚 輝嘉	(平成14年度まで)
生涯学習課長		陣内 誠一	(平成17年度)
		松永 定利	(平成13年度まで 平成12年度社会教育課から課名変更)
		西川 和彦	(平成14年度から平成15年度)
生涯学習課参事		西山 八郎	(平成16年度から)
		高尾 泰明	(平成14年度から平成15年度)
		権藤 民二	(平成16年度)
課長補佐		横尾 順二	(平成17年度)
		高尾 泰明	(平成13年度まで)
文化財係長		藤瀬 禎博	(平成12年度まで文化財係長兼務)
		石橋 新次	(平成13年度から 平成11、12年度調査担当)
庶務	生涯学習推進係	田中 啓子	(平成16年度まで)
		田中 美香	(平成17年度)
調査	文化財係	主査	向田 雅彦 (平成13、14年度調査担当 平成15年度から市誌編纂係)
		主査	鹿田 昌宏 (平成15、16年度調査担当)
		主査	湯浅 満暢
		主査	久山 高史
			重松 正道 (平成17年度)
			内野 武史
	島 孝寿		

勝尾城下町遺跡調査・整備委員会

- 会 長 (故) 小林健太郎 (大阪大学 教授 平成11年まで)
工藤 敬一 (熊本大学 名誉教授 平成11年から)
- 副会長 松隈 嵩 (鳥栖市文化財保護審議会 委員)
- 委 員 市村 高男 (高知大学 教授)
(故) 岡 道也 (財団法人福岡都市研究所 主任研究員 平成16年まで)
小野 正敏 (国立歴史民俗博物館 助教授)
北野 隆 (熊本大学 教授 平成11年から)
薛 孝夫 (九州大学 助教授)
高尾 平良 (鳥栖市文化財保護審議会 委員)
竹下 輝和 (九州大学 教授 平成16年まで)
堀本 一繁 (福岡市博物館 学芸員 平成11年から)
宮島 敬一 (佐賀大学 教授 平成11年まで)
宮本 雅昭 (九州芸術工科大学 教授 平成11年まで)

調査従事者

発掘調査

尼寺征子 石橋和子 岩崎良年 内田春美 江副時枝 大野勝子 大野秀雄 岡本光子 栗山光恵
榎藤イツヨ 陣内三十三 陣内義美 末安志津子 杉岡俊昭 篠原英雄 城島香代子 高松滋実
立石フチノ 谷川久美子 徳淵直広 直塚功 長家聖一 中島貞子 中島ヤヨイ 中田裕樹 永淵笑美子
中村光子 野口勝恵 野下八重子 平田博子 平山逸子 松隈マチ子 松崎友子 宮地貞子 宮地信博
毛利美代子 諸永幸子 諸永正敏 山本美代子 横尾順子 吉岡一 吉山須磨子

整理作業

尼寺征子 石橋和子 岡本光子 笠由美 榎藤イツヨ 榎藤トミ子 榎藤由美子 杉岡俊昭 谷川久美子
中島貞子 中田裕樹 西口君代 松崎友子 毛利よし子 山本美代子

調査指導・協力

藤木 久志 (立教大学名誉教授) 千田 嘉博 (国立歴史民俗博物館 現 奈良大学)
中井 均 (織豊期城郭研究会) 仁木 宏 (大阪市立大学)
磯村 幸男・伊藤 正義・坂井 秀弥 (文化庁記念物課)
大橋 康二 (佐賀県立九州陶磁文化館) 高瀬 哲郎 (佐賀県立名護屋城博物館)
宮武 正登 (佐賀県教育委員会)

第2章 地理的・歴史的環境

I. 地理的環境

勝尾城筑紫氏遺跡の所在する佐賀県鳥栖市は、佐賀県の東端部に位置し、筑後川流域に展開する広義の筑紫平野の一角をなすとともに、狭義の筑後平野の西北部を占める位置にある。北部は筑紫山地に限られ、南部は筑後川を境として福岡県久留米市と相対する。東部は福岡県小郡市から甘木・朝倉方面へと広がる平野に連続し、さらに東北部は三養基郡基山町から福岡県筑紫野市方面一帯の地峡を経て福岡平野へ通じる。そして西部は筑紫山地より派生した丘陵地を介して佐賀平野と接している。

地勢は、脊振山塊の九千部山(847.5m)を主峰として三ヶ所認められる支嶺から、それぞれ東南ないしは南方向に丘陵地(洪積段丘)が伸び、ついで平坦部となって筑後川の旧流路(宝満川)に至る。山々は幾重にも重なり合い、各支嶺間は断層によって生じた裂け目(構造谷)を流下する河川が山地を浸蝕して、山麓に扇状の堆積地を形成している。地形を東から詳述すると、権現山より杓子ヶ峰に連なる支嶺は、柚比・今町の高位段丘に通じている。大木川はこの支嶺と、九千部山の南側より起り城山・群石山に終わる支嶺との間の断層線に沿って流下し、山麓に神辺扇状地を形成する。大木川左岸は柚比丘陵群から曾根崎方面へ連続する標高15~80mの低~高位洪積段丘となり、右岸は現市街地を載せて広がる標高15~25mの独立低位段丘となる。一方、九千部山の西南側より起った支嶺は、石谷山・雲野尾峠・笛吹山へと低下し、三養基郡北茂安町千栗一帯まで連続する丘陵となっている。九千部山を水源とする四阿屋川は、この東山麓に養父扇状地を形成して安良川となる。安良川と、石谷山を水源とする沼川の間は、標高15~80mの低~高位の洪積段丘となり、朝日山によって北の麓地区・南の旭地区に二分される。河川はいずれも南流し筑後川へ注ぐが、下流域は標高10m以下の沖積低地の広大な平坦部となっている。

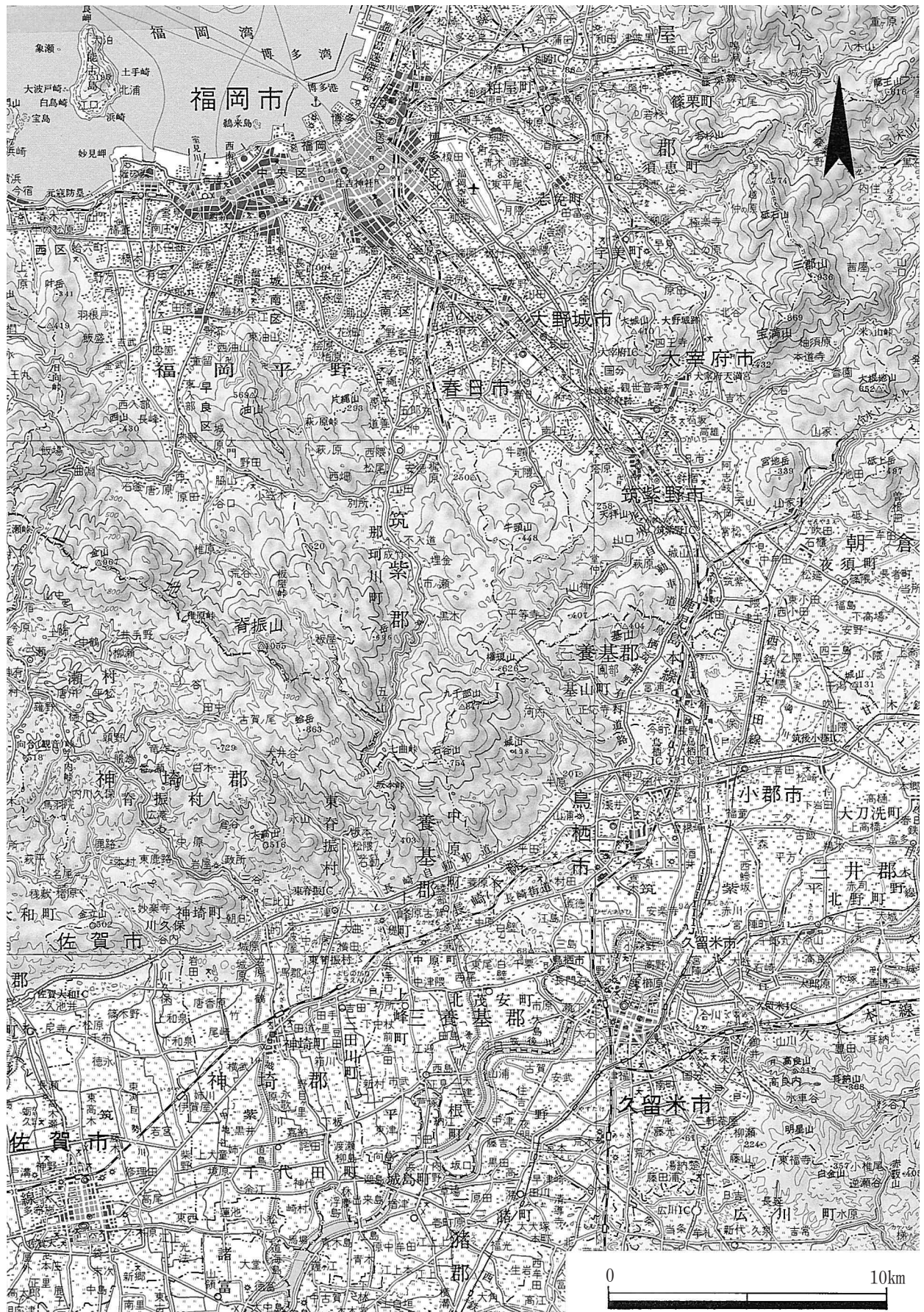
植生は、潜在自然植生としては照葉樹林(暖温帯常緑広葉樹林)であり、縄文時代晩期~古墳時代の古植生も同様であることが平原遺跡の花粉化石分析により想定されている。なお九千部山山頂付近には夏緑広葉樹林帯に属するブナ林が自然植生として見られる。

九州の東西と南北を結ぶ鳥栖地域は、古代律令制下の筑前・筑後・肥前三国の接点であり、大宰府・筑後国府・肥前国府を連絡するそれぞれの官道が通過する交通の要衝であった。

II. 歴史的環境

旧石器時代は、山麓部の遺跡で後期旧石器類が採集されるが、様相としては実態が把握できていない。縄文時代になると遺構が確認できるようになり、西田遺跡(早期の集石遺構)、平原遺跡(中期の集石遺構)、蔵上遺跡(後期の集落・墓地)の調査で重要な成果が得られている。

弥生時代以降、遺跡が飛躍的な増加をみせはじめる。中期までの遺跡分布は大きく2つのグループに分かれる。1つは「柚比遺跡群」と総称される北東部の柚比・今町地区の丘陵地帯に分布する遺跡群、および曾根崎町方面まで伸びる丘陵地一帯をも加えた大木川左岸地帯で、もう1つは南西部の朝日山南麓に広がる丘



第3図 周辺地形図 (1/200,000)

陵群一帯、安良川右岸の村田・江島町周辺に分布する遺跡群である。いずれも段丘と谷とが複雑に入り組んだ地形に立地している。後者は柚比遺跡群ほどには解明が進んでいないものの、本行遺跡で青銅器を铸造していたことが確認されるなど、同時期同規模の集団関係の形成が展開していたようである。なお、柚比本村遺跡では中期前半の特定集団墓域を対象とした、中期後半の祭殿を中心とした祭祀空間が検出されている。

弥生時代後期になると、中～高位段丘上で営まれてきた遺跡が減少する一方で、本原遺跡や牛原原田遺跡等にみられるように、低位段丘縁辺の遺跡が活発化し、鳥栖地域の遺跡立地傾向に大きな変化を読み取れる。こうした遺跡群の再構成は、終末～古墳時代初頭期にかけて継続して認められ、柚比遺跡群や本行遺跡などの中期から続く大規模な集落が古墳時代に至らずに衰退していることと対比して、興味深い傾向といえる。

古墳時代前半期の鳥栖地域においては、出現期では赤坂古墳（前方後方墳）や本川原遺跡、日岸田遺跡の方形周溝墓群、中期になると平原古墳、山浦古墳群、薄尾古墳群等が知られるが、これらの古墳の規模からは、突出した大首長層の存在というものを想定しにくい。この時期の集落遺跡では元古賀遺跡、養父遺跡、牛原前田遺跡などがあるが、散在の印象は否めない。

こうした状況は6世紀代に入ると一変し、大木川左岸の中位段丘上に剣塚古墳、東田古墳、岡寺古墳、庚申堂塚古墳の前方後円墳が、さらに彩色壁画系装飾古墳で大型円墳の田代太田古墳が築造される。その後この地域の首長墓系列はやや規模を縮小して大～中型の円墳である八ツ並金丸遺跡ST4510古墳、ハーガンサン古墳（八ツ並金丸遺跡ST6006）、梅坂古墳、神山古墳と続く。7世紀に入ると、立地を大木川左岸に替えて稲塚古墳、牛原原田ST06古墳、牛原原田ST05古墳と連続し、百度塚古墳（方墳）をもって終息する。この時期以降、鳥栖地域の大幅な人口増が想定されるが、中心となるのは大木川右岸域の養父扇状地上に立地する牛原前田・蔵上・内精遺跡一帯に大規模に営まれる集落で、のちの養父郡の母体となるものとおもわれる。そして、鳥栖市域の脊振山地南麓一帯には、6世紀後半から7世紀代を中心とする群集墳が多数分布する。これらの中には東十郎古墳群にみられるように、8世紀前半の終末期まで築造されるものがある。

古代以降、現在の鳥栖地域は肥前国に属し、東部は基肄郡、西部は養父郡に分けられるが、この2郡は大木川を境界としたと考えられる。「肥前国風土記」によると、基肄郡は「郷陸（六）所、里十七」とあり、養父郡は「郷肆（四）所、里十二」とある。基肄郡家の位置は現在のところ不明であるが、八ツ並金丸遺跡で大型掘立柱建物群が検出されており、関連が注目される。養父郡家については、明治期の地割図などから、現在の蔵上集落に所在したと考えられてきたが、これを裏付けるように、蔵上遺跡で掘立柱建物群が検出され、「厨番」と記した墨書土器が出土している。古代の集落跡は、基肄郡域では今町岸田遺跡、荻野遺跡、本川原遺跡、本原遺跡、養父郡域では京町遺跡、牛原前田遺跡、立石惣楽遺跡、柳の元遺跡などで確認されている。なお風土記の養父郡「烽壱所」は、朝日山に比定されている。

平安時代中期以降、律令制の衰退が進行するにつれ、基肄・養父郡においても多くの荘園が開かれるようになり、荘園の占める割合が増加する。永承2年（1047）に神辺荘が、永保3年（1083）に鳥栖荘、幸津荘、幸津新荘が太宰府天満宮安楽寺に寄進されていることが史料にみえるが、鎌倉時代後期の「正応5年（1292）8月16日河上宮造宮用途支配惣田数注文」『河上神社文書』の記述からは、大宰府安楽寺領（小倉荘・鳥栖荘・幸津荘・幸津新荘・神辺荘）や宇佐八幡宮弥勒寺領（奈良田荘・養父荘・村田荘）、奈良田庄、園部庄、荒保社領、東屋社領など、有力社寺を領主とする荘園が目立つ一方で、公領として基肄北郷、基肄南郷、養父東

郷、養父西郷、養得保、瓜生野保などの存在が知られ、律令期の郡が中世的な「郷」へと分割再編成されている事を知り得る。これらの現地における管理＝実質的な支配者として、御家人地頭の曾根崎氏や綾部氏一族の土々呂木氏、藤木氏、古飯氏、山浦氏などの名が史料中に散見される。現在でもこれら在地領主の氏族は鳥栖市内の地名として残り、今泉遺跡（土々呂木氏）、藤木遺跡（藤木氏）、四ツ木遺跡（曾根崎氏）など、それぞれの本拠地とみられる地区の遺跡からは関連するとみられる当該期の集落跡や屋敷地、墓地等が検出されている。

南北朝から室町・戦国時代にかけての肥前東部地域は、九州探題と小忒氏の覇権争いを軸として戦乱が絶えなかった。九州探題が綾部城を一時期本拠としたように、現在の鳥栖地域は交通の要衝としての重要性から、諸勢力が錯綜する戦略拠点となった。南北朝期にこの地域を支配した勢力が北朝方に与していたことは北朝の年号である貞和2年（1346）の紀年銘を有する立石町野添板碑群の存在からも明らかである。応安6年（1373）に筑後川を越えて北方に進出しようとする南朝方に備えて今川了俊を将とする北朝方が、基肄郡の「宮浦」、「雲上」、「由比」に陣を構えたことが「毛利元春軍忠状案」『毛利文書』や「長井貞廣軍忠状写」『萩藩閥閥録所収文書』にみえるが、これらに関連するとみられる遺構が基山町宮浦城跡（宮浦）、神辺町松本の城跡（雲上）、柚比本村遺跡4区（由比）でそれぞれ確認されており注目される。

勝尾城については、応永30年（1423）に九州探題渋川義俊が小忒満貞に攻められて勝尾城に入るとの記事が『北肥戦誌』にあることから、15世紀前半には築城されていたようである。その後明応6年（1497）頃には大内氏との戦いに敗亡した小忒氏に替わり小忒氏一族である筑紫氏が勝尾城を拠点とするようになり、天正14年（1586）に島津氏の攻略に降るまで約90年の間、肥筑に勢力を振るった。この時期の遺跡としては、現市街地の中心部分に位置する京町遺跡から15世紀後半～16世紀前半にかけての溝により区画された屋敷地が検出されている。土器類は中国・朝鮮の陶磁類はもとより備前や常滑産のものがみられ、中には湯釜や瀬戸美濃の天目茶碗、龍泉窯系青磁の不遊環瓶（花生）など当時の生活水準の高さを窺い知る遺物もみられる。なお、この遺跡の衰退する時期と勝尾城下町の総構である山浦新町遺跡の町屋群が整備される時期が連続する点が注目される。

天正15年（1587）の豊臣秀吉による九州仕置により、基肄郡と養父郡東半は小早川隆景に、養父郡西半は鍋島直茂に与えられた。小早川領は慶長2年（1597）年に一旦豊臣家の直轄領になったあと、慶長4年（1599）年に慶長の役の恩賞として対馬島主宗義智に与えられ、対馬藩田代領となった。長崎街道が整備されると対馬・佐賀のそれぞれの領内には田代宿と轟木宿が設けられ、江戸期を通じて宿場として栄えた。

基山町



第4図 鳥栖市遺跡分布図

表1 鳥栖市内遺跡

001	今町共同山遺跡	047	立田石遺跡	093	西浦遺跡	139	西田遺跡
002	今町梅坂遺跡	048	幡崎遺跡	094	小原遺跡	140	本村遺跡
003	今町梅坂西遺跡	049	永吉遺跡	095	京町遺跡	141	麓遺跡
004	梅坂炭化米遺跡	050	永吉村上遺跡	096	藤木遺跡	142	原古賀住宅古墳
005	今町大地添遺跡	051	長崎街道	097	今泉遺跡	143	四の坪遺跡
006	今町岸田遺跡	052	日田道	098	内畑遺跡	144	原古賀遺跡
007	岸田南遺跡	053	田代代官所跡	099	町屋敷遺跡	145	くるめ塚古墳
008	八ツ並金丸遺跡	054	田代大官町遺跡	100	真木遺跡	146	薄尾遺跡(薄尾古墳群)
009	ヒャーガンサン古墳	055	くるめ道	101	轟木二本松遺跡	147	乗目遺跡
010	梅坂古墳	056	清水ヶ本遺跡	102	姫方遺跡	148	山都町遺跡
011	三ヶ敷梅坂遺跡	057	田代外町遺跡	103	本原遺跡	149	一の坪条里跡
012	柚比梅坂遺跡	058	菟原遺跡	104	大手木遺跡	150	一の坪遺跡
013	うつろ坂遺跡	059	上天遺跡	105	下原遺跡	151	平田遺跡
014	大久保北遺跡	060	中川原遺跡	106	四ツ木遺跡	152	荒谷薬師堂
015	大久保遺跡	061	加藤田遺跡	107	恒石遺跡	153	一本杉遺跡
016	永田古墳群	062	日岸田遺跡	108	浦田遺跡	154	立石遺跡
017	柚比本村遺跡	063	唐木遺跡	109	飯田遺跡	155	野副遺跡
018	大平古墳群	064	池田遺跡	110	樋ノ口遺跡	156	立石惣楽遺跡
019	神山遺跡	065	国泰寺遺跡	111	転石古墳群	157	立石古墳群
020	神山古墳	066	松本遺跡	112	樋渡古墳群	158	金ノ水窯跡
021	田代公園遺跡	067	門前古墳群	113	井川口古墳群	159	立石開拓古墳群
022	河原田遺跡	068	城跡	114	牛原古墳群	160	立石山田遺跡
023	前田遺跡	069	杓子ヶ峰古墳群	115	城山古墳群	161	笛吹山遺跡
024	安永田遺跡	070	東十郎古墳群	116	香椎神社古墳	162	笛吹山古墳群
025	荻野遺跡	071	十三塚古墳群	117	別石古墳群	163	柳の元遺跡
026	愛宕山古墳	072	深底古墳群	118	四阿屋遺跡	164	朝日山古墳群
027	平原遺跡	073	横井古墳群	119	四阿屋窯跡	165	朝日山城跡
028	平原古墳	074	都谷遺跡	120	勝尾城筑紫氏遺跡	166	村田古墳群
029	七浦遺跡	075	萱方浦田遺跡	121	山浦新町遺跡	167	安良遺跡
030	東田遺跡	076	古賀天満宮遺跡	122	中ノ原古墳群	168	幸津遺跡
031	東田古墳	077	大屋敷窯跡	123	養父岸田遺跡	169	儀徳遺跡
032	太田東方古墳	078	隈遺跡	124	下岸田遺跡	170	霞提
033	田代太田古墳	079	花の木遺跡	125	牛原前田遺跡	171	村田三本松遺跡
034	庚申堂塚古墳	080	元古賀遺跡	126	百度塚古墳	172	所熊山城跡
035	岡寺古墳	081	平町遺跡	127	牛原原田遺跡	173	所熊山古墳群
036	剣塚古墳	082	塩塚古墳	128	牛原原田5号墳	174	相模遺跡
037	赤坂古墳	083	古賀遺跡	129	養父遺跡	175	江島遺跡
038	フケ遺跡	084	稲塚古墳	130	伝壬生邸跡	176	天神記遺跡
039	田代天満宮東方遺跡	085	柳遺跡	131	蔵上遺跡	177	狂言谷遺跡
040	中島遺跡	086	浅井遺跡	132	内精遺跡	178	西谷古墳群
041	畑ヶ田遺跡	087	天神木遺跡	133	外精遺跡	179	本行遺跡
042	本川原遺跡	088	鎗田遺跡	134	大町前遺跡	180	於保里遺跡
043	セイノオ遺跡	089	原口遺跡	135	山浦古墳群	181	不動島遺跡
044	長ノ原遺跡	090	町上遺跡	136	五本谷遺跡	182	田出島遺跡
045	祢宣隈遺跡	091	門戸口遺跡	137	古野古墳群	183	上分遺跡
046	南西川遺跡	092	布津原遺跡	138	山浦西北方遺跡		

III. 勝尾城の歴史

勝尾城筑紫氏遺跡は、佐賀県東端の鳥栖市街地から西北へ4.5km、標高501.3mの城山南麓一帯に位置する。勝尾本城のある城山は、佐賀県と福岡県を南北に分け東西に走る脊振山塊の東端、九千部山(847.5m)から東南へ延びる尾根筋に屹立する一峰で、城山の北から東に安良川、南に四阿屋川の狭長な谷が巡っている。勝尾城筑紫氏遺跡は、この城山南麓の四阿屋川流域の谷を中心に展開する。

勝尾城筑紫氏遺跡を含む鳥栖地域は古来から交通要衝の地であり、特に南の筑後国方面から九州の政治、経済の中心であった太宰府、博多へ至る街道の入口を占めている。また、古代官道以来のこの主要道以外にも山越え道が勝尾城の東・西に走っており、太宰府、博多へ容易に抜けることができる。これら交通の要に位置することが、勝尾城成立の条件の一つと考えられる。

この城下町領域内に、古代以来の古社「四阿屋神社」が鎮座しているとも見逃すことができない。この「四阿屋神社」は『類聚符宣抄第一巻』に「東屋明神……従五位下……延喜廿年十一月 日下」と見え、延喜20年(920)には存在していたことがわかる。また『四阿屋神社縁起』によれば、「……神職社僧七百八十余人及へりと云う」とある。古代～中世には安良川の下流域までを信仰圏とする水分神的な性格も帯びた、地域の惣社的性格の神社でもある。

明応6年(1497)頃最初に勝尾城に入城した満門は、東肥前における周防大内氏幕下の有力武将として、筑前宝満宮上宮の再建、肥前櫛田宮の修復を行うとともに、肥前国の鎮守河上淀姫大明神の神殿修復にも携わっている。筑紫氏はもともと式内社「筑紫神社」の社司を兼ねており、勝尾城を本拠として定めた背景には、その交通要衝の地としての性格にとどまらず、これら社寺勢力のネットワークと権威の掌握があったことが考えられ、四阿屋神社の信仰圏が持つ力に拠った側面もあるものと思われる。

勝尾城の築城時期は必ずしも明らかではない。『北肥戦誌』、『歴代鎮西要略』などの近世に編纂された記録類によれば、それぞれ応永30年(1423)と応永31年(1424)に九州探題渋川義俊が築いたとしている。両書とも勝尾城について、太宰少貳満貞と渋川義俊との抗争過程で渋川氏が拠った(築城)としており、またこの渋川氏を没落させた勢力が少貳方の筑紫氏であったことを記している。

この15世紀代、北部九州の政治的枠組みは鎌倉時代以来の在地の守護職少貳氏・大友氏対室町幕府の九州探題職渋川氏・大内氏との対立関係が基本的な対抗軸であり、その間にあつて筑紫氏や秋月氏などの国人領主層の動向があつた。勝尾城に関し『歴代鎮西要略』では、「太宰少貳満貞與探題渋川義俊、交兵、探題敗、一族分散、離入於鳥飼、博多、姪濱、山浦、綾部城」とあり、山浦(勝尾城)とともに鳥飼、博多、姪濱、綾部城という地名が記されている。このうち綾部城は後に渋川氏が探題館を置いた所で、勝尾城の西4kmに位置する。鳥飼、博多、姪濱は福岡平野西部の博多湾沿岸部で、肥前東部の山浦、綾部城とは脊振山塊を間にその南と北に位置する。太宰府に本拠を構える鎌倉時代以来の筑前守護少貳氏に対し、渋川氏の根拠地が筑前西部から肥前東部であつたことが窺われる。勝尾城は渋川氏にとって、この肥前東部の拠点的城郭であつたと考えられる。

明応5年(1496)渋川氏を攻撃し筑前、肥前の回復を図つた少貳政資に対し、大内義興は筑前に出兵し翌6年筑前岩戸城を救援、さらに筑紫村、城山(筑紫野市か)の合戦を経て少貳政資、高経父子を自害に追い

込む。この一連の合戦は那珂郡岩戸城の戦いから始まり、三笠郡から肥前方面へと移っており、勝尾城のある鳥栖市一带も戦場になったものと推測される。確たる資料ではないが『歴代鎮西志』『歴代鎮西要略』『北肥戦志』では少弐高経が勝尾城に立て籠もったとしている。

この明応期の合戦において少弐氏の没落は決定的となる。この少弐氏没落の原因とされるのが少弐方であった筑紫満門の大内方への離反とされている。この合戦の功績によって、筑紫満門は大内義興から佐賀郡代に補任される。そのことを裏付ける資料に「明応八年十一月十八日付河上淀姫大明神御殿棟札銘写」があり、それに「郡代筑紫下野守藤原満門」とみえる。また、基肄・養父・三根各郡の郡代であった可能性も指摘されている。

この満門が勝尾城に入城し、その後筑紫広門まで四代およそ90年間に筑紫氏の在城期間である。16世紀代この勝尾城を中心に筑紫氏は活動する。この筑紫氏在城期間、勝尾城を取り巻く状況は筑紫家の内紛もあり変転する。すなわち、東肥前における大内方の重鎮であった筑紫満門が大永4年(1522)綾部城主馬場頼周によって謀殺され、筑紫家は大内方と少弐方に分裂するといわれている。その後大内氏が名実ともに滅亡する弘治元年(1555)まで筑紫氏は大内氏と少弐氏を対立軸とする政治的動向のなかで揺れ動く。この間勝尾城の様子は明らかではないが、少弐方と考えられる筑紫正門が宮尾要害(基山町宮浦城か)に籠城したことや夜須郡において大内方と戦い討ち死にしたことが知られている。

筑紫氏を巡る状況が激変するのは、大内氏の滅亡後豊後大友氏が豊前、筑前、肥前の制圧に乗り出すことによる。この大友氏の動向に対し、かつて大内方に属していた筑紫惟門は、古処山城主秋月文種とともに反大友の急先鋒として動く。その結果、大友氏に攻められた惟門はしばしば危機的状況に陥る。この一連の状況のなかで大友方の戸次鑑連は「筑紫宅所」を攻撃している。永禄3年(1560)筑紫惟門は筑前那珂郡五箇山に蟄居し大友氏の軍門に下る。この間、筑紫惟門の拠った城郭としてしばしば五箇山の城が登場する。筑紫惟門は大友氏の圧迫によって、一時勝尾城を放棄していた状況がうかがわれる。

惟門の蟄居後筑紫家の家督を相続するのが筑紫広門であり、この継承は大友氏の意向のもとに行われている。この後、広門は大友氏の北部九州支配のもと天正6年(1578)まで、勝尾城を本拠に一応の安定をみる。天正6年、大友氏は日向耳川合戦において薩摩島津氏に大敗する。この大友氏の敗北により北部九州の政治的関係は激変する。反大友勢力の台頭であり、肥前龍造寺氏を中心に宗像、原田、筑紫、秋月等が大友領国に侵攻を開始する。この反大友勢力の有力な一翼を担ったのが広門である。その後天正14年(1586)島津氏の北部九州侵攻に際し、広門は大友方に転じる。その結果、天正14年7月勝尾城は島津勢の攻撃を受ける。勝尾落城後、広門は8月には勝尾城を奪還し周辺を切り取り秀吉の九州進出を待つ。

天正15年(1587)6月、秀吉の九州国割りによって大名の配置換えが行われ、広門は筑後上妻一郡一万八千石の大名として鳥栖を離れる。この広門の上妻郡移封をもって勝尾城は廃絶されるが、同年肥後一揆の勃発に対し同年9月8日付け小早川左衛門佐宛豊臣秀吉朱印状に、「一、其人数にても事不行候者、……くろめ城・前筑紫居候つる城両城に慥成留守を被差籠……」とあり、肥後一揆鎮圧に当たり万一に備えて前筑紫居候つる城に人数を配置するよう指示している。これが勝尾城が歴史上に見える最後であり、かつその戦略的重要性がうかがわれる資料でもある。現在見て取れる勝尾城下町は、この天正15年段階のものである。

第3章 調査の記録

I. 平成11年度の調査

I. 平成11年度の調査

平成11年度の調査対象地区は筑紫氏館跡を中心にする地区である。このうち筑紫氏館跡については平成7年度に確認調査を実施し、居館に伴う礎石や柱穴、焼けた土壁などとともに16世紀代の陶磁器類が出土したことから、その様子をさらに明らかにするため、可能な限り広く面的な調査を試みた。また、他の地点（C地区）についてはそれぞれ遺構・遺物の検出に努め、その状態を把握することとした。調査区は館本体地点をA地区、館本体背面の畧段地点をB地区、館から西南に続く平場をC地区とした。

【A地区】

A地区は城山から南へ延びる山裾を東－西に別け南から貫入する谷の出口に当たり、その谷部を造成し館は築かれている。この地区では合計17本の試掘溝を設定し調査を進めた。以下、主要なトレンチ（試掘溝）、遺構、遺物の概要について紹介する。

トレンチ並びに遺構

館本体部に当たるA地区は南北約90m、東西75mの不整形を呈する平場であり、現況は低い段差によって大きく南・北に二分されている。館中枢部に相当する北側平場はさらに西側から低い三段の平場となっている。さらに北側は谷出口の堆積土によって埋まっているようで、北から南へ緩く傾斜している。

1 T・2 T・4 Tは館を南北に二分する低い段差を切って、段差に直交する南－北方向に設定したトレンチである。発掘の結果1 Tでは上面（北側平場）から焼土面、2 Tではしっかり固められた面（北側平場）、4 Tでは上・下面（北・南側平場）ともに焼土が確認された。いずれのトレンチからも特に遺構は検出されなかった。なお、1 T・2 Tの焼土面と硬化面はほぼ同一レベルにあり、北側平場は同一の平坦面であったことが明らかになった。また、北側平場に対し南側平場は20cmほど低いことが確認されたが、この段差が館当時のものであるかまでは明らかにできなかった。

出土遺物は、1 Tで16世紀後半代の青花や土師器片、2 T・4 Tからは土師器の細片が検出された。

5 Tは館西端の山裾部分に設定したトレンチである。この地点は館中央の東側よりやや低い段をつくる約20m×9mの平場で、50年ほど前まで家が建っていたことが知られていた。この地点では特に障害物がなかったので面的発掘を試みた。調査の結果、良好な状態で遺構は残っており、現地地表下0.3m～1.0mから上部に灰や炭化物を含む0.1m内外の黒褐色土堆積層を載せた遺構面が確認され、柱穴、石積み列、焼土を含む土坑などが検出された。

柱穴はトレンチ北側に位置しており、西壁側と南壁側の二辺しか確認できなかったので建物の全体規模は不明であるが、その主軸方向は略南－北で、東－西の柱間間は1.4m～1.5mを測る。

石積み列は二箇所から確認された。このうち石積み①は北東－南西方向に約4m走っている。長辺30cm～55cm程度の石を1段～2段乱雑に積んでおり、短辺側を南東方向へ揃えたような面をつくっている。

非常に雑な石積みであり時期については不明である。

石積み②はトレンチ南辺から確認されたもので、石積み列の軸は東－西×南－北方向をとり北側柱穴と建物軸は一致する。この石列の東西幅は5.7mで、その形状から短辺（東西長）5m程度の建物があったことが推測される。また、この石積み②北辺の内側には並行して、石列間の幅約0.3mの石列が一部認められる。こ

の石列の間は凹んでおり内部には砂質土が堆積していた。その構造や状態から建物周りの側溝であると判断される。この側溝内部から土師皿類が出土しており、石積み2及び柱穴の時期は、そのあり方や出土遺物から16世紀後半代と考えられ、館に伴う遺構であることが判明した。出土遺物は多種に及び、輸入陶磁器類や硯、石臼、中国銭などが多く検出された。

8 T・15T～17Tは、館東端の山裾部分の勝尾城へ至る登城道の入口手前に設定したトレンチである。調査の結果、8 T・17Tともに遺構面までの深さが2 m以上あり、この地点が館廃絶後土砂の流入堆積によって地中深く埋没したことが明らかになった。また、この土砂の堆積は全体に16T・15Tと南側ほど浅くなっており、北側谷出口からの土砂流入であることが判明した。

このうち8 Tでは土砂埋没のため遺構の保存状態も良く、山裾に沿って五段高さ1 mの石積みが検出された。石積みは、山裾端に幅約0.4mのテラスを造り出しさらに1 mほど掘り下げた壁面に、長さ40cmほどの石を平積みするものである。掘り下げられた石積み内側には、上層部に灰黒色粘質土、下層部に砂質土、最下層に砂が堆積していた。土層の堆積は山裾側（東）からが主であるが、館側（西）からも認められ、この地点が凹地で水に洗われていたことが推測された。

遺物は最下層が水が湧く湿地状を呈していたため、木製品（漆塗り椀）の出土も認められた。さらに瓦が大量に出土したことが注目され、瓦の一部は石積みに食い込む形で検出されたものもあった。瓦は北・西側から流入しており、この凹地西側に瓦葺き建物があつたことが判明した。またこの凹地は、主殿側の瓦葺き建物と山裾に挟まれた館最東部を占めており、石積みなどの状況から庭園（池）の可能性が高いと判断された。

なお、瓦は8 T・15T～17Tいずれからも出土しているが、8 T・17Tにもっとも多く、南側の16T・15Tにかけ少なくなる傾向にある。また、16Tでは宴会に使用したと考えられる土師皿が数十点出土ことが注目される。

14Tは館西南端に設定したトレンチである。このトレンチでは、南―北方向に走る幅0.8m、深さ0.4mの断面逆台形の溝が検出された。溝の方向は北側に設定した5 Tトレンチの山裾ラインに対応しており、館主体部を画するように西側山裾に南―北方向に溝が巡らされていたことが推測された。溝内には焼土塊が転落していた。また、溝内からは陶磁器片とともに中国銭が出土した。

以上が主要トレンチの概要であるが、この他館奥の様子を明らかにするため設定した9 Tでは土砂とともに礫や大石の堆積が認められ、8 T・17T同様館が大量の土砂で埋没していることが裏付けられた。また、館南側に7 T・11T・13Tでは現地表下0.3m前後から戦国期の造成面が確認されたが、特に遺構は認められず遺物の出土も少量であった。したがって館前面（南側）は建物等を欠く広場的な場所であったことが推測された。

遺物

すでに見てきたようにA地区では多くの遺物が出土し、遺構とともに館が良好な状態で遺存していることを裏付けた。遺物については表3、第15図～第43図に示した。遺物の出土量は他の地点（城郭や屋敷）に比べきわめて多く、表に示したように図示した遺物だけでも総数419点に及ぶ。

遺物の種類も多く、素焼きや陶磁器類では在地の土師器（皿）、瓦質土器（鉢・火鉢・搦鉢）、国内産陶器

(播鉢・甕・壺)、輸入陶磁器(陶器一壺・皿、磁器一碗・皿・瓶)など、その他石製品(石臼・硯)、金属器(小柄の柄・飾り金具・刀)、木製品(漆塗り椀)、瓦や中国銭が出土した。このA地点出土の遺物組成で注目されることは、他地点では出土が認められなかった遺物(輸入磁器の瓶・硯・刀や刀装具・漆塗り椀・中国銭)を含んでいることである。その様相は、城主の館という他地点とは異なる性格の場所を示す遺物組成である。このようにA地点出土の遺物はその出土量、種類ともに他地点に比し卓越した状況を示す。

この他館の性格を示す遺物として多くの土師皿類の出土、焼塩を入れた塩壺、瓦の出土が挙げられる。いうまでもなく土師皿は館における饗応や儀式に使用されたものであり、焼塩は高級食材、さらに瓦は当時最先端の建築部材である。

これら遺物は設定したトレンチの状況にもよるが、A地区の空間構成から見て主殿があったと考えられる平場中央(10T周辺)からの出土は少なく、その西側(5T)と東側(8T・16T・17T)に多く認められた。なお、この平場中央を主殿とした根拠は、かなり広く発掘した西側の5Tでは掘立て柱建物の柱穴が検出されたのに対し、10T付近からは平成7年度の調査で礎石が出土したことによる。明らかに場所によって異なる性格の建物が建っていたことが想定され、この平場中央に礎石立ちの主殿が建っていたものと思われる。

遺物の出土状況もこの主殿を中心に東と西で異なり、青花の碗・皿類の出土はほぼ均一傾向にあるが、灯明皿、塩壺、中国銭などは西側から出土しているのに対し、東側では土師皿の出土比率が高く瓦が大量に出土するという状況がうかがわれる。さらに東側には池の存在が予測され、池に面し主殿とは異なる瓦葺き建物があったことが想定される。すなわち主殿を中心に東側に瓦葺き建物(会所か)、庭園があったと考えられ、それに対し西側は台所的な場所であったと思われる。すなわち、A地区は遺物の出土状況から主殿を中軸に西側が「ケ」の空間、東側が「ハレ」の空間であったことがうかがわれる。

陶磁器類の時期は大半が16世紀後半のもので占められており、一部古い物では備前産の陶器が15～16世紀、東南アジア産の陶器が15～16世紀である。この遺物の時期から明らかなことは、遺物に17世紀に下る物を含んでいないこと、すなわち館が使用されていた下限が16世紀後半であり筑紫氏の勝尾城退去と一致することである。また、16世紀後半以前の遺物が少ない(平成7年度の調査で有り)ことが注目され、そのことは館が16世紀後半に大改修されている可能性を暗示させる。このことは館前面の高さ4mに及ぶ石積み、枳形に造り替えられた虎口など、新しい技術を駆使した館の構造などとも一致する現象と理解したい。

陶磁器類の出土遺物の組成比率は、おおよそ輸入磁器(青花)23%、(白磁)6%、(青磁)0.8%、華南系陶器0.8%、朝鮮系陶器0.8%、国内産陶器(備前)2.4%、瓦質土器5.6%、土師器(皿)56%、その他火鉢等4.6%である。つまり輸入陶磁器類31.4%、国内産陶器2.4%、国内産土師器等66.2%となる。なお、青花のおよそ81%が景德鎮産、19%が漳州窯産である。また、国内産陶器はいずれも備前である。

瓦の種類は、軒平瓦、軒丸瓦、菊丸瓦、鬼瓦、刻み袖瓦、平瓦、丸瓦、のし瓦などであり、8T・15T～17Tを中心にコンテナ20箱分ほど出土しており、おそらく総瓦葺きの建物があったことが明らかになった。なお、軒平瓦の瓦頭文様は中心に宝珠を配し両側に唐草文を施すもので、唐草は浮き彫り状のしっかりしたものである。この文様の基本構成は14世紀代と考えられる大宰府金光寺跡出土の瓦を基調としており、豊臣政権後に九州でも主流となる中心に三葉を配するものとは異なる。また、丸瓦の切り離し手法はいわゆるコビ

キAといわれるもので占められており、これら一群の瓦が天正期までの所産になるものであることは疑いなく、館の建物に伴う瓦であることを証する資料である。

中国銭は5 Tと14Tから10数枚出土しており、特に5 T出土の分は紐が通った状態であった。銭の種類は総て洪武通宝である。

硯は小豆色の石を用いたものであり、いわゆる下関の赤間石の硯と考えられる。以上、主要な出土遺物について概観した。

【B地区】

A地区の背面に五段ほどの畧段を成す平場がある。この平場がB地区でA地区とは約4 mの比高差があり、A地区（館本体部）を見下ろす位置を占めている。これら平場のうちもっとも広いのが館すぐ後ろの平場で、この地点では平成7年度の調査で焼けた土壁、柱穴などが確認されていた。今回の調査はその焼けた土壁などの全容を明らかにするとともに、さらに背後の畧段の様子を把握することを目的とした。合計7本のトレンチを設定し調査を進めた結果、以下に示す遺構、遺物の存在が明らかになり、この地区の畧段が館に付随する空間であることが判明した。

トレンチ並びに遺構

B地区畧段の右手（東）には谷川が北から流れており、この谷川に沿って館から続く道が畧段右に延びている。すなわち、畧段へはこの道から左手へ入ることになる。このもっとも手前の平場に設定したのが1 T～4 Tである。1 Tがかつて焼けた土壁が出土した地点であり、この地点については平場全面を発掘した。また2 Tは、この平場へ道から上がる状況を確認するために1 Tから延長したトレンチである。

調査の結果1 T～4 Tでは現地表下0.2m～0.4mで遺構面が検出され、良好な状態で遺構が遺存していることが確認された。このうち1 Tは南東へ下がる低い三段の遺構面をつくっており、北西から二段の遺構面には柱穴、焼けた土壁列、三段目からは炭化物を含む円形土坑が検出された。また、二段目までの遺構面は赤く焼け硬化していた。

焼けた土壁列の規模は幅約2 m長さ約7.5mであり、略南西－北東に走る段縁に沿っている。土壁の厚みは約10cm～15cmで、内部に径1 cmほどの竹が通っていた痕跡が残っていた。この土壁下に備前の甕片などが噛んでおり、元々立っていた壁が倒れたものと考えられた。この焼けた土壁が建物に伴うものか土塀であるか確定はできない。いずれにしてもA地区（館）も遺構面は焼けており、この焼けた土壁は島津合戦に際し焼け落ちた施設と考えられる。柱穴は多数あり一部並ぶものがあるが、建物の規模、構造を復元までは至らなかった。なお、柱穴には二つの軸線が認められ、建替えを伴う複数の建物の存在が想定された。

次にこの1 T・2 Tの面構成であるが、東北側に道から通じる出入り口の石段があり、石段を上った三段目には明瞭な柱穴を欠くことから広場的な場所、奥の一段目、二段目が土壁を伴う建物等があった場所であると考えられた。なお、この地点は館を見下ろす位置にあり、館施設とは異なる特異な性格の場所であったと判断された。

5 T～7 Tはさらに背後の畧段（平場）に設定したトレンチで、かつて畑として利用されていた場所である。これらトレンチでも地表下0.3m～0.6mで戦国期の遺構面が確認された。明瞭な遺構は検出されなかったが、造成された遺構面には柱穴、焼土、炭化物が認められ、少量ではあるが白磁、青花等も出土しており、

これら石段が戦国期のものであることが明らかになった。

遺物

B地区の遺物は館本体部に当たるA地区に比べ極端に少ないが、青磁、白磁、青花、陶器が出土している。遺物については表3、第44図に示したとおりである。

遺物の時期は1 T出土青磁が龍泉窯産で14世紀後半から15世紀中頃、6 T出土の青花が景德鎮産で16世紀後半、陶器甕は備前で15世紀代である。龍泉窯産の青磁の時期がA地区出土磁器を含めても古いことが注目され、器種が盤であることから伝世品であると考えられる。

【C地区】

C地区はA地区（館本体部）の西南、館前の谷奥に当たる。館西側の城山から南下する尾根裾から延びる低平地で、過去水田として利用されていた土地で数箇所の石積みを持つ平場となっている。石積みにはかなり古い手法のものも認められ、館外ではあるがこの平場が戦国期のものである可能性があることから、その状況を確認する目的で調査を実施した。トレンチは館西裾の平場に二箇所、さらに南西へ延びる平場に七箇所、計9本を設定し調査を進めた。調査の結果、出入り口の石段並びに土師器片などが検出され、この地区の平場が戦国期の所産であることが明らかになった。

トレンチと遺構

1 T・2 Tは館西裾に設定したトレンチであり、性格不明の土坑以外明瞭な遺構は検出されなかったが、元々水が湧くような粘質の黒色土の上に花崗岩バイラン土による面造成を行っていることが確認され、中国南部産の陶器などが出土した。その状況からこの地点の平場は戦国期のものであると判断された。

3 T～9 Tはこの1 T・2 Tから南西へ延びる平場に設定したトレンチであり、それぞれのトレンチで時期、性格とも不明の土坑等が検出されたが、これら遺構については戦国期のものであるか確定はできなかった。むしろ後世の攪乱によるものの可能性が高い。しかし、覆土中には青磁や青花を含み、8 Tでは平場の出入り口の石段が確認された。また、館本体部ほどしっかりした面ではないが一部焼土を含む造成面も確認された。これらの点からこの地点の平場は戦国期のものの可能性が高いと判断され、特に平場へ上がる石段は後世の水田には不要なものであり、その形状などからも戦国期の所産を裏付けるものと思われる。

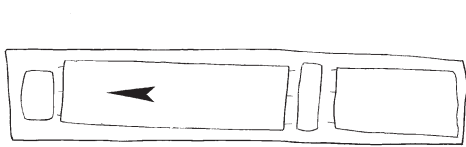
遺物

B地区同様C地区もA地区に比べ遺物の出土は極端に少ない。2 T出土の土師器以外はいずれも包含層出土のものである。器種は土師器の皿、青磁、青花、瓦器である。このうち青磁は景德鎮産で時期は16世紀中頃、青花は景德鎮産で時期は16世紀後半である。磁器は産地、時期ともにA地区（館本体部）の陶磁器と同一と考えていい。

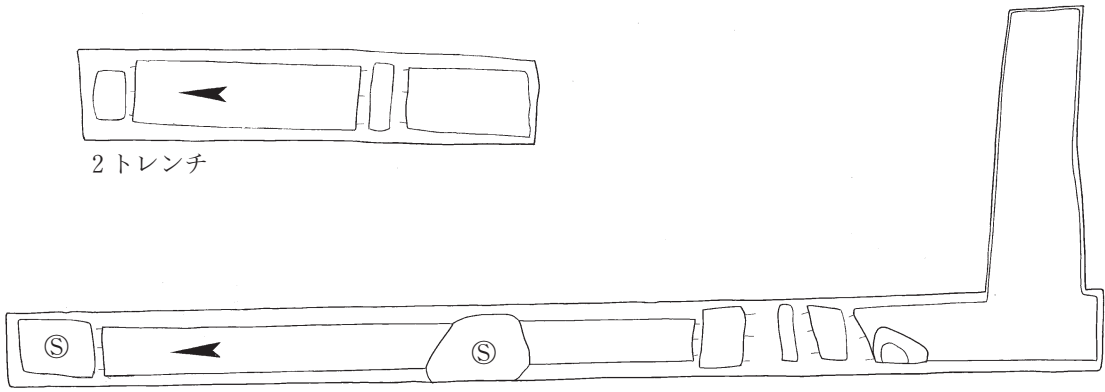
以上、A地区の遺構、遺物について概観した。今回の調査で館本体部がほぼ完全に残っていること、さらに戦国期の遺構が周辺のB・C地区まで広がっていること、館が16世紀後半に大改造されていること、館の基本構造が明らかになったことなどが成果と考えられる。



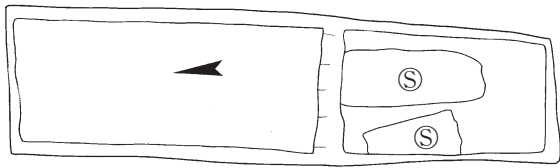
第5図 平成11年度調査地区トレンチ位置図 (1/2,000)



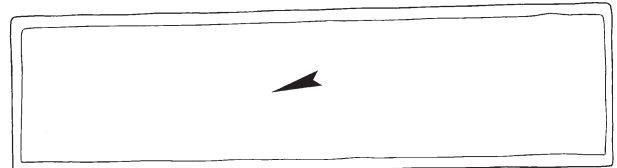
2トレンチ



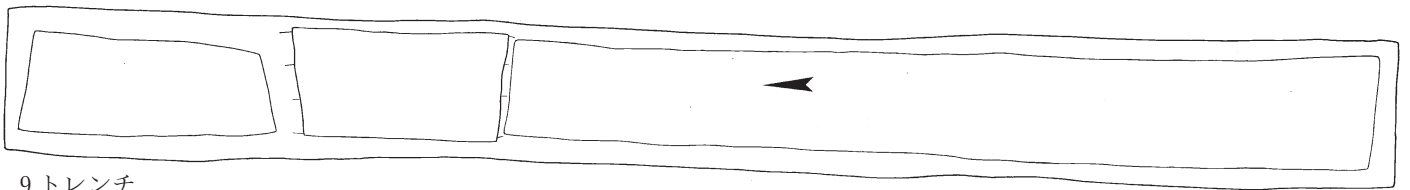
4トレンチ



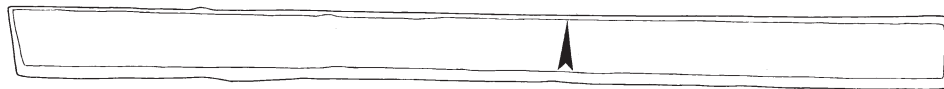
6トレンチ



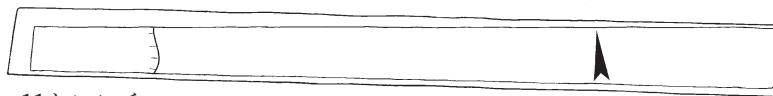
7トレンチ



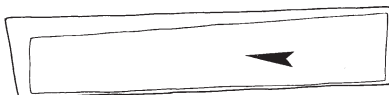
9トレンチ



10トレンチ



11トレンチ



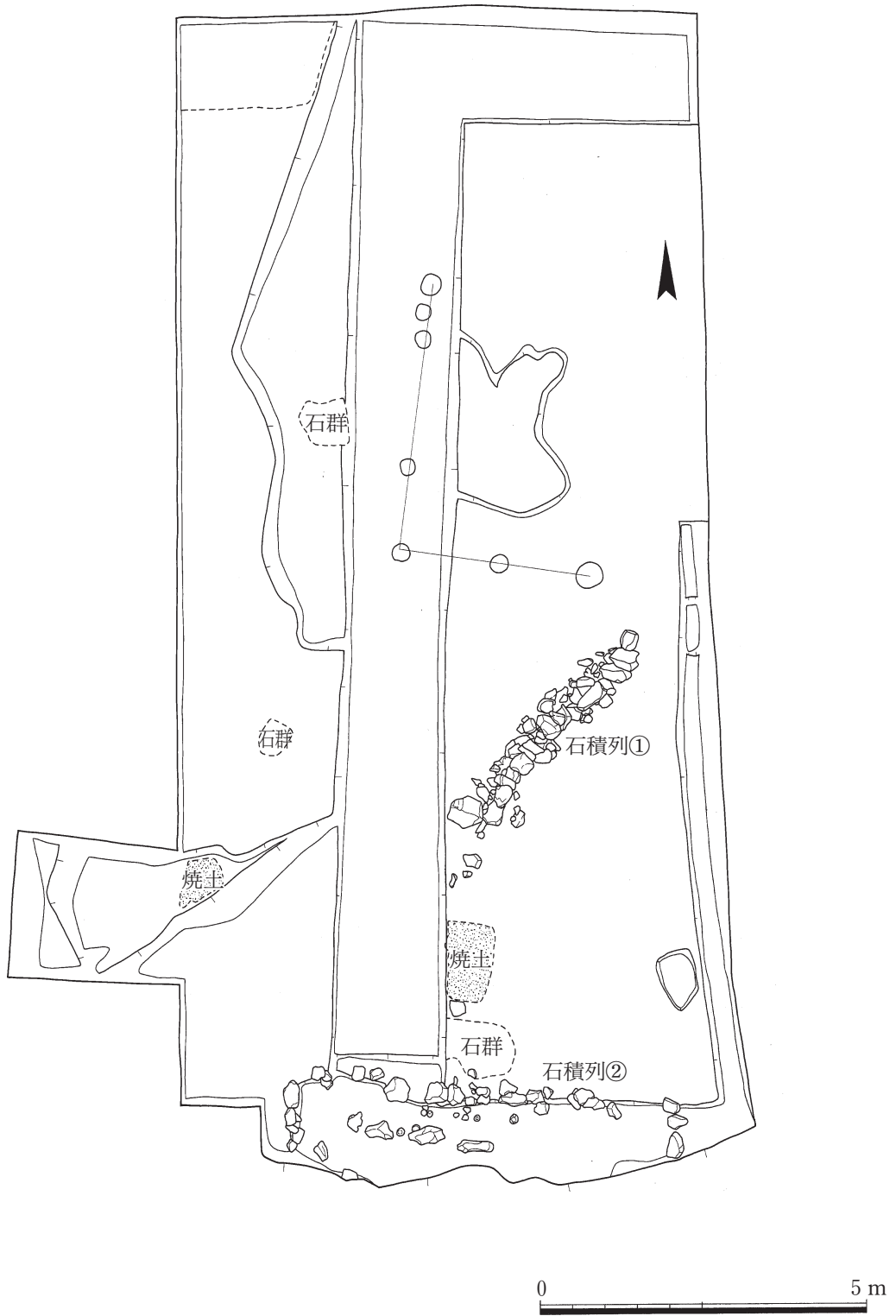
13トレンチ



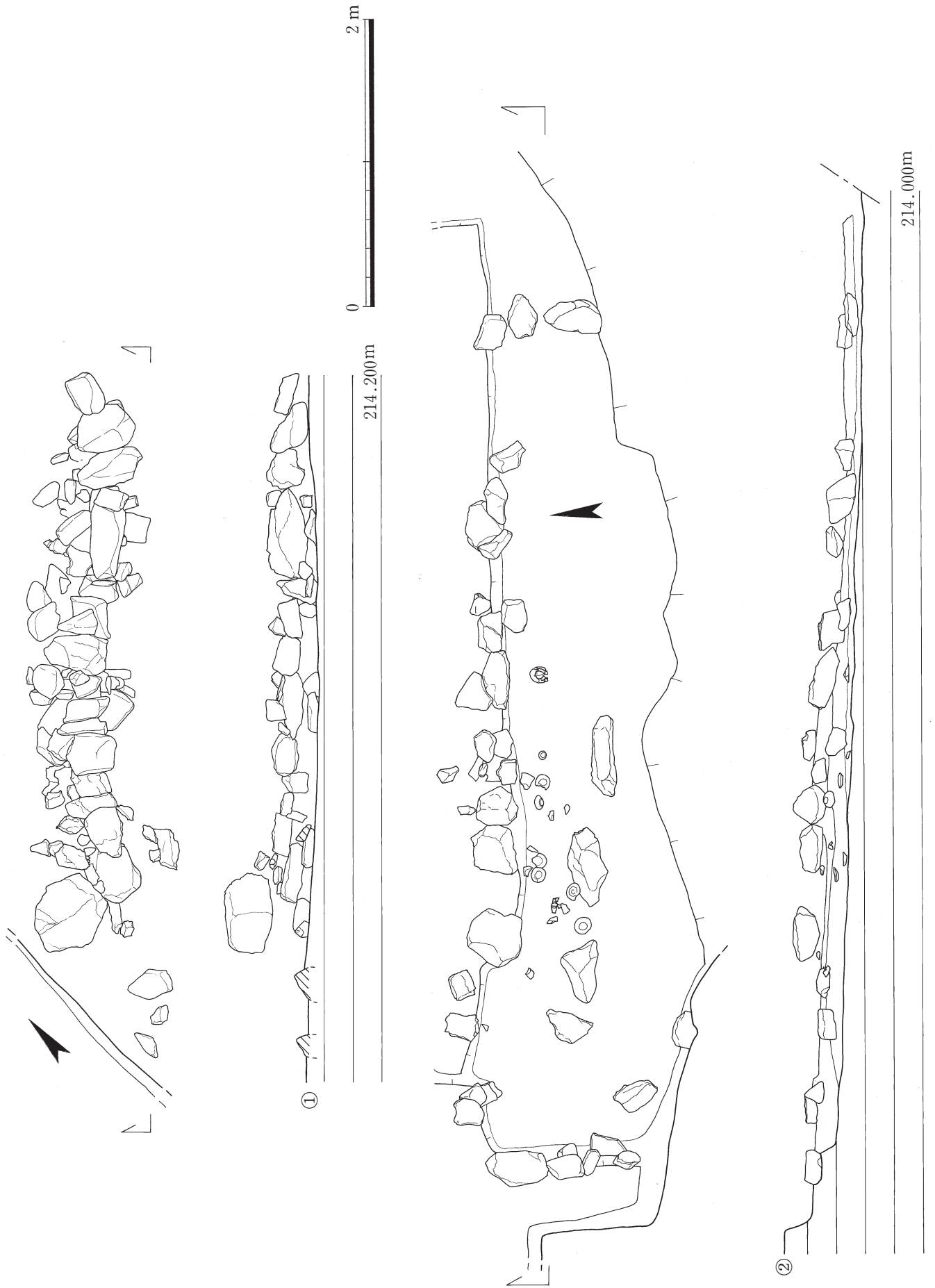
12トレンチ



第6図 A地区2・4・6・7・9・10・11・12・13トレンチ (1/100)

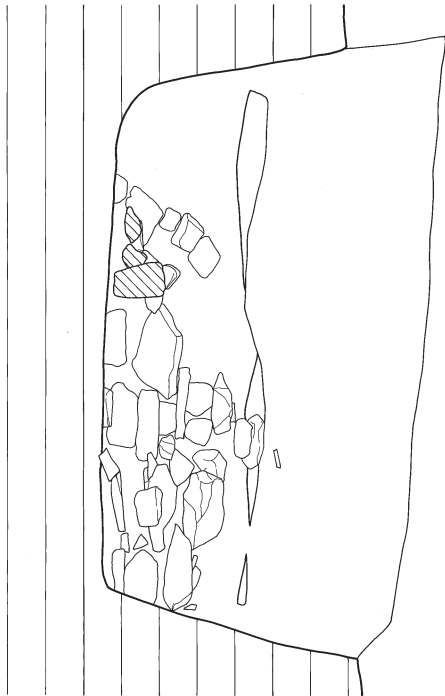
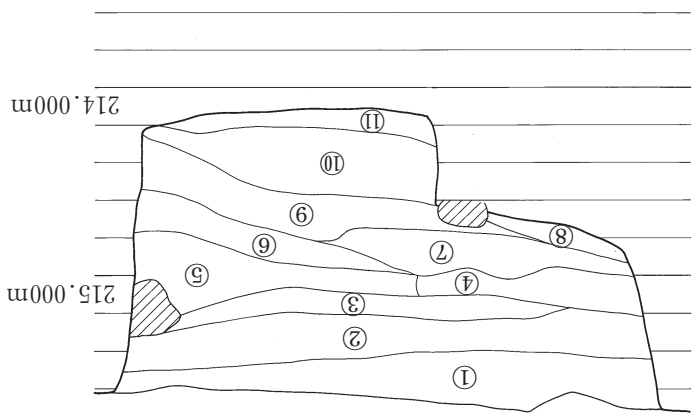


第7図 A地区5トレンチ (1/100)

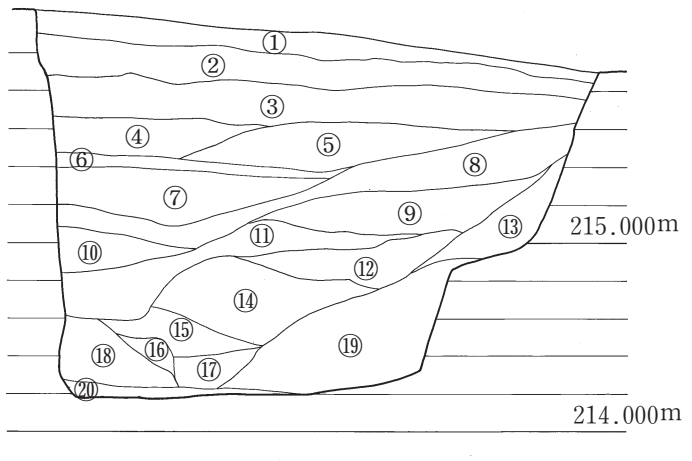


第8図 A地区5トレンチ石積列①・② (1/40)

- ①表土
- ②砂質淡灰褐色土
- ③砂質明灰褐色土
- ④暗灰色土
- ⑤砂質暗灰色土 (きめの細かい)
- ⑥砂質灰色土
- ⑦灰褐色土 (部分的に小砂混)
- ⑧灰褐色土 (小砂多く含む)
- ⑨砂質明灰褐色土
- ⑩砂質暗灰褐色土
- ⑪小砂礫暗褐色層

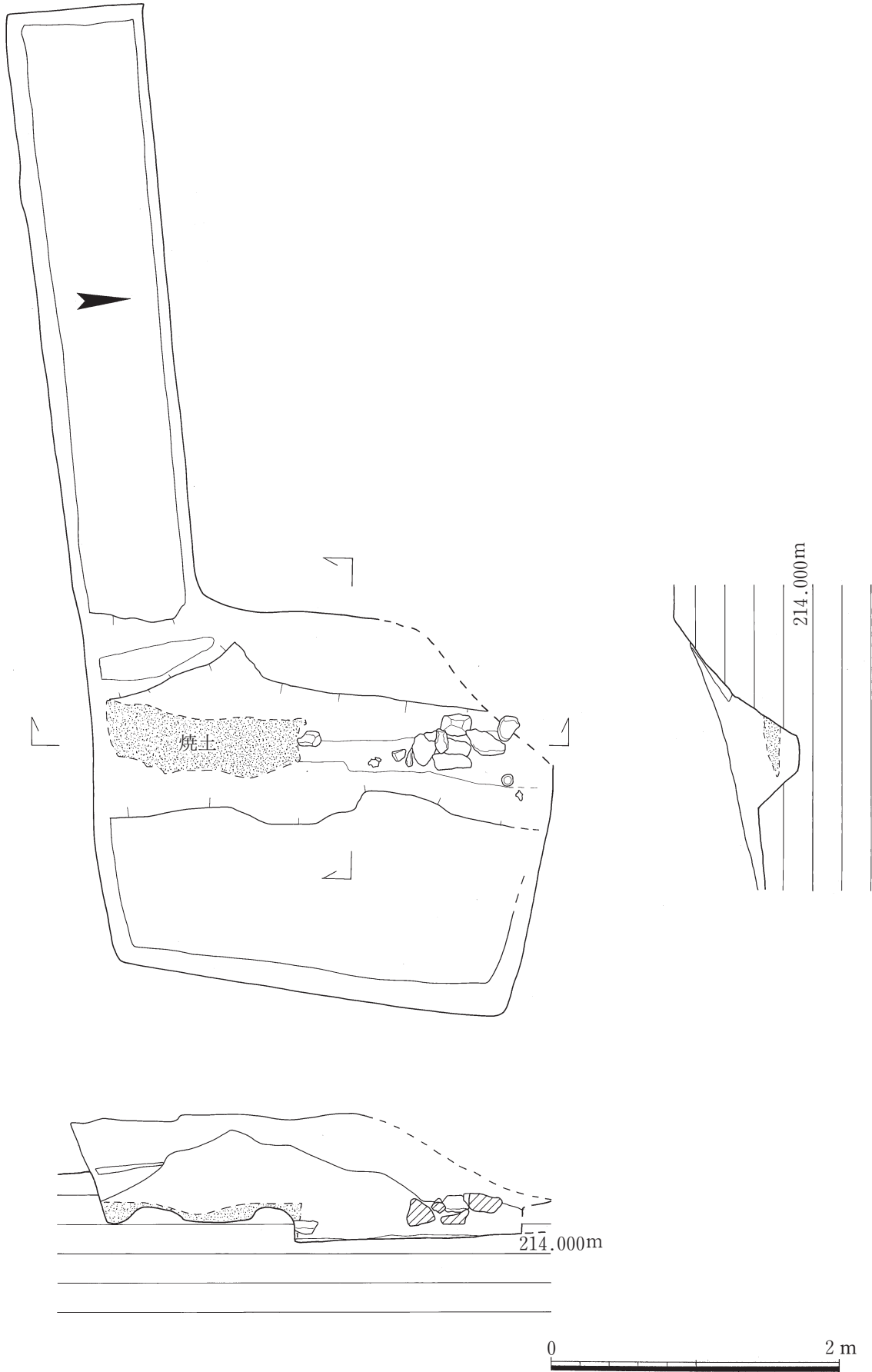


- ①表土
- ②淡灰褐色土
- ③砂質褐色灰色土
- ④砂質灰褐色土 (小礫)
- ⑤砂質褐色灰色土
- ⑥粘質暗灰色土
- ⑦灰褐色土 (小砂多く含む)
- ⑧暗灰褐色土 (ある時期の表土か?)
- ⑨砂質褐色灰色土 (きめが細かい)
- ⑩やや暗い灰褐色土
- ⑪砂質灰色土
- ⑫砂質暗灰褐色土
- ⑬灰褐色土
- ⑭砂質暗褐色土
- ⑮シルト質灰色土
- ⑯砂質灰色土
- ⑰シルト質灰褐色土
- ⑱小砂礫層
- ⑲小砂礫混灰褐色土
- ⑳灰褐色砂質土

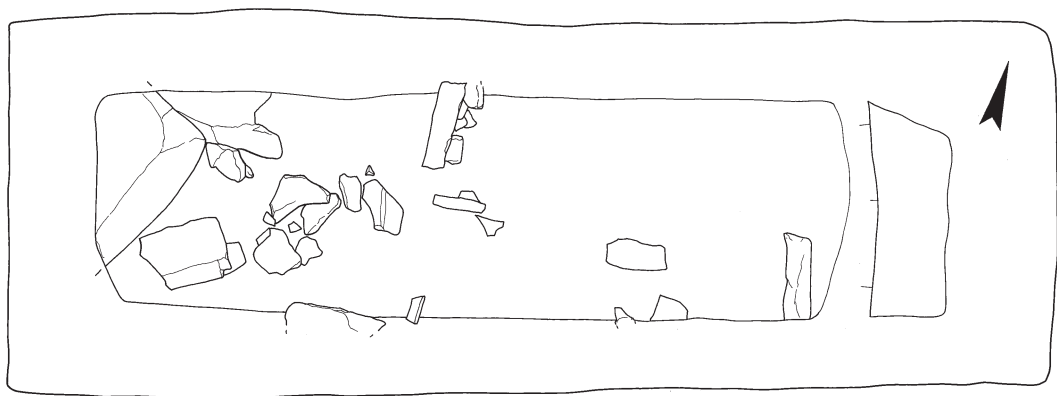
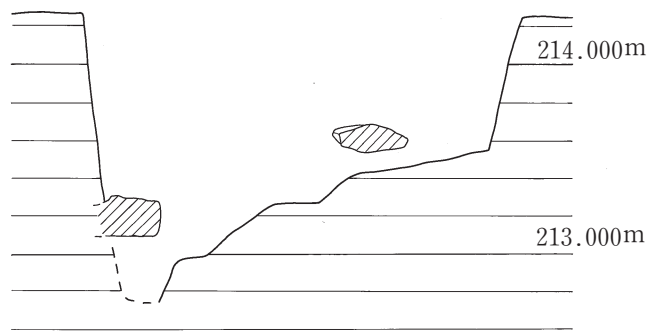
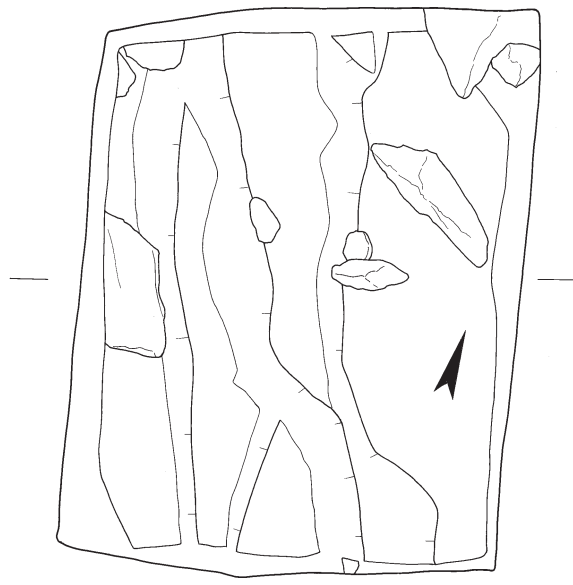


0 2 m

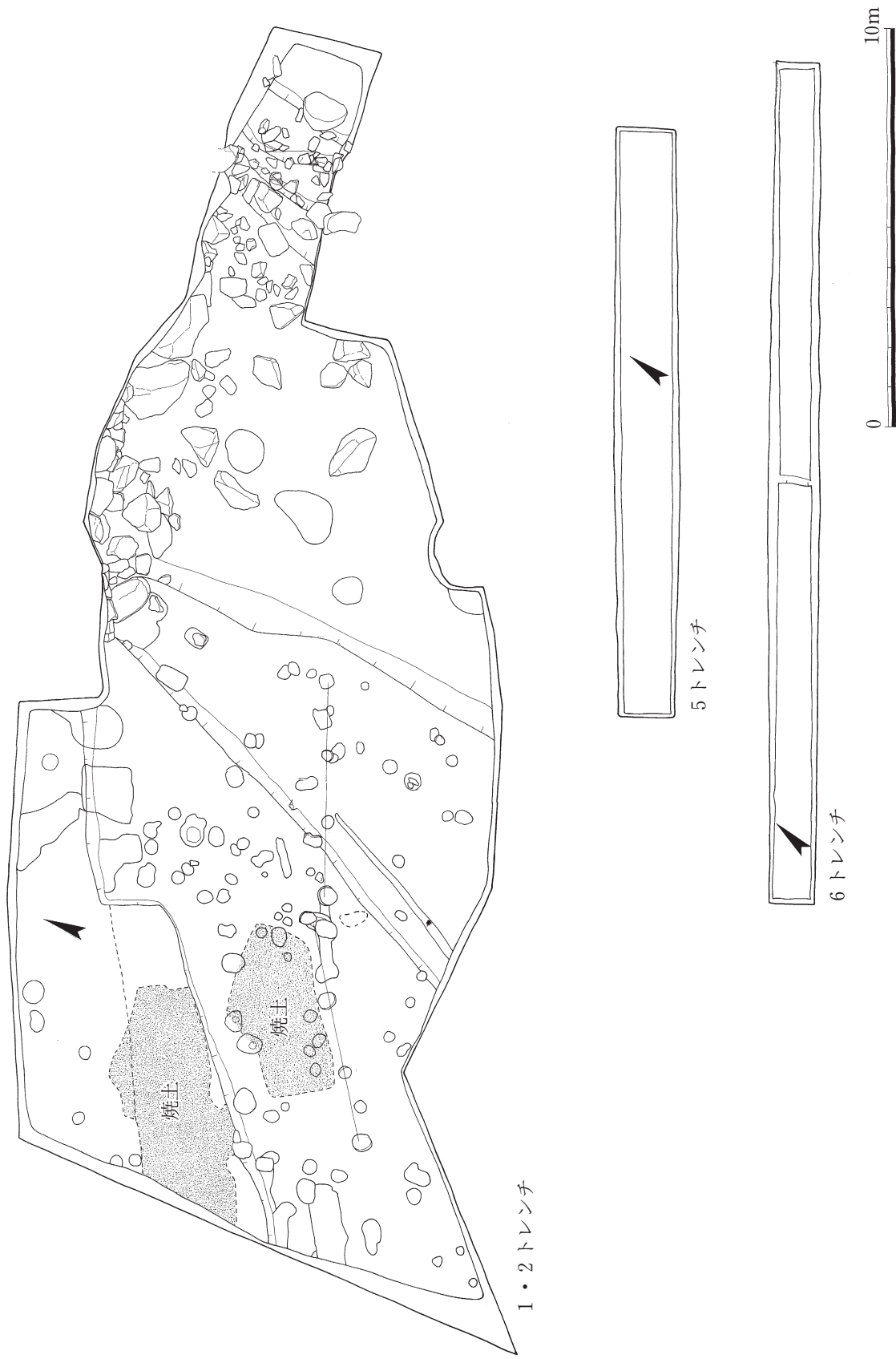
第9図 A地区8トレンチ (1/40)



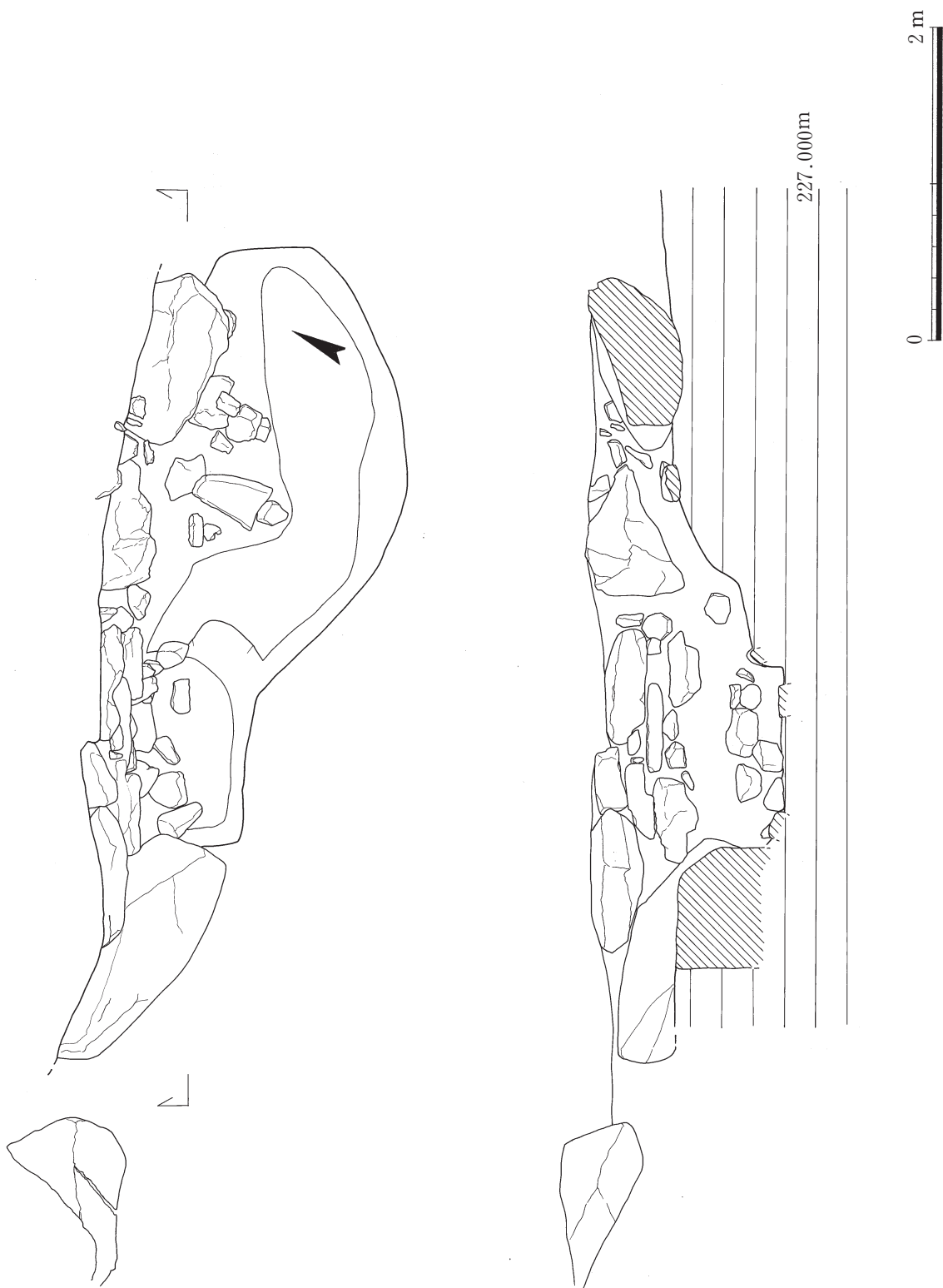
第10図 A地区14トレンチ (1/40)



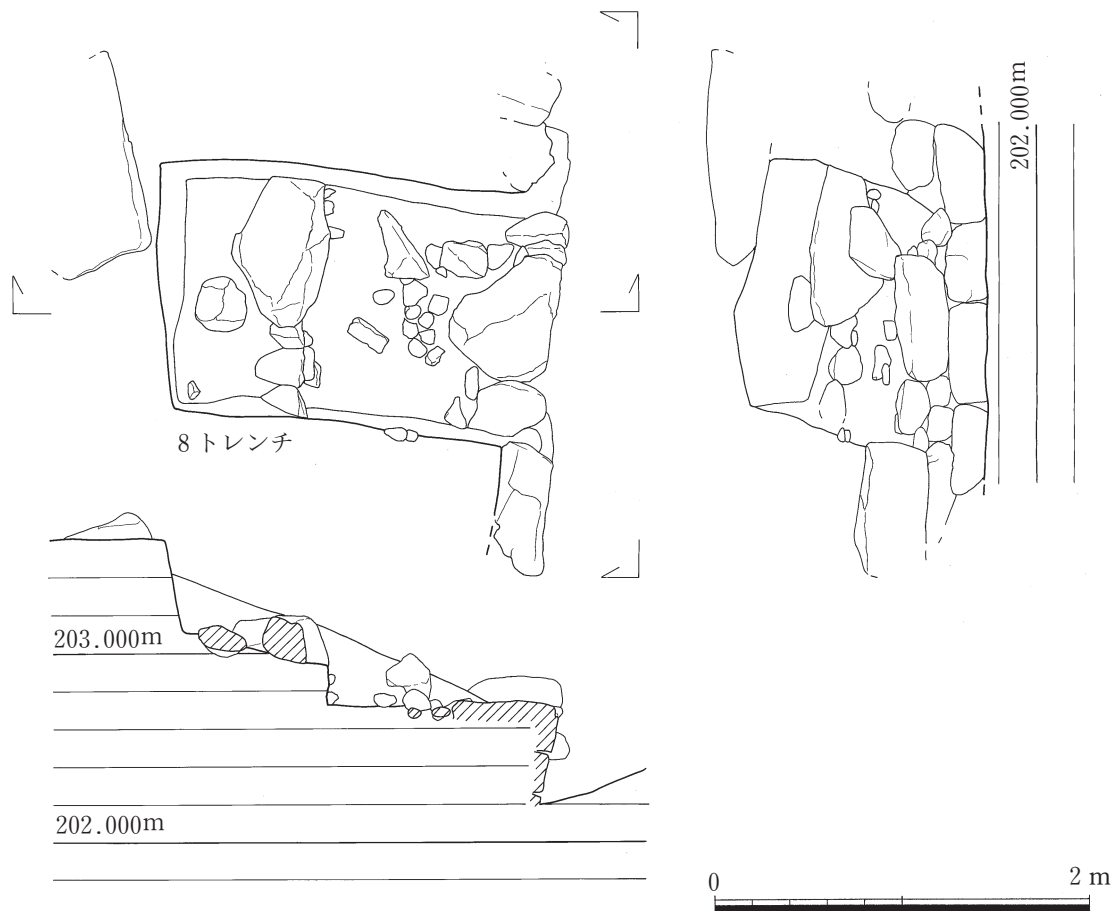
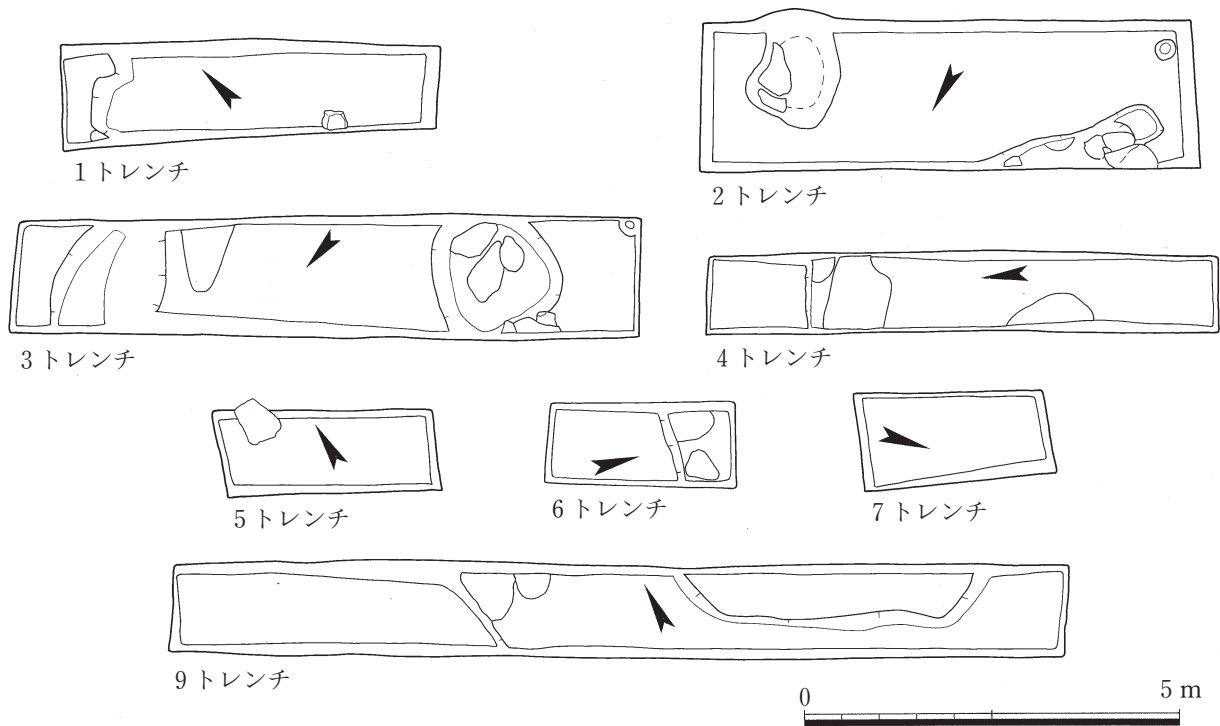
第11図 A地区16・17トレンチ (1/40)



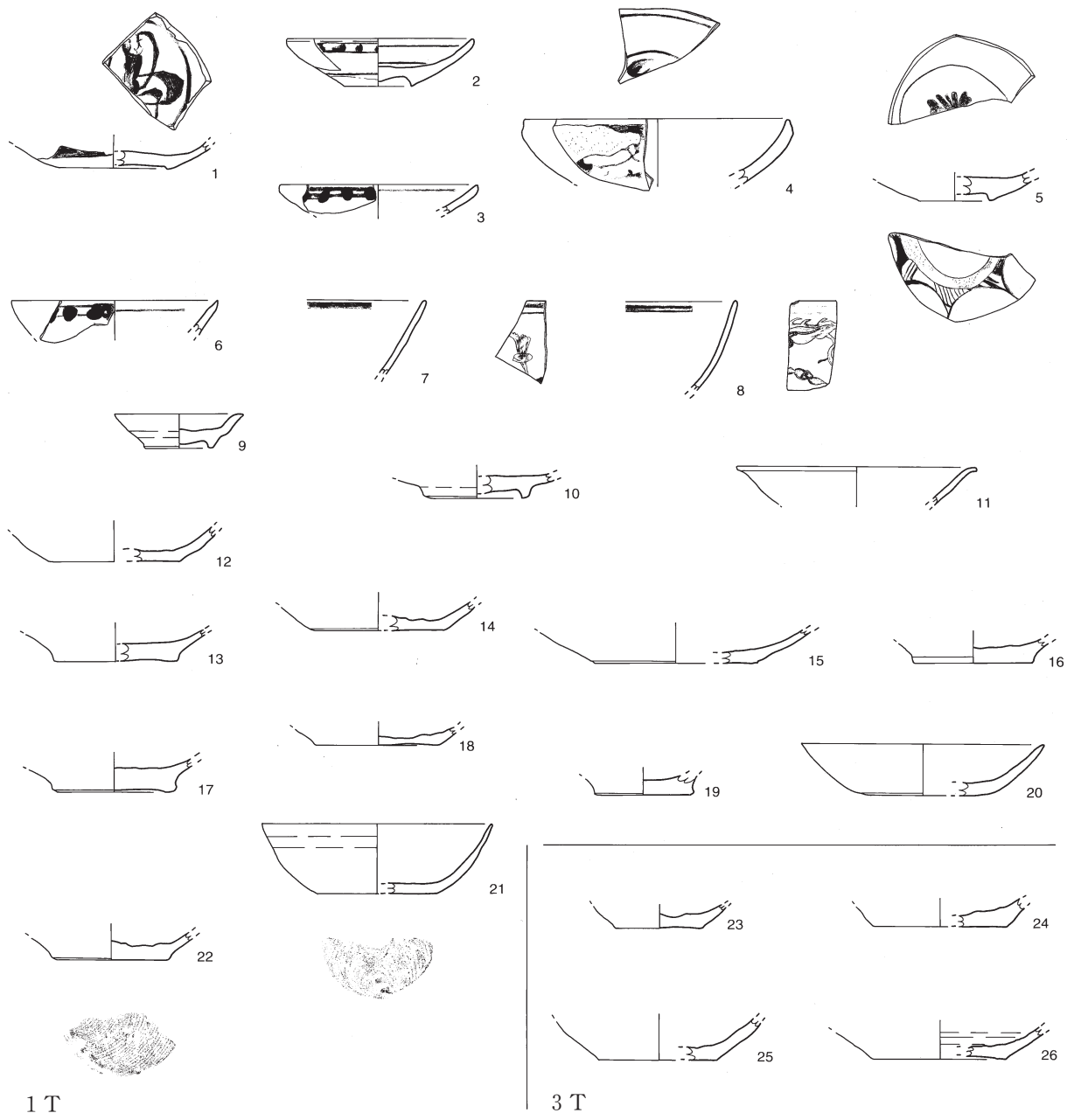
第12図 B地区1・2・5・6トレンチ (1/150)



第13図 B地区7トレンチ (1/40)

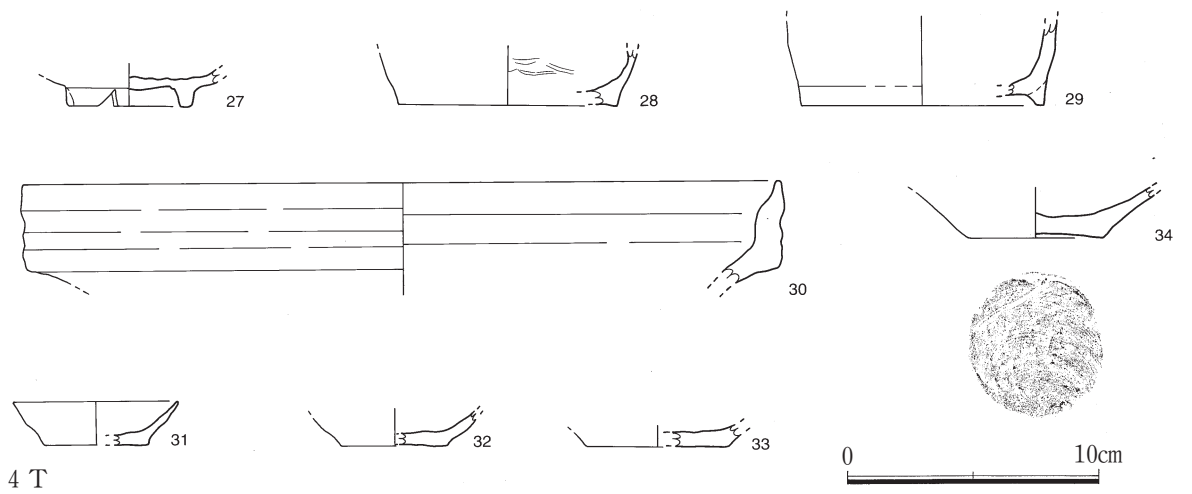


第14図 C地区1・2・3・4・5・6・7・9トレンチ (1/100) 8トレンチ (1/40)



1 T

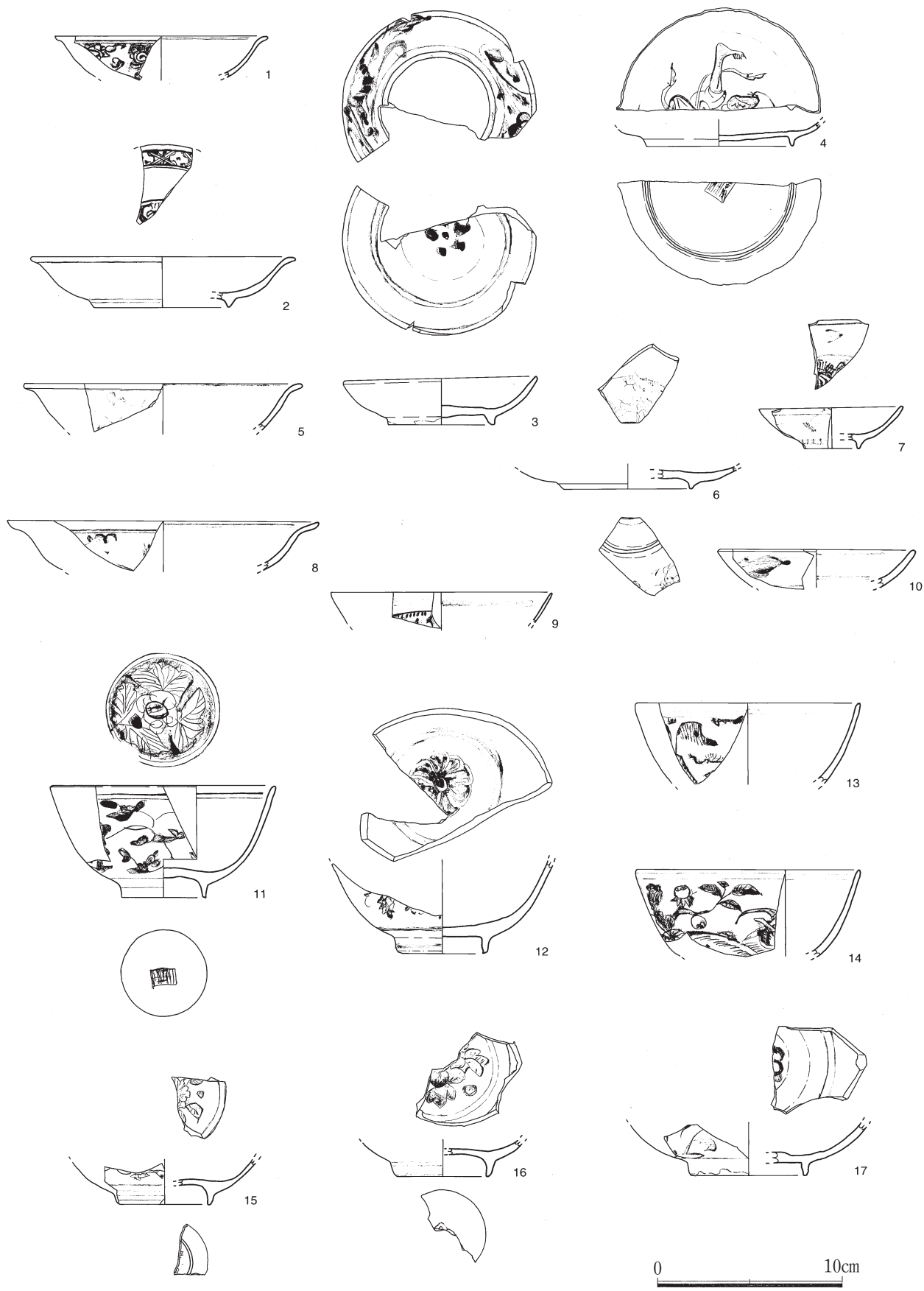
3 T



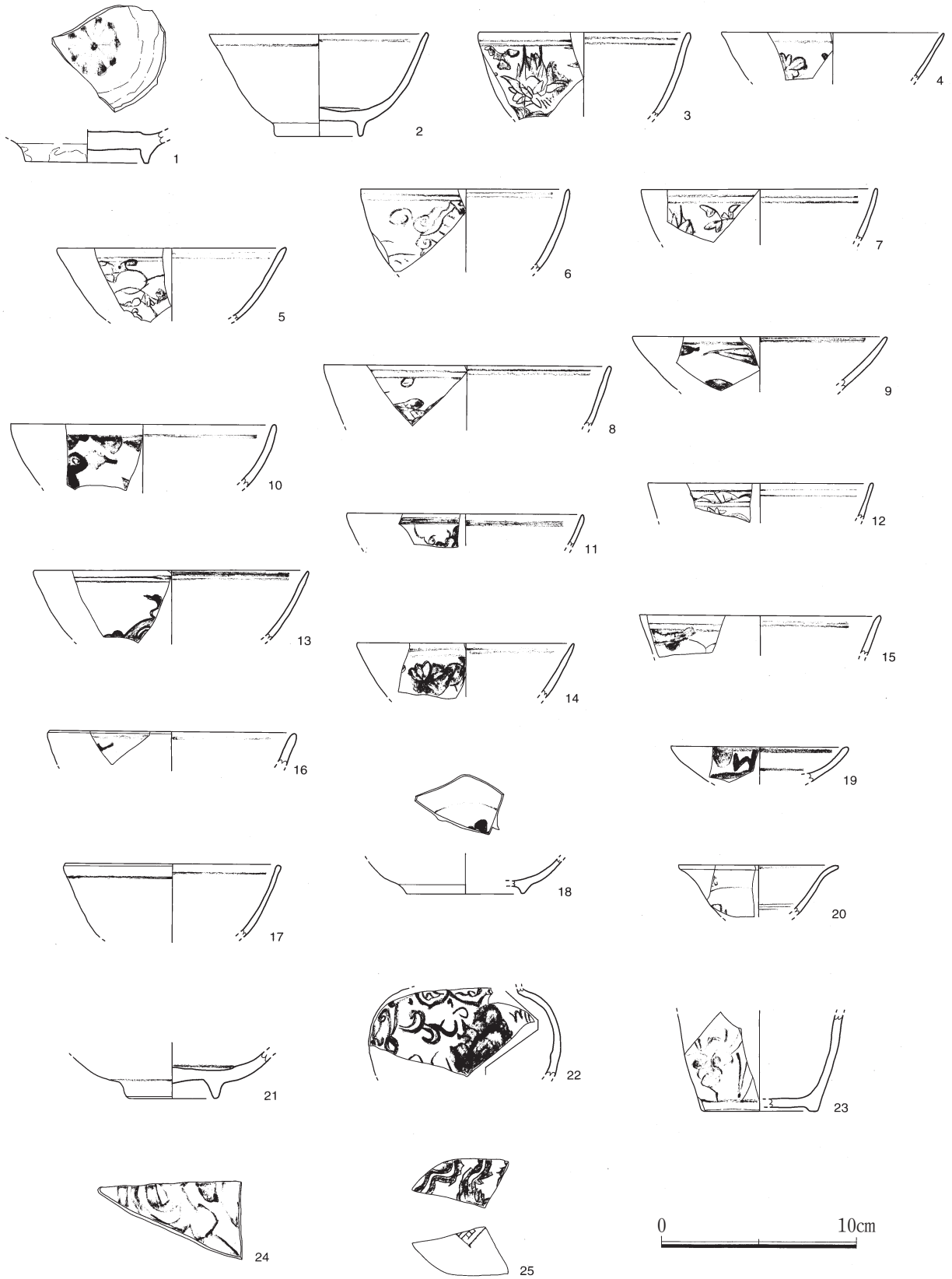
4 T

0 10cm

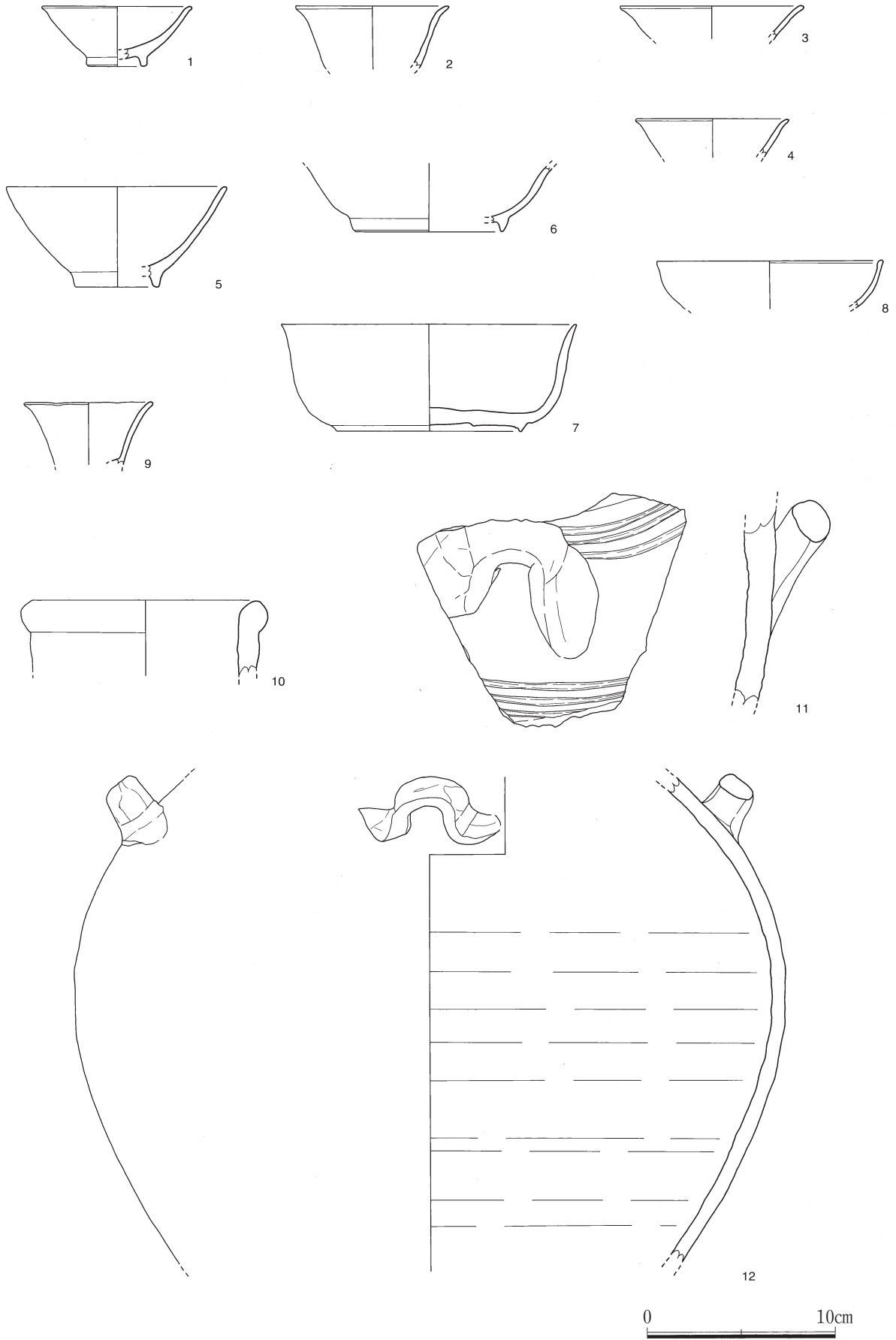
第15図 A地区1・3・4トレンチ出土遺物 (1/3)



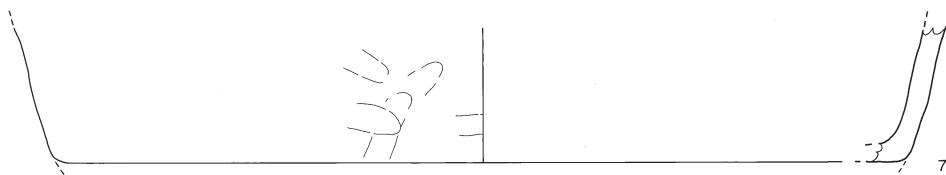
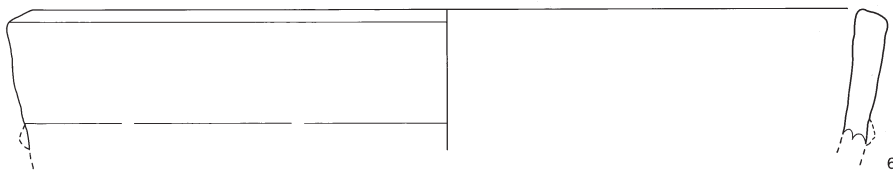
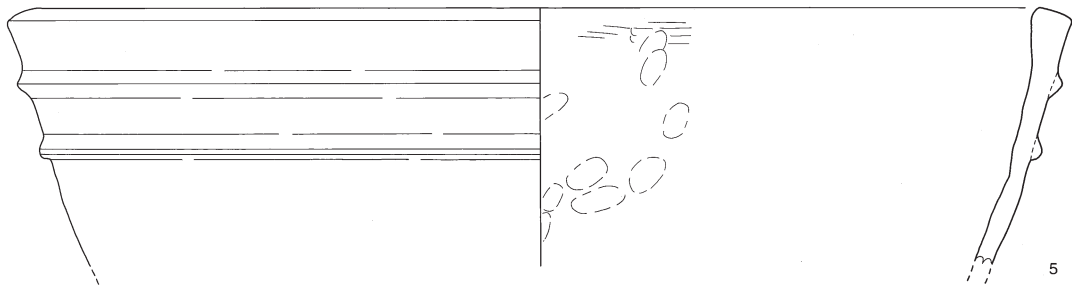
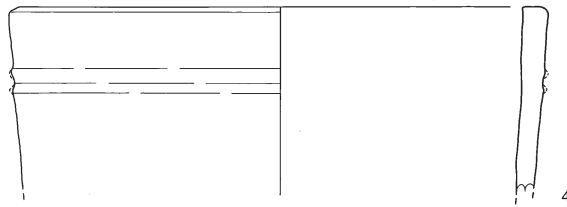
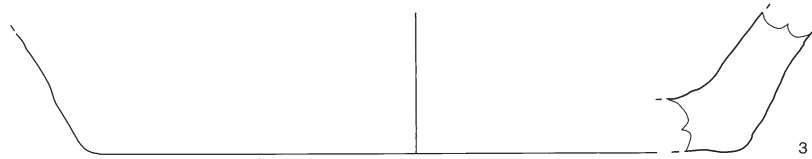
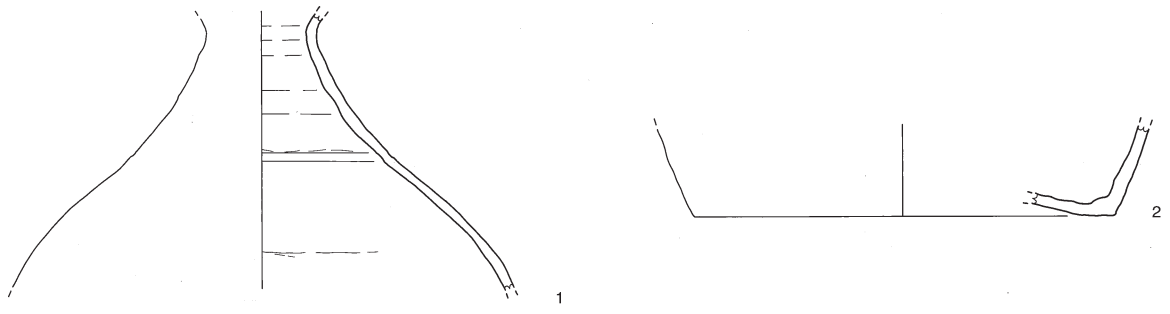
第16図 A地区5トレンチ出土遺物1 (1/3)



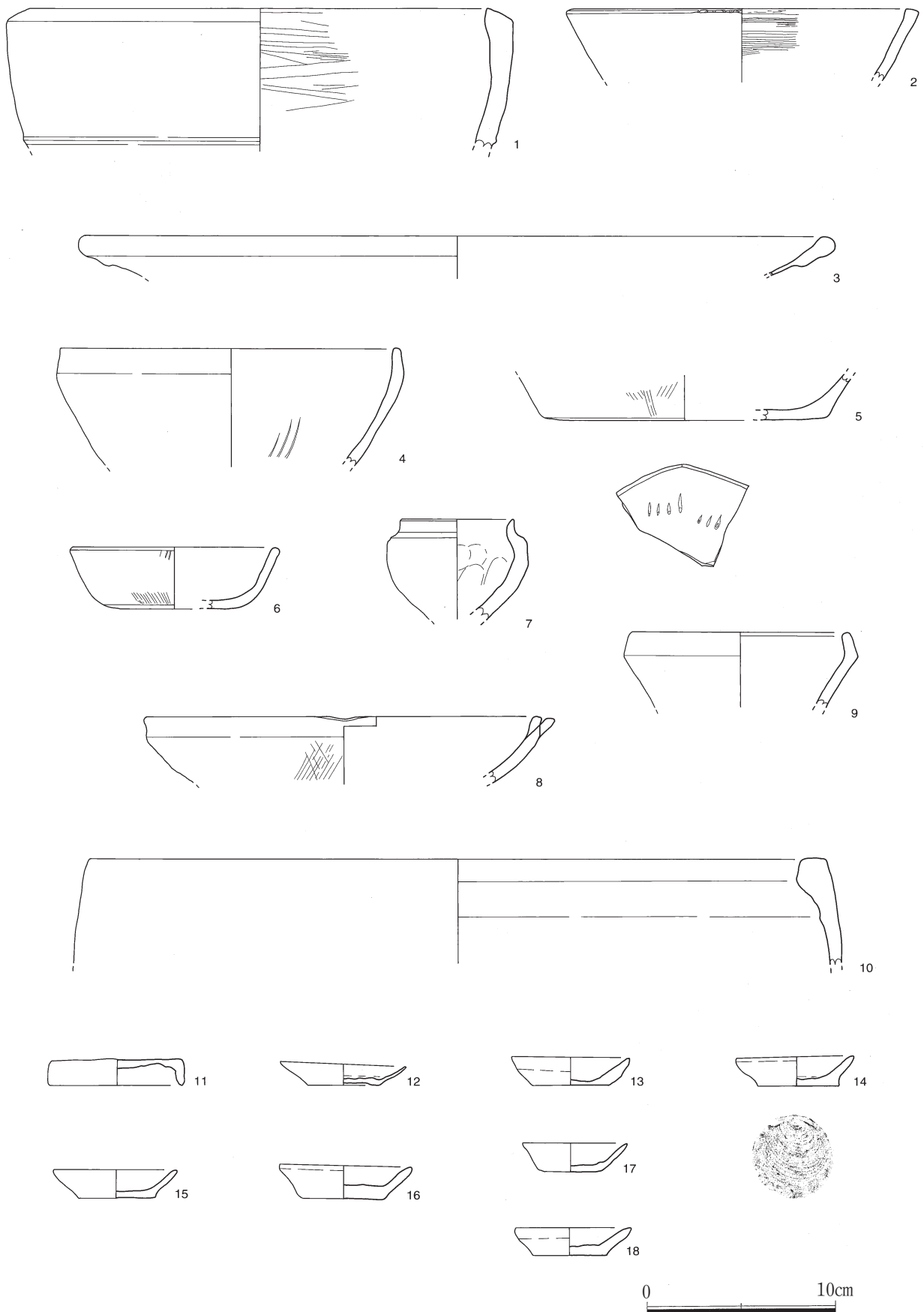
第17図 A地区5トレンチ出土遺物2 (1/3)



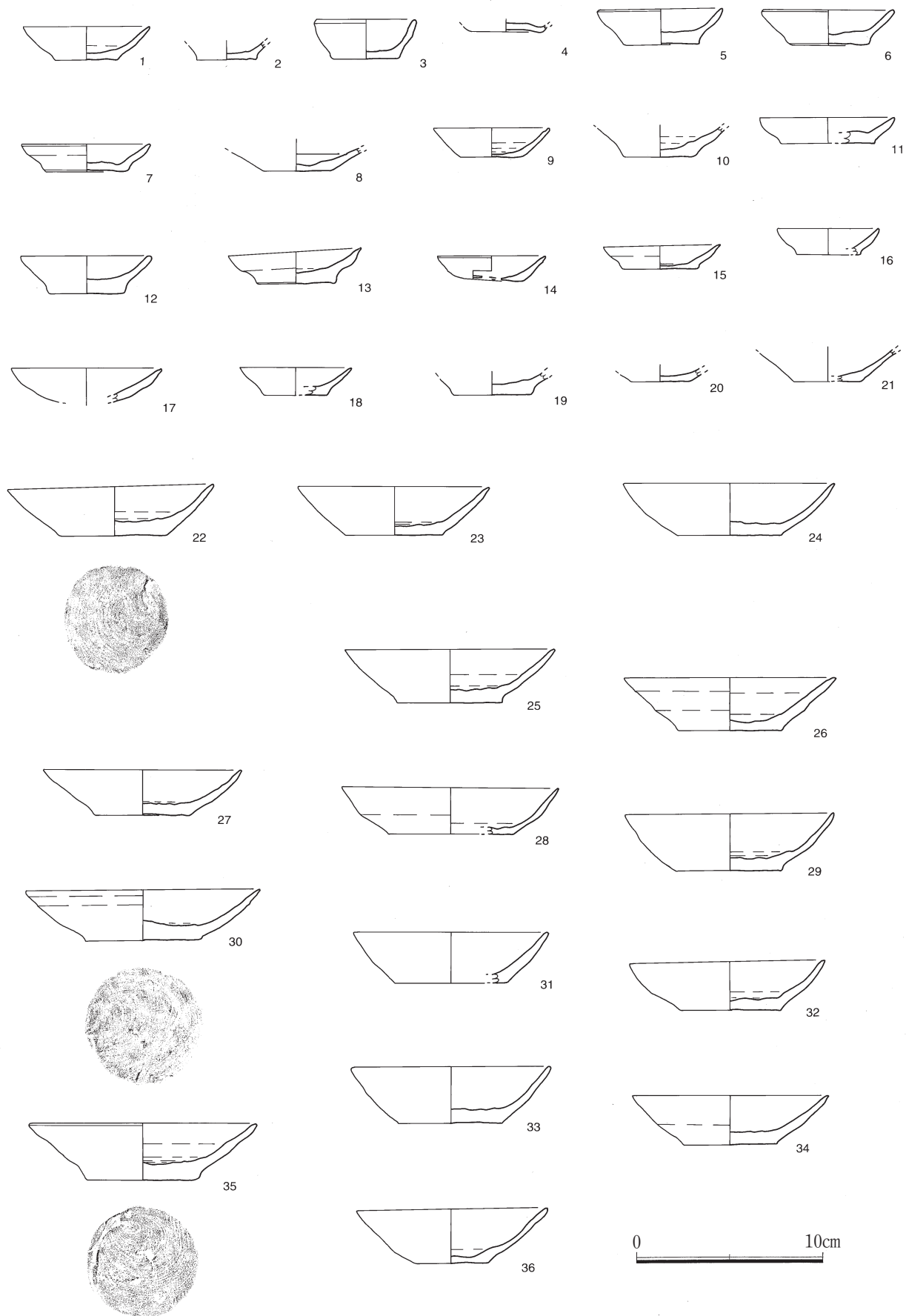
第18図 A地区5トレンチ出土遺物3 (1/3)



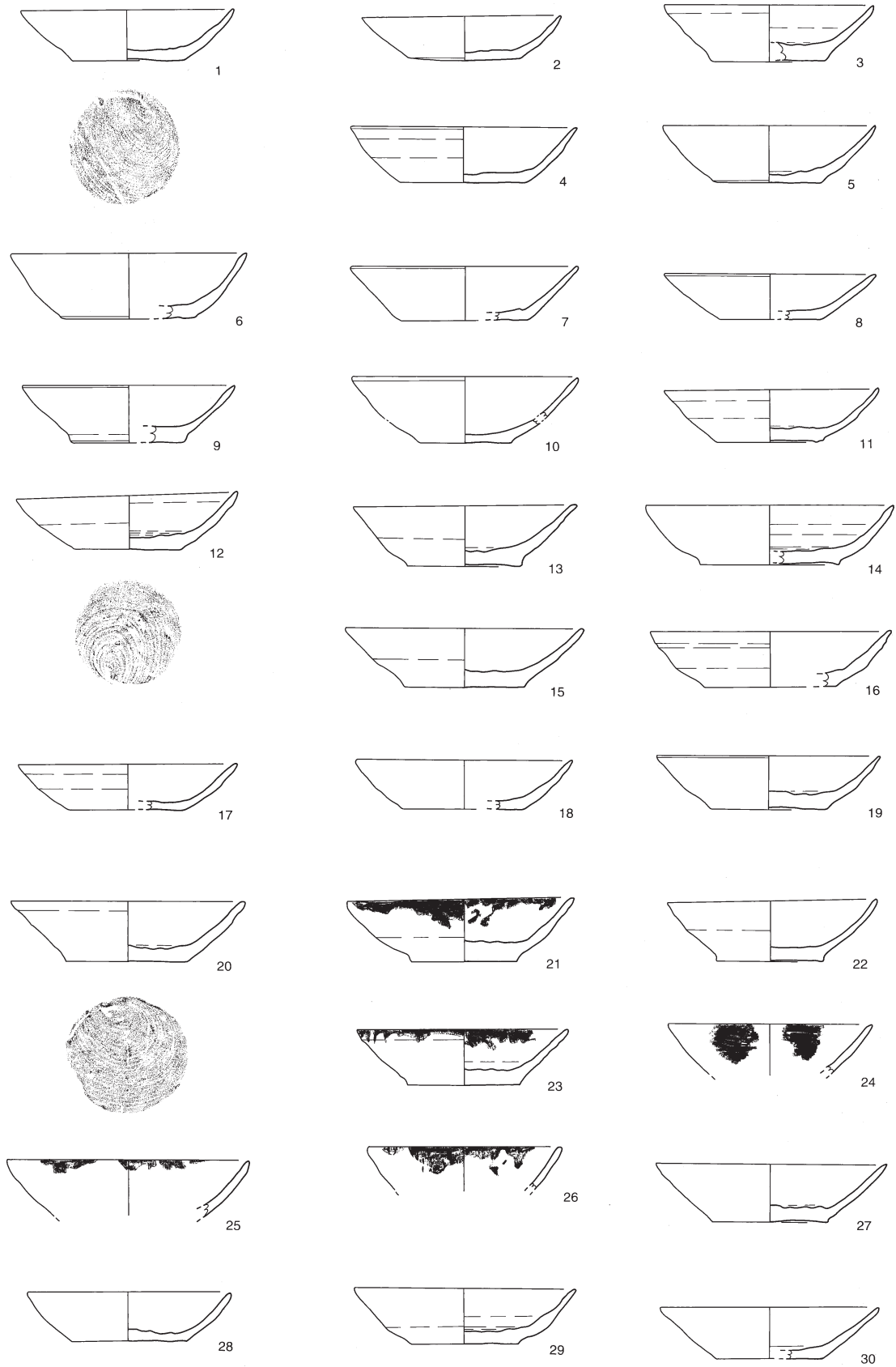
第19図 A地区5トレンチ出土遺物4 (1/3)



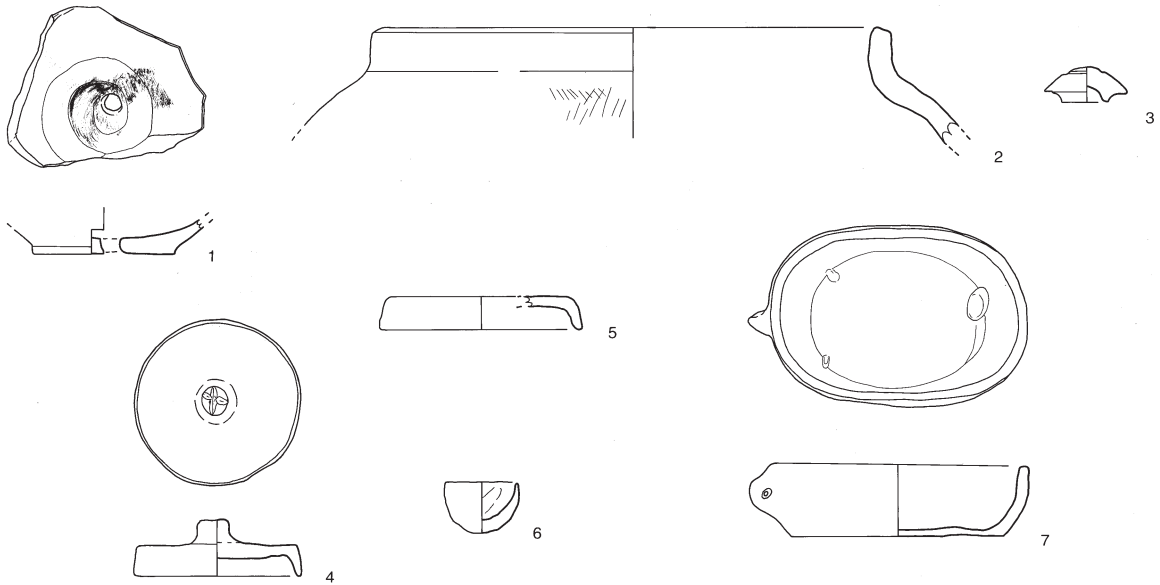
第20図 A地区5トレンチ出土遺物5 (1/3)



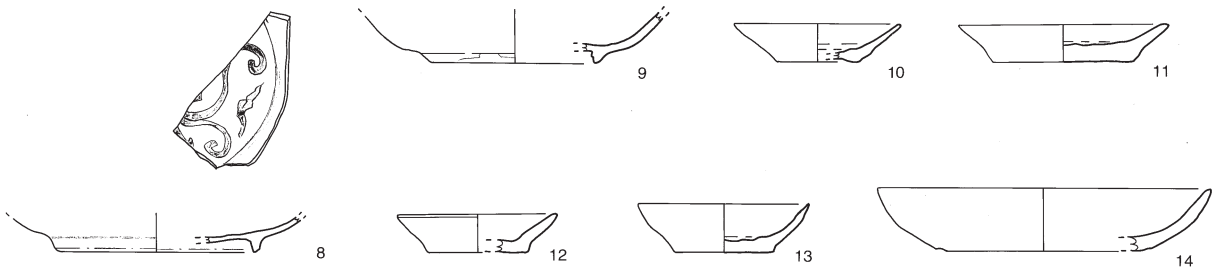
第21図 A地区5トレンチ出土遺物6 (1/3)



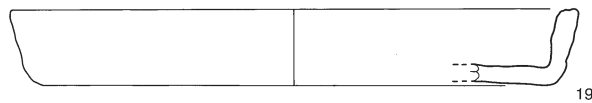
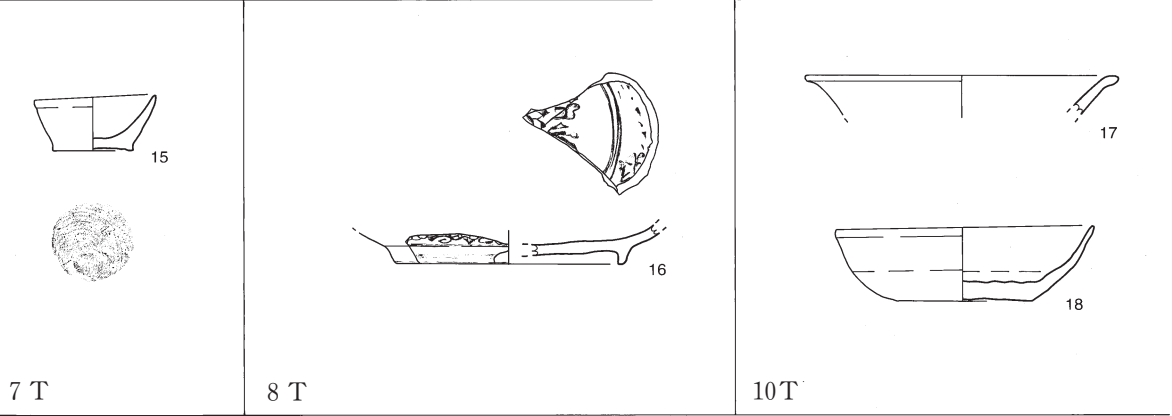
第22図 A地区5トレンチ出土遺物7 (1/3)



5 T

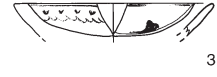
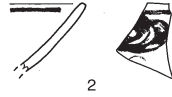


6 T

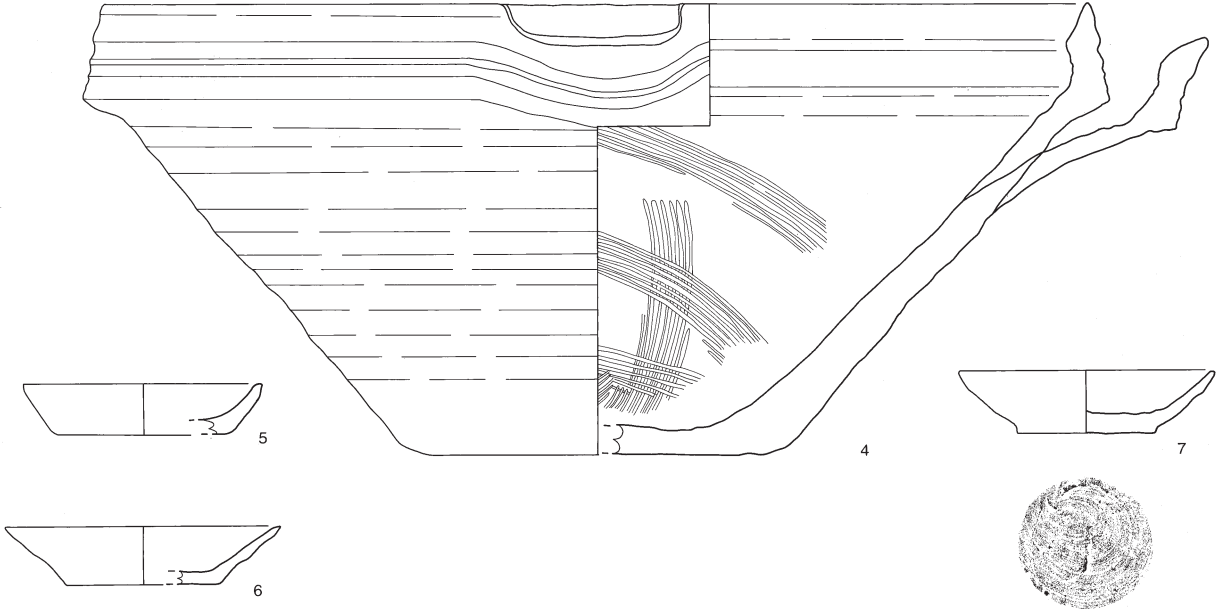


11 T

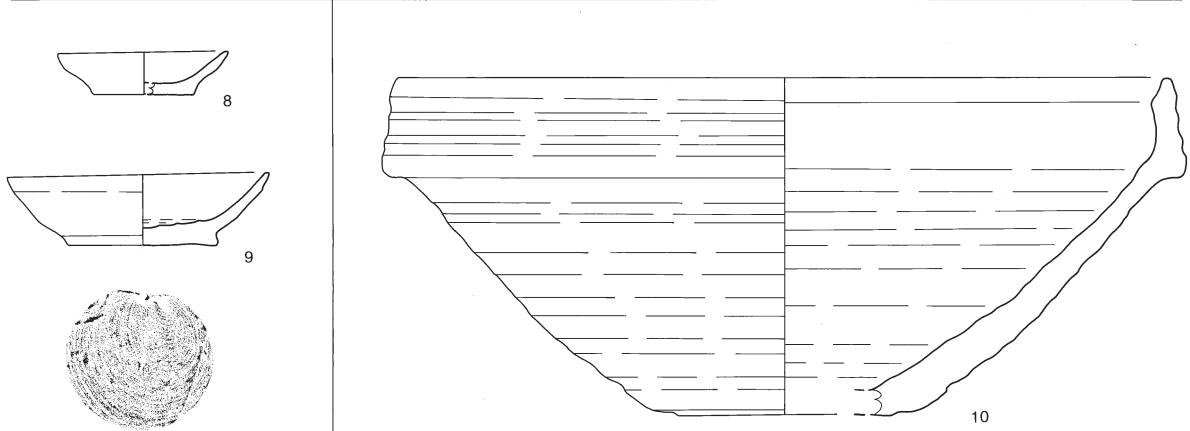
第23図 A地区5・6・7・8・10・11トレンチ出土遺物(1/3)



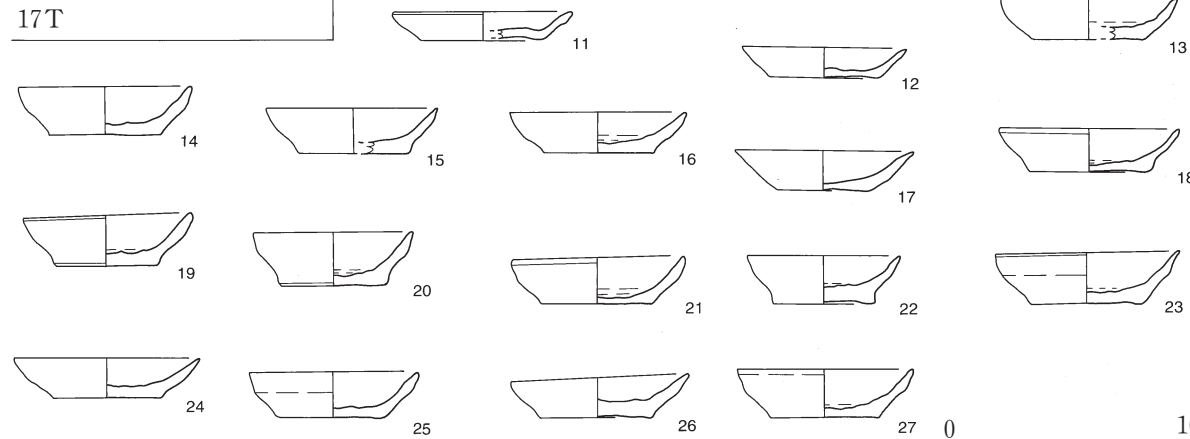
13T



14T



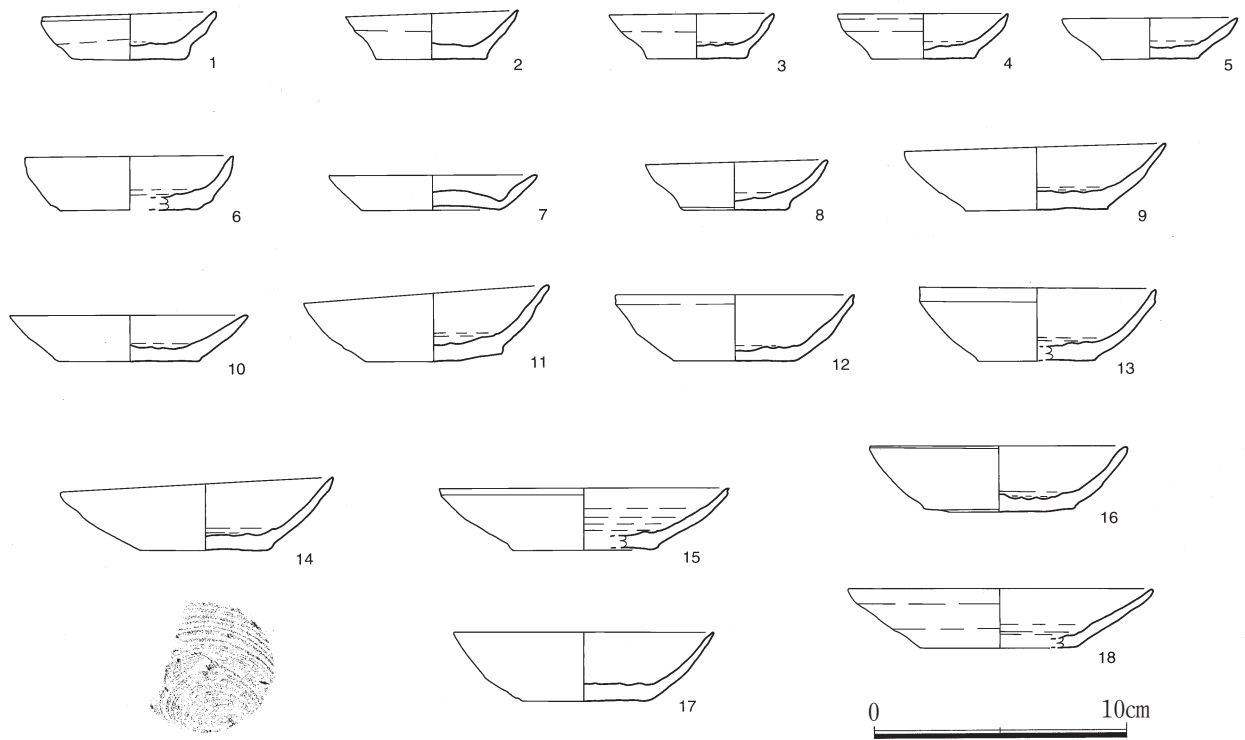
17T



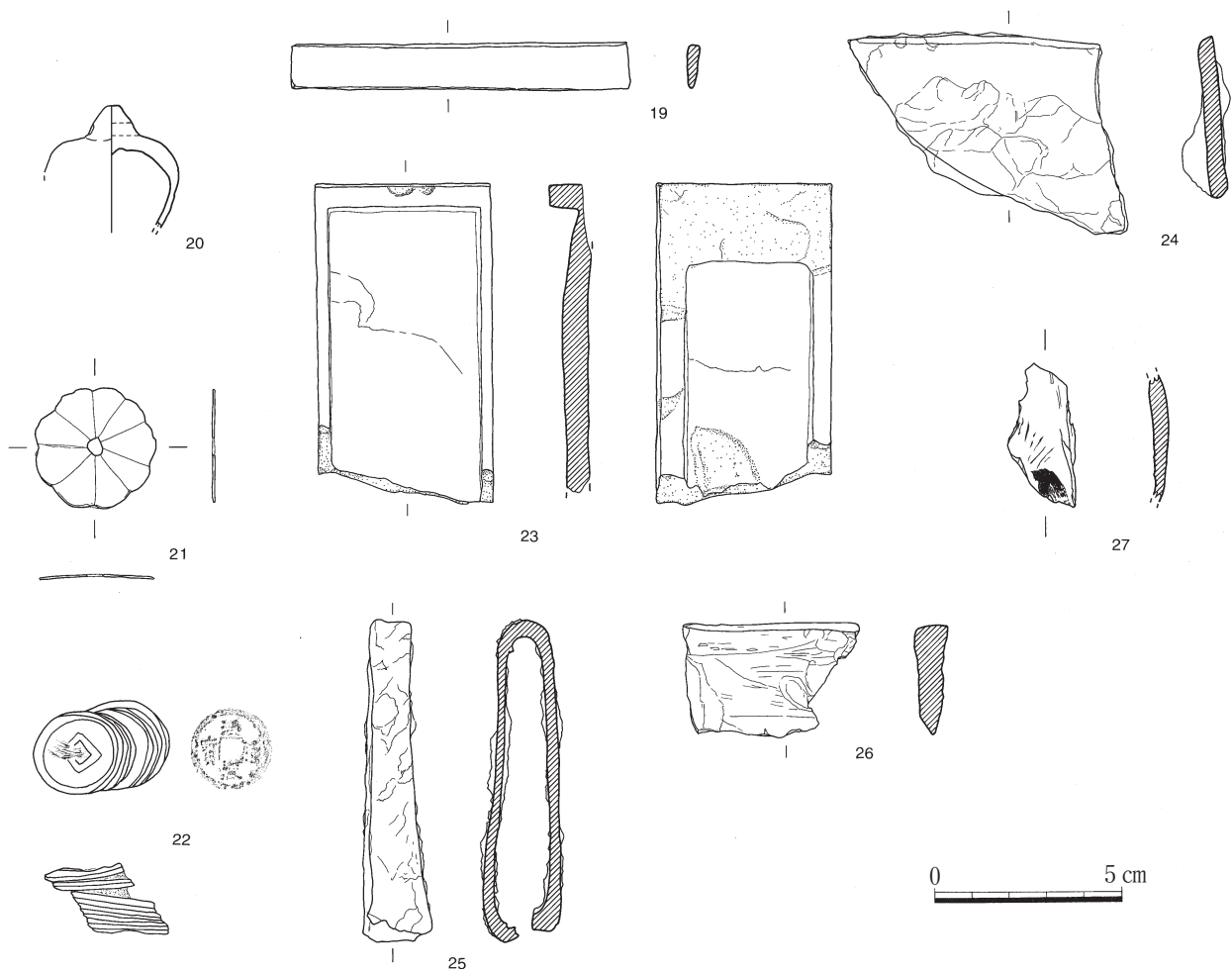
16T

第24図 A地区13・14・16・17トレンチ出土遺物 (1 / 3)

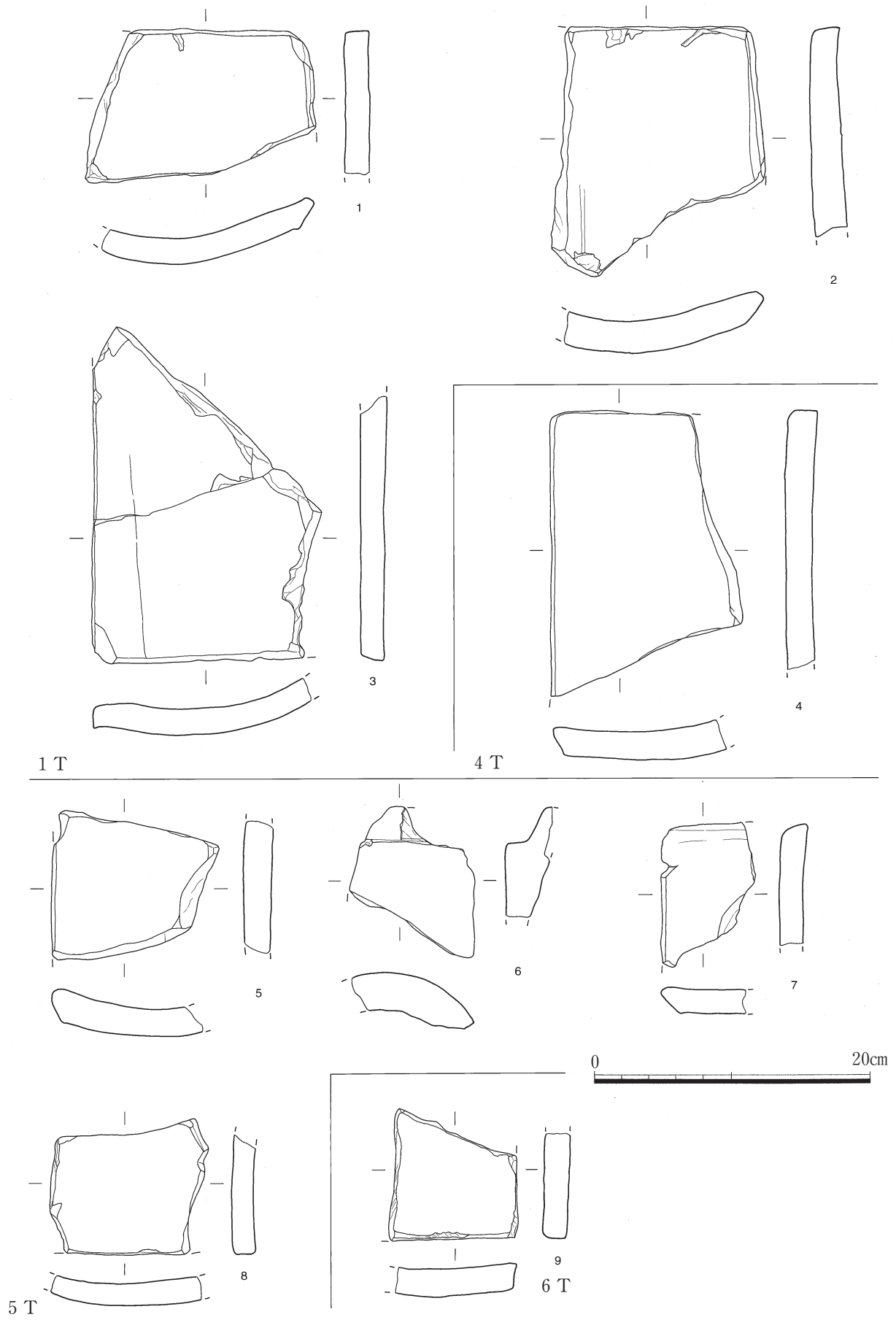
0 10cm



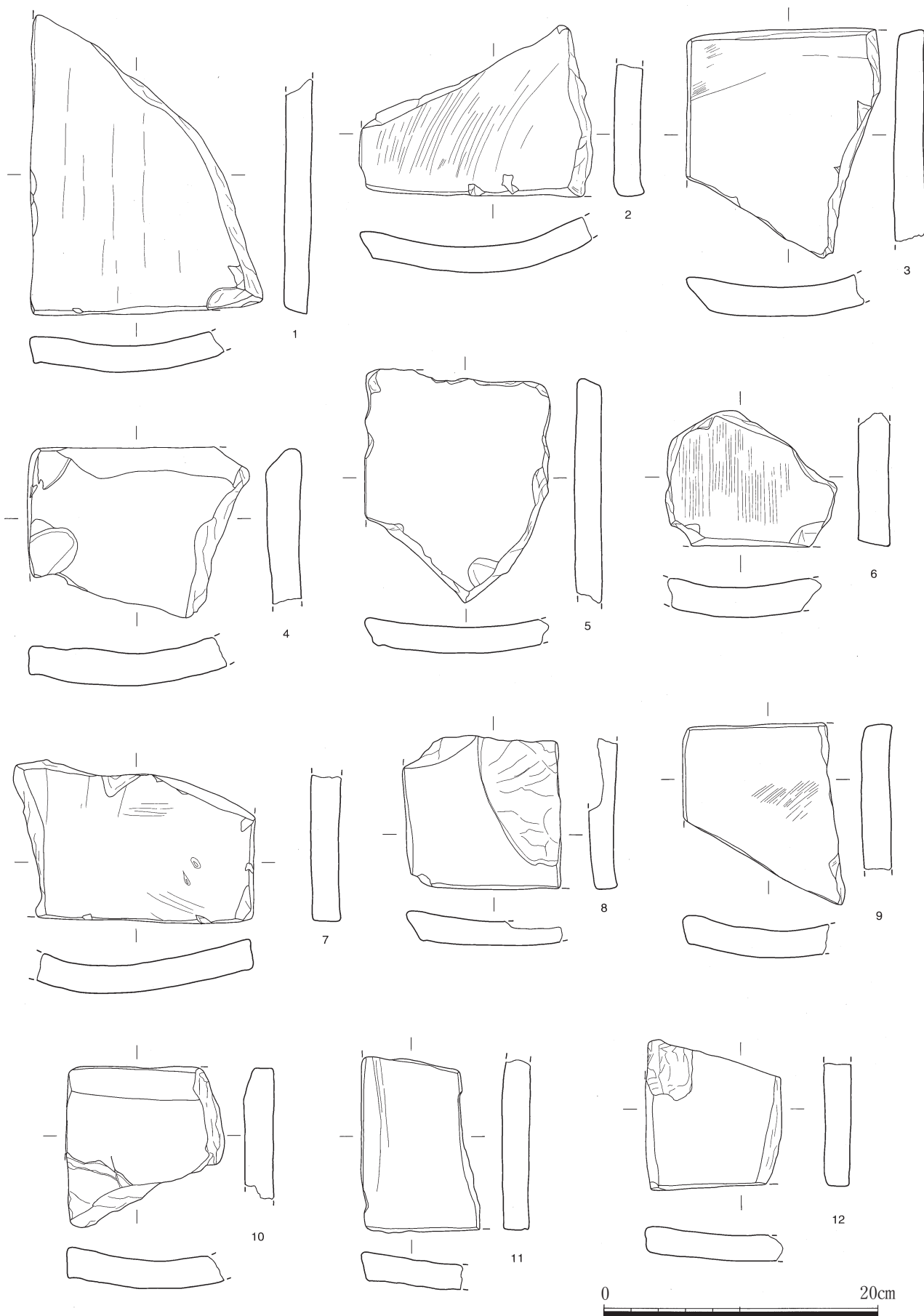
16T



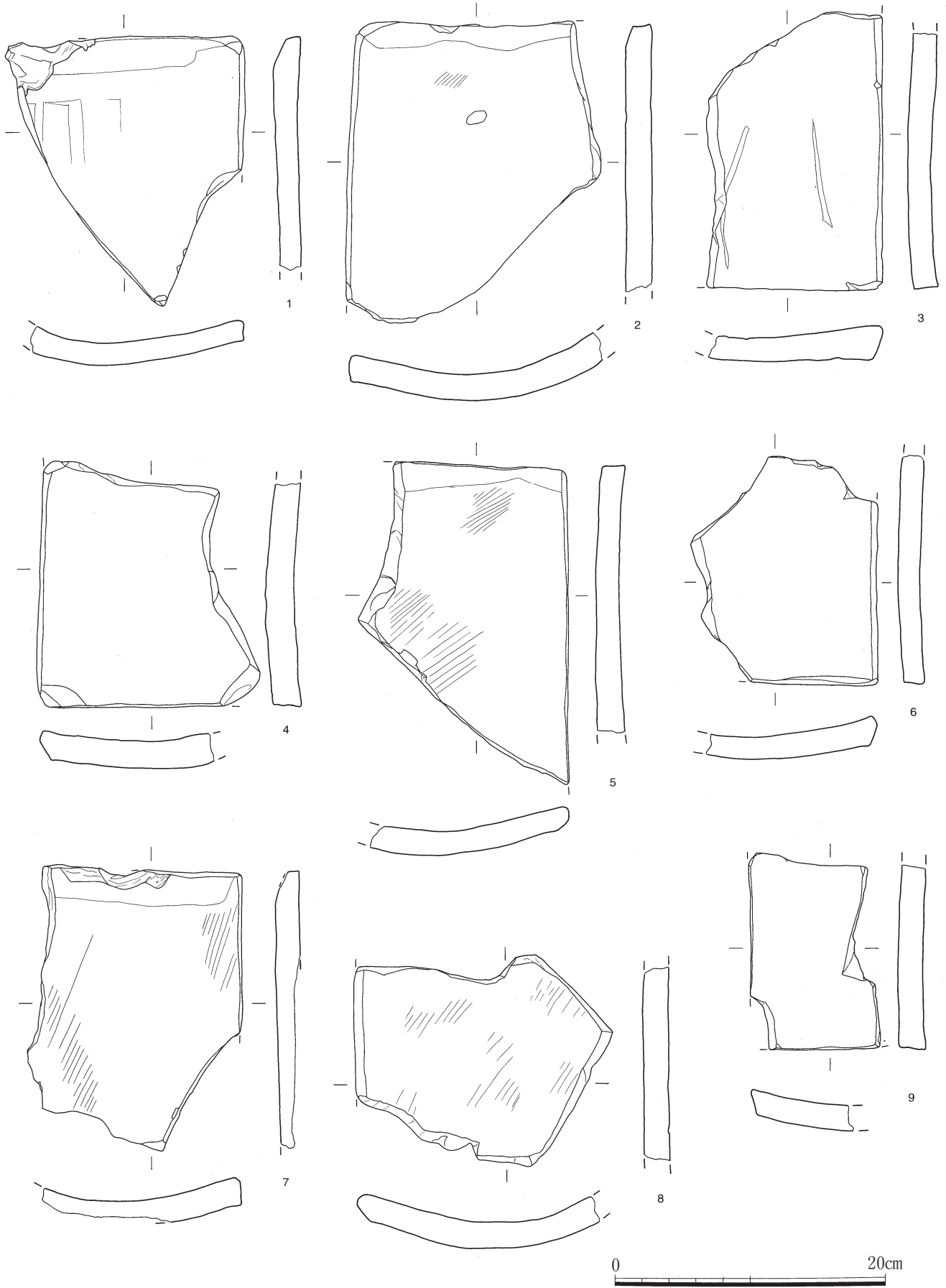
第25図 A地区16トレンチ出土遺物(1/3)、A地区内出土遺物(1/2)



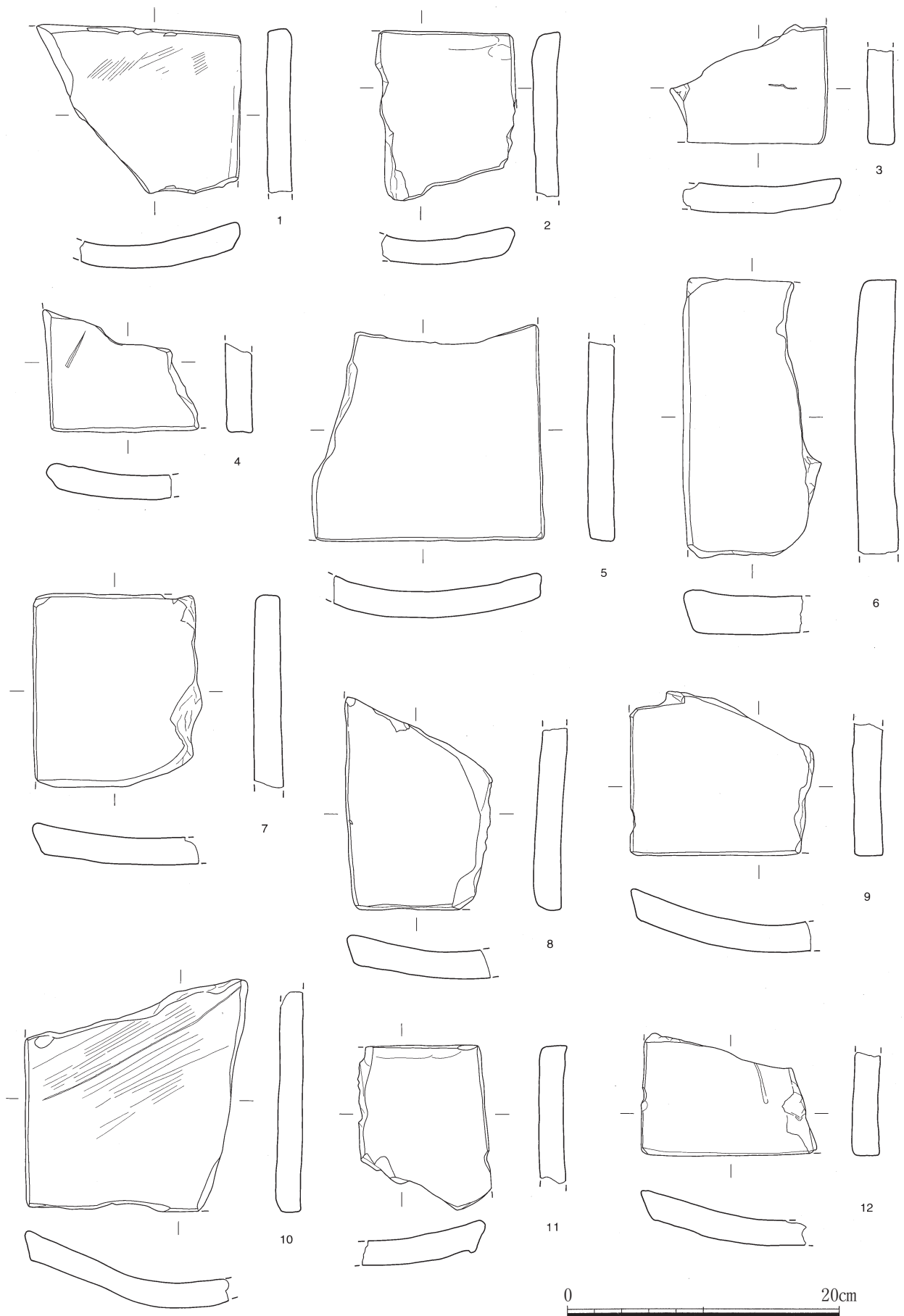
第26図 A地区1・4・5・6トレンチ出土瓦 (1/4)



第27図 A地区8トレンチ出土瓦1 (1/4)



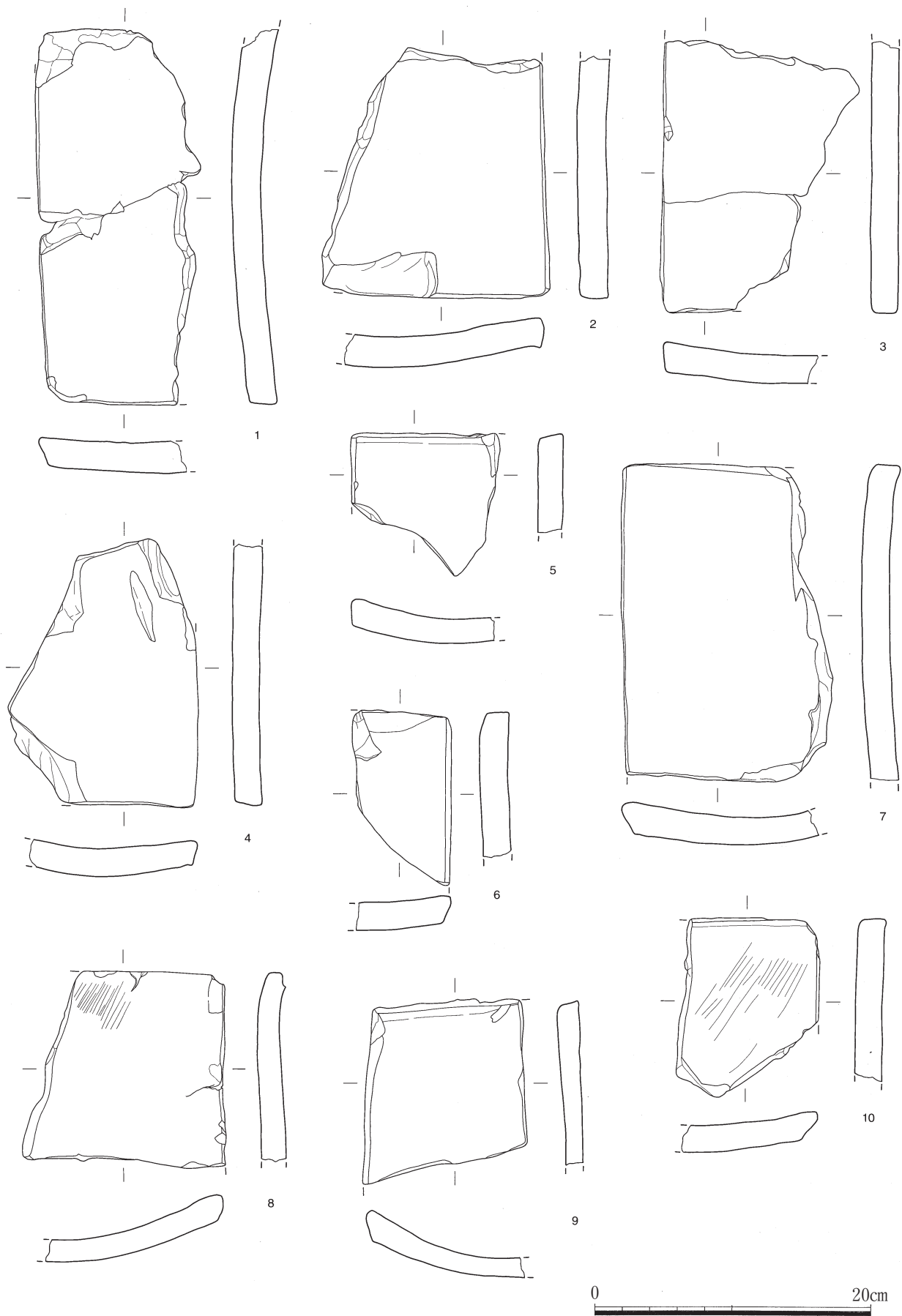
第28図 A地区8トレンチ出土瓦2 (1/4)



第29図 A地区8トレンチ出土瓦3 (1/4)



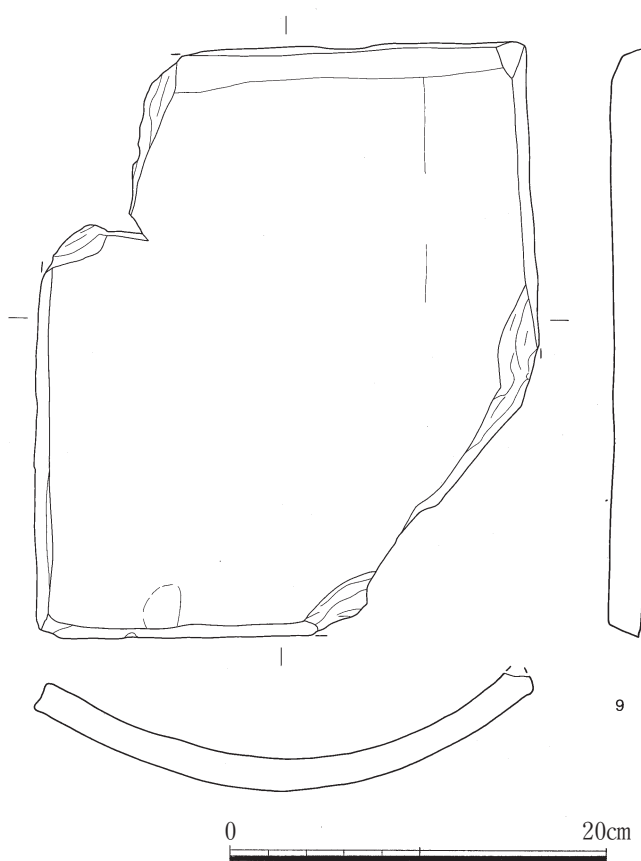
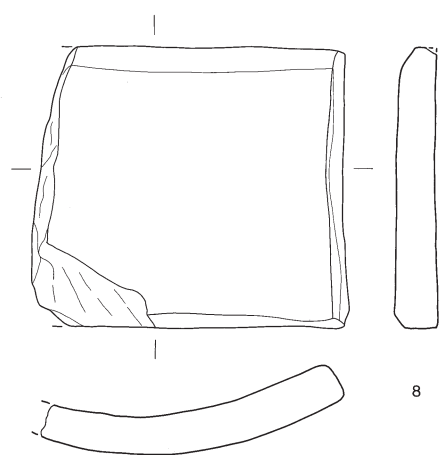
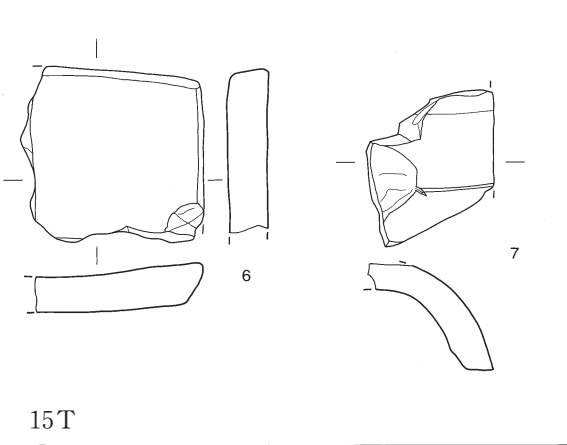
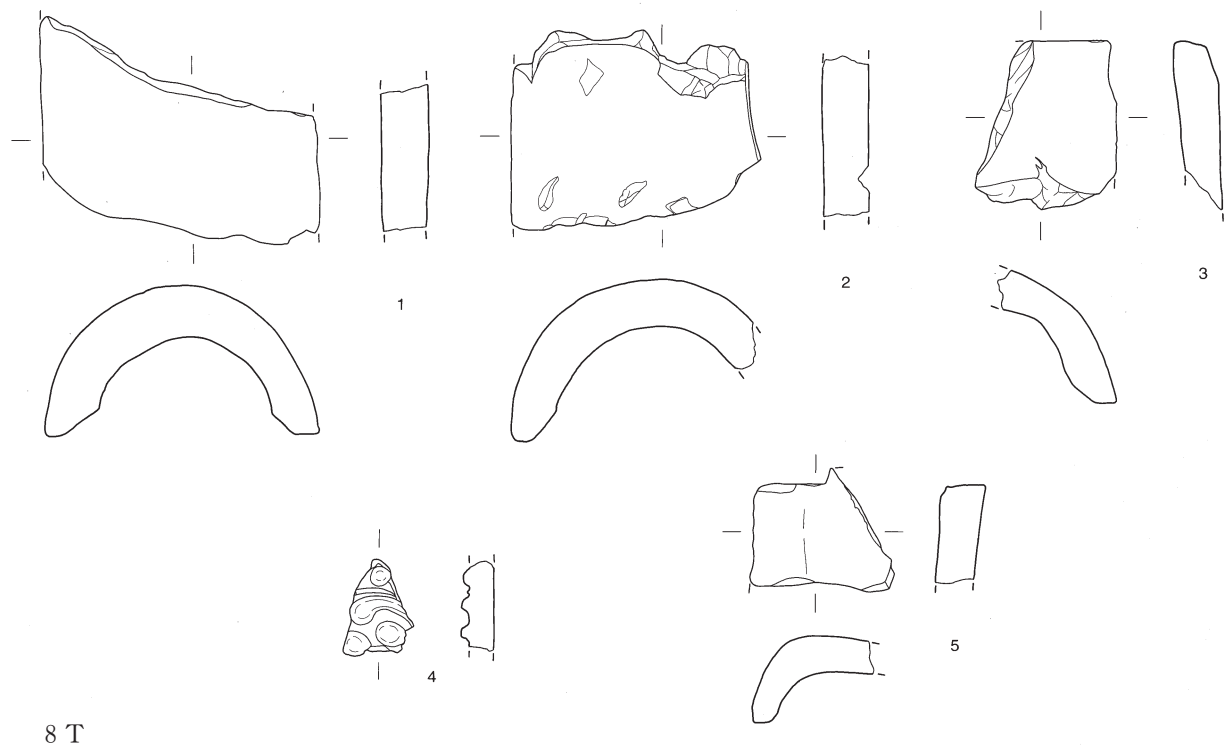
第30図 A地区8トレンチ出土瓦4 (1/4)



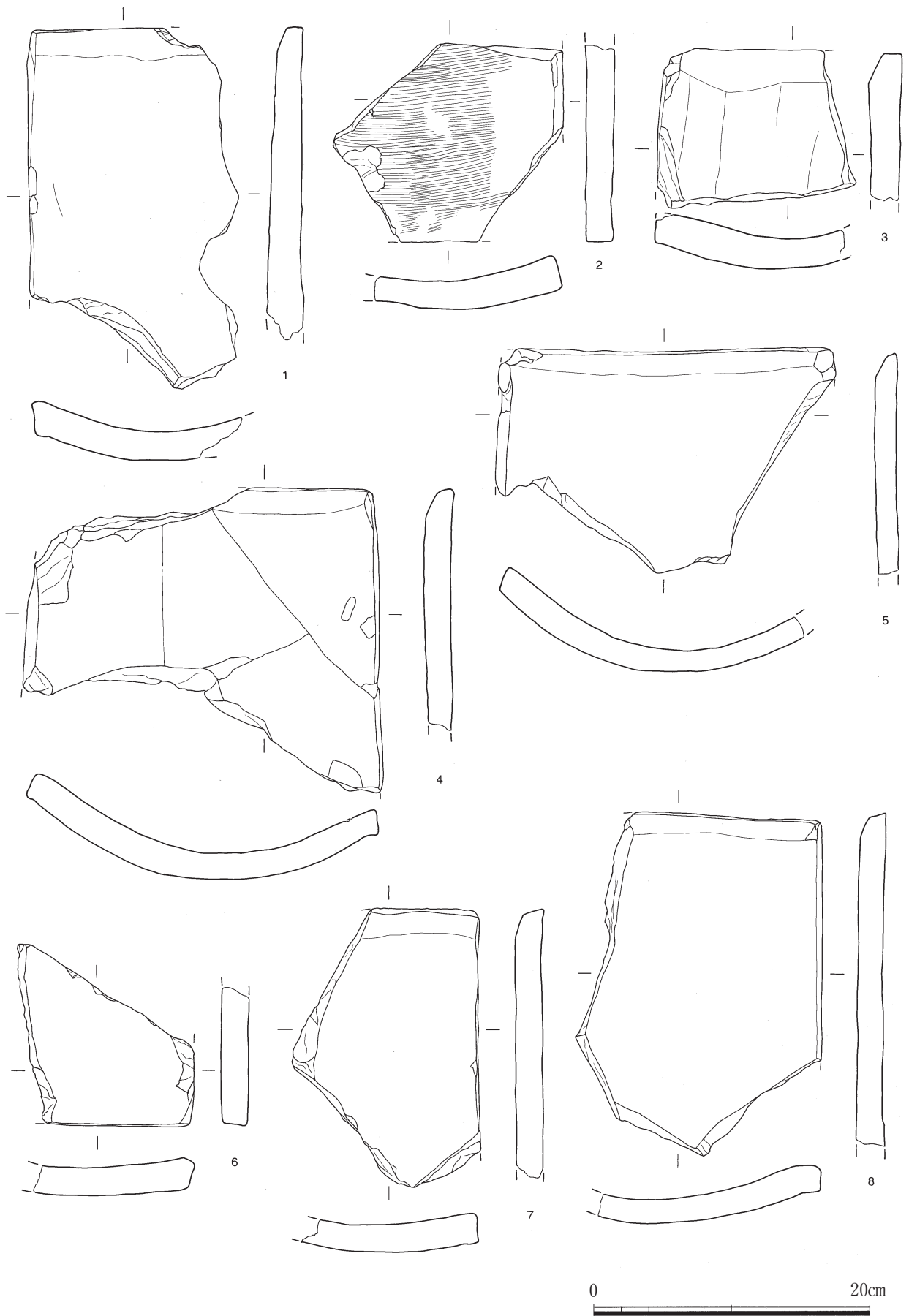
第31図 A地区8トレンチ出土瓦5 (1/4)



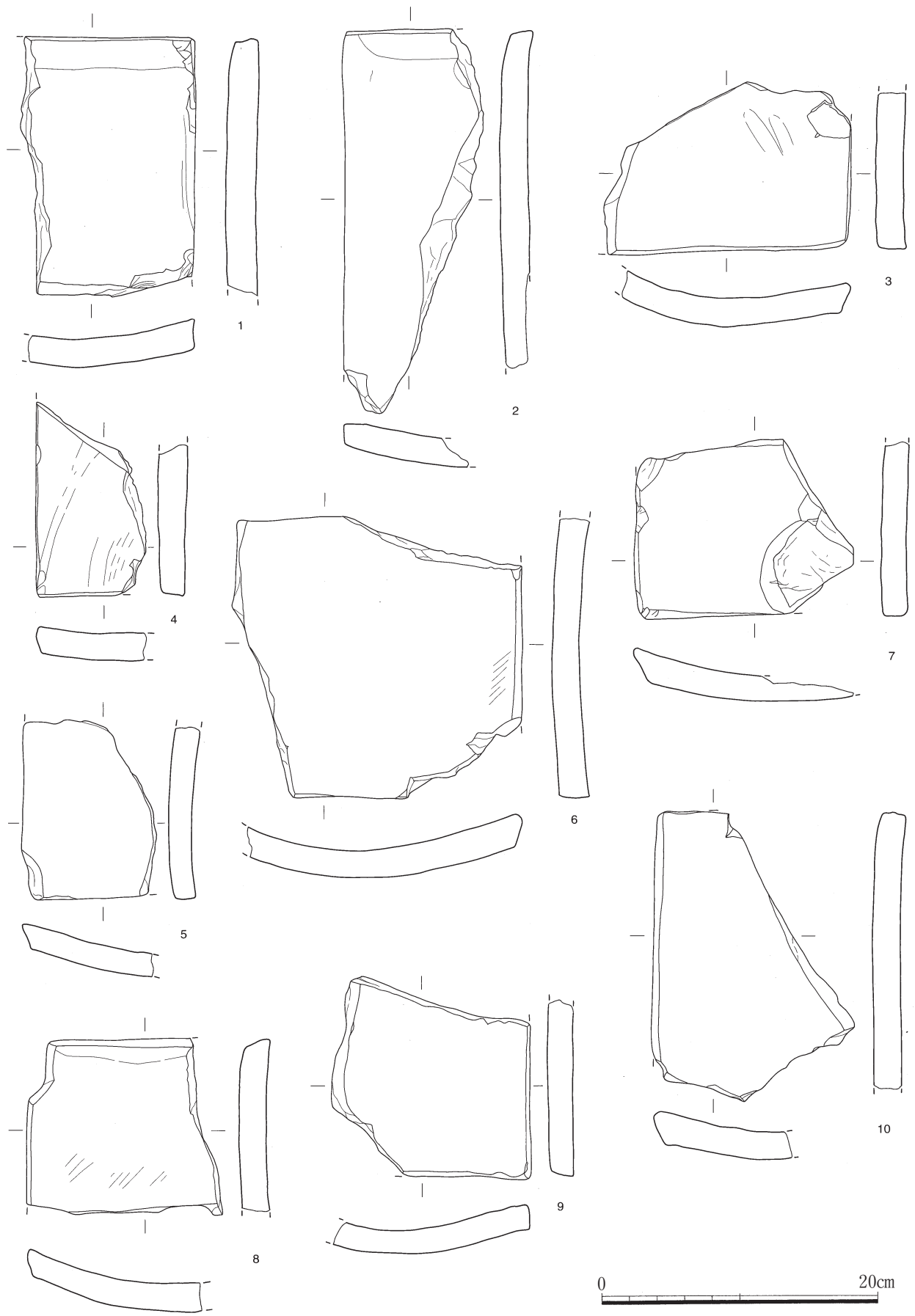
第32図 A地区8トレンチ出土瓦6 (1/4)



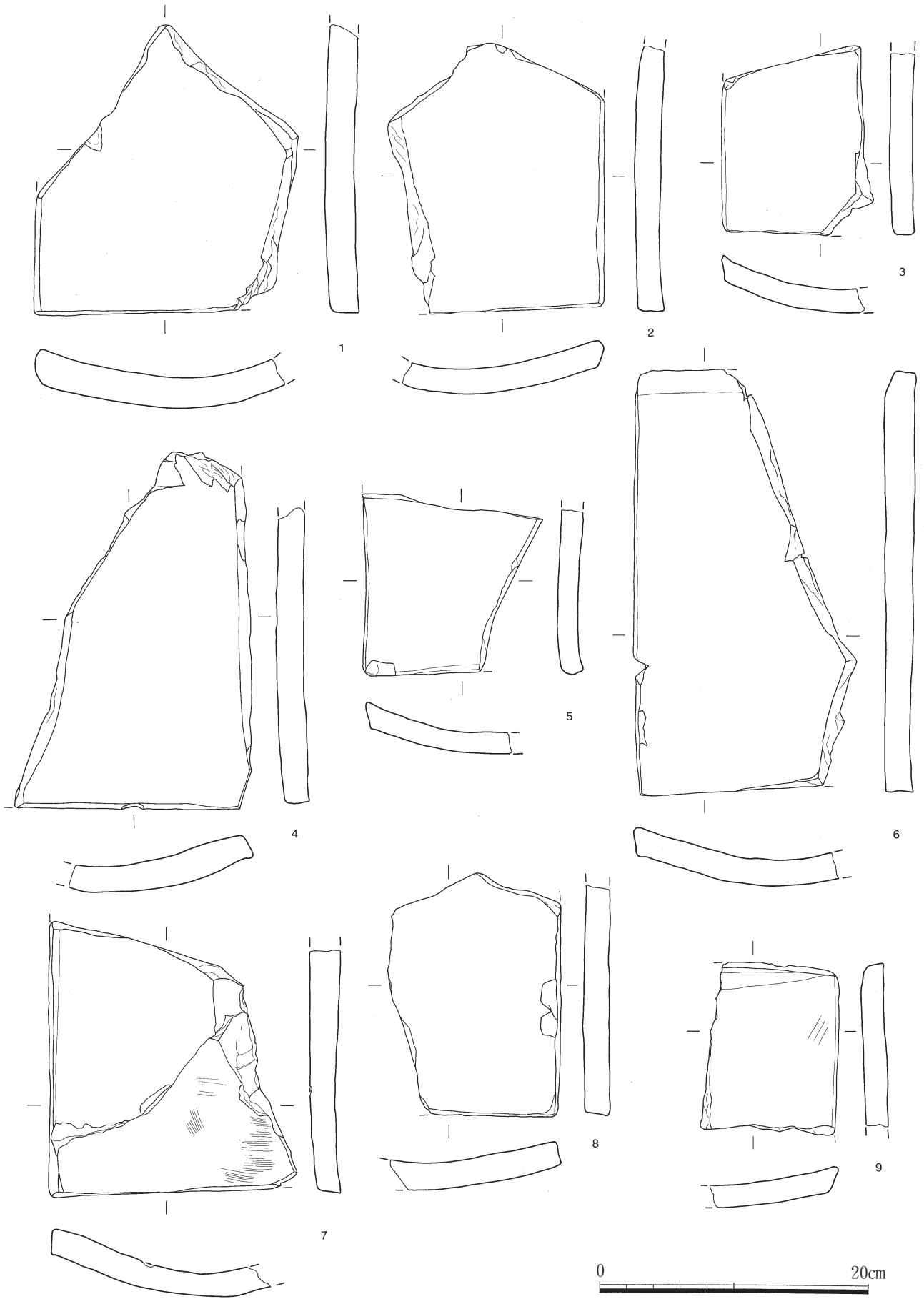
第33図 A地区8・15・17トレンチ出土瓦 (1/4)



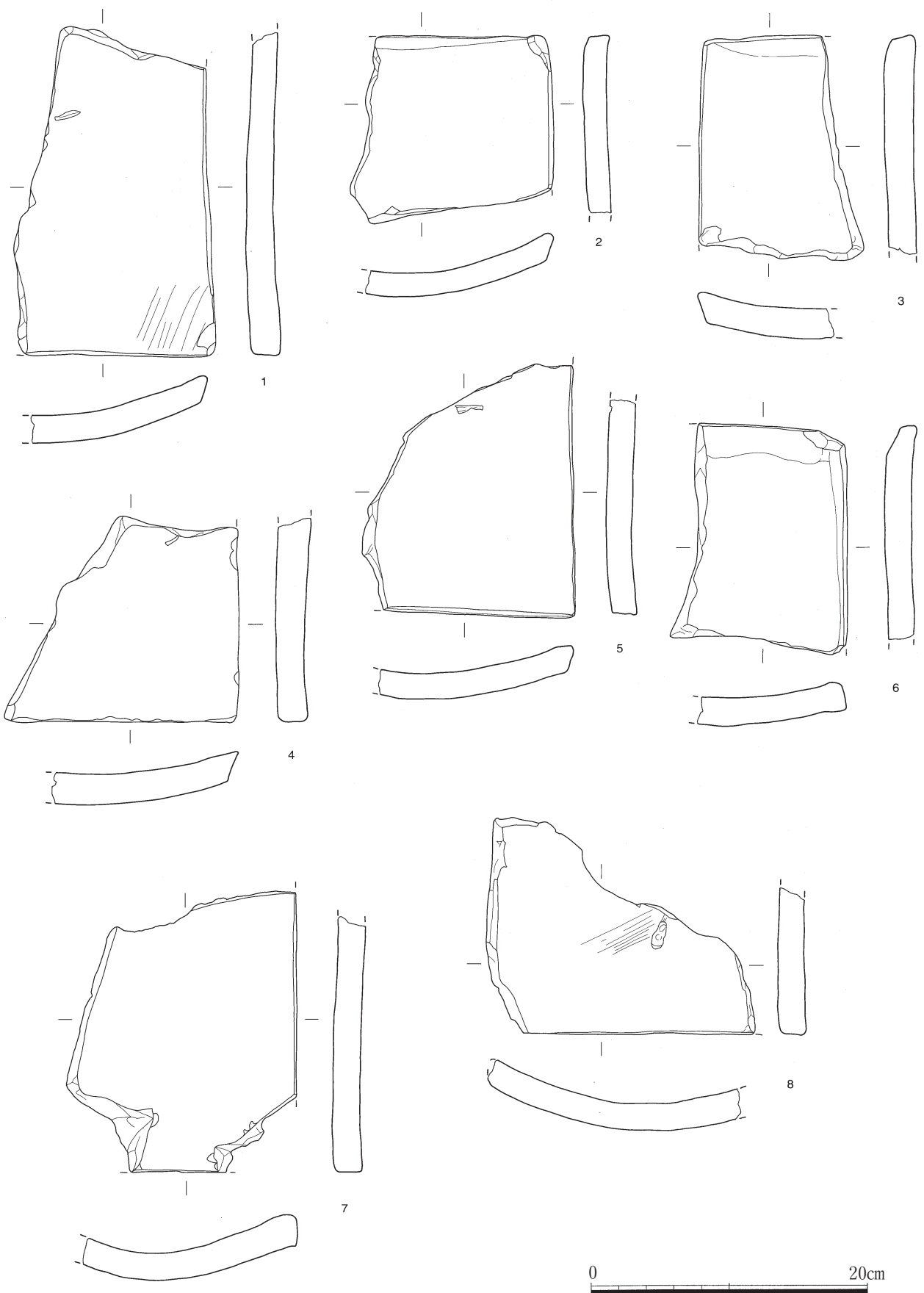
第34図 A地区17トレンチ出土瓦1 (1/4)



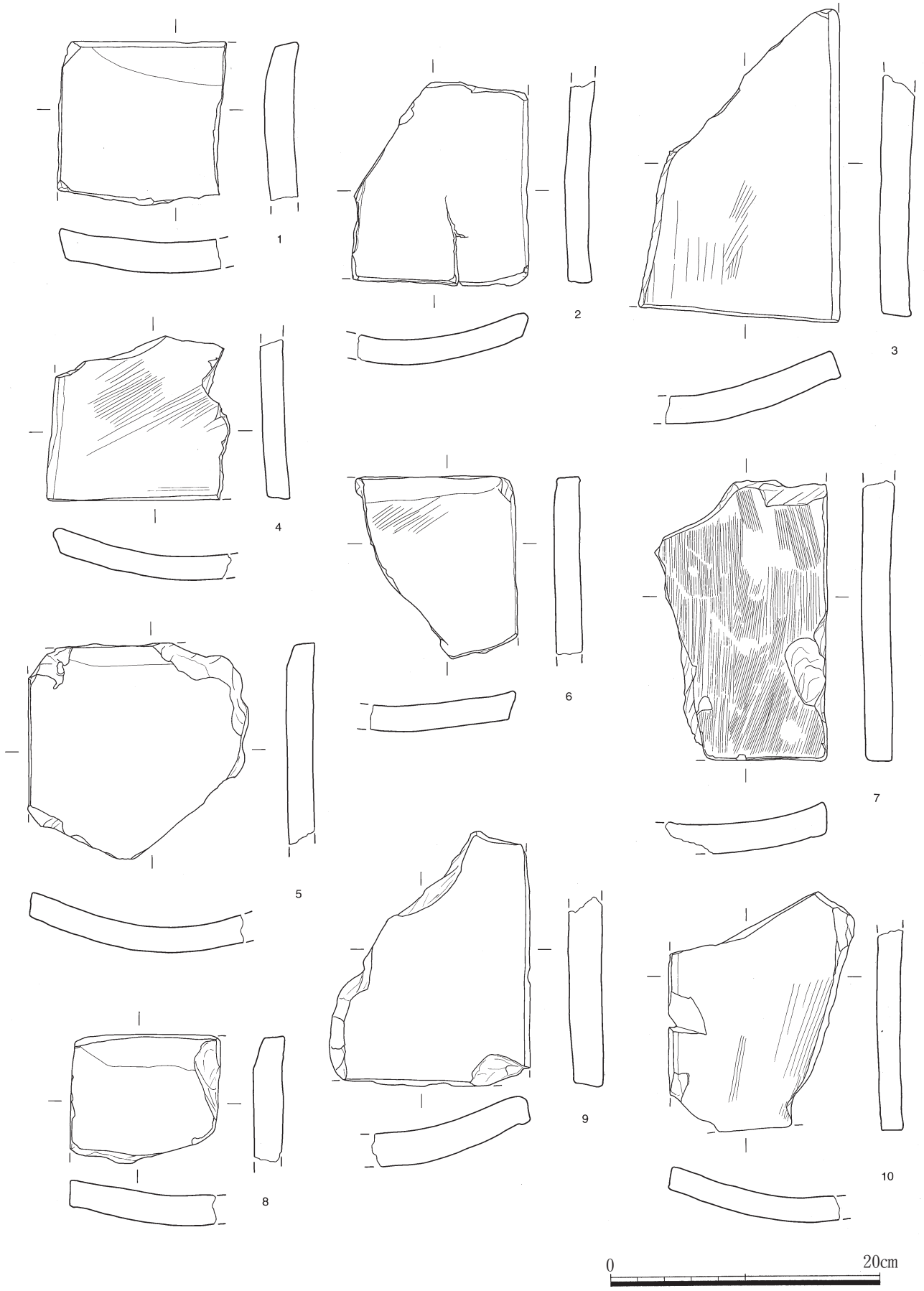
第35図 A地区17トレンチ出土瓦2 (1 / 4)



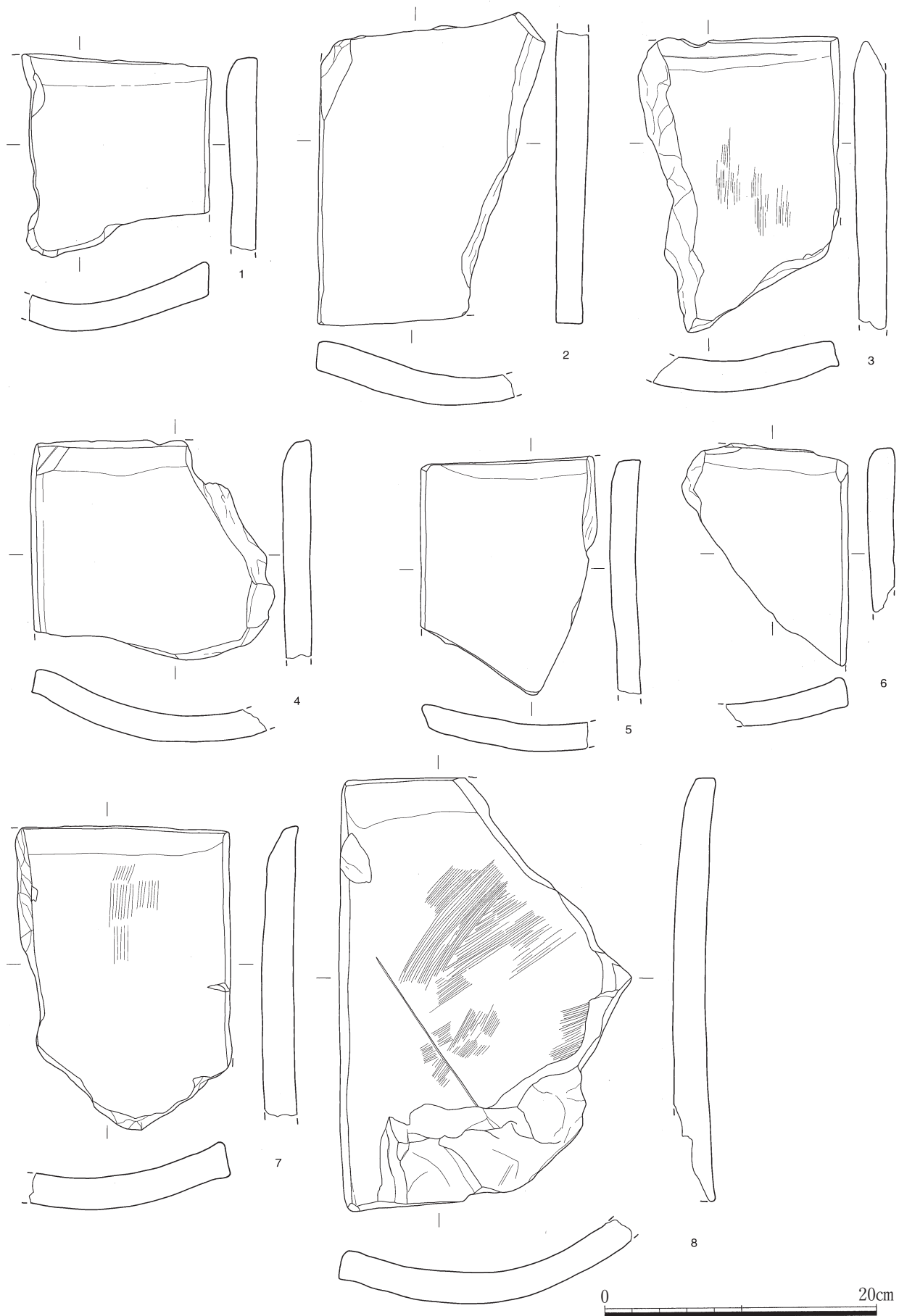
第36図 A地区17トレンチ出土瓦3 (1/4)



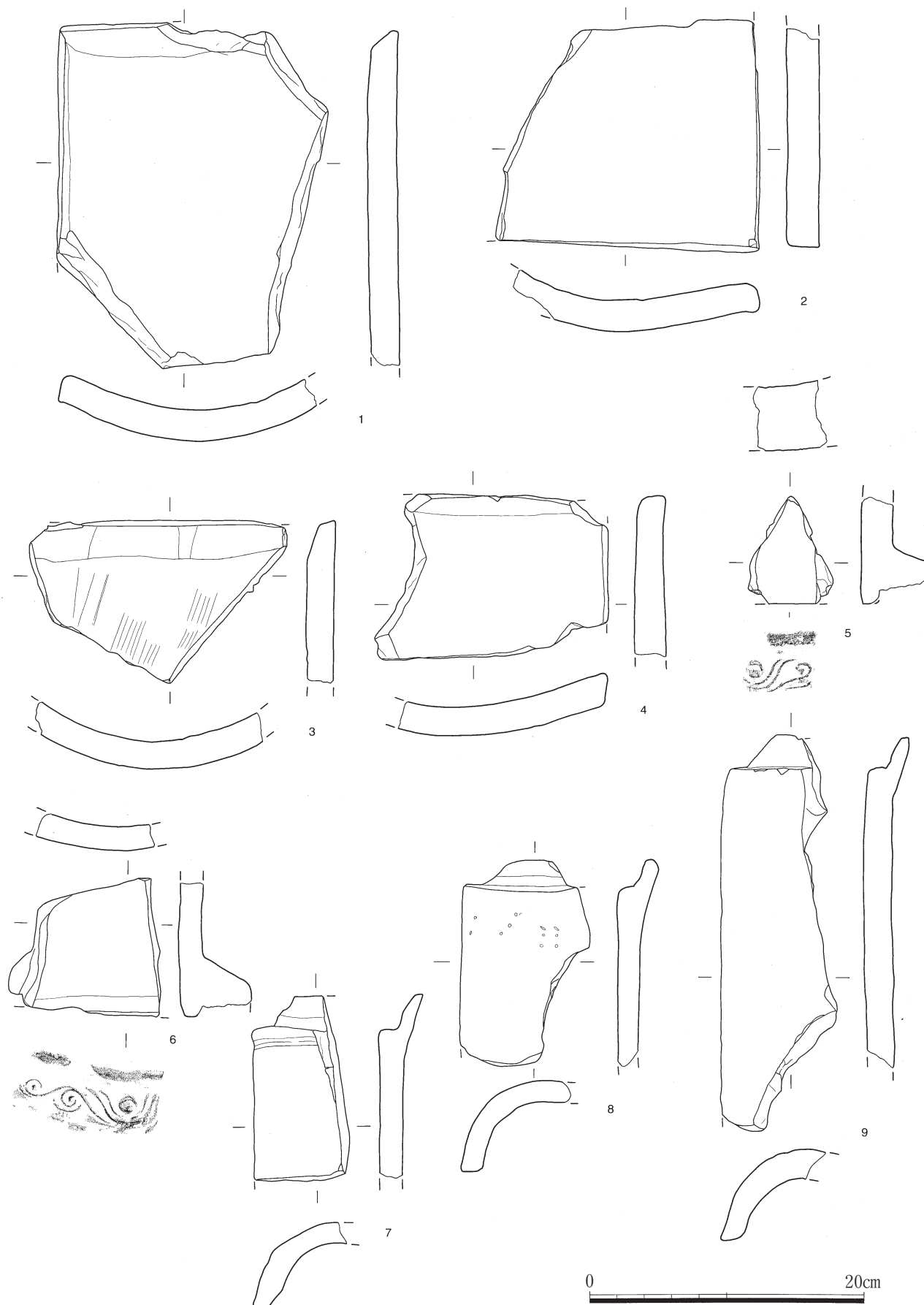
第37図 A地区17トレンチ出土瓦4 (1 / 4)



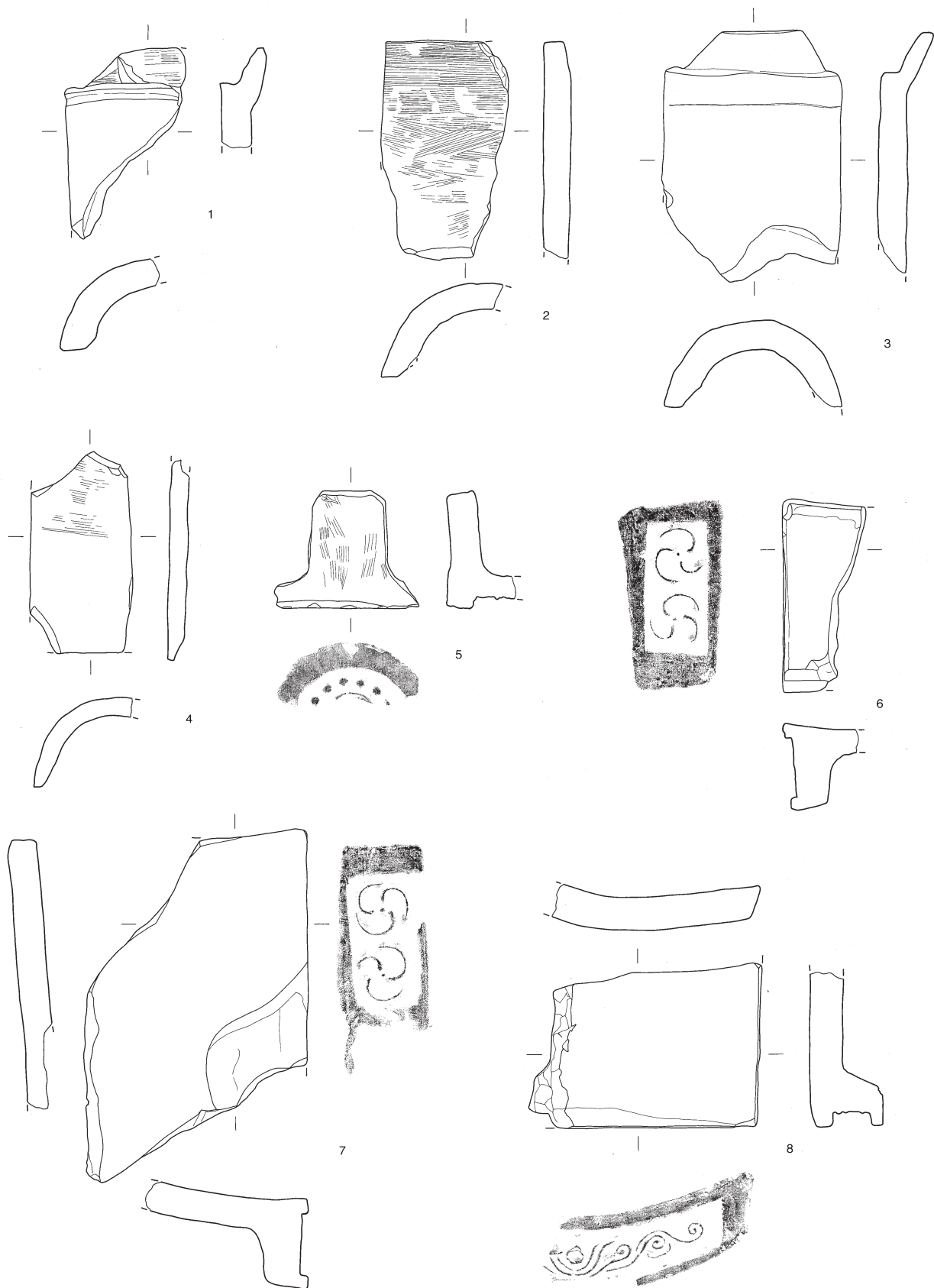
第38図 A地区17トレンチ出土瓦5 (1/4)



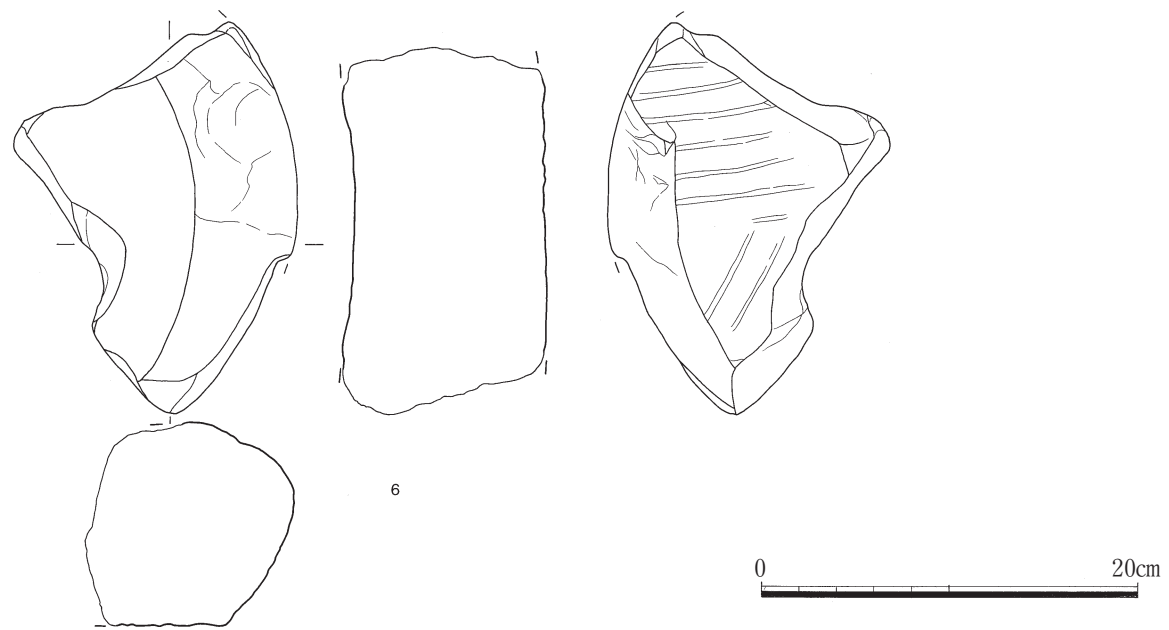
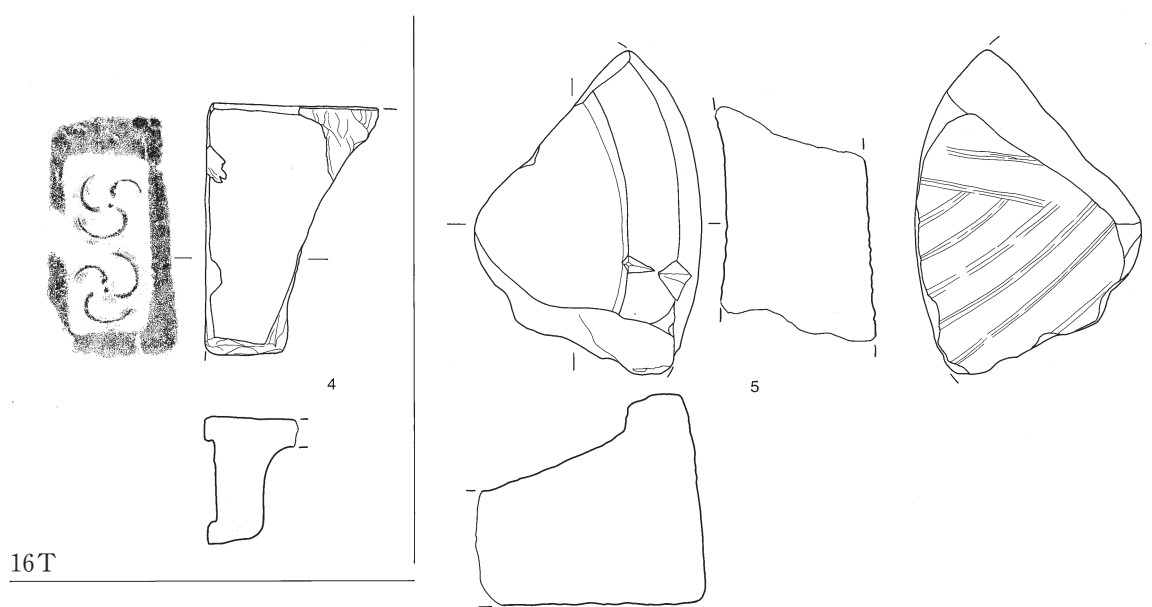
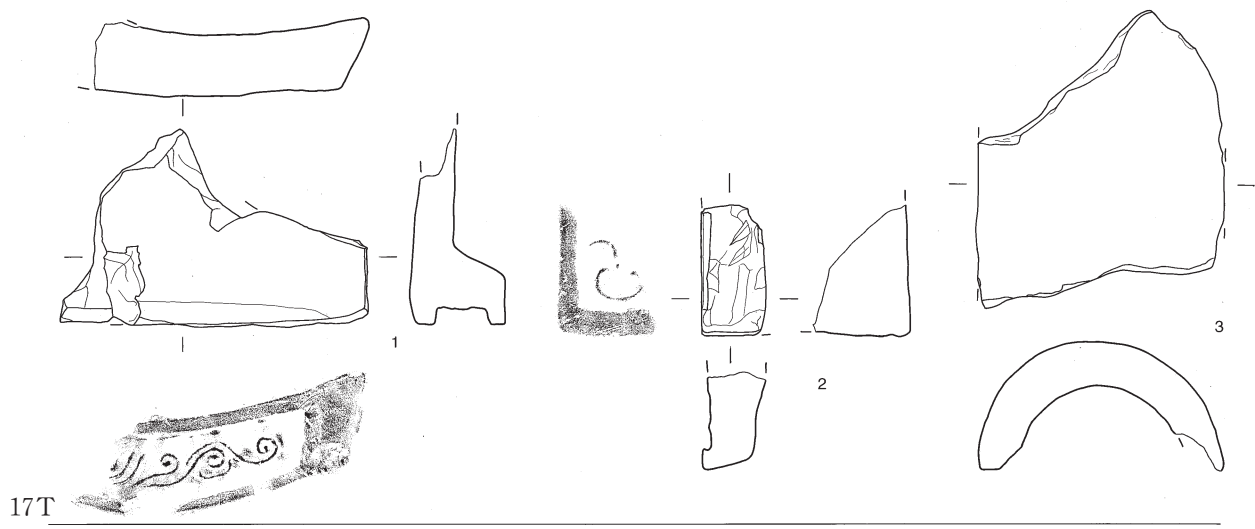
第39図 A地区17トレンチ出土瓦6 (1 / 4)



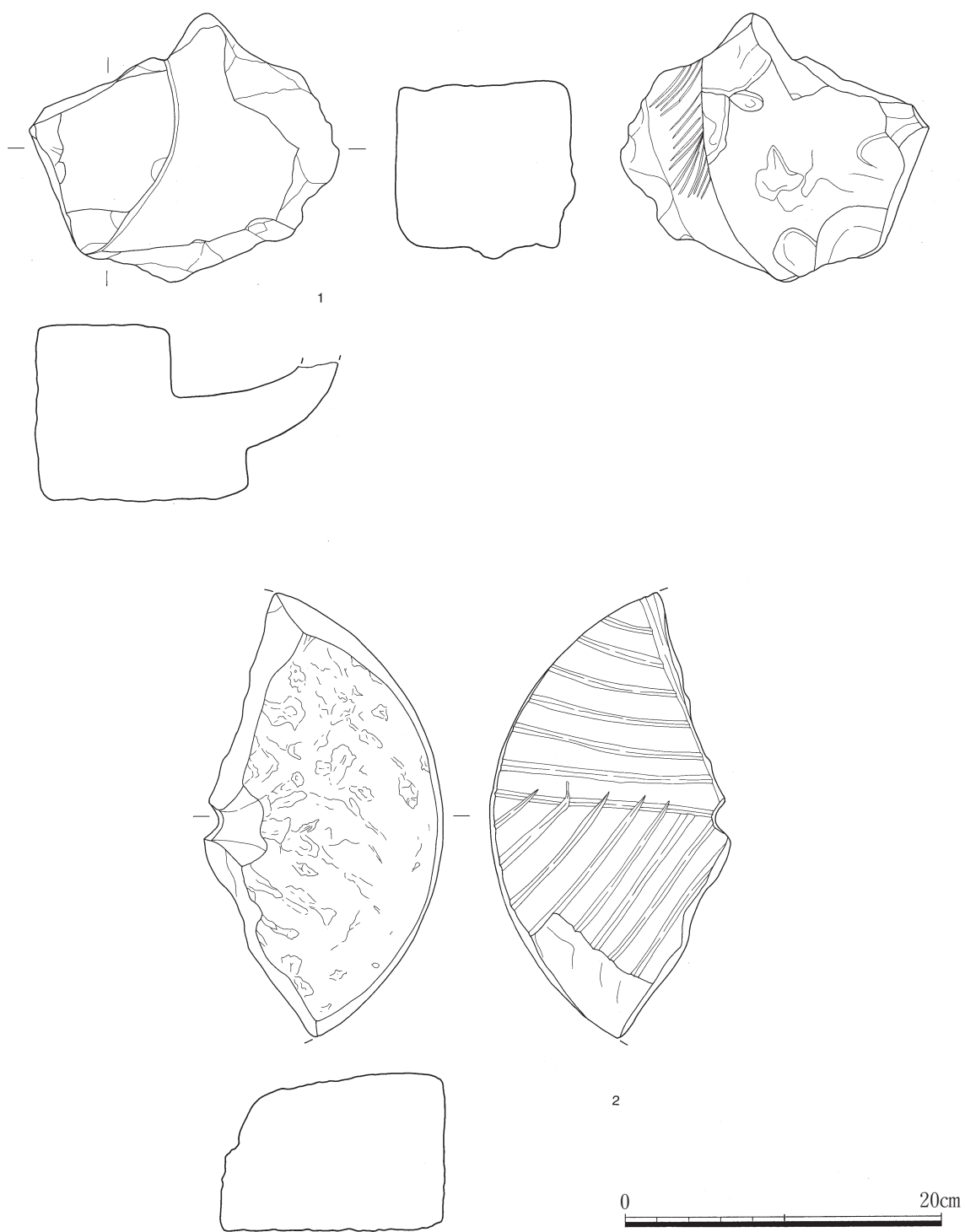
第40図 A地区17トレンチ出土瓦7 (1 / 4)



第41図 A地区17トレンチ出土瓦8 (1/4)

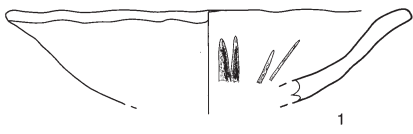


第42図 A地区16・17トレンチ出土瓦、A地区内出土石製品（1 / 4）

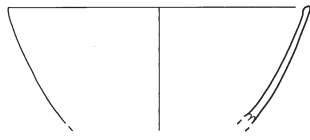


第43図 A地区内出土石製品 (1 / 4)

B地区



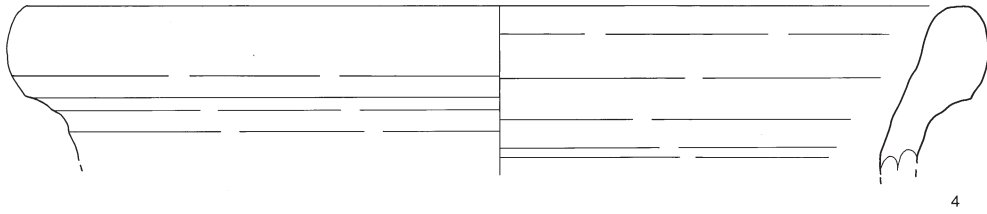
1 T



5 T



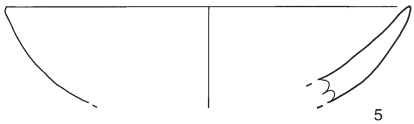
6 T



4

表採

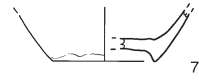
C地区



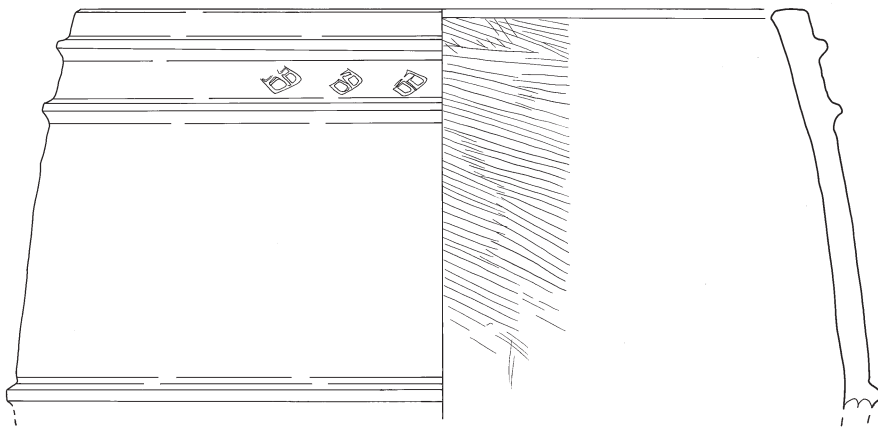
2 T



6



7



8

表採

0 10cm

第44图 B・C地区内出土遺物 (1 / 3)

表2 平成11年度トレンチ

面積：m²

地区	番号	挿図番号	面積	遺構	主な遺物	備考
A	1	第5図	19	—	磁器・土師器	上段(北)焼土面、下段(南)2m以上の盛土
A	2	第6図	7	—	—	上段(北)焼土面
A	3	第5図	6	—	—	—
A	4	第6図	18	不明土坑	陶器・瓦器・土師器	硬化面あり。焼土、炭化物
A	5	第7図	144	石積列・柱穴・側溝?	陶磁器・瓦器・土師器	焼けた土壁、焼土、炭化物、遺物多数出土
A	6	第6図	13	—	磁器・土師器	上部削平、約0.15m下岩盤
A	7	第6図	17	—	土師器	館造成(現地表下約0.3m)
A	8	第9図	9	石列(池護岸か)	磁器・瓦	現地表下約2.5mで下底面、瓦多数出土
A	9	第6図	33	—	—	谷出口で大小レキ埋没(下底面まで完掘できず)
A	10	第5図	11	—	土師器	現地表下約0.8mで遺構面、焼土、炭化物
A	11	第6図	9	—	磁器	館造成(現地表下約0.4cm)
A	12	第6図	4	—	—	—
A	13	第6図	5	—	磁器	—
A	14	第10図	12	側溝?	—	焼土、中国銭
A	15	第5図	8	—	土師器・瓦	レキ、瓦片等転落
A	16	第11図	6	—	土師器・瓦	土師皿片多数出土
A	17	第11図	10	—	陶器・土師器・瓦	2m以上埋没、瓦片東北側より流入
B	1・2	第12図	261	土壁列・柱穴・土坑	磁器	焼けた土壁列、東側に石段の出入り口
B	3	第5図	51	—	—	—
B	4	第5図	3	—	—	—
B	5	第12図	22	—	—	焼土、炭化物
B	6	第12図	23	—	磁器	焼土、炭化物
B	7	第13図	5	—	磁器	平場土手の石積み
C	1	第14図	6	—	—	—
C	2	第14図	13	不明土坑	土師器	—
C	3	第14図	13	不明土坑	—	—
C	4	第14図	7	不明土坑	—	—
C	5	第14図	3	—	—	—
C	6	第5図	3	—	—	—
C	7	第14図	3	—	—	—
C	8	第14図	3	出入り口の石段	—	—
C	9	第14図	14	不明土坑	—	—

表3 平成11年度出土遺物

番号 挿図	遺物	出土位置	種別	器種	法量			色調(文様)		技法・形態の特徴	備考	登録番号
					口径	底径	器高	外面	内面			
15	1	A 1 T	青花	皿	—	(4.8)	<1.2>	—	—	碁笥底	漳州、16C後半	051028
15	2	A 1 T	青花	皿	(8.45)	3.0	2.1	列点文	圏線	碁笥底、圏線 見込は無釉	漳州、16C後半	051027
15	3	A 1 T	青花	皿	(9.0)	—	<1.3>	列点文	圏線	—	漳州、16C後半	050021
15	4	A 1 T	青花	皿	(12.2)	—	<2.9>	唐草文	—	—	漳州、16C後半	050006
15	5	A 1 T	青花	皿	—	(3.2)	<1.3>	蕉葉文	花文	碁笥底、 見込に花文	漳州、16C後半	050019
15	6	A 1 T	青花	碗	(9.4)	—	<1.6>	列点文	圏線	—	漳州、16C後半	050005
15	7	A 1 T	青花	碗	—	—	<3.3>	草花文	圏線	—	景德鎮、16C後半	050007
15	8	A 1 T	青花	碗	—	—	<4.0>	瑞獸文	圏線	—	景德鎮、16C後半	050004
15	9	A 1 T	青磁	皿	(5.8)	3.2	1.6	明オリープ灰色	—	畳付に砂付着	漳州、16C後半	050001
15	10	A 1 T	白磁	皿	—	(4.8)	<1.1>	灰白色	—	畳付に砂付着	漳州、16C後半	050002
15	11	A 1 T	白磁	皿	(10.8)	—	<1.7>	灰白色	—	端反り	漳州、16C後半	050003
15	12	A 1 T	土師器	皿	—	(6.0)	<1.6>	にぶい橙色	—	—	—	050017
15	13	A 1 T	土師器	皿	—	(5.6)	<1.4>	浅黄橙色	—	底部糸切り	—	050008
15	14	A 1 T	土師器	皿	—	(6.2)	<1.3>	にぶい橙色	—	底部糸切り	—	050018
15	15	A 1 T	土師器	皿	—	(7.4)	<1.5>	にぶい橙色	—	底部糸切り	—	050014
15	16	A 1 T	土師器	皿	—	(5.4)	<1.1>	浅黄橙色	—	底部糸切り	—	050009
15	17	A 1 T	土師器	皿	—	5.6	<1.5>	にぶい橙色	—	底部糸切り	—	050012
15	18	A 1 T	土師器	皿	—	5.6	<0.8>	にぶい橙色	—	底部糸切り	—	050013
15	19	A 1 T	土師器	皿	—	4.4	<0.9>	浅黄橙色	—	底部糸切り	—	050015
15	20	A 1 T	土師器	皿	(11.0)	—	<2.3>	浅黄橙色	—	底部糸切り	—	050016
15	21	A 1 T	土師器	皿	(10.4)	(5.4)	<3.2>	にぶい橙色	—	底部糸切り	—	050010
15	22	A 1 T	土師器	皿	—	(5.4)	<1.3>	にぶい橙色	—	底部糸切り	—	050011
15	23	A 3 T	土師器	皿	—	(4.0)	<1.1>	にぶい橙色	—	底部糸切り	—	050023
15	24	A 3 T	土師器	皿	—	(6.0)	<1.3>	にぶい橙色	—	底部糸切り	—	050024
15	25	A 3 T	土師器	皿	—	(5.4)	<1.9>	にぶい橙色	—	底部糸切り	—	050025
15	26	A 3 T	土師器	皿	—	(6.0)	<2.0>	にぶい橙色	—	底部糸切り	—	050026
15	27	A 4 T	白磁	碗	—	5.0	<1.5>	淡黄色	—	—	—	050030
15	28	A 4 T	陶器	瓶?	—	(8.8)	<2.1>	暗オリープ色	—	—	朝鮮? 15~16C	050029
15	29	A 4 T	瓦質土器	鉢	—	(9.6)	<3.4>	灰白色	—	—	—	050033
15	30	A 4 T	陶器	挿鉢	(30.0)	—	<4.0>	赤灰色	灰色	—	備前	050035
15	31	A 4 T	土師器	皿	(6.6)	(4.2)	<1.7>	にぶい橙色	—	底部糸切り	—	050028
15	32	A 4 T	土師器	皿	—	(4.2)	<1.4>	にぶい橙色	—	底部糸切り	—	050031
15	33	A 4 T	土師器	皿	—	(5.6)	<0.9>	橙色	—	底部糸切り	—	050032
15	34	A 4 T	土師器	皿	—	(5.4)	<2.0>	橙色	—	底部糸切り	—	050027
16	1	A 5 T	青花	皿	(11.4)	—	<2.0>	花文	圏線	端反り	景德鎮、16C後半	050043
16	2	A 5 T	青花	皿	(14.2)	(7.2)	2.7	圏線	四方禪	端反り	景德鎮、16C後半	051060
16	3	A 5 T	青花	皿	10.5	(5.8)	2.6	草花文	花文	見込蛇ノ目釉剥ぎ	漳州、16C後半	051038
16	4	A 5 T	青花	皿	—	(7.9)	<1.2>	—	猿文か	高台に銘	景德鎮、 16C第4四半期	050044
16	5	A 5 T	青花	皿	(15.0)	—	<2.6>	唐草文	圏線	端反り	景德鎮、 16C前~中	050297
16	6	A 5 T	青花	皿	—	(7.0)	<1.2>	唐草文	—	—	景德鎮、16C後半	051064
16	7	A 5 T	青花	皿	(7.8)	(3.0)	2.2	—	—	—	景德鎮、16C	051070
16	8	A 5 T	青花	皿	(15.0)	—	<2.6>	唐草文	圏線	端反り	景德鎮、 16C前~中	050296
16	9	A 5 T	青花	碗	(12.0)	—	<1.7>	—	圏線	—	景德鎮、16C後半	050047

番号		出土位置	種別	器種	法量			色調(文様)		技法・形態の特徴	備考	登録番号
挿図	遺物				口径	底径	器高	外面	内面			
16	10	A 5 T	青花	皿	(10.6)	—	<2.0>	—	圏線	見込蛇ノ目釉剥ぎ	漳州、16C後半	050069
16	11	A 5 T	青花	碗	(12.2)	4.6	5.95	唐草文	見込に花文	—	景德鎮、16C後半	051032
16	12	A 5 T	青花	碗	—	(4.9)	<4.9>	—	見込にネジ花	—	景德鎮、16C前～中	051029
16	13	A 5 T	青花	碗	(12.2)	—	<4.3>	草花文	圏線	—	景德鎮、16C後半	051030
16	14	A 5 T	青花	碗	(12.2)	—	<4.6>	瑞果文	圏線	—	景德鎮、16C後半	051031
16	15	A 5 T	青花	碗	—	(5.2)	<2.4>	—	見込に花文	高台に銘有	景德鎮、16C後半	051033
16	16	A 5 T	青花	碗	—	(5.2)	<2.05>	—	見込に花文	高台に銘有	景德鎮、16C後半	051034
16	17	A 5 T	青花	碗	—	(6.3)	<2.8>	唐草文	見込に花文	見込蛇ノ目釉剥ぎ	漳州、16C後半	051035
17	1	A 5 T	青花	碗?	—	(6.2)	<1.65>	—	見込に花文	見込蛇ノ目釉剥ぎ	漳州、16C後半	051036
17	2	A 5 T	青花	碗	(11.2)	4.4	5.2	圏線	圏線	—	景德鎮、16C後半	051042
17	3	A 5 T	青花	碗	(10.6)	—	<4.3>	花文	圏線	—	景德鎮、16C後半	051045
17	4	A 5 T	青花	碗?	(11.4)	—	<2.4>	花文	—	—	景德鎮、16C後半	051054
17	5	A 5 T	青花	碗	(11.6)	—	<3.7>	唐草文	圏線	—	景德鎮、16C後半	051048
17	6	A 5 T	青花	碗	(10.6)	—	<4.2>	灵芝雲	圏線	—	景德鎮、16C後半	051049
17	7	A 5 T	青花	碗	(12.0)	—	<2.7>	唐草文	圏線	—	景德鎮、16C後半	051050
17	8	A 5 T	青花	碗	(14.6)	—	<3.1>	—	圏線	—	景德鎮、16C後半	051059
17	9	A 5 T	青花	碗	(13.0)	—	<2.7>	—	圏線	—	漳州、16C後半	051053
17	10	A 5 T	青花	碗	(13.4)	—	<3.1>	—	圏線	—	漳州、16C後半	051058
17	11	A 5 T	青花	碗	(12.0)	—	<1.7>	—	圏線	—	景德鎮、16C後半	051062
17	12	A 5 T	青花	碗	(11.4)	—	<1.8>	—	圏線	—	景德鎮、16C後半	051057
17	13	A 5 T	青花	碗	(14.0)	—	<3.5>	—	圏線	—	景德鎮、16C後半	050295
17	14	A 5 T	青花	碗	(11.0)	—	<2.8>	花文	圏線	—	景德鎮、16C後半	051063
17	15	A 5 T	青花	碗	(12.2)	—	<2.0>	唐草文	圏線	—	景德鎮、16C後半	050068
17	16	A 5 T	青花	碗	(12.6)	—	<1.7>	—	圏線	—	景德鎮、16C後半	050077
17	17	A 5 T	青花	碗	(11.0)	—	<3.7>	圏線	圏線	—	景德鎮、16C後半	050066
17	18	A 5 T	青花	皿	—	(6.0)	<1.8>	—	—	—	景德鎮、16C後半	050067
17	19	A 5 T	青花	皿	(9.0)	—	<1.8>	—	圏線	—	漳州、16C後半	050061
17	20	A 5 T	青花	皿	(8.2)	—	<2.6>	—	圏線	—	景德鎮、16C前～中	050056
17	21	A 5 T	青花	碗	—	(4.6)	<2.4>	圏線	圏線	見込蛇ノ目釉剥ぎ	漳州、16C後半	050065
17	22	A 5 T	青花	瓶?	—	—	<4.4>	—	—	—	景德鎮、16C前～中	051037
17	23	A 5 T	青花	瓶?	—	(6.0)	<4.9>	—	—	—	景德鎮、16C前～中	050299
17	24	A 5 T	青花	皿	—	—	—	—	—	漆つぎ	漳州、16C第4 四半紀	050055
17	25	A 5 T	青花	皿	—	—	—	—	鳳凰	高台に銘	景德鎮、16C後半	050046
18	1	A 5 T	白磁	碗	(8.0)	(3.2)	3.2	乳白色		—	—	050071
18	2	A 5 T	白磁	小杯	(8.0)	—	<3.3>	乳白色		端反り	肥前、17C後半～18C初	050298
18	3	A 5 T	白磁	皿	(9.6)	—	<1.7>	灰白色		端反り	—	050074
18	4	A 5 T	白磁	小杯	(8.0)	—	<2.0>	灰白色		端反り	—	050075
18	5	A 5 T	白磁	碗	(11.6)	(4.4)	5.2	灰白色		—	—	050051
18	6	A 5 T	白磁	皿	—	(8.0)	<3.5>	灰白色		—	景德鎮、16C後半	050072
18	7	A 5 T	白磁	碗	(14.6)	(9.6)	5.6	灰白色		—	肥前、18C後半～幕末	050314
18	8	A 5 T	白磁	碗	(12.0)	—	<2.5>	灰白色		—	—	050073
18	9	A 5 T	白磁	小杯	(6.8)	—	<3.3>	灰白色		—	景德鎮、16C後半	050076
18	10	A 5 T	陶器	壺	(11.8)	—	<4.0>	赤褐色	赤褐色	—	備前、15～16C	050041
18	11	A 5 T	陶器	壺	—	—	<10.6>	暗オリーブ褐色	褐色	耳付、茶壺?	東南アジア15～16C	050290

番号		出土位置	種別	器種	法量			色調(文様)		技法・形態の特徴	備考	登録番号
挿図	遺物				口径	底径	器高	外面	内面			
18	12	A 5 T	陶器	壺	—	—	<25.5>	暗オリーブ褐色	暗赤褐色	耳付、茶壺?	東南アジア 15~16C	050289
19	1	A 5 T	陶器	瓶	—	—	<11.9>	にぶい黄褐色	灰白色	—	朝鮮、16C	050291
19	2	A 5 T	陶器	瓶	—	(16.6)	<3.6>	にぶい黄褐色	灰白色	—	朝鮮、16C	050292
19	3	A 5 T	陶器	甕	—	(26.0)	<5.5>	赤褐色	赤褐色	—	備前	050294
19	4	A 5 T	瓦質土器	火鉢	(21.4)	—	<7.5>	にぶい褐色	褐色	—	—	050078
19	5	A 5 T	瓦質土器	火鉢	(42.2)	—	<10.2>	褐灰色	暗褐灰色	—	—	050079
19	6	A 5 T	瓦質土器	火鉢	(35.0)	—	<5.4>	褐灰色	褐灰色	—	—	050080
19	7	A 5 T	瓦質土器	火鉢	—	(34.0)	<5.6>	褐灰色	灰白色	—	—	050081
20	1	A 5 T	瓦質土器	火鉢	(26.8)	—	<7.4>	浅黄橙	浅黄橙	—	—	050082
20	2	A 5 T	瓦質土器	鉢	(18.6)	—	<3.7>	暗褐色		—	—	050090
20	3	A 5 T	瓦質土器	鉢?	(40.0)	—	<2.1>	暗褐色	橙色	—	—	050089
20	4	A 5 T	瓦質土器	搦鉢	(18.0)	—	<6.2>	黒褐色		—	—	050125
20	5	A 5 T	土師質土器	搦鉢	—	(15.0)	<2.4>	にぶい橙色	褐灰色	—	—	050168
20	6	A 5 T	瓦質土器	坏	(11.0)	(7.4)	3.2	灰白色		—	—	050169
20	7	A 5 T	瓦質土器	小壺	(6.0)	—	<5.3>	灰色		—	—	050170
20	8	A 5 T	土師質土器	鉢	(21.0)	—	<3.5>	にぶい橙色		—	—	050193
20	9	A 5 T	瓦質土器	鉢	(11.4)	—	<4.0>	灰色		—	—	050171
20	10	A 5 T	瓦質土器	火鉢	(39.0)	—	<5.5>	灰白色	灰色	—	—	050195
20	11	A 5 T	瓦質土器	蓋	7.2	7.0	1.4	褐灰色		—	—	050213
20	12	A 5 T	土師器	皿	6.6	3.8	1.1	浅黄橙色	底部糸切り、 口縁部に煤付着	—	—	050186
20	13	A 5 T	土師器	皿	6.2	4.0	1.5	にぶい橙色	底部糸切り	—	—	050187
20	14	A 5 T	土師器	皿	6.2	4.2	1.5	にぶい橙色	底部糸切り	—	—	050188
20	15	A 5 T	土師器	皿	6.5	4.0	1.5	にぶい橙色	底部糸切り、 口縁部に煤付着	—	—	050189
20	16	A 5 T	土師器	皿	7.0	4.4	1.7	浅黄橙色	底部糸切り	—	—	050191
20	17	A 5 T	土師器	皿	(5.5)	4.4	1.5	浅黄橙色	底部糸切り	—	—	050192
20	18	A 5 T	土師器	皿	6.1	3.8	1.5	にぶい橙色	底部糸切り	—	—	050190
21	1	A 5 T	土師器	皿	(6.8)	(3.4)	1.8	淡橙色	底部糸切り	—	—	050110
21	2	A 5 T	土師器	皿	—	3.2	<1.0>	にぶい橙色	底部糸切り	—	—	050112
21	3	A 5 T	土師器	皿	(5.4)	3.7	2.1	にぶい橙色	底部糸切り	—	—	050134
21	4	A 5 T	土師器	皿	—	4.0	<0.5>	にぶい橙色	底部糸切り	—	—	050129
21	5	A 5 T	土師器	皿	(6.7)	4.0	1.9	にぶい橙色	底部糸切り	—	—	050135
21	6	A 5 T	土師器	皿	(7.1)	4.4	1.9	にぶい橙色	底部糸切り	—	—	050133
21	7	A 5 T	土師器	皿	(6.8)	4.4	1.5	にぶい橙色	底部糸切り	—	—	050131
21	8	A 5 T	土師器	皿	(6.8)	3.6	<1.2>	浅黄橙色	底部糸切り	—	—	050167
21	9	A 5 T	土師器	皿	(6.2)	(3.4)	2.0	にぶい橙色	底部糸切り	—	—	050208
21	10	A 5 T	土師器	皿	—	3.8	<1.6>	にぶい橙色	底部糸切り	—	—	050202
21	11	A 5 T	土師器	皿	(7.2)	(5.0)	1.4	にぶい橙色	底部糸切り	—	—	050211
21	12	A 5 T	土師器	皿	(7.0)	(4.0)	2.0	にぶい橙色	底部糸切り	—	—	050207
21	13	A 5 T	土師器	皿	7.1	4.0	1.7	にぶい橙色	底部糸切り	—	—	050401
21	14	A 5 T	土師器	皿	5.8	3.5	1.3	浅黄橙色	底部糸切り、 口縁部に煤付着	—	—	050402
21	15	A 5 T	土師器	皿	6.2	4.0	1.25	にぶい橙色	底部糸切り	—	—	050400
21	16	A 5 T	土師器	皿	(5.6)	(3.4)	1.4	にぶい橙色	底部糸切り	—	—	050251
21	17	A 5 T	土師器	皿	(8.0)	—	<1.8>	灰褐色	底部糸切り	—	—	050248
21	18	A 5 T	土師器	皿	(6.0)	(3.4)	1.5	にぶい橙色	底部糸切り	—	—	050257

番号		出土位置	種別	器種	法量			色調(文様)		技法・形態の特徴	備考	登録番号
挿図	遺物				口径	底径	器高	外面	内面			
21	19	A 5 T	土師器	皿	—	4.2	<1.2>	にぶい橙色	底部糸切り	—	050277	
21	20	A 5 T	土師器	皿	—	3.2	<0.7>	にぶい黄橙色	底部糸切り	—	050278	
21	21	A 5 T	土師器	皿	—	3.6	<1.7>	にぶい橙色	底部糸切り	—	050253	
21	22	A 5 T	土師器	皿	11.0	5.6	2.7	にぶい橙色	底部糸切り	—	050092	
21	23	A 5 T	土師器	皿	10.3	5.2	2.6	にぶい橙色	底部糸切り	—	050093	
21	24	A 5 T	土師器	皿	11.3	5.6	2.8	にぶい橙色	底部糸切り	—	050094	
21	25	A 5 T	土師器	皿	(11.2)	5.6	2.8	にぶい橙色	底部糸切り	—	050095	
21	26	A 5 T	土師器	皿	(11.4)	(5.6)	2.8	にぶい橙色	底部糸切り、灯明皿	—	050097	
21	27	A 5 T	土師器	皿	(10.6)	5.0	2.4	にぶい橙色	底部糸切り	—	050096	
21	28	A 5 T	土師器	皿	(11.6)	(6.6)	2.5	にぶい橙色	底部糸切り、灯明皿	—	050104	
21	29	A 5 T	土師器	皿	11.2	5.6	3.0	にぶい橙色	底部糸切り	—	050114	
21	30	A 5 T	土師器	皿	(12.6)	6.2	2.7	にぶい橙色	底部糸切り	—	050098	
21	31	A 5 T	土師器	皿	(10.4)	(6.0)	2.7	にぶい橙色	底部糸切り	—	050108	
21	32	A 5 T	土師器	皿	10.5	5.4	2.6	にぶい橙色	底部糸切り	—	050115	
21	33	A 5 T	土師器	皿	(10.8)	5.6	3.0	淡橙色	底部糸切り	—	050117	
21	34	A 5 T	土師器	皿	(10.6)	5.0	2.6	にぶい橙色	底部糸切り	—	050118	
21	35	A 5 T	土師器	皿	(12.2)	6.0	3.0	にぶい橙色	底部糸切り、灯明皿	—	050119	
21	36	A 5 T	土師器	皿	10.3	4.0	2.9	褐灰色	底部糸切り、灯明皿	—	050116	
22	1	A 5 T	土師器	皿	(10.4)	5.4	2.5	にぶい橙色	底部糸切り	—	050120	
22	2	A 5 T	土師器	皿	(9.7)	5.4	2.2	にぶい橙色	底部糸切り	—	050123	
22	3	A 5 T	土師器	皿	(10.2)	(5.4)	2.7	浅黄橙色	底部糸切り	—	050126	
22	4	A 5 T	土師器	皿	(11.0)	(6.0)	2.7	浅黄橙色	底部糸切り	—	050132	
22	5	A 5 T	土師器	皿	(10.4)	5.4	2.8	にぶい橙色	底部糸切り	—	050136	
22	6	A 5 T	土師器	皿	(11.6)	(6.6)	3.2	浅黄橙色	底部糸切り	—	050137	
22	7	A 5 T	土師器	皿	(11.2)	(6.2)	2.6	浅黄橙色	底部糸切り	—	050155	
22	8	A 5 T	土師器	皿	(10.4)	(5.0)	2.2	にぶい橙色	底部糸切り	—	050154	
22	9	A 5 T	土師器	皿	(10.4)	(5.6)	2.8	にぶい黄橙色	底部糸切り、 底部に煤付着	—	050157	
22	10	A 5 T	土師器	皿	(11.0)	4.4	<3.2>	橙色	底部糸切り	—	050161	
22	11	A 5 T	土師器	皿	10.4	5.2	2.6	にぶい橙色	底部糸切り	—	050176	
22	12	A 5 T	土師器	皿	10.8	5.2	2.7	にぶい橙色	底部糸切り	—	050175	
22	13	A 5 T	土師器	皿	10.9	5.4	2.9	にぶい橙色	底部糸切り	—	050177	
22	14	A 5 T	土師器	皿	(12.2)	(6.8)	2.9	にぶい橙色	底部糸切り	—	050183	
22	15	A 5 T	土師器	皿	(11.6)	(5.8)	2.8	にぶい橙色	底部糸切り	—	050194	
22	16	A 5 T	土師器	皿	(11.8)	(6.4)	2.7	にぶい橙色	底部糸切り、 内面煤付着	—	050227	
22	17	A 5 T	土師器	皿	(10.8)	(5.6)	2.2	橙色	底部糸切り	—	050182	
22	18	A 5 T	土師器	皿	(10.6)	(6.0)	2.4	にぶい橙色	底部糸切り	—	050199	
22	19	A 5 T	土師器	皿	10.8	5.6	2.6	にぶい橙色	底部糸切り	—	050403	
22	20	A 5 T	土師器	皿	(11.4)	6.0	2.9	にぶい橙色	底部糸切り、灯明皿	—	050179	
22	21	A 5 T	土師器	皿	11.6	5.2	3.0	にぶい橙色	底部糸切り、灯明皿	—	050180	
22	22	A 5 T	土師器	皿	10.2	5.2	2.9	橙色	底部糸切り、灯明皿	—	050404	
22	23	A 5 T	土師器	皿	10.5	5.6	2.7	にぶい橙色	灯明皿	—	050181	
22	24	A 5 T	土師器	皿	(10.0)	—	<2.4>	にぶい橙色	底部糸切り、灯明皿	—	050282	
22	25	A 5 T	土師器	皿	(11.8)	—	<2.7>	にぶい橙色	灯明皿	—	050235	
22	26	A 5 T	土師器	皿	(9.4)	—	<2.1>	にぶい橙色	灯明皿	—	050244	

番号		出土位置	種別	器種	法量			色調(文様)		技法・形態の特徴	備考	登録番号
挿図	遺物				口径	底径	器高	外面	内面			
22	27	A 5 T	土師器	皿	(11.2)	5.6	2.8	にぶい橙色		底部糸切り	—	050122
22	28	A 5 T	土師器	皿	10.0	5.6	2.4	橙色		底部糸切り、灯明皿	—	050121
22	29	A 5 T	土師器	皿	10.8	5.2	2.6	にぶい橙色		底部糸切り、 口縁部に煤付着	—	050178
22	30	A 5 T	土師器	皿	(10.8)	(5.2)	2.5	にぶい橙色		底部糸切り、灯明皿	—	050138
23	1	A 5 T	土師器	皿	—	5.6	<1.4>	にぶい橙色		底部糸切り、底部 穿孔有、灯明皿	—	050148
23	2	A 5 T	土師質土器	湯釜	(20.6)	—	<4.6>	にぶい橙色		—	—	050086
23	3	A 5 T	土師質土器	蓋	3.1	—	1.4	浅黄橙色		かえり有、合子?	—	050293
23	4	A 5 T	土師質土器	蓋	6.7	—	2.2	にぶい橙色		つまみ有	—	050214
23	5	A 5 T	土師質土器	蓋	(8.0)	—	1.3	にぶい橙色		—	—	050212
23	6	A 5 T	土師質土器	不明	(8.0)	—	1.3	にぶい橙色		手捏	—	050215
23	7	A 5 T	土師質土器	小型容器	10.3	8.4	2.85	にぶい黄橙色		取手状に穿孔有	—	050405
23	8	A 6 T	青花	皿	—	(8.1)	<1.4>	圏線	見込獅子文?	—	景德鎮、16C第4四半期	051040
23	9	A 6 T	白磁	皿	—	(6.6)	<1.8>	灰白色		—	景德鎮、16C	050312
23	10	A 6 T	土師器	皿	(6.6)	(3.4)	<1.5>	にぶい橙色		底部糸切り	—	050304
23	11	A 6 T	土師器	皿	(8.4)	(5.6)	<1.5>	浅黄橙色		底部糸切り	—	050306
23	12	A 6 T	土師器	皿	(6.4)	(4.0)	<1.5>	にぶい橙色		底部糸切り	—	050308
23	13	A 6 T	土師器	皿	(6.8)	(4.0)	1.9	灰黄褐色		底部糸切り	—	050305
23	14	A 6 T	土師器	皿	(13.2)	(7.8)	2.5	浅黄橙色		—	—	050309
23	15	A 7 T	土師器	小杯	4.8	3.2	2.1	橙色		底部糸切り	—	050406
23	16	A 8 T	青花	皿	—	(9.1)	<1.55>	唐草文	見込花文	—	景德鎮、 16C前~中	051039
23	17	A10T	白磁	皿	(12.4)	—	<1.6>	灰白色		端反り、被熱	景德鎮?、 16C後半か	050313
23	18	A10T	土師器	皿	10.2	7.4	1.9	浅黄橙色		底部糸切り	—	050318
23	19	A11T	土師質土器	蓋?	(22.4)	(20.8)	3.0	にぶい橙色		内面に煤付着	—	050322
24	1	A13T	青花	碗	(12.6)	—	<2.2>	—	圏線	—	漳州、16C後半	050315
24	2	A13T	青花	碗	—	—	<2.7>	—	圏線	—	漳州、16C後半	050317
24	3	A13T	青花	皿	(8.0)	—	<1.3>	波涛文	圏線	—	漳州	050316
24	4	A14T	陶器	播鉢	(39.0)	(15.0)	17.8	にぶい赤褐色	灰赤色	内面に櫛目	備前15~16C	050335
24	5	A14T	土師器	皿	(9.4)	(7.0)	2.0	にぶい橙色		底部糸切り	—	050330
24	6	A14T	土師器	皿	(10.8)	(6.0)	2.3	にぶい橙色		底部糸切り	—	050325
24	7	A14T	土師器	皿	(10.2)	5.4	2.5	にぶい橙色		底部糸切り	—	050332
24	8	A17T	土師器	皿	6.7	4.0	1.65	にぶい橙色		底部糸切り	—	050337
24	9	A17T	土師器	皿	10.3	5.8	2.8	浅黄橙色		底部糸切り	—	050336
24	10	A16T	陶器	播鉢	(30.6)	(10.8)	13.3	灰赤色		内面に櫛目	備前15~16C	050339
24	11	A16T	土師器	皿	(7.2)	(4.8)	1.1	にぶい橙色		底部糸切り	—	050355
24	12	A16T	土師器	皿	(6.6)	(4.4)	1.2	灰白色		底部糸切り	—	050373
24	13	A16T	土師器	皿	(7.0)	(4.4)	1.6	灰赤色		底部糸切り	—	050357
24	14	A16T	土師器	皿	(6.8)	(4.4)	1.9	にぶい橙色		底部糸切り	—	050349
24	15	A16T	土師器	皿	(6.8)	(4.4)	1.8	明褐灰色		—	—	050358
24	16	A16T	土師器	皿	(7.0)	(4.4)	1.6	にぶい橙色		底部糸切り	—	050359
24	17	A16T	土師器	皿	(7.0)	(3.6)	1.6	灰白色		底部糸切り	—	050380
24	18	A16T	土師器	皿	(7.2)	(4.8)	1.7	にぶい黄橙色		底部糸切り	—	050374
24	19	A16T	土師器	皿	6.8	4.2	2.0	にぶい黄橙色		底部糸切り	—	050375
24	20	A16T	土師器	皿	6.4	4.4	2.1	にぶい黄橙色		底部糸切り	—	050376
24	21	A16T	土師器	皿	6.9	4.4	1.8	にぶい橙色		底部糸切り	—	050377

番号		出土位置	種別	器種	法量			色調(文様)		技法・形態の特徴	備考	登録番号
挿図	遺物				口径	底径	器高	外面	内面			
24	22	A16T	土師器	皿	(6.0)	4.0	1.9	にぶい橙色	底部糸切り	—	050381	
24	23	A16T	土師器	皿	7.3	4.2	2.05	にぶい橙色	底部糸切り	—	050385	
24	24	A16T	土師器	皿	(7.3)	(4.4)	1.6	灰白色	底部糸切り	—	050366	
24	25	A16T	土師器	皿	6.6	4.2	1.8	橙色	底部糸切り	—	050383	
24	26	A16T	土師器	皿	7.0	4.4	1.55	にぶい橙色	底部糸切り	—	050382	
24	27	A16T	土師器	皿	6.9	4.2	1.9	にぶい橙色	底部糸切り	—	050384	
25	1	A16T	土師器	皿	6.9	4.5	1.8	にぶい橙色	底部糸切り	—	050386	
25	2	A16T	土師器	皿	6.8	4.2	1.8	にぶい橙色	底部糸切り	—	050387	
25	3	A16T	土師器	皿	6.6	4.0	1.8	にぶい橙色	底部糸切り	—	050388	
25	4	A16T	土師器	皿	(6.8)	4.2	1.8	にぶい橙色	底部糸切り	—	050389	
25	5	A16T	土師器	皿	(7.0)	3.8	1.6	にぶい橙色	底部糸切り	—	050390	
25	6	A16T	土師器	皿	(8.2)	(5.4)	2.1	にぶい橙色	底部糸切り	—	050354	
25	7	A16T	土師器	皿	(8.2)	(5.4)	1.4	淡橙色	底部糸切り	—	050347	
25	8	A16T	土師器	皿	7.2	4.3	1.9	淡橙色	底部糸切り	—	050367	
25	9	A16T	土師器	皿	(10.3)	5.6	2.4	にぶい橙色	底部糸切り	—	050341	
25	10	A16T	土師器	皿	(9.4)	5.6	1.8	灰黄色	底部糸切り	—	050342	
25	11	A16T	土師器	皿	9.7	5.4	2.2	淡橙色	底部糸切り	—	050343	
25	12	A16T	土師器	皿	(9.4)	(4.8)	2.6	にぶい橙色	底部糸切り	—	050351	
25	13	A16T	土師器	皿	(9.4)	(4.6)	2.9	にぶい橙色	底部糸切り	—	050360	
25	14	A16T	土師器	皿	(10.7)	5.2	2.6	にぶい橙色	底部糸切り	—	050371	
25	15	A16T	土師器	皿	(11.4)	(5.6)	2.4	にぶい橙色	底部糸切り	—	050361	
25	16	A16T	土師器	皿	(10.2)	6.0	2.6	にぶい橙色	底部糸切り	—	050369	
25	17	A16T	土師器	皿	(10.4)	5.0	2.7	にぶい橙色	底部糸切り	—	050372	
25	18	A16T	土師器	皿	(12.0)	(6.3)	2.3	明褐灰色	底部糸切り	—	050394	

番号		出土位置	種別	器種	法量			色調		技法・形態の特徴	備考	登録番号
挿図	遺物				長さ	幅	厚さ	外面	内面			
25	19	A8T	金属製品	小柄	9	1.2	0.3	—	—	外面に金をはった痕跡が残る、	銅製	050696
25	20	A5T	土製品	土鈴	高さ 3.2+ α	<3.2>	—	にぶい橙色	—	鈕に穿孔、外面沈線	—	050697
25	21	A5T	金属製品	不明	3.2	—	0.05	—	—	花状の飾り金具	銅製	050699
25	22	A5T	金属製品	銭貨	2.2	—	0.1	—	—	16枚出土、うち1枚は洪武通宝で他は銭文不明、	明(1368~93)	050698
25	23	A5T	石製品	硯	9.25+ α	4.7	0.7	暗赤褐色	—	長方形	—	050695
25	24	A5T	金属製品	不明	<6.9>	<5.0>	0.5	—	—	—	鉄製	051019
25	25	A5T	金属製品	不明	<8.5>	<2.2>	—	—	—	刀装具の金具か	鉄製	051020
25	26	A5T	金属製品	刀?	<4.7>	<3.0>	0.9	—	—	形態不明	鉄製	051018
25	27	A8T	漆器	不明	<4.0>	—	0.4	—	—	黒漆を塗布後、文様を朱漆で施す	—	051131
26	1	A5T	瓦	平瓦	<10.4>	<13.5>	1.8	褐灰色	—	—	—	050416
26	2	A5T	瓦	平瓦	<15.1>	<14.6>	2.3	灰褐色	—	—	—	050417
26	3	A5T	瓦	平瓦	<19.0>	<15.2>	1.8	灰白色	—	—	—	050418
26	4	A5T	瓦	平瓦	<18.6>	<12.6>	2	灰白色	—	—	—	050421
26	5	A5T	瓦	平瓦	<9.5>	<18.6>	2.1	灰白色	—	—	—	050423
26	6	A5T	瓦	丸瓦	<7.9>	<9.1>	2.7	灰白色	—	—	—	050425
26	7	A5T	瓦	平瓦	<8.7>	<6.2>	1.7	灰白色	—	—	—	050424
26	8	A5T	瓦	平瓦	<8.6>	<11.0>	1.6	灰オリーブ	—	—	—	050426
26	9	A6T	瓦	平瓦	<7.6>	<8.9>	1.6	オリーブ黒色	—	—	—	050427

番号		出土位置	種別	器種	法量			色調		技法・形態の特徴	備考	登録番号
挿図	遺物				長さ	幅	厚さ	外面	内面			
27	1	A 8 T	瓦	平瓦	<16.9>	<14.1>	1.8	灰褐色	—	—	050464	
27	2	A 8 T	瓦	平瓦	<9.45>	<16.9>	1.9	灰褐色	—	—	050465	
27	3	A 8 T	瓦	平瓦	<15.4>	<12.8>	2.1	灰オリーブ	—	—	050466	
27	4	A 8 T	瓦	平瓦	<11.2>	<14.6>	2.35	淡黄橙色	—	—	050467	
27	5	A 8 T	瓦	平瓦	<16.2>	<13.35>	1.9	灰オリーブ	—	—	050468	
27	6	A 8 T	瓦	平瓦	<9.6>	<11.1>	2.2	灰褐色	—	—	050470	
27	7	A 8 T	瓦	平瓦	<10.6>	<15.8>	2	オリーブ黒色	—	—	050471	
27	8	A 8 T	瓦	平瓦	<10.9>	<11.3>	1.7	黒褐色	—	—	050472	
27	9	A 8 T	瓦	平瓦	<10.9>	<11.3>	1.7	黒褐色	—	—	050473	
27	10	A 8 T	瓦	平瓦	<9.65>	<11.6>	2.1	淡黄橙色	—	—	050474	
27	11	A 8 T	瓦	平瓦	<12.3>	<7.3>	1.9	灰白色	—	—	050475	
27	12	A 8 T	瓦	平瓦	<8.7>	<10.0>	1.9	灰白色	—	—	050476	
28	1	A 8 T	瓦	平瓦	<17.1>	<15.8>	1.6	黒褐色	—	—	050477	
28	2	A 8 T	瓦	平瓦	<19.5>	<18.6>	2.0	灰褐色	—	—	050478	
28	3	A 8 T	瓦	平瓦	<18.4>	<12.9>	1.8	灰褐色	—	—	050481	
28	4	A 8 T	瓦	平瓦	<16.4>	<12.8>	2.0	黒褐色	—	—	050479	
28	5	A 8 T	瓦	平瓦	<19.5>	<14.6>	1.75	灰褐色	—	—	050480	
28	6	A 8 T	瓦	平瓦	<21.7>	<12.6>	1.7	灰白色	—	—	050484	
28	7	A 8 T	瓦	平瓦	<20.5>	<14.7>	1.4	灰褐色	—	—	050482	
28	8	A 8 T	瓦	平瓦	<14.1>	<18.0>	1.9	灰褐色	—	—	050483	
28	9	A 8 T	瓦	平瓦	<13.6>	<7.5>	1.9	灰白色	—	—	050486	
29	1	A 8 T	瓦	平瓦	<11.9>	<11.7>	1.7	灰褐色	—	—	050485	
29	2	A 8 T	瓦	平瓦	<17.0>	<8.6>	1.7	灰褐色	—	—	050487	
29	3	A 8 T	瓦	平瓦	<6.9>	<11.6>	1.9	灰白色	—	—	050490	
29	4	A 8 T	瓦	平瓦	<6.4>	<10.0>	1.8	灰褐色	—	—	050488	
29	5	A 8 T	瓦	平瓦	<14.4>	<15.1>	1.9	灰褐色	—	—	050489	
29	6	A 8 T	瓦	平瓦	<19.8>	<8.6>	2.8	灰褐色	—	—	050491	
29	7	A 8 T	瓦	平瓦	<13.9>	<12.2>	2.0	灰白色	—	—	050492	
29	8	A 8 T	瓦	平瓦	<13.2>	<10.5>	1.9	オリーブ黒色	—	—	050494	
29	9	A 8 T	瓦	平瓦	<9.6>	<13.2>	2.0	オリーブ黒色	—	—	050496	
29	10	A 8 T	瓦	平瓦	<15.9>	<14.9>	1.8	灰白色	—	—	050493	
29	11	A 8 T	瓦	平瓦	<11.9>	<9.5>	1.9	灰褐色	—	—	050495	
29	12	A 8 T	瓦	平瓦	<7.4>	<12.0>	1.9	灰褐色	—	—	050497	
30	1	A 8 T	瓦	平瓦	<12.7>	<11.5>	2.1	灰褐色	—	—	050498	
30	2	A 8 T	瓦	平瓦	<15.3>	<13.9>	2.0	黒褐色	—	—	050499	
30	3	A 8 T	瓦	平瓦	<13.3>	<9.2>	1.8	灰黄褐色	—	—	050500	
30	4	A 8 T	瓦	平瓦	<16.4>	<13.9>	2.2	黒褐色	—	—	050502	
30	5	A 8 T	瓦	平瓦	<12.8>	<10.5>	2.2	灰褐色	—	—	050503	
30	6	A 8 T	瓦	平瓦	<10.9>	<7.1>	2.0	黒褐色	—	—	050501	
30	7	A 8 T	瓦	平瓦	<11.4>	<11.4>	2.0	灰褐色	—	—	050504	
30	8	A 8 T	瓦	平瓦	<14.8>	<12.5>	2.0	灰褐色	—	—	050507	
30	9	A 8 T	瓦	平瓦	24.3	<17.2>	1.9	にぶい橙色	—	—	050505	
31	1	A 8 T	瓦	平瓦	<27.2>	<10.6>	2.1	黒褐色	—	—	050508	
31	2	A 8 T	瓦	平瓦	<17.4>	<14.4>	2.1	灰褐色	—	—	050513	

番号		出土位置	種別	器種	法量			色調		技法・形態の特徴	備考	登録番号
挿図	遺物				長さ	幅	厚さ	外面	内面			
31	3	A 8 T	瓦	平瓦	<19.5>	<11.1>	2.0	灰白色	—	—	050512	
31	4	A 8 T	瓦	平瓦	<18.7>	<12.1>	2.0	灰褐色	—	—	050514	
31	5	A 8 T	瓦	平瓦	<7.1>	<10.3>	1.8	灰褐色	—	—	050516	
31	6	A 8 T	瓦	平瓦	<10.4>	<6.6>	2.0	灰褐色	—	—	050517	
31	7	A 8 T	瓦	平瓦	<22.6>	<14.3>	2.0	灰褐色	—	—	050515	
31	8	A 8 T	瓦	平瓦	<13.5>	<12.9>	1.7	灰褐色	—	—	050520	
31	9	A 8 T	瓦	平瓦	<11.7>	<11.4>	1.4	灰褐色	—	—	050519	
31	10	A 8 T	瓦	平瓦	<11.7>	<9.3>	1.9	灰褐色	—	—	050518	
32	1	A 8 T	瓦	平瓦	<13.6>	<11.7>	1.6	黒褐色	—	—	050522	
32	2	A 8 T	瓦	平瓦	<10.5>	<8.8>	1.9	灰白色	—	—	050523	
32	3	A 8 T	瓦	平瓦	<9.1>	<9.5>	1.9	灰褐色	—	—	050524	
32	4	A 8 T	瓦	平瓦	<14.7>	<11.8>	1.6	灰褐色	—	—	050525	
32	5	A 8 T	瓦	平瓦	<8.8>	<12.0>	1.8	灰白色	—	—	050526	
32	6	A 8 T	瓦	平瓦	<11.0>	<9.9>	2.2	灰褐色	—	—	050527	
32	7	A 8 T	瓦	平瓦	<10.3>	<7.0>	1.7	灰褐色	—	—	050528	
32	8	A 8 T	瓦	平瓦	<8.2>	<9.8>	1.9	黒褐色	—	—	050533	
32	9	A 8 T	瓦	平瓦	<8.0>	<10.7>	1.9	灰褐色	—	—	050531	
32	10	A 8 T	瓦	平瓦	<8.0>	<9.1>	2.0	灰白色	—	—	050532	
32	11	A 8 T	瓦	軒平瓦	<17.9>	<17.2>	2.2	灰褐色	—	—	050608	
33	1	A 8 T	瓦	丸瓦	<7.7>	14.5	2.6	灰白色	—	—	050506	
33	2	A 8 T	瓦	丸瓦	<8.4>	<12.9>	2.5	灰白色	—	—	050596	
33	3	A 8 T	瓦	丸瓦	<8.8>	<6.3>	2.1	浅黄橙色	—	—	050521	
33	4	A 8 T	瓦	軒丸瓦	<4.8>	<2.7>	1.7	黒褐色	右卷三巴文	—	050509	
33	5	A 8 T	瓦	丸瓦	<5.2>	<6.4>	2.1	黒褐色	—	—	050469	
33	6	A15T	瓦	平瓦	<8.6>	<8.8>	2.0	灰白色	—	—	050536	
33	7	A15T	瓦	丸瓦	<6.45>	<4.6>	1.75	灰白色	—	—	050535	
33	8	A17T	瓦	平瓦	14.8	<16.0>	2.0	黒褐色	—	—	050538	
33	9	A17T	瓦	平瓦	31.0	26.2	1.7	黒褐色	—	—	050537	
34	1	A17T	瓦	平瓦	<22.4>	<15.2>	2.05	褐灰色	—	—	050539	
34	2	A17T	瓦	平瓦	<14.1>	<13.6>	2.0	黒褐色	—	—	050540	
34	3	A17T	瓦	平瓦	<10.6>	<13.3>	2.1	にぶい橙色	—	—	050541	
34	4	A17T	瓦	平瓦	<17.3>	25.6	1.9	灰褐色	—	—	050542	
34	5	A17T	瓦	平瓦	<15.8>	22.1	1.6	灰褐色	—	—	050543	
34	6	A17T	瓦	平瓦	<11.0>	<11.6>	2.0	黒褐色	—	—	050544	
34	7	A17T	瓦	平瓦	<19.3>	<12.7>	2.0	黒褐色	—	—	050545	
34	8	A17T	瓦	平瓦	<23.8>	<16.2>	1.7	にぶい橙色	—	—	050546	
35	1	A17T	瓦	平瓦	<18.4>	<11.9>	2.1	灰白色	—	—	050547	
35	2	A17T	瓦	平瓦	<24.2>	<8.1>	2.0	灰褐色	—	—	050548	
35	3	A17T	瓦	平瓦	<11.2>	<16.5>	2.1	黒褐色	—	—	050550	
35	4	A17T	瓦	平瓦	<10.8>	<7.9>	1.9	灰褐色	—	—	050549	
35	5	A17T	瓦	平瓦	<12.3>	<9.4>	1.7	黒褐色	—	—	050555	
35	6	A17T	瓦	平瓦	<20.0>	<19.9>	1.9	黒褐色	—	—	050553	
35	7	A17T	瓦	平瓦	<12.5>	<15.9>	1.8	黒褐色	—	—	050551	
35	8	A17T	瓦	平瓦	<12.3>	<12.6>	2.0	灰褐色	—	—	050558	

番号		出土位置	種別	器種	法量			色調		技法・形態の特徴	備考	登録番号
挿図	遺物				長さ	幅	厚さ	外面	内面			
35	9	A17T	瓦	平瓦	<12.7>	<14.2>	2.0	灰褐色	—	—	050552	
35	10	A17T	瓦	平瓦	<19.8>	<10.0>	2.0	灰白色	—	—	050554	
36	1	A17T	瓦	平瓦	<21.2>	<18.5>	2.2	黒褐色	—	—	050556	
36	2	A17T	瓦	平瓦	<19.4>	<15.0>	1.9	灰白色	—	—	050557	
36	3	A17T	瓦	平瓦	<13.3>	<10.6>	1.7	灰白色	—	—	050560	
36	4	A17T	瓦	平瓦	<21.8>	<13.7>	2.0	黒褐色	—	—	050559	
36	5	A17T	瓦	平瓦	<12.0>	<10.8>	1.6	黒褐色	—	—	050561	
36	6	A17T	瓦	平瓦	31.0	<15.2>	2.0	黒褐色	—	—	050562	
36	7	A17T	瓦	平瓦	<17.8>	<16.8>	1.8	灰黄褐色	—	—	050563	
36	8	A17T	瓦	平瓦	<21.9>	<12.7>	1.9	黒褐色	—	—	050564	
36	9	A17T	瓦	平瓦	<12.0>	<9.5>	1.7	灰褐色	—	—	050565	
37	1	A17T	瓦	平瓦	<23.1>	<12.8>	1.9	灰褐色	—	—	050566	
37	2	A17T	瓦	平瓦	<12.9>	<13.4>	1.7	灰褐色	—	—	050567	
37	3	A17T	瓦	平瓦	<15.8>	<9.8>	2.1	灰褐色	—	—	050568	
37	4	A17T	瓦	平瓦	<14.6>	<13.6>	2.1	灰白色	—	—	050569	
37	5	A17T	瓦	平瓦	<15.4>	<14.1>	1.9	灰褐色	—	—	050570	
37	6	A17T	瓦	平瓦	<15.4>	<10.7>	1.9	黒褐色	—	—	050572	
37	7	A17T	瓦	平瓦	<18.3>	<15.4>	2.0	灰褐色	—	—	050573	
37	8	A17T	瓦	平瓦	<10.5>	<18.2>	1.9	灰褐色	—	—	050575	
38	1	A17T	瓦	平瓦	<11.6>	<11.9>	2.2	灰褐色	—	—	050576	
38	2	A17T	瓦	平瓦	<14.7>	<12.5>	1.8	灰褐色	—	—	050577	
38	3	A17T	瓦	平瓦	<17.7>	<12.9>	2.2	灰白色	—	—	050578	
38	4	A17T	瓦	平瓦	<11.6>	<13.1>	1.7	にぶい黄橙色	—	—	050579	
38	5	A17T	瓦	平瓦	<14.9>	<15.7>	1.9	にぶい橙色	—	—	050582	
38	6	A17T	瓦	平瓦	<13.2>	<10.6>	1.9	灰褐色	—	—	050581	
38	7	A17T	瓦	平瓦	<20.5>	<12.0>	2.1	灰白色	—	—	050580	
38	8	A17T	瓦	平瓦	<9.2>	<10.9>	2.2	にぶい橙色	—	—	050584	
38	9	A17T	瓦	平瓦	<13.9>	<11.7>	2.5	にぶい橙色	—	—	050583	
38	10	A17T	瓦	平瓦	<14.7>	<12.6>	1.8	灰褐色	—	—	050587	
39	1	A17T	瓦	平瓦	<13.9>	<13.2>	2.0	灰褐色	—	—	050586	
39	2	A17T	瓦	平瓦	<21.1>	<14.4>	2.3	灰白色	—	—	050585	
39	3	A17T	瓦	平瓦	<20.9>	<13.5>	2.3	黒褐色	—	—	050588	
39	4	A17T	瓦	平瓦	<15.8>	<17.1>	1.9	灰白色	—	—	050589	
39	5	A17T	瓦	平瓦	<17.0>	<12.2>	1.9	灰褐色	—	—	050590	
39	6	A17T	瓦	平瓦	<11.4>	<8.9>	1.7	灰白色	—	—	050592	
39	7	A17T	瓦	平瓦	<21.1>	<14.7>	2.3	黒褐色	—	—	050598	
39	8	A17T	瓦	平瓦	<31.3>	<21.2>	2.3	灰褐色	—	—	050593	
40	1	A17T	瓦	平瓦	<24.0>	<18.7>	2.2	灰白色	—	—	050594	
40	2	A17T	瓦	平瓦	<15.7>	<17.9>	2.3	灰白色	—	—	050595	
40	3	A17T	瓦	平瓦	<11.7>	<16.5>	2.0	灰褐色	—	—	050574	
40	4	A17T	瓦	平瓦	<11.6>	<15.3>	2.2	灰褐色	—	—	050591	
40	5	A17T	瓦	軒平瓦	<7.8>	<5.3>	4.8	灰褐色	唐草文	—	050613	
40	6	A17T	瓦	軒平瓦	<9.8>	<8.5>	1.7	灰褐色	均整唐草文	—	050607	
40	7	A17T	瓦	丸瓦	<13.3>	<6.8>	1.7	灰白色	—	—	050602	

番号		出土位置	種別	器種	法量			色調		技法・形態の特徴	備考	登録番号
挿図	遺物				長さ	幅	厚さ	外面	内面			
40	8	A17T	瓦	丸瓦	<14.8>	<7.9>	1.6	灰黄褐色		—	—	050601
40	9	A17T	瓦	丸瓦	<23.8>	<7.2>	2.2	灰褐色		—	—	050603
41	1	A17T	瓦	丸瓦	<7.0>	<6.8>	2.0	灰黄褐色		—	—	050605
41	2	A17T	瓦	丸瓦	<15.1>	<8.4>	1.9	灰白色		—	—	050600
41	3	A17T	瓦	丸瓦	<16.8>	<12.2>	2.0	黒褐色		—	—	050599
41	4	A17T	瓦	丸瓦	<13.7>	<6.9>	1.3	黒褐色		—	—	050604
41	5	A17T	瓦	軒丸瓦?	8.1	<5.4>	2.0	灰黄褐色		巴文	—	050614
41	6	A17T	瓦	刻袖瓦	<13.2>	<5.2>	瓦当 6.0	灰褐色		双三巴文	—	050571
41	7	A17T	瓦	刻袖瓦	<19.0>	<15.3>	瓦当 6.1	灰白色		双三巴文	—	050606
41	8	A17T	瓦	軒平瓦	<10.6>	<14.4>	2.3	黒褐色		均整唐草文	—	050611
42	1	A17T	瓦	軒平瓦	<15.4>	<14.4>	3.3	黒褐色		均整唐草文	—	050609
42	2	A17T	瓦	刻袖瓦	<6.9>	<3.4>	瓦当 <4.7>	灰白色		左卷三巴文	—	050612
42	3	A17T	瓦	丸瓦	<11.4>	<13.0>	2.3	灰白色		—	—	050534
42	4	A16T	瓦	刻袖瓦	<13.1>	<5.0>	瓦当 6.5	黒褐色		双三巴文	—	050597
42	5	A 1 T	石製品	石臼	<12.3>	<11.8>	11.4	灰白色		—	—	050420
42	6	A17T	石製品	石臼	<12.2>	<11.1>	10.6	灰白色		—	—	050610
43	1	A表採	石製品	茶臼	<11.0>	<11.1>	11.0	灰褐色		—	—	051125
43	2	A表採	石製品	石臼	<28.1>	<18.3>	10.9	灰白色		—	—	051124

番号		出土位置	種別	器種	法量			色調(文様)		技法・形態の特徴	備考	登録番号
挿図	遺物				長さ	幅	厚さ	外面	内面			
44	1	B 1 T	青磁	皿	(16.0)	—	<3.7>	オリーブ灰色		輪花	龍泉、14C後半 ~15C中	050020
44	2	B 5 T	白磁	碗	(12.0)	—	<4.6>	灰白色		—	—	050052
44	3	B 6 T	青花	皿	(11.6)	—	<1.6>	圏線	圏線	—	景德鎮、16C後半	050311
44	4	B表採	陶器	甕	(37.6)	—	<6.5>	赤褐色		—	備前、15C	050040
44	5	C 2 T	土師器	坏	(16.0)	—	<3.8>	にぶい橙色		—	—	050022
44	6	C表採	青花	小杯	—	—	<2.6>	唐草文	圏線	端反り	景德鎮、16C後半	050415
44	7	C表採	青磁	皿	—	(4.0)	<2.0>	明緑灰色		輪花、被熱	景德鎮、16C中	050414
44	8	C表採	瓦器	火鉢	(29.0)	—	<15.6>	黒褐色		外面上位に四目結 状のスタンプと2 条の突帯が付く	—	050409



1. A地区5トレンチ



2. A地区5トレンチ柱穴出土
状態



3. A地区5トレンチ石積列①



1. A地区5トレンチ石積列②



2. A地区5トレンチ石積列②



3. A地区5トレンチ石積列②
遺物出土状態



4. A地区5トレンチ石積列②
遺物出土状態



1. A地区5トレンチ遺物出土状態（陶器・青花等）



2. A地区5トレンチ遺物出土状態（硯）



3. A地区5トレンチ遺物出土状態（土師器皿・蓋）



4. A地区5トレンチ遺物出土状態



5. A地区5トレンチ遺物出土状態



6. A地区5トレンチ遺物出土状態



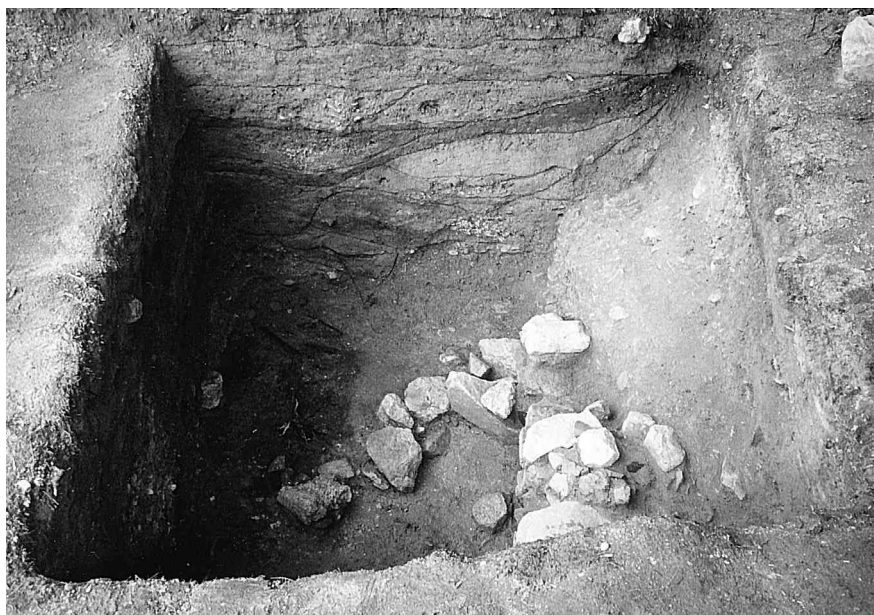
1. A地区5トレンチ石臼・焼けた土壁出土状態



2. A地区5トレンチ青花出土状態



3. A地区8トレンチ

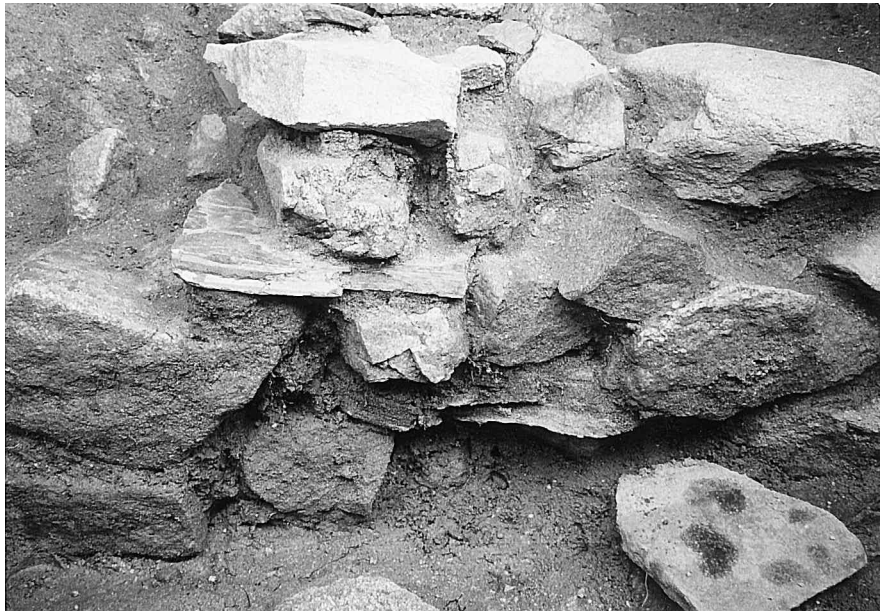


4. A地区8トレンチ

1. A地区8トレンチ石積み
の状態



2. A地区8トレンチ石積み
の状態



3. A地区8トレンチ石積み
の状態





1. A地区8トレンチ北壁土層



2. A地区17トレンチ



3. A地区17トレンチ
北壁隅遺物流入状態

1. A地区3トレンチ



2. A地区14トレンチ溝検出状態



3. A地区14トレンチ中国銭
(洪武通宝) 出土状態





1. B地区1トレンチ



2. B地区1トレンチ焼けた土壁
・柱穴検出状態



3. B地区1トレンチ焼けた土壁
検出状態

1. B地区1トレンチ焼けた土壁
検出状態



2. B地区1トレンチ土坑検出状態



3. B地区2トレンチ出入口
(石段) 状態





1. C地区2トレンチ

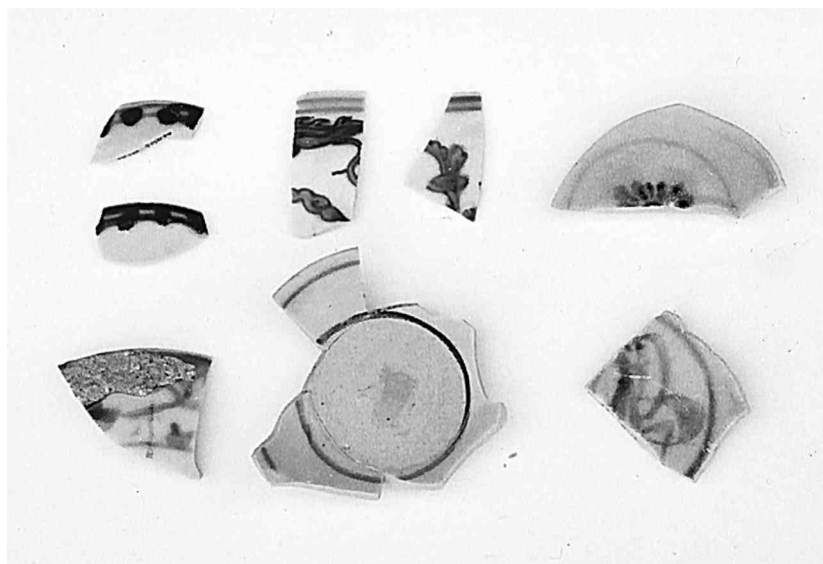


2. C地区8トレンチ並びに
石積み状態

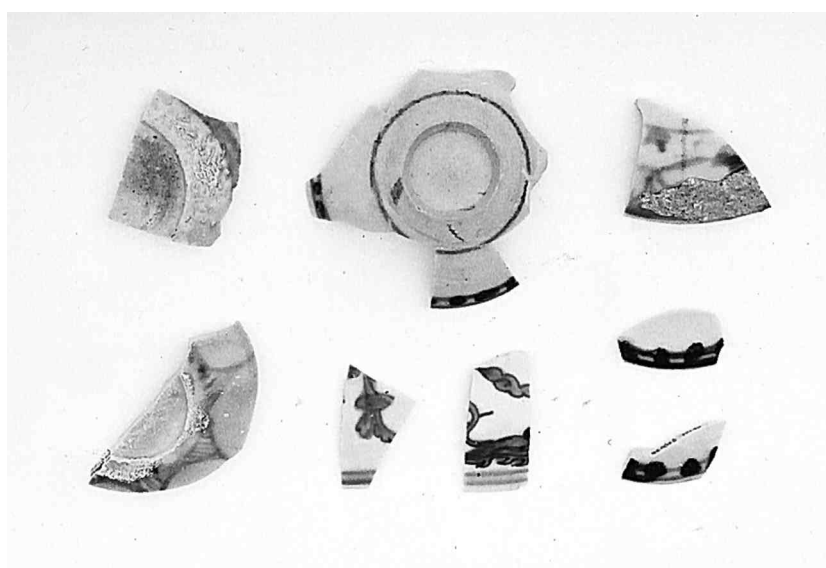


3. B地区2トレンチ出入口
(石段) 状態

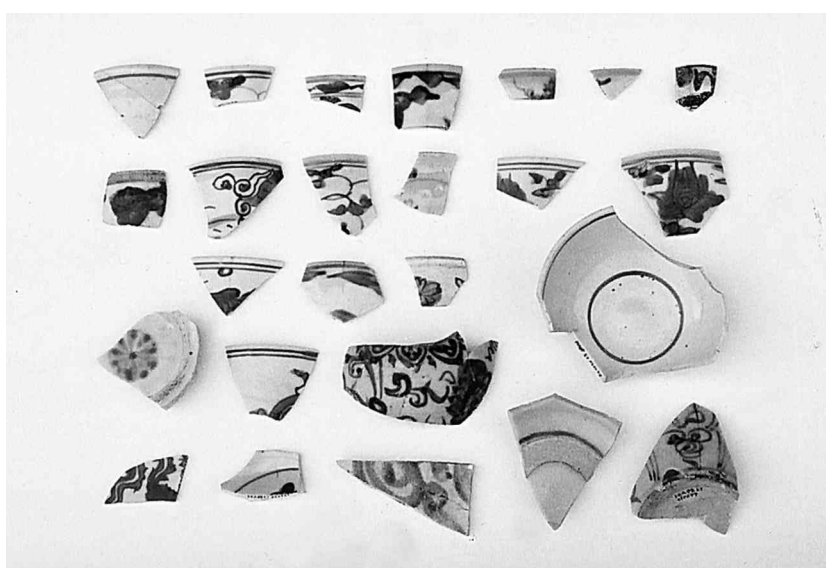
1. A地区1トレンチ出土遺物
(青花)

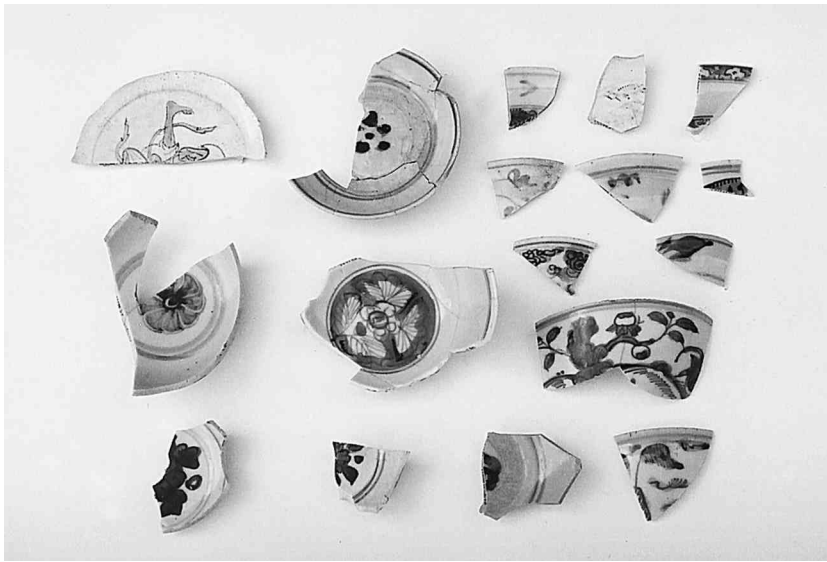


2. A地区1トレンチ出土遺物
(青花)

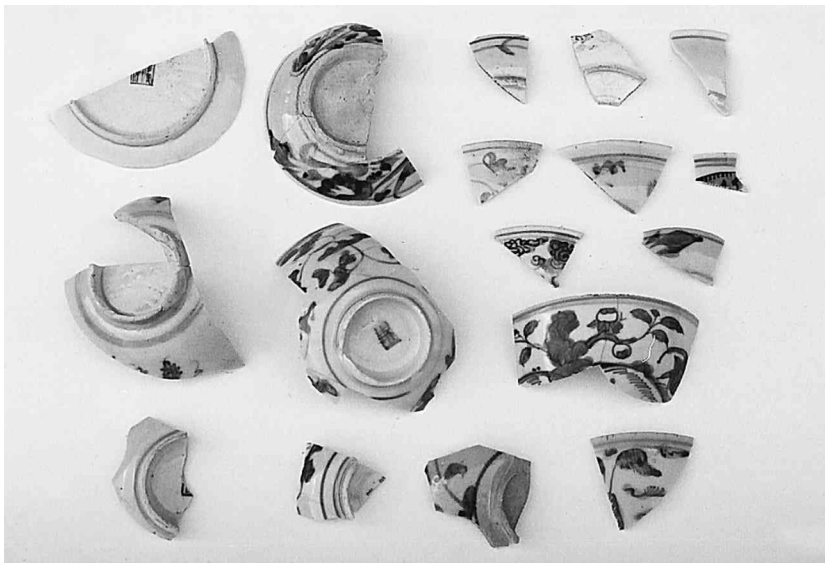


3. A地区5トレンチ出土遺物
(青花)

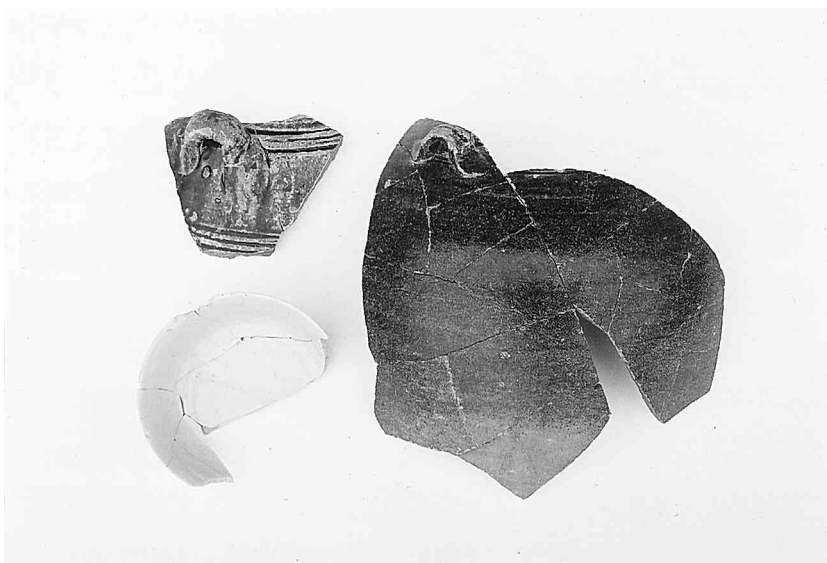




1. A地区5トレンチ出土遺物
(青花)



2. A地区5トレンチ出土遺物
(青花)

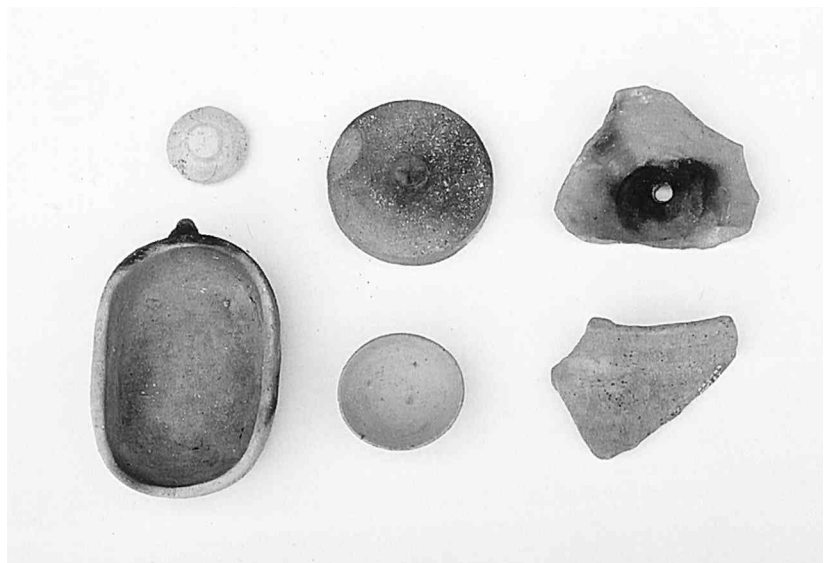


3. A地区5トレンチ出土遺物
(陶磁器)

1. A地区5トレンチ出土遺物
(土師器)

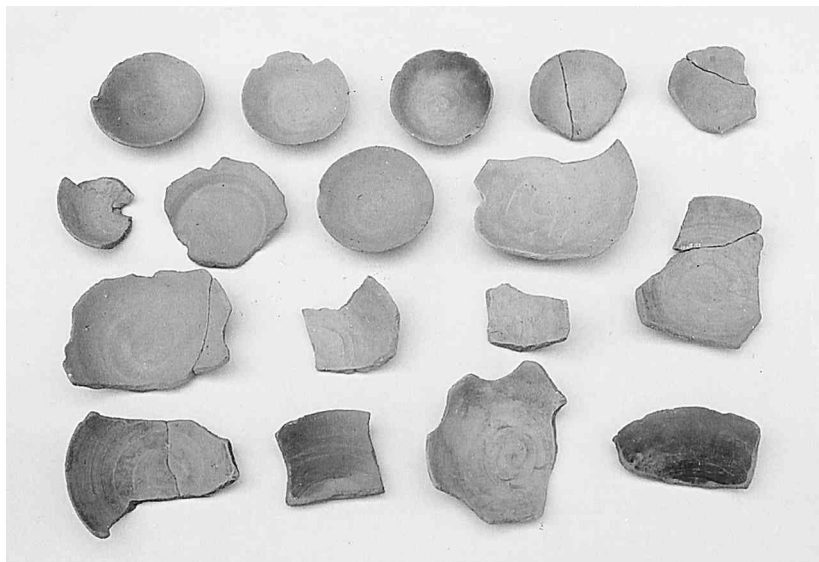


2. A地区5・7トレンチ出土遺物
(土師器)



3. A地区14トレンチ出土遺物
(陶器)

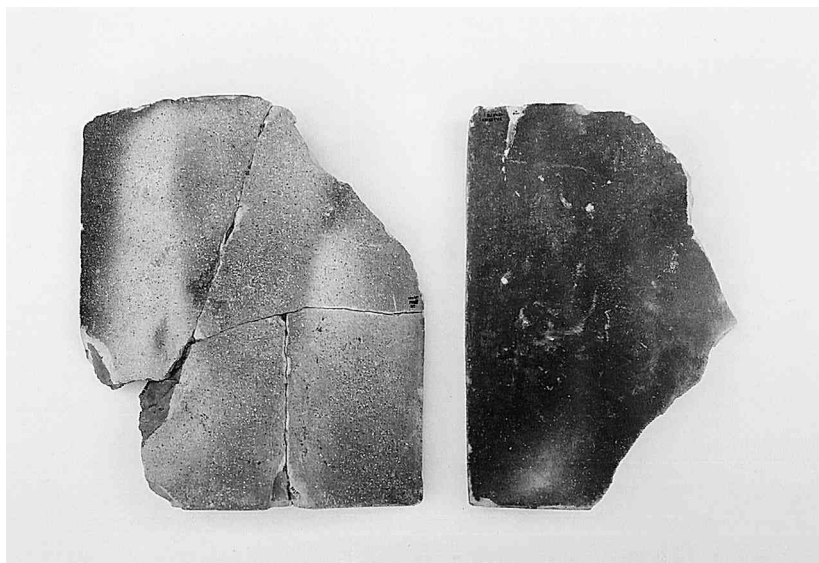




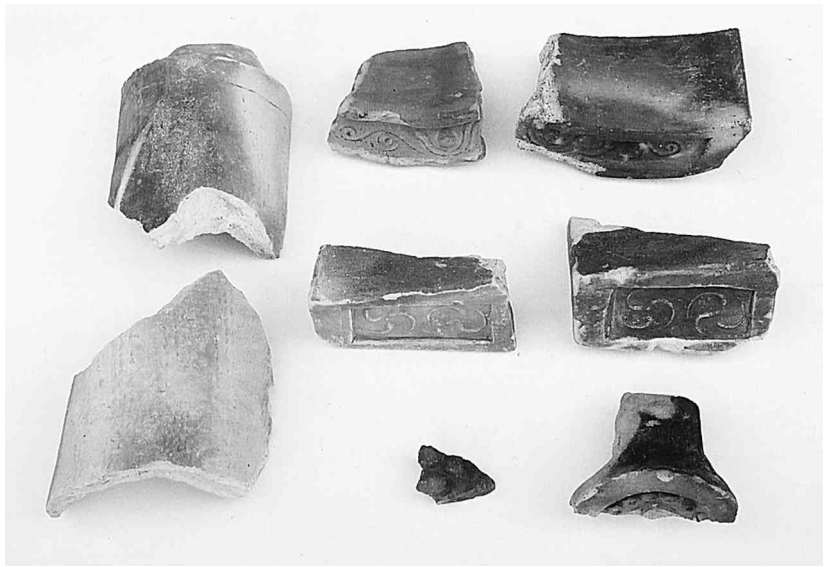
1. A地区16トレンチ出土遺物
(土師器)



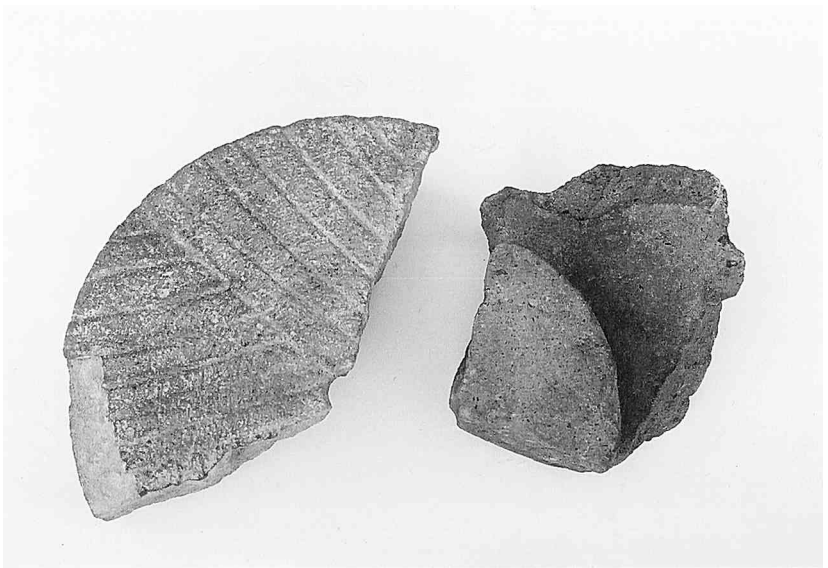
2. A地区出土遺物



3. A地区17トレンチ出土遺物
(瓦)



1. A地区出土遺物(瓦)



2. A地区出土遺物(石製品)



3. B・C地区出土遺物(陶磁器)

II. 平成12年度の調査

II. 平成12年度の調査

平成12年度の調査対象地区は、勝尾城北側（搦め手口方面）の山麓一帯を中心にする地区である。勝尾城（城山）の南・北には谷（四阿屋川・安良川）が貫入しており、南の四阿屋川流域が家臣屋敷、館がある城下中枢域であり、北の安良川流域はその背面、搦め手口に当たる。この搦め手口には河内町貝方集落があり、この集落から地元で「城道」と呼ばれる山道が勝尾城へ通じている。これまで搦め手口方面ではこの「城道」の存在が分かっていたのみで、全体の様相は不明であった。したがって今回の調査ではその搦め手口の様相を明らかにすること、さらには貝方集落の成立時期（勝尾城との関係）を解明することを目的とした。調査はA地区～C地区の3地区で合計36本のトレンチを設定した。以下、主要なトレンチ（試掘溝）、遺構、遺物の概要について紹介する。

【A地区】

A地区は貝方集落の南西の城山山麓で、地元で「城道」と呼ぶ山道の沿線一帯である。この一帯はかつて水田として利用されており、現況では水田面の小規模な平場が畧段を成している所である。ここでは合計20本のトレンチを設定し調査を進めた。

トレンチ並びに遺構

1 T～6 Tは、貝方集落のすぐ南西山裾に設定したトレンチで、約0.2m下で水田造成面が確認されたのみで、その下部は大小のレキが堆積していた。特に6 Tでは巨石が埋没していた。いずれのトレンチでも戦国期と考えられる遺構は確認されなかった。注目されることは6 Tから細片ではあるが、青磁碗の破片が出土したことである。いずれにしても戦国期の痕跡は希薄である。

7 T・8 T・18 Tは谷に沿った西側の山裾に設定したトレンチであるが、遺構、遺物とも確認されなかった。

9 T～20 Tは7 T・8 Tの南西のさらに登った山麓斜面に設定したトレンチである。地盤の状況は1 T～6 Tとほぼ同様で、特に戦国期の遺構は確認されなかったが、16 Tでは石積み列が検出された。調査区の関係上石積みの全容は明らかにできなかったが、確認した部分で高さ約0.6m、長さ約7 m弱であり、やや弧状を描き南―北に走っていた。石積みは非常に雑であるが背後には裏込めを用いていた。注目されることは背後から柱穴が確認されたこと、炭化物を含む黒色土が西側（山方向）から堆積していたことである。また、この黒色土中より土師皿、土鍋、湯釜片が出土した。この石積み列の性格は不明であるが、その時期は田の床土下で確認されたもので、隣接する13 T出土の陶器の時期から勘案し17世紀後半頃の築造になるものと推測される。なお、13 T一帯には墓石（無縁仏）が散在しており、埋葬に伴う何らかの施設であった可能性も考えられる。

19 T・20 T一帯は、細長い畧段を成す平場に墓石が並んでいる場所で、かつて墓地であった所である。現在二段の南北に長い平場に約1 m四方の区画石を配した墓が並んでいる。現在は無縁仏となっている。周辺にトレンチを設定したが遺物の出土も見られず、時期を確定するには至らない。無縁仏でもあり中世墓の可能性を期待したが、墓石の構造や周辺の遺物出土状態から17世紀代の墓地と考えておきたい。

遺物

表4に示したようにA地区出土の遺物は極めて少ない。時期が判明する遺物は6Tの青磁、13Tの陶器のみである。青磁は龍泉窯産の碗の細片で時期は15世紀中頃～16世紀初頭である。陶器は肥前産の碗で時期は17世紀後半である。このほか16Tから青磁、土師皿、瓦質の土鍋、湯釜が出土しているが時期は不明。戦国期の遺物を欠くといえよう。

【B地区】

B地区は川を挟んだ北側の対岸であり、貝方集落内に当たる。隣接して集落の神社「大山祇神社」がある。この貝方集落は安良川流域ではもっとも奥にある山間集落であり、この集落と勝尾城との関係を探ることを調査の目的とし計10本のトレンチを設定し調査を進めた。

トレンチ並びに遺構

5Tですでに廃絶された家屋の一部が確認された以外、3Tで性格不明の段と溝、7T・9T・10Tで性格不明の柱穴や土坑が出土したのみで明瞭な遺構は検出されなかった。5Tでは、土間と考えられる硬化面、柱穴、土坑、焼土とともに碗・皿・鉢等の陶磁器類、瓦質の鉢や播鉢が出土し、廃絶された家屋の跡であると判断された。なお、3Tでも同様に陶磁器や瓦質の土器が出土している。この3Tも廃絶家屋の跡と判断された。なお、遺物を出土したのはこの3T・5Tのみである。

3T・5Tとも出土陶磁器類の時期はおおむね17世紀～18世紀代であり、これら廃絶家屋は17世紀前半に作られ19世紀初頭頃に廃絶されたと推測された。この地点は神社に隣接しており貝方集落の中核を成すところから、貝方集落は17世紀前半に成立したと考えられ、戦国期の勝尾城との関係は否定された。

遺物

遺物は別表に示したとおり3Tと5Tから陶磁器類や瓦質土器、土師器が出土した。その時期は先に見たようにもっとも古いものが17世紀前半、もっとも新しいものが19世紀初頭頃である。A地区出土遺物とも対応する時期であり、貝方集落の成立を物語るものと思われる。

【C地区】

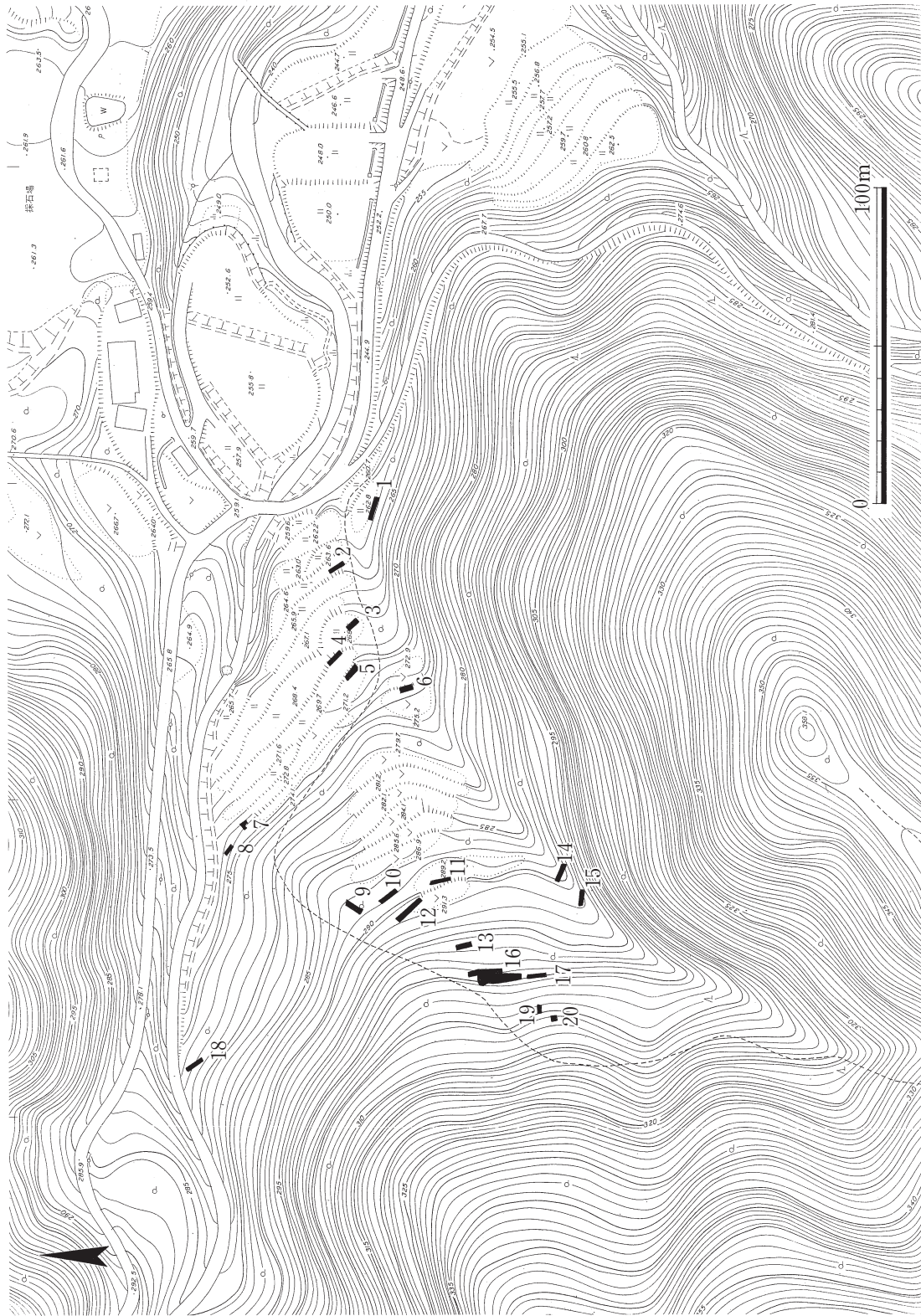
C地区はA・B地区のさらに谷の上流（西方）の山麓斜面であり、この地点もかつて家屋とともに水田が開かれていた地区である。数段の平場に合計6本のトレンチを設定し調査を進めた。

トレンチ並びに遺構

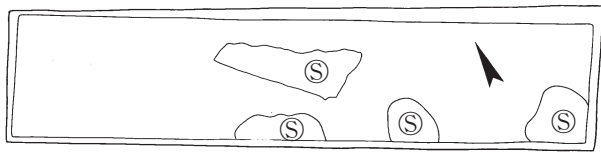
2T・3Tで性格不明の柱穴や土坑が出土した以外明瞭な遺構の存在は認められなかった。1T・2Tは調査地区の最上段にありかつて家屋が建っていた場所である。調査の結果注目されたことは、2Tで家屋の造成面の下部に古い遺物を包含する層が確認されたことである。この層からは14世紀後半～15世紀中頃の青磁碗の破片や糸切り底の土師皿などが出土している。なお上面では17世紀後半代の陶磁器類が出土しており、家屋の存立時期を示すものと思われる。

遺物

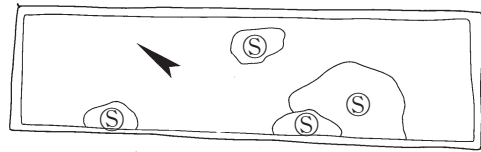
遺物は表4で示したように、陶磁器類や土師器などが2T～5Tから出土した。特に2Tからの出土が多い。時期の判明するものでは17世紀代のものももっとも多い。勝尾城に先行する時期の青磁碗片と、一点ではあるが勝尾城と同時期の16世紀後半の景德鎮産の青花が出土していることが注目される。



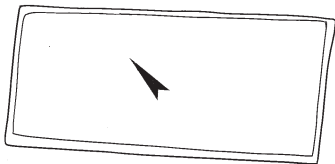
第45図 平成12年度調査A地区トレンチ位置図 (1/2,000)



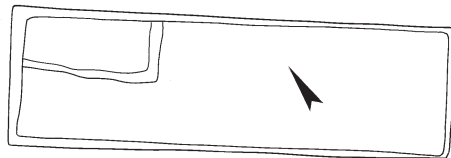
1トレンチ



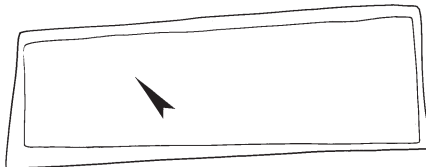
2トレンチ



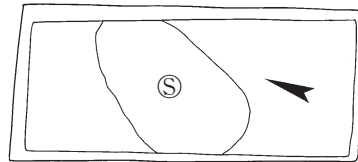
3トレンチ



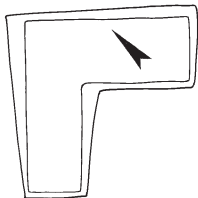
4トレンチ



5トレンチ



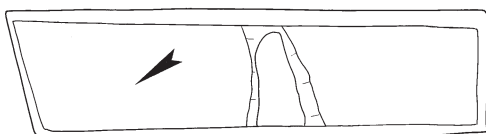
6トレンチ



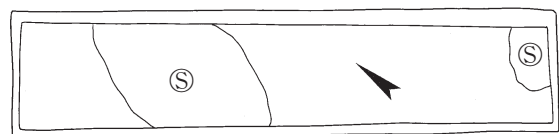
7トレンチ



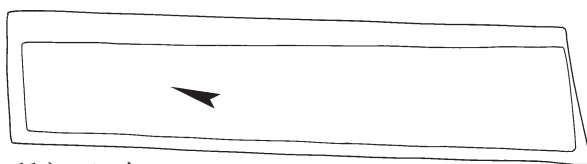
8トレンチ



9トレンチ



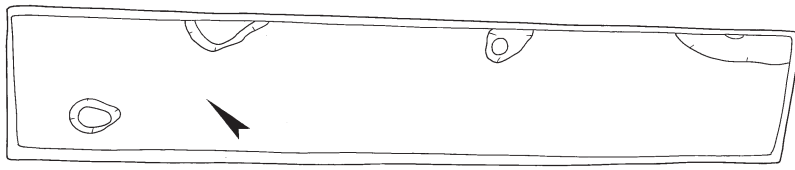
10トレンチ



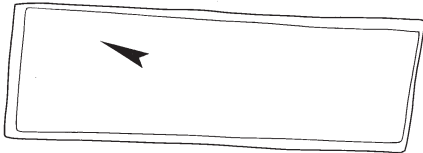
11トレンチ



第46図 A地区1・2・3・4・5・6・7・8・9・10・11トレンチ (1/100)



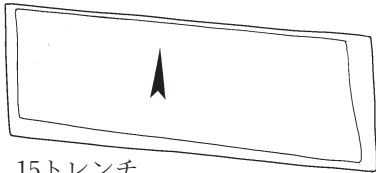
12トレンチ



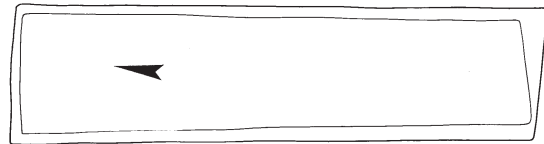
13トレンチ



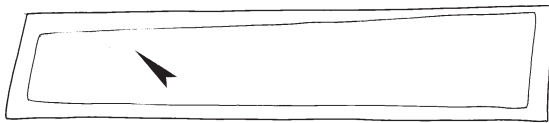
14トレンチ



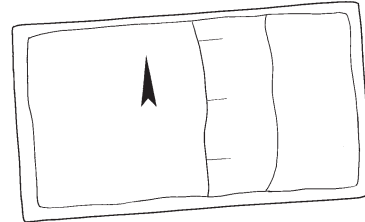
15トレンチ



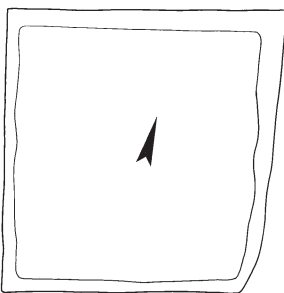
17トレンチ



18トレンチ



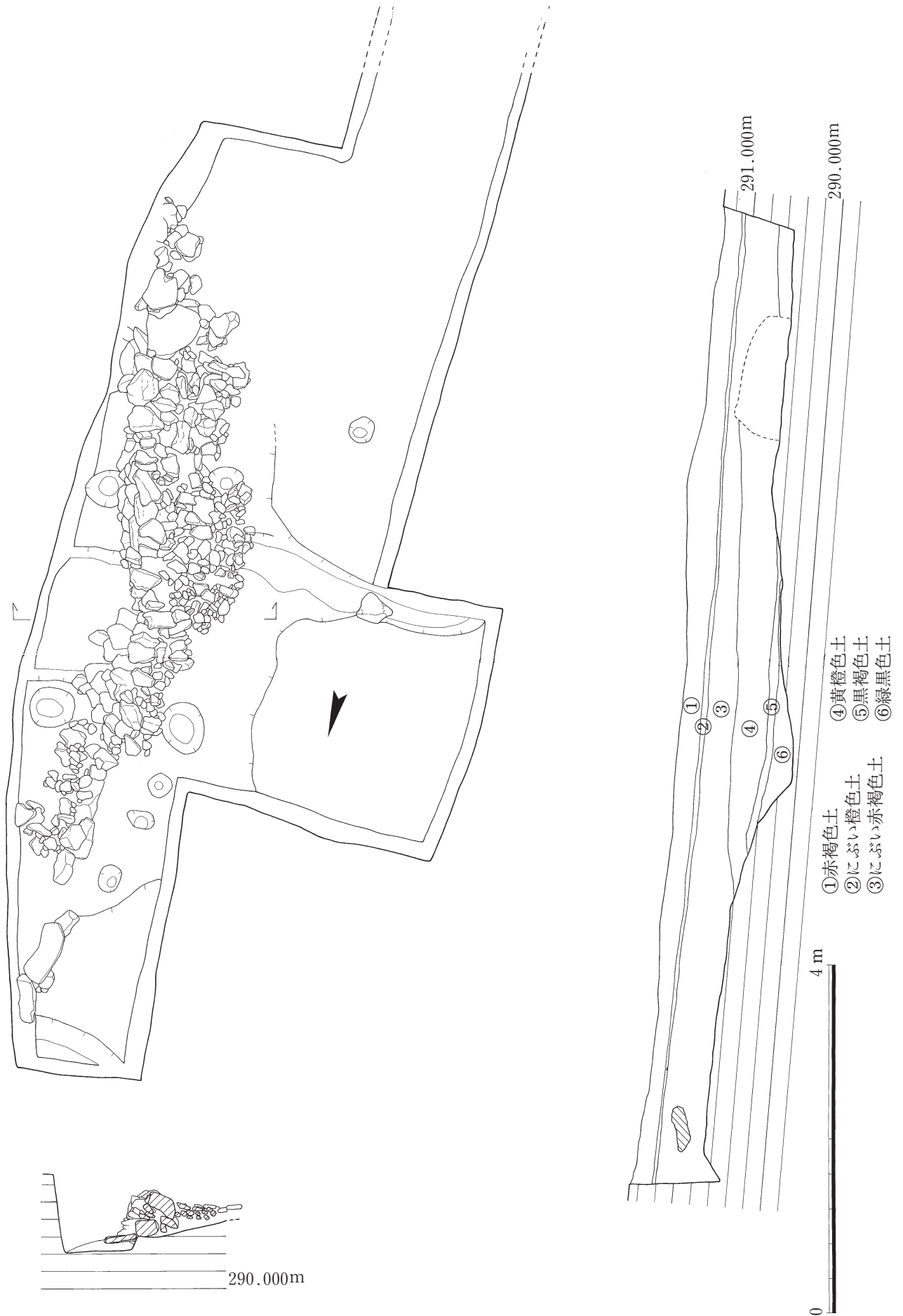
19トレンチ



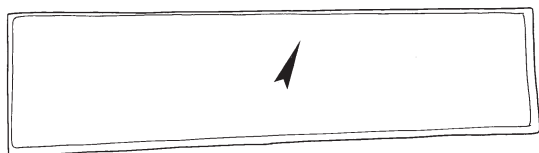
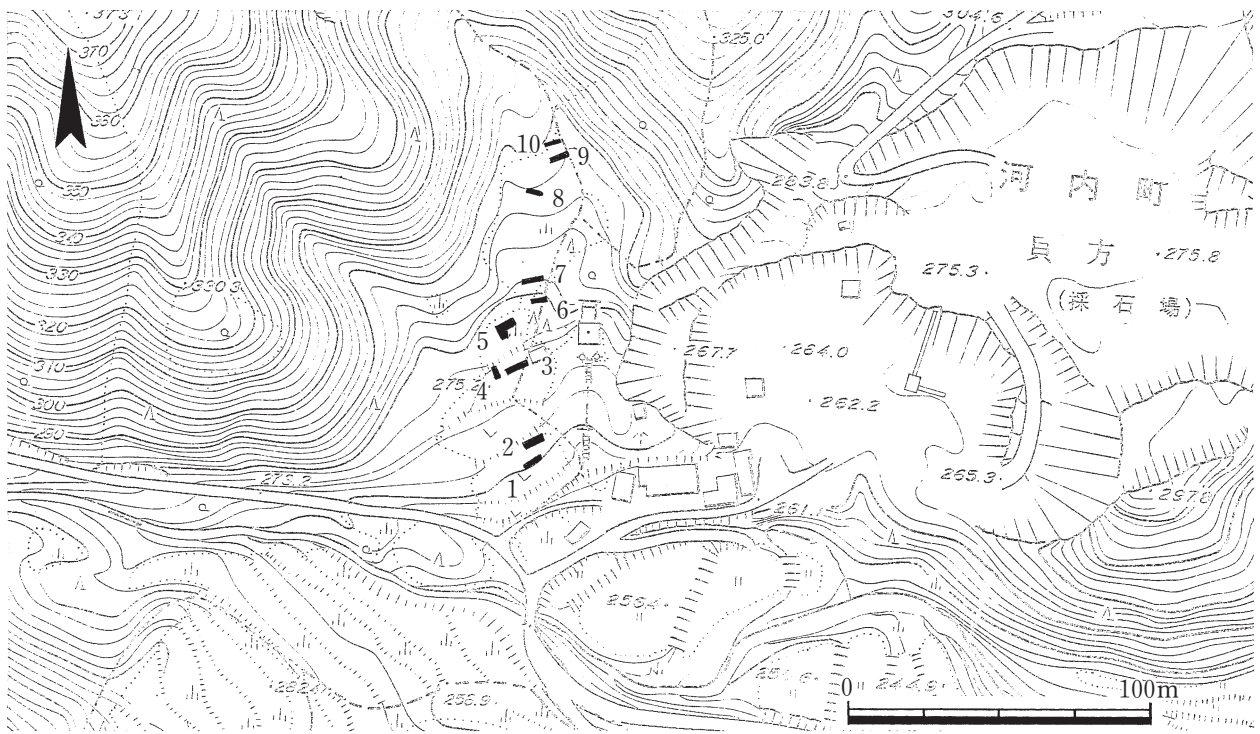
20トレンチ



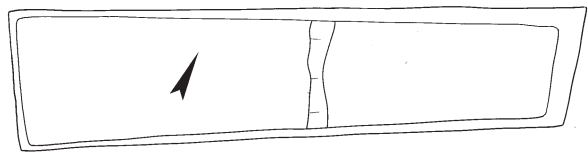
第47図 A地区12・13・14・15・17・18・19・20トレンチ (1/100)



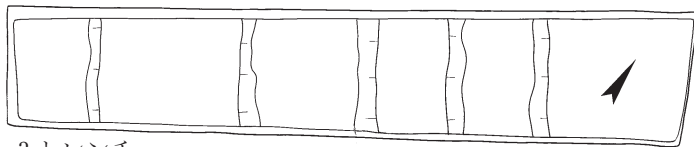
第48図 A地区16トレンチ主要部 (1/60)



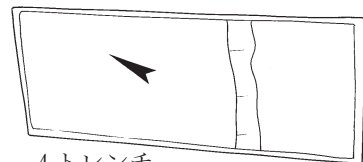
1 トレンチ



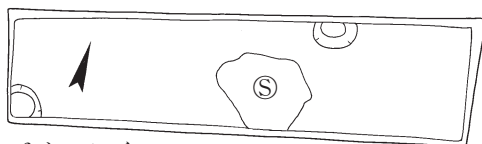
2 トレンチ



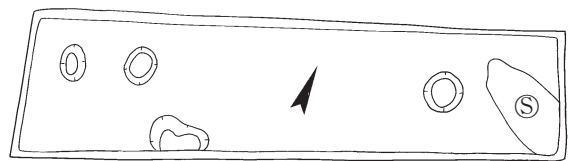
3 トレンチ



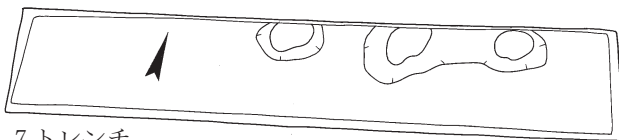
4 トレンチ



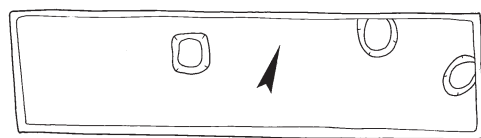
6 トレンチ



9 トレンチ



7 トレンチ



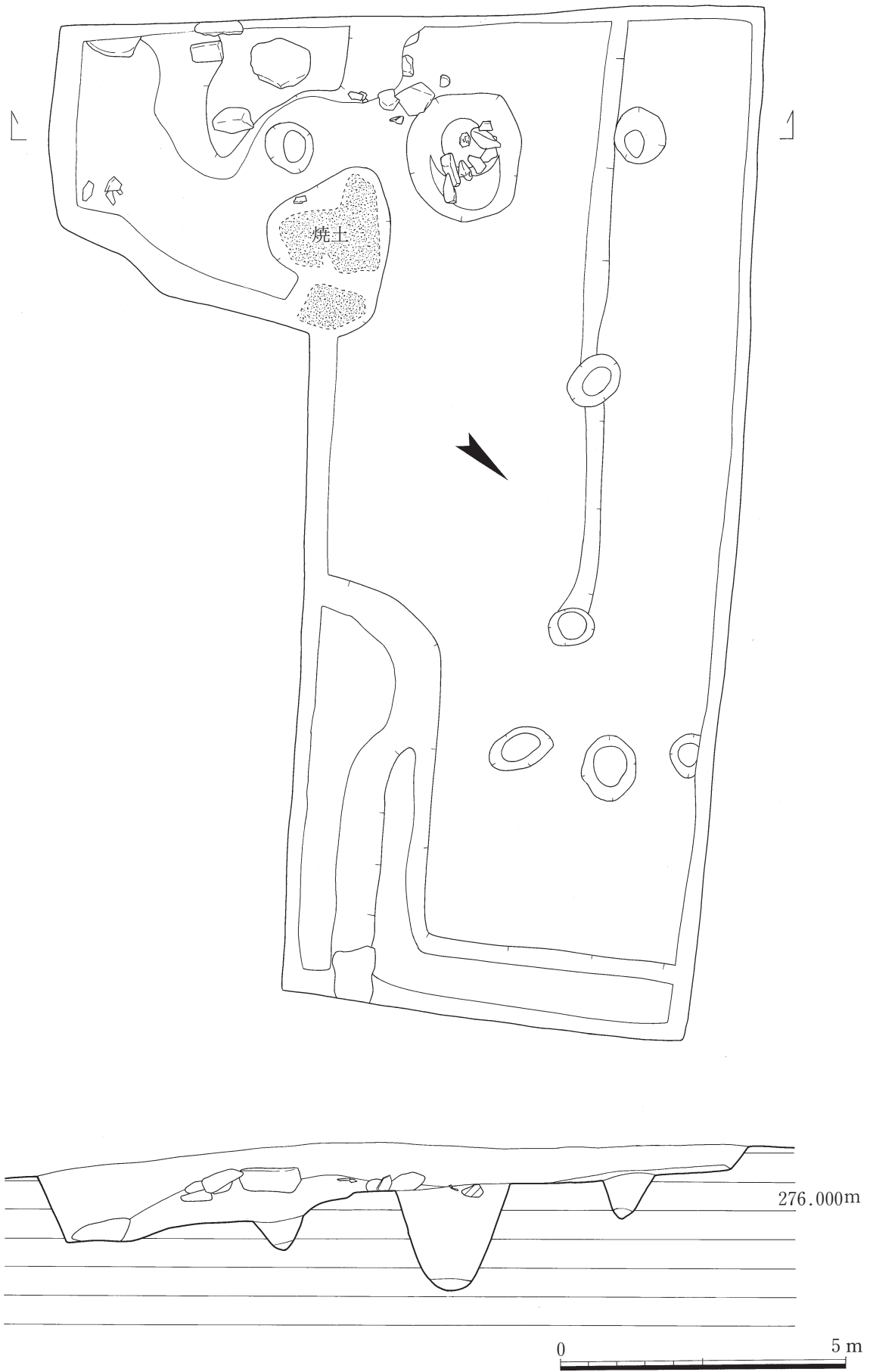
10 トレンチ



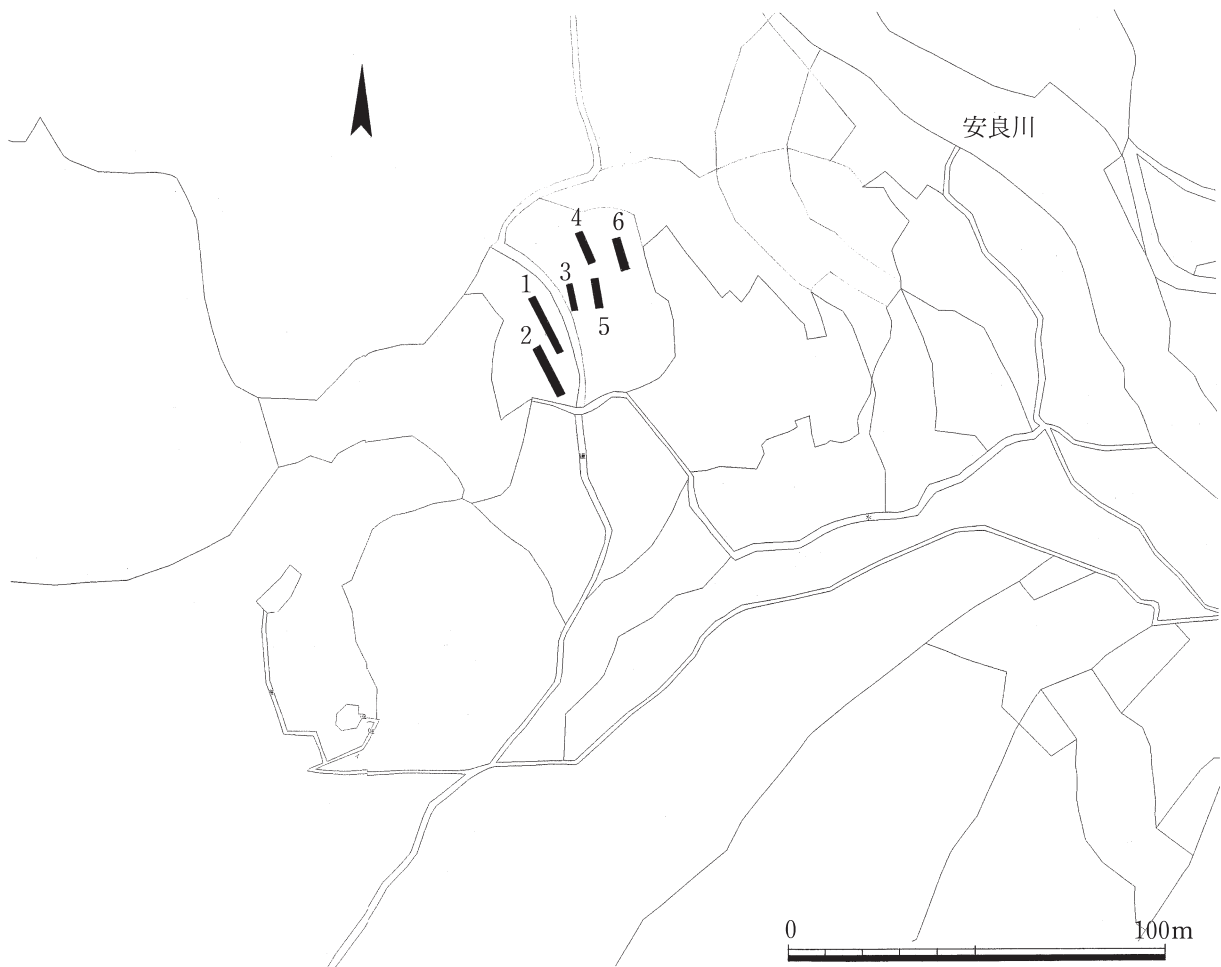
8 トレンチ



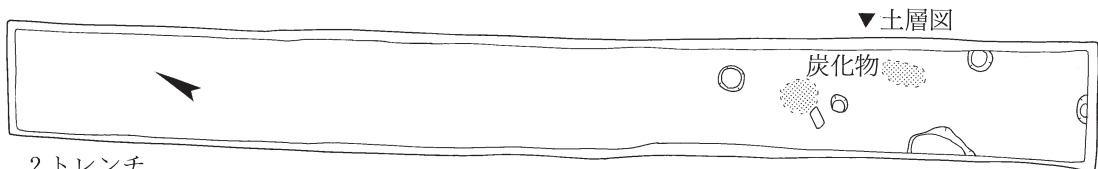
第49図 平成12年度調査B地区トレンチ位置図 (1/2,500)
B地区1・2・3・4・6・7・8・9・10トレンチ (1/100)



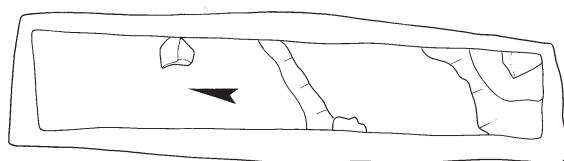
第50図 B地区5トレンチ (1/100)



1 トレンチ



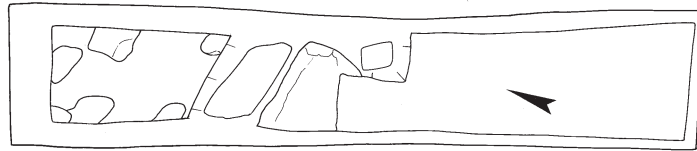
2 トレンチ



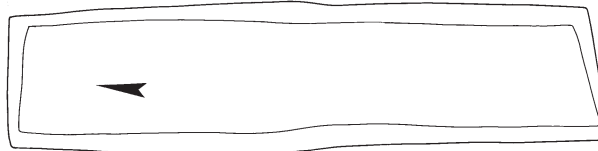
3 トレンチ



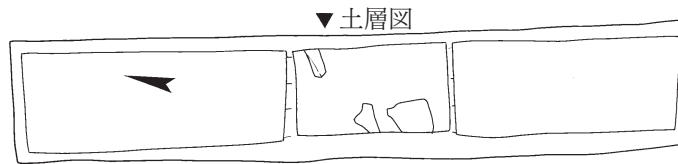
第51図 平成12年度調査C地区トレンチ位置図 (1/2,000) C地区1・2・3トレンチ (1/100)



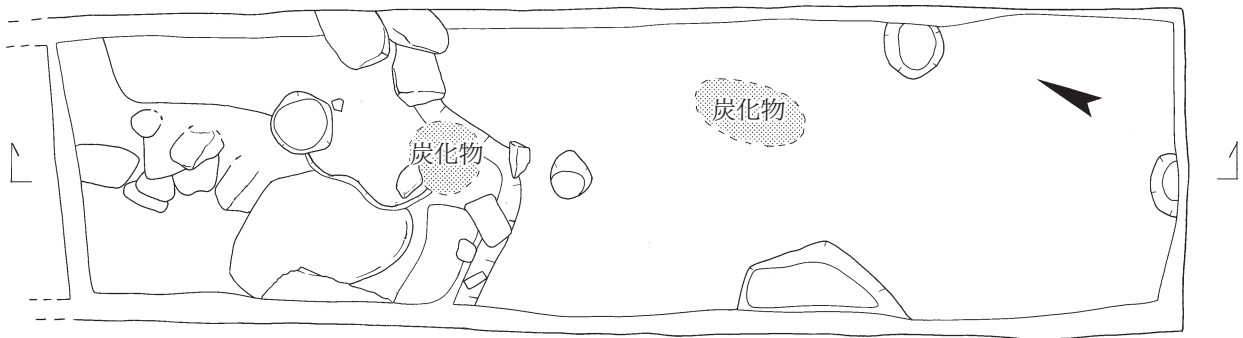
4トレンチ



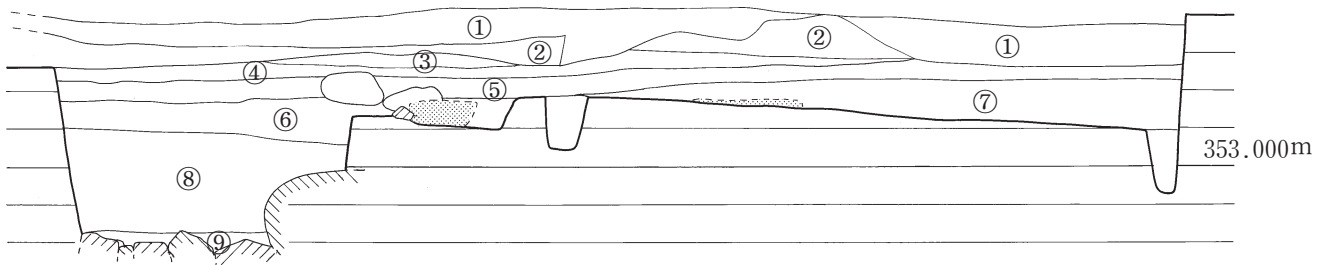
5トレンチ



6トレンチ



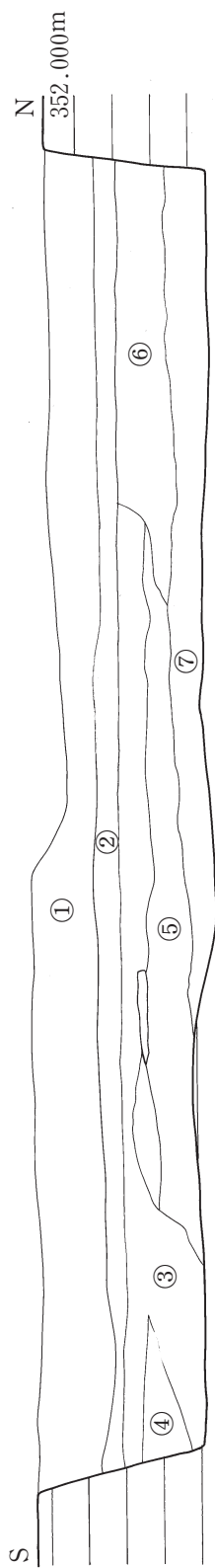
2トレンチ



- | | | |
|------------|-------------|-------|
| ①暗赤褐色土 | ⑤にぶい赤褐色土 | ⑨緑黒色土 |
| ②明赤褐色土 | ⑥灰褐色土 | |
| ③黄橙色 (花崗岩) | ⑦暗褐色土 | |
| ④黒褐色土 | ⑧極暗褐色土 (礫含) | |

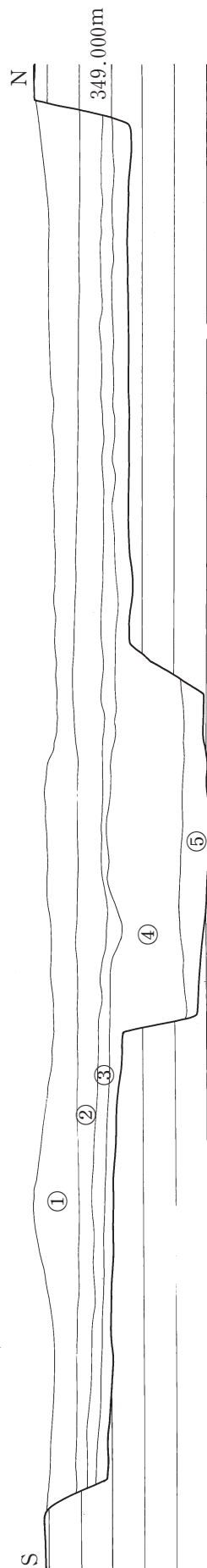


第52図 C地区4・5・6トレンチ (1/100) C地区2トレンチ主要部・土層 (1/40)



3 トレンチ

- ①赤褐色土
- ②褐灰色土
- ③褐色土
- ④にぶい橙色土
- ⑤橙色土 (礫合)
- ⑥明褐色土 (礫合)
- ⑦緑黒色土 (礫合)

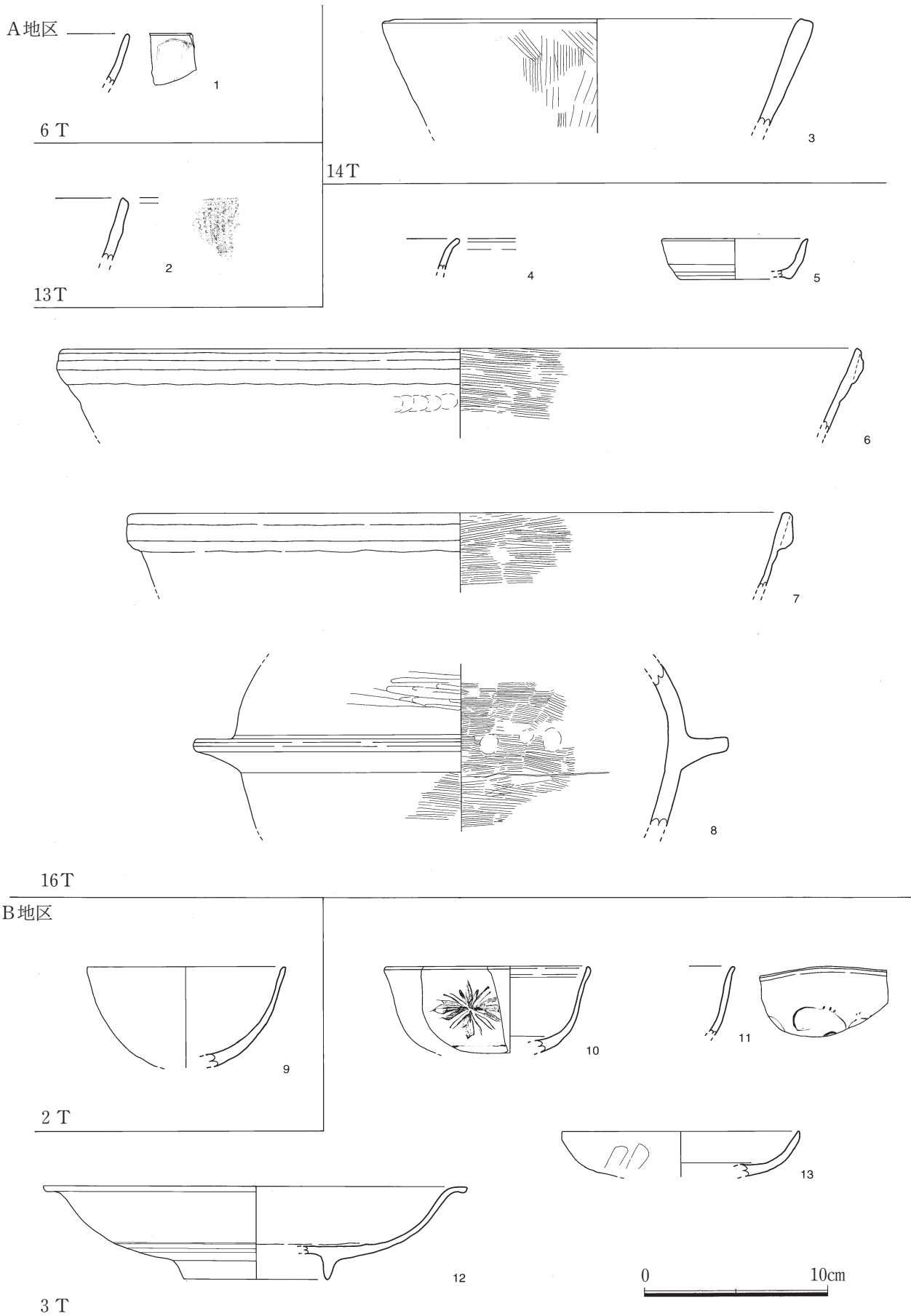


6 トレンチ

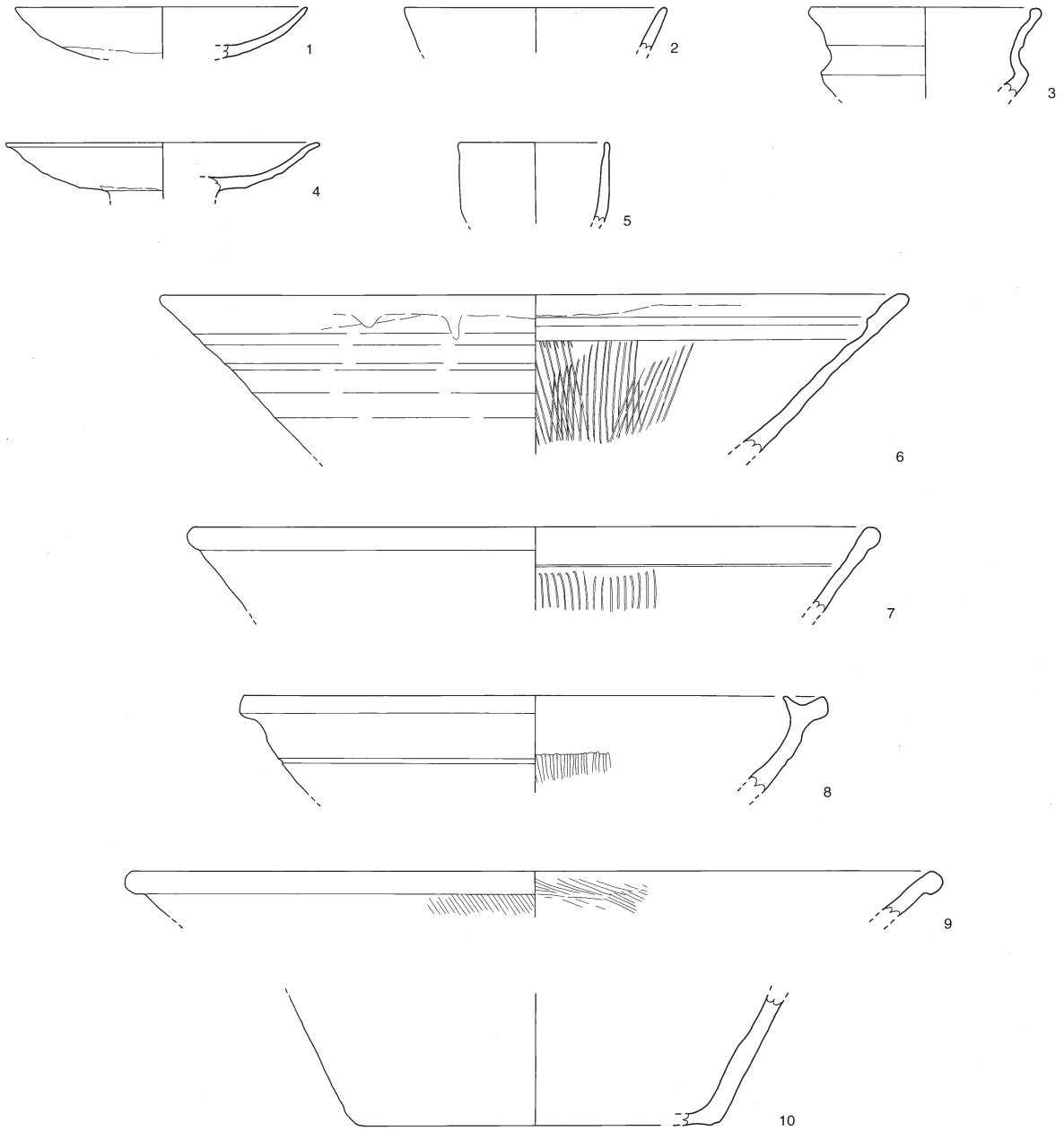
- ①赤褐色土
- ②褐灰色土
- ③明赤褐色土
- ④明褐色土 (礫合)
- ⑤緑黒色土 (礫合)



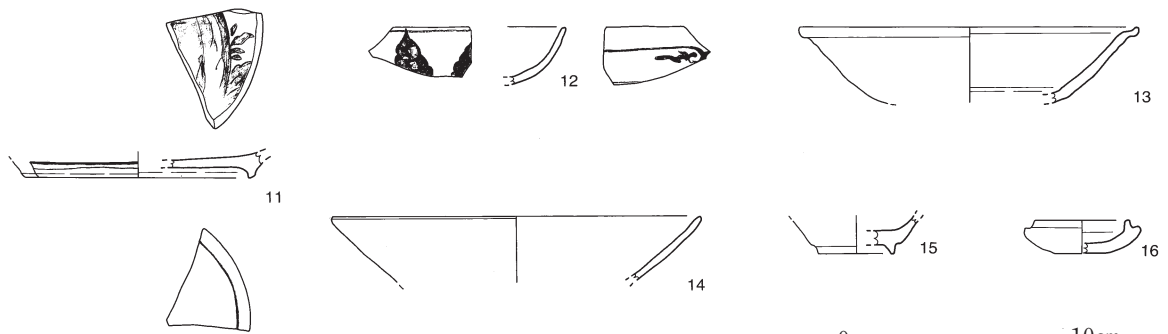
第53図 C地区3・6 トレンチ土層 (1/40)



第54図 A地区6・13・14・16トレンチ、B地区2・3トレンチ出土遺物（1／3）



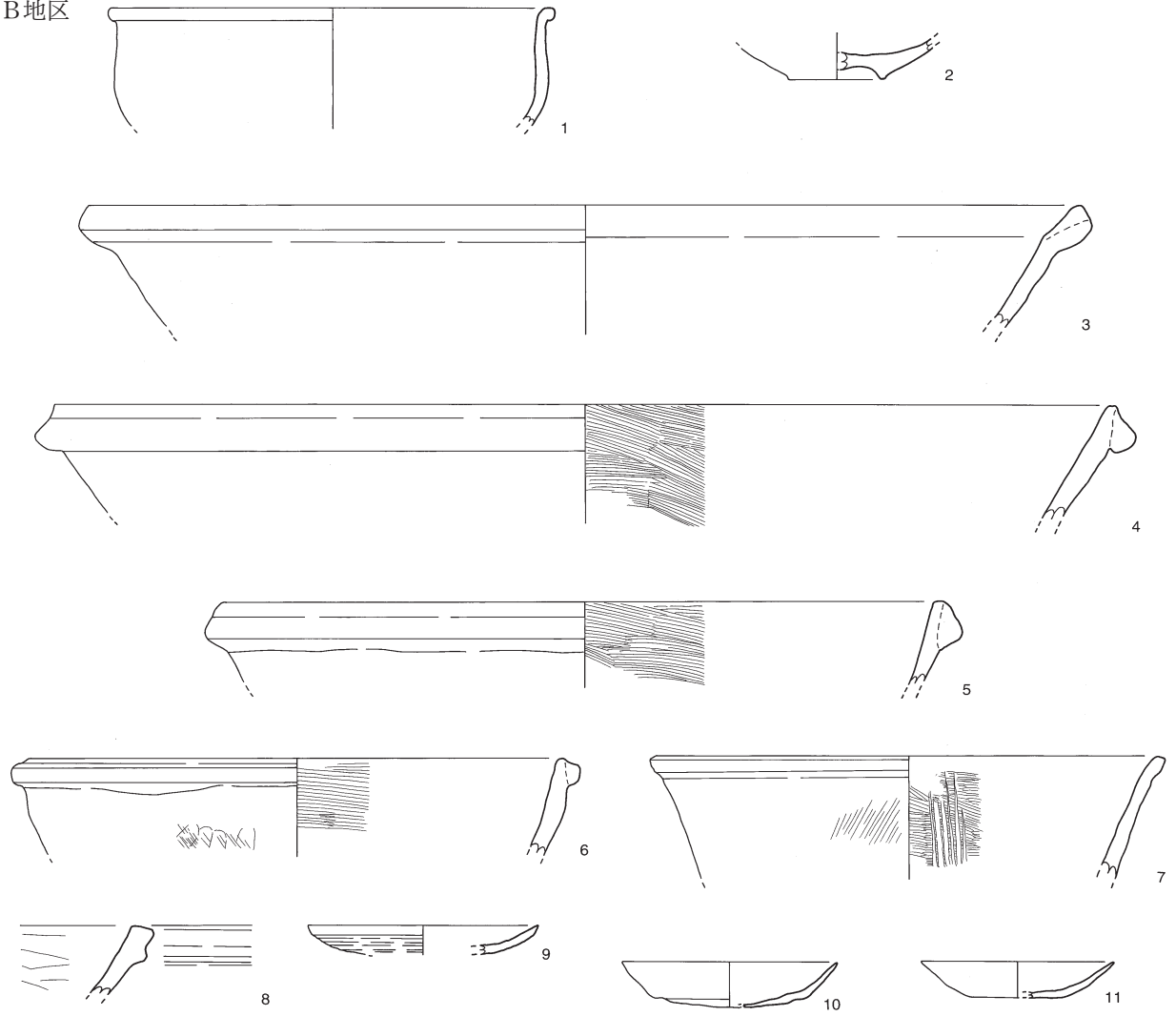
3 T



5 T

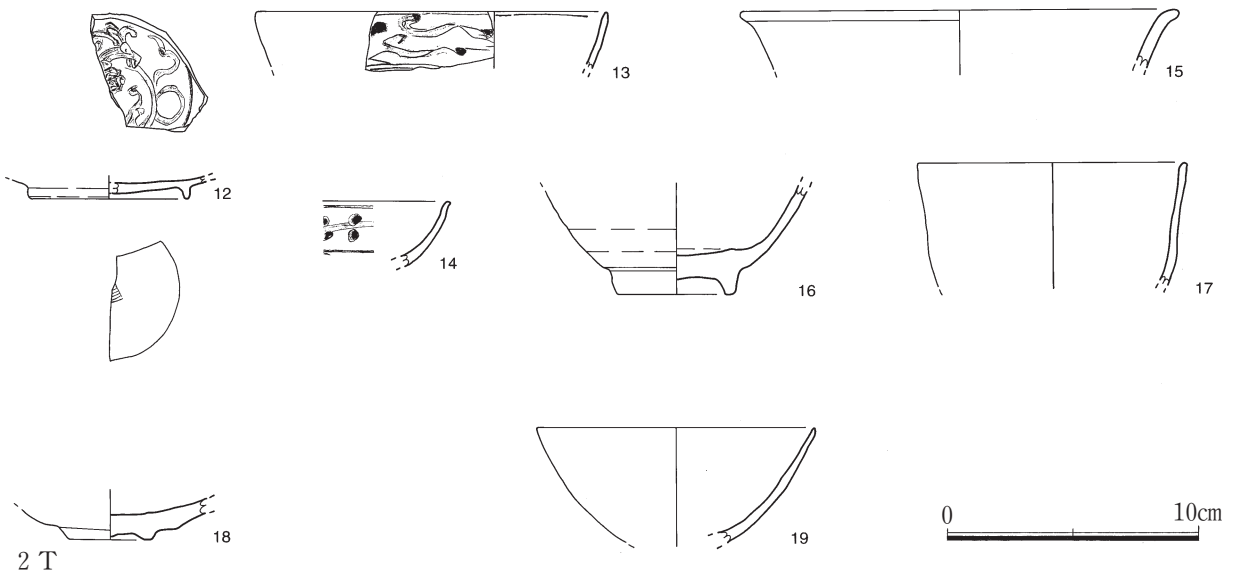
第55図 B地区3・5トレンチ出土遺物(1/3)

B地区



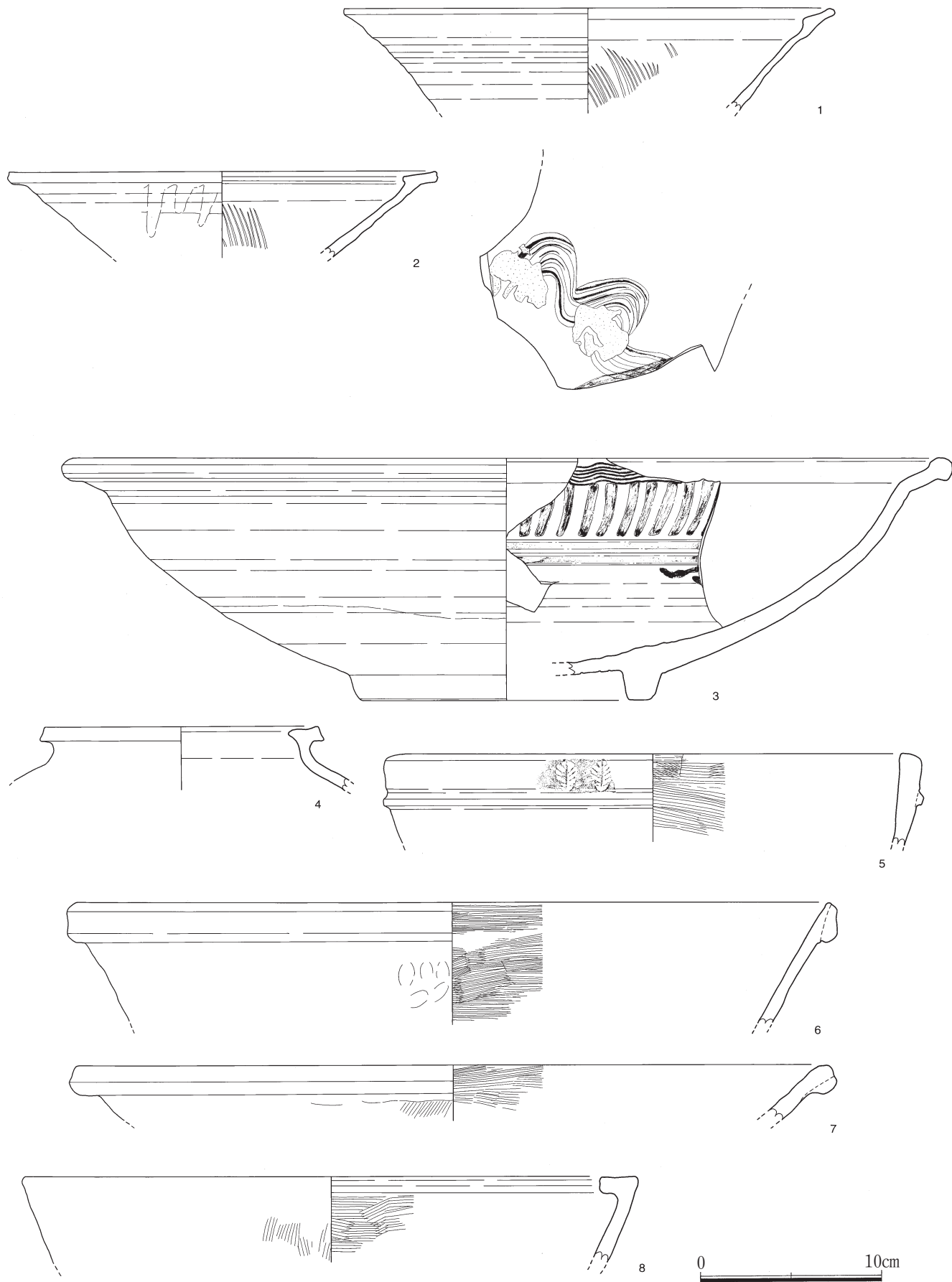
5 T

C地区

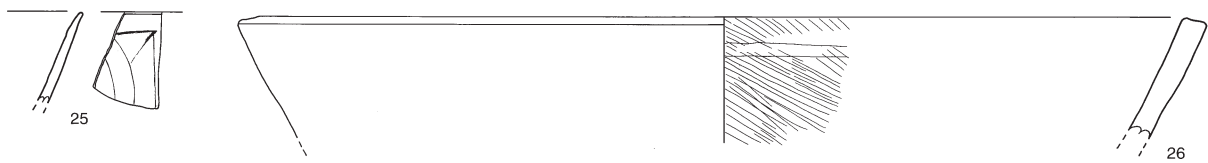
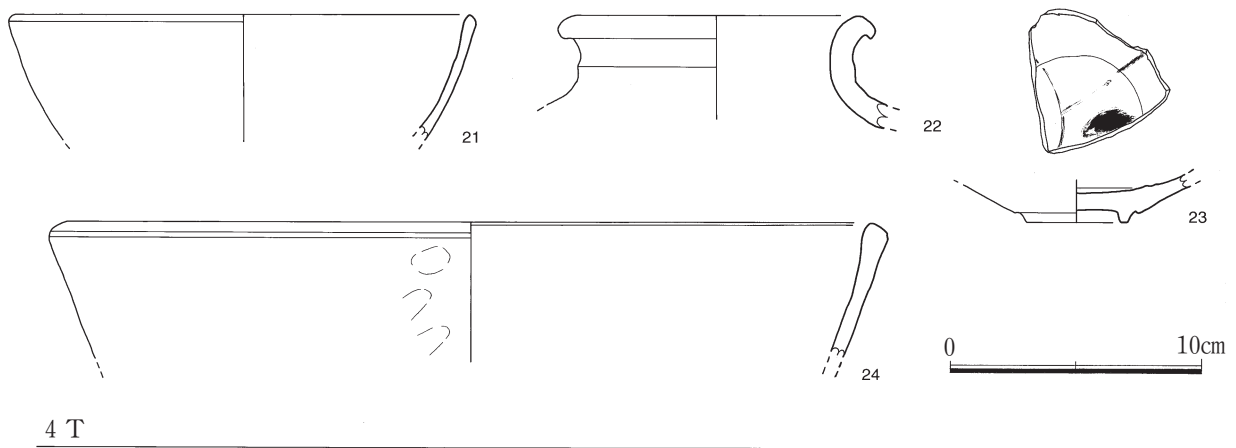
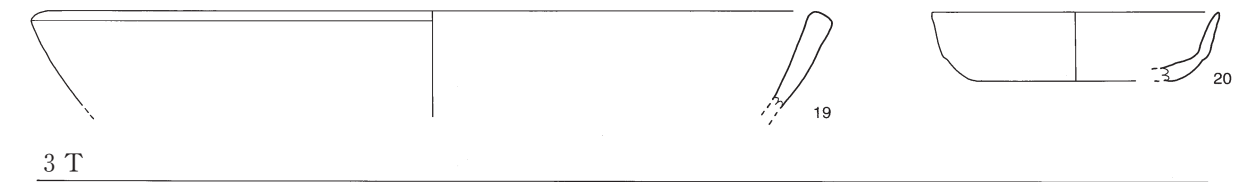
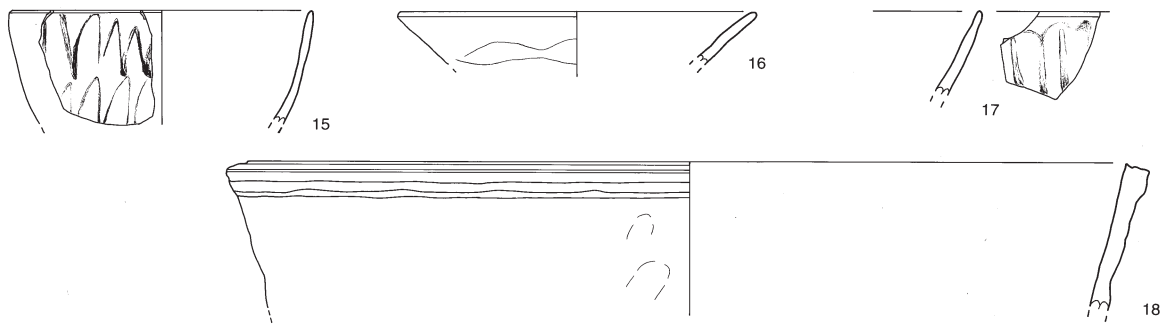
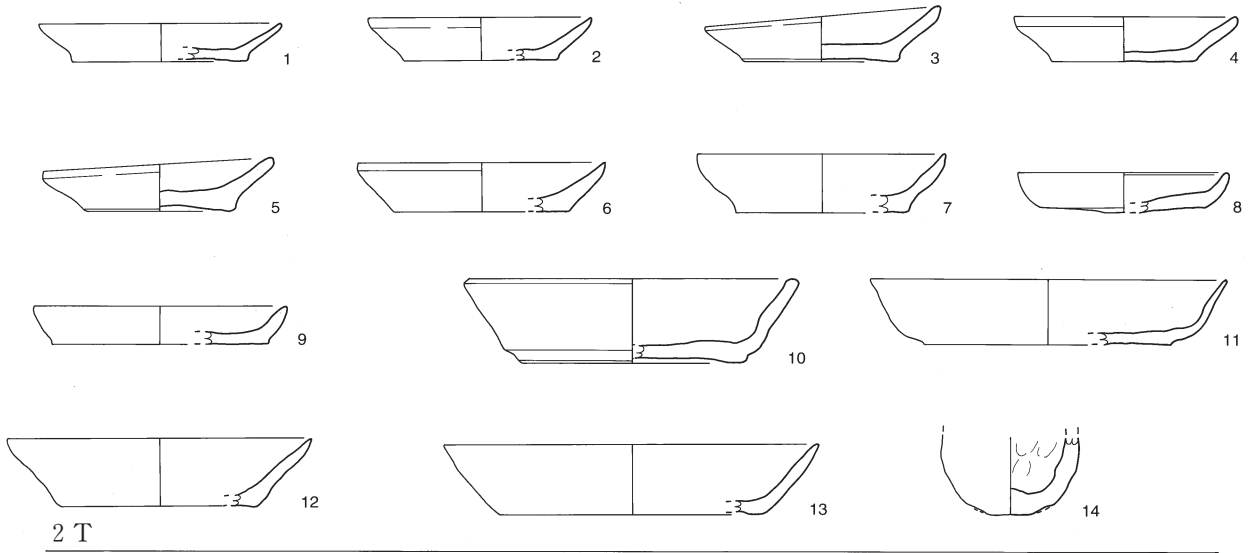


2 T

第56図 B地区5トレンチ、C地区2トレンチ出土遺物 (1/3)



第57図 C地区2トレンチ出土遺物(1/3)



第58図 C地区2・3・4・5トレンチ出土遺物(1/3)

表4 平成12年度トレンチ

面積：m²

地区	番号	挿図番号	面積	遺構	主な遺物	備考
A	1	第46図	14	—	—	大石埋没
A	2	第46図	11	—	—	大石埋没
A	3	第46図	8	—	—	—
A	4	第46図	10	—	—	—
A	5	第46図	10	—	—	—
A	6	第46図	9	—	磁器	大石埋没、青磁片混入
A	7	第46図	4	—	—	—
A	8	第46図	6	—	—	—
A	9	第46図	10	—	—	—
A	10	第46図	12	不明柱穴・土坑	—	—
A	11	第46図	13	—	—	—
A	12	第47図	20	—	—	—
A	13	第47図	9	—	陶器	—
A	14	第47図	9	—	瓦器	—
A	15	第47図	9	—	—	—
A	16	第48図	48	不明石積列・柱穴	磁器・瓦器・土師器	焼土、炭化物
A	17	第47図	12	—	—	—
A	18	第47図	10	—	—	石塔群（墓地）
A	19	第47図	3	—	—	—
A	20	第47図	3	—	—	—
B	1	第49図	13	—	—	—
B	2	第49図	13	—	陶器	—
B	3	第49図	15	不明段落ち	陶磁器・瓦器	—
B	4	第49図	8	不明段落ち	—	—
B	5	第50図	25	柱穴・土坑	陶磁器・瓦器・土師器	焼土、炭化物、江戸期の家屋敷跡と考えられる
B	6	第49図	10	不明柱穴	—	—
B	7	第49図	11	不明柱穴・土坑	—	—
B	8	第49図	9	—	—	—
B	9	第49図	13	不明柱穴	—	—
B	10	第49図	11	不明柱穴	—	—
C	1	第51図	29	—	—	—
C	2	第51・52図	22	柱穴	陶磁器・瓦器・土師器	焼土、炭化物、下層から中世前期の遺物出土
C	3	第51図	13	—	陶磁器・瓦器・土師器	—
C	4	第52図	16	—	陶磁器	大石埋没
C	5	第52図	14	—	磁器・瓦器	—
C	6	第52図	15	—	—	大石埋没

表5 平成12年度 出土遺物

番号 挿図	遺物	出土位置	種別	器種	法量			色調(文様)		技法・形態の特徴	備考	登録番号
					口径	底径	器高	外面	内面			
54	1	A 6 T	青磁	碗	—	—	<2.8>	オリーブ灰		—	龍泉15C中～16C初	050615
54	2	A 13 T	陶器	碗	—	—	<5.4>	灰褐		—	肥前17C後半	050616
54	3	A 14 T	瓦質土器	鉢	(23.4)	—	<5.7>	浅黄橙		外面ハケ、内面ナデ	—	050618
54	4	A 16 T	青磁	碗?	—	—	<1.7>	オリーブ黄		—	—	050620
54	5	A 16 T	土師器	皿	(8.0)	(6.0)	<2.2>	橙		内外面ヨコナデ	—	050619
54	6	A 16 T	瓦質土器	土鍋	(43.0)	—	<4.5>	にぶい橙		外面ナデ、内面ハケ	—	050622
54	7	A 16 T	瓦質土器	土鍋	(35.2)	—	<4.1>	灰褐		外面ナデ、内面ハケ	—	055623
54	8	A 16 T	瓦質土器	湯釜	—	—	<8.8>	黒褐	褐	内外面ハケ	—	05063
54	9	B 2 T	磁器	碗	(11.4)	—	<5.4>	暗緑	灰黄	—	17C末～18C	050625
54	10	B 3 T	染付	碗	(11.2)	—	<4.7>	花文	—	—	肥前19C	051041
54	11	B 3 T	染付	碗	—	—	<3.8>	草文?	—	—	—	051042
54	12	B 3 T	磁器	皿	(23.0)	(8.0)	5.0	黄褐		—	—	050628
54	13	B 3 T	染付	皿	(13.0)	—	<2.4>	—	圏線	—	肥前17C前半	050629
55	1	B 3 T	磁器	皿	(12.8)	—	<2.2>	灰白	オリーブ灰	—	17C末～18C中	050626
55	2	B 3 T	磁器	碗	(11.6)	—	<2.0>	暗緑		—	17C後半～18C前半	050636
55	3	B 3 T	磁器	香炉	(10.2)	—	<4.0>	オリーブ灰	灰	—	17C末～18C前半	050632
55	4	B 3 T	磁器	皿	(15.8)	—	<2.5>	灰黄褐		—	—	050627
55	5	B 3 T	磁器	碗	(6.6)	—	<3.5>	オリーブ		—	—	050631
55	6	B 3 T	陶器	搦鉢	(33.0)	—	<7.0>	赤褐		—	—	050635
55	7	B 3 T	陶器	搦鉢	(30.0)	—	<3.7>	赤褐		—	—	050634
55	8	B 3 T	陶器	搦鉢	(26.0)	—	<4.3>	赤褐		—	—	050637
55	9	B 3 T	瓦質土器	鉢	(36.0)	—	<2.0>	黒	にぶい橙	口縁ナデ、内外面ハケ	煤付着	050636
55	10	B 3 T	陶器	甕?	—	(16.0)	<5.5>	黒	暗赤褐	—	—	050633
55	11	B 5 T	染付	皿	—	(9.2)	<1.0>	—	—	見込山水	肥前17C後半	051044
55	12	B 5 T	染付	皿	—	—	<2.3>	—	—	蒟蒻印判	肥前17C末～18C初	051043
55	13	B 5 T	白磁	皿	(13.4)	—	<3.0>	明オリーブ灰		—	—	050640
55	14	B 5 T	白磁	碗	(14.6)	—	<2.6>	乳白		—	—	050641
55	15	B 5 T	白磁	小杯	—	(4.0)	<1.5>	乳白		—	肥前17C後半	050643
55	16	B 5 T	白磁	合子?	(3.8)	(2.0)	1.3	乳白		—	—	050644
56	1	B 5 T	磁器	碗	(18.6)	—	<4.9>	オリーブ		刷毛目	肥前17C末～18C前半	050637
56	2	B 5 T	陶器	皿	—	(4.0)	<1.2>	オリーブ灰		刷毛目	—	050642
56	3	B 5 T	陶器	鉢	(41.0)	—	<5.0>	オリーブ褐	灰	施釉	肥前18C代	050638
56	4	B 5 T	瓦質土器	鉢	(44.0)	—	<1.5>	にぶい橙		外面ナデ、内面ハケ	—	050648
56	5	B 5 T	瓦質土器	鉢	(30.0)	—	<3.4>	にぶい橙		外面ナデ、内面ハケ	—	050649
56	6	B 5 T	瓦質土器	鉢	(22.2)	—	<4.0>	にぶい橙		外面ナデ、ハケ、 内面ハケ	—	050650
56	7	B 5 T	瓦質土器	搦鉢	(21.4)	—	<5.0>	黒褐		内面ハケ後線刻	—	050651
56	8	B 5 T	瓦質土器	鉢	—	—	<2.9>	暗褐		内外面ナデ	—	050652
56	9	B 5 T	土師器	皿	(8.0)	—	<1.2>	にぶい橙		内外面ヨコナデ	—	050645
56	10	B 5 T	土師器	皿	(9.0)	(6.0)	1.4	浅黄橙		底部糸切	—	050647
56	11	B 5 T	土師器	皿	(8.0)	(3.6)	1.5	にぶい橙		底部糸切	—	050646
56	12	C 2 T	青花	皿	—	(6.4)	<0.9>	—	—	見込龍	景德鎮16C後半	051045
56	13	C 2 T	染付	碗	(14.0)	—	<2.2>	雲	圏線	—	肥前17C後半	051046
56	14	C 2 T	染付	碗	—	—	<2.5>	圏線	—	—	—	050658

番号		出土位置	種別	器種	法量			色調(文様)		技法・形態の特徴	備考	登録番号
挿図	遺物				口径	底径	器高	外面	内面			
56	15	C 2 T	青磁	碗	(17.4)	—	<2.3>	淡緑	暗緑	端反り	龍泉14C後半 ~15C中	050657
56	16	C 2 T	陶器	碗	—	(4.6)	<4.3>	灰		—	肥前17C後半	050656
56	17	C 2 T	陶器	碗	(10.6)	—	<4.9>	灰白		—	肥前17C代	050654
56	18	C 2 T	陶器	碗	—	(3.2)	<1.6>	灰白		—	—	050655
56	19	C 2 T	白磁	碗	(11.0)	—	<4.5>	乳白		—	—	050653
57	1	C 2 T	陶器	播鉢	(27.0)	—	<5.7>	赤褐		口縁施釉	—	050661
57	2	C 2 T	陶器	播鉢	(23.6)	—	<4.7>	赤褐		口縁施釉	—	050662
57	3	C 2 T	陶器	皿	(49.0)	(16.2)	13.3	灰白釉	赤褐	二彩	肥前17C後半	050681
57	4	C 2 T	陶器	壺	(15.0)	—	<3.6>	灰褐		—	—	050660
57	5	C 2 T	瓦質土器	火舎	(29.6)	—	<4.9>	褐灰		—	—	050666
57	6	C 2 T	瓦質土器	鍋	(41.6)	—	<6.5>	にぶい橙		外面ナデ、内面ハケ	煤付着	050663
57	7	C 2 T	瓦質土器	鍋	(41.4)	—	<3.0>	にぶい橙		外面ナデ、内面ハケ	煤付着	050664
57	8	C 2 T	瓦質土器	鍋	(33.8)	—	<4.7>	黒褐		外面ナデ、ハケ、 内面ハケ	—	050665
58	1	C 2 T	土師器	皿	(9.6)	(6.8)	2.3	にぶい橙		底部糸切	—	050668
58	2	C 2 T	土師器	皿	(8.8)	(6.0)	1.7	暗褐		底部糸切	—	050671
58	3	C 2 T	土師器	皿	9.3	6.2	1.8	にぶい黄橙		底部糸切	—	050675
58	4	C 2 T	土師器	皿	8.7	5.6	1.8	にぶい黄橙		—	—	050676
58	5	C 2 T	土師器	皿	9.1	6.0	1.9	にぶい黄橙		底部糸切	—	050677
58	6	C 2 T	土師器	皿	(9.8)	(7.0)	1.9	にぶい褐		底部糸切	—	050672
58	7	C 2 T	土師器	皿	(9.8)	(6.8)	2.3	にぶい橙		—	—	050669
58	8	C 2 T	土師器	皿	(8.4)	(6.6)	1.6	にぶい黄橙		底部糸切	—	050680
58	9	C 2 T	土師器	皿	(10.0)	(8.6)	2.0	にぶい黄橙		底部糸切	—	050679
58	10	C 2 T	土師器	皿	(13.2)	(9.0)	3.3	にぶい黄橙		底部糸切	—	050678
58	11	C 2 T	土師器	皿	(14.2)	7.2	9.8	にぶい橙		底部糸切	—	050674
58	12	C 2 T	土師器	皿	(12.0)	(7.8)	2.7	にぶい橙		—	—	050667
58	13	C 2 T	土師器	皿	(14.8)	(10.4)	2.8	にぶい橙		—	—	050670
58	14	C 2 T	土師器	不明	—	—	<3.1>	浅黄橙		手ずくね	—	050673
58	15	C 3 T	染付	碗	(12.0)	—	<4.5>	—	—	—	—	050688
58	16	C 3 T	陶器	碗?	(14.0)	—	<2.1>	灰褐		—	—	050686
58	17	C 3 T	青磁	碗	—	—	<3.3>	オリーブ灰		—	—	050687
58	18	C 3 T	瓦質土器	鍋	(34.6)	—	<5.8>	黒褐	にぶい褐	—	煤付着	050683
58	19	C 3 T	瓦質土器	鉢	(33.2)	—	<3.7>	褐灰		内外面ナデ	—	050682
58	20	C 3 T	土師器	皿	(11.4)	(8.0)	2.7	褐灰		—	—	050685
58	21	C 4 T	青磁	碗	(12.4)	—	<5.0>	オリーブ灰		—	—	050639
58	22	C 4 T	陶器	壺	(11.2)	—	<4.4>	赤灰		—	—	050692
58	23	C 4 T	陶器	碗	—	(4.0)	<1.9>	黄褐	にぶい褐	—	—	050691
58	24	C 4 T	陶器	鉢	(31.8)	—	<5.3>	黒褐		—	—	050690
58	25	C 5 T	青磁	碗	—	—	<3.6>	オリーブ黄		—	—	050694
58	26	C 5 T	瓦質土器	鉢	(36.6)	—	<4.7>	にぶい黄橙		—	—	050693

1. A地区16トレンチ



2. A地区16トレンチ石積みの状態



3. A地区16トレンチ石積みの状態





1. A地区16トレンチ石積みの状態



2. A地区19・20トレンチ地点(墓石列)



3. A地区19・20トレンチ地点墓石の状態

1. B地区5トレンチ



2. B地区5トレンチ焼土・
土坑検出状態



3. B地区5トレンチ遺物出土
状態





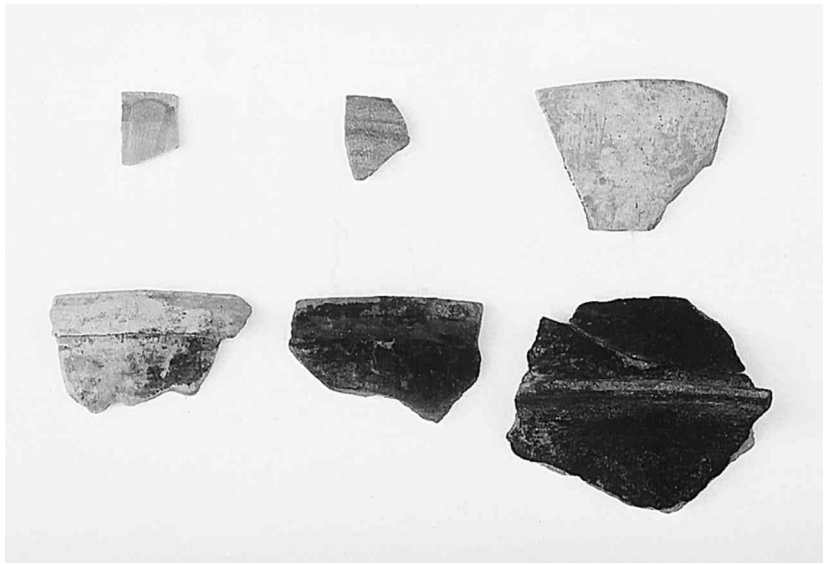
1. C地区2トレンチ



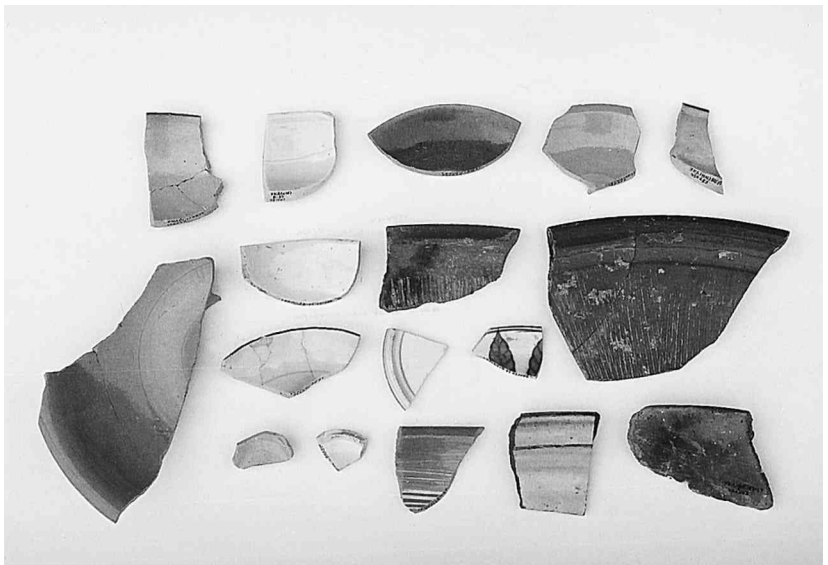
2. C地区2トレンチ柱穴並びに下層の状態



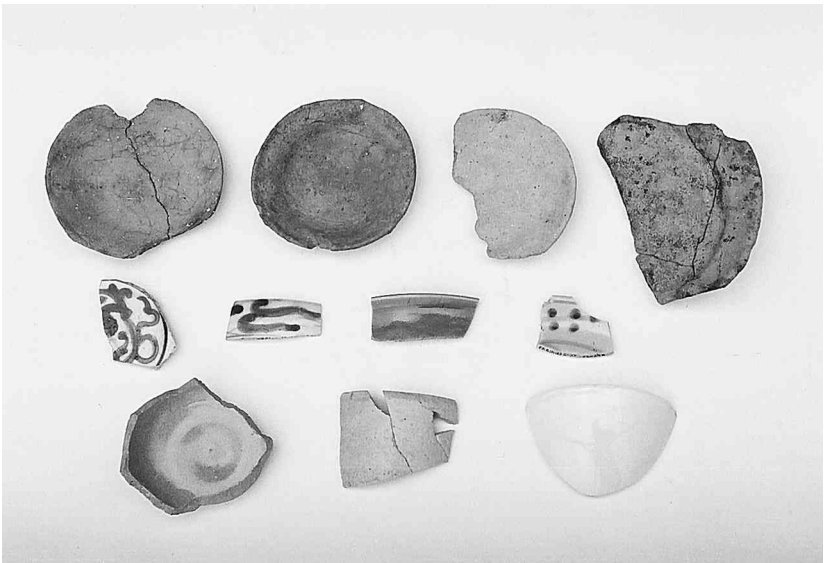
3. C地区2トレンチ炭化物出土状態



1. A地区出土遺物



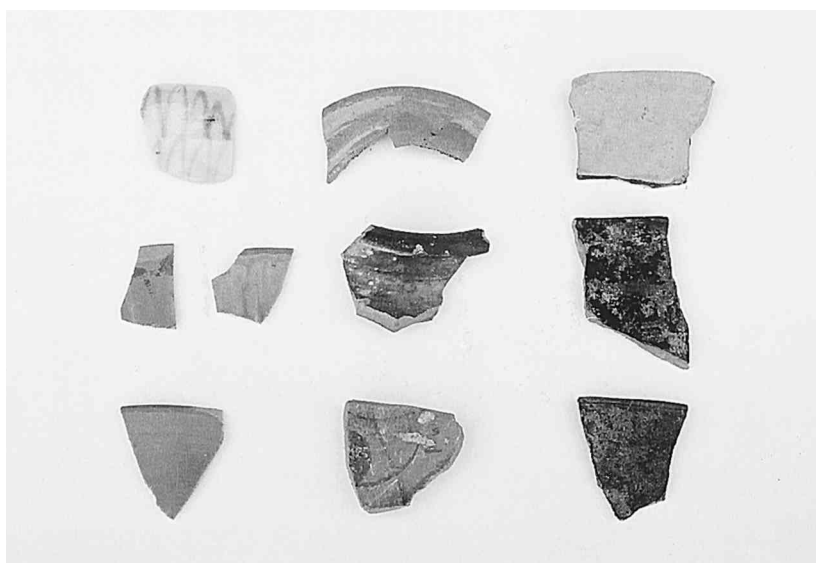
2. B地区出土遺物



3. C地区2トレンチ出土遺物



1. C地区2トレンチ出土遺物



2. C地区3・4・5トレンチ
出土遺物

Ⅲ. 平成13年度の調査

III. 平成13年度の調査

5つの支城のうち、その所在地が確定していない若山砦の場所の確定を主な目的とし、鬼ヶ城の北側と南東側山麓および勝尾城の南西側山麓に所在している平坦部の状況を見るため調査を実施した。

今回の調査を行う以前、若山砦の位置は四阿屋川を挟んで高取城の北側対岸に位置し、(伝)全慶寺跡北側で山稜平坦部を有するB地区を想定していたため、B地区から調査を開始したが、遺構は確認できず次の調査地区であるA地区で確認した。A地区で若山砦の山城の遺構を確認した。その後、比較的大きな平坦部があるC～E地区の調査を実施した。

【A地区】

当初若山砦と想定していた場所が若山砦ではなかったため、四阿屋神社の北西側、「(伝)大手口」の北側山稜部に位置する地区にも大きな平坦部があったので、17本のトレンチを設定して調査を行った。

その結果、2 Tでは、北西から南東に延びる山稜部の基部を幅約8 m、深さ約2～3 m、底部に鞍部を持つ堀切で断ち切り、そこに帯状に5つの曲輪を確認した。堀切の西側の曲輪Ⅰが一番高く、長さ約12 m、幅約9 mを測る。曲輪Ⅰの南東側に曲輪Ⅱ～曲輪Ⅳが徐々に低くなりながら切岸で続き、南西側斜面には腰曲輪が認められる。曲輪Ⅱが長さ約7 m、幅約11 m、曲輪Ⅲが長さ約12 m、幅9 m、曲輪Ⅳが長さ約15 m、幅約9 mをそれぞれ測る。曲輪Ⅳの南側には一段高い長さ約16 m、幅約9 mの曲輪Ⅴが続き平坦部を終えている。曲輪Ⅱと曲輪Ⅲとの間には通路となる坂を確認し、曲輪Ⅴの先端から南へ落ちている斜面には土留めとなる石積みが認められた。

また、曲輪部分に設定したトレンチでは、切土、盛土によって曲輪の平坦面を造り出していて、東側の斜面に設定した5 T・6 Tでも造作が加えられていることが確認できた。

出土遺物は比較的少なく、堀切と曲輪部分に設定したトレンチから青磁、白磁、青花、土師器などが出土した。その中で、堀切部分の2 T、曲輪Ⅱに設定した4 Tは遺物が多い。なお、4 Tから播鉢、10 Tから砥石が出土していて、出土遺物はいずれも戦国期(16世紀代)のものであった。

調査結果とこの場所が「勝尾山筑紫広門公城跡之図」(福岡市博物館蔵)の絵図とも符合することからここが若山砦であると判断した。

【B地区】

平坦部に10本のトレンチを設定し調査を実施した。その結果、曲輪、堀切といった遺構は検出されなかった。鞍部の2 Tから須恵器の横瓶が出土している。調査地区中央やや南側の比較的大きな平坦部に設定した7 Tからは土師器の鉢片と須恵器片出土し、焼成跡の残る小穴が確認できた。他のトレンチでは遺構は確認できず、出土遺物もないかごく小さな土器片がわずかに出土しただけであった。したがって、B地区が中世の山城とは考えにくく、山岳祭祀にかかわる場所である可能性が高いと判断した。

【C地区】

今回の調査で確認された若山砦の北東側直下の谷部にもいくつかの平坦面があり、そこをC地区とし11本のトレンチを設定して調査を実施した。その結果、4 Tでは2、3段の石積みを4 Tと7 Tでは直径約30 cmの柱穴とみられる小穴を検出した。また、5 T部分は深さ2 m以上の流路もしくは溝が確認された。

出土遺物は少なかったが、平坦面に設定したトレンチから青磁、白磁、青花、土師器などの戦国期（16世紀代）の遺物が出土している。

このことから判断してC地区は屋敷地である可能性が高く、すぐ西側で確認された若山砦との関係が今後問題となってくると思われる。また、若山砦へと続く登城道が不明である。

【D地区】

鬼ヶ城の南東側山麓にみられる平坦部のある地区で、3本のトレンチを設定し調査を行ったが、いずれも遺構・遺物は確認されなかった。

【E地区】

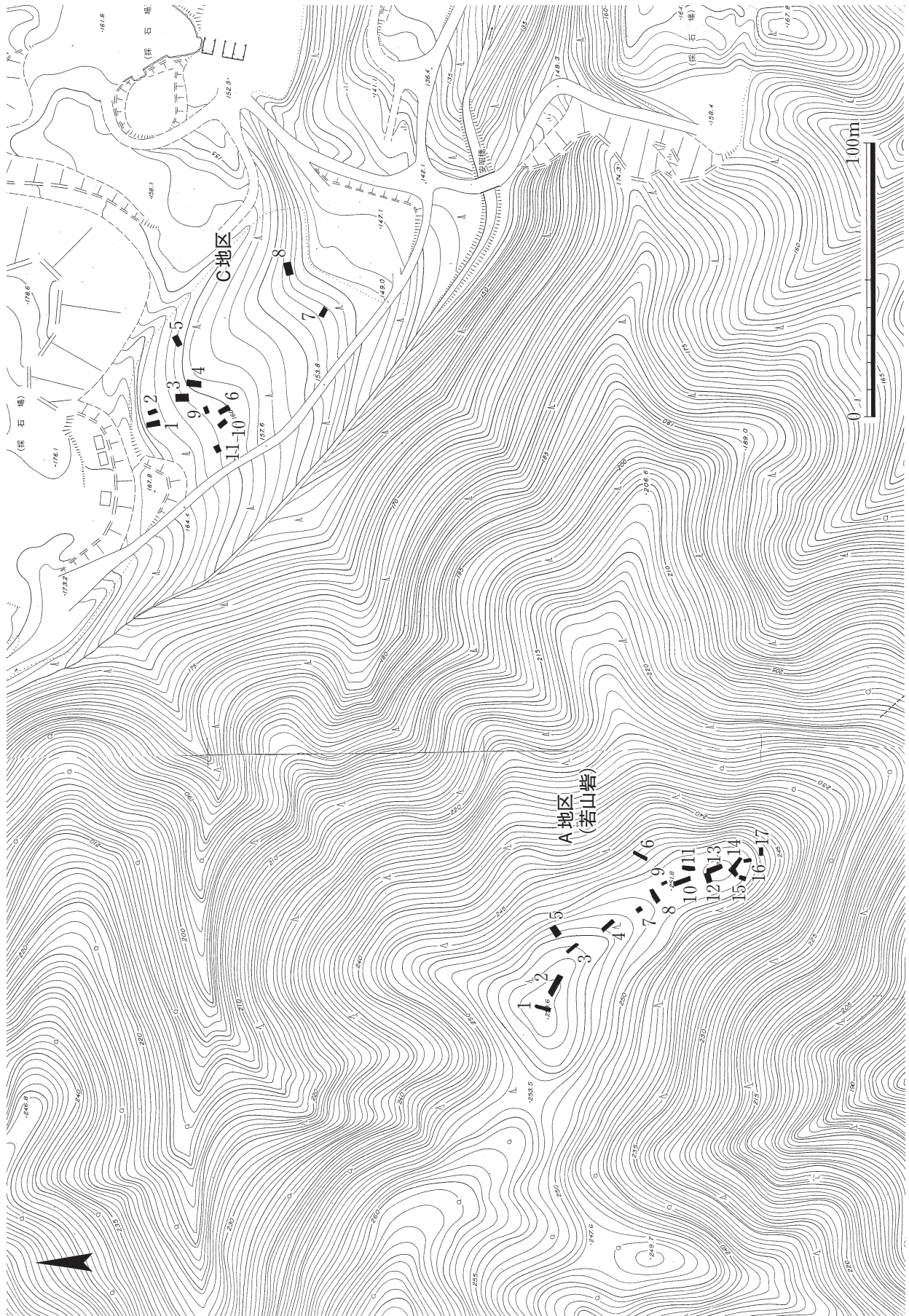
勝尾城の南側、筑紫神社の北側に平坦部があり、林道の工事に先立ち谷部と平坦部に7本のトレンチを設定して調査を行った。

調査の結果、空堀、屋敷地などの遺構は確認されず、遺物も出土しなかった。

小結

勝尾城の防御を考えると先に想定していたB地区に若山砦が所在しているより確認されたA地区に所在している方が、総構えの空堀、葛籠城—鏡城、空堀、高取城—若山砦、空堀といったように谷部の空堀と山城が対比するように配されていることが明確となり、合理的に整備された形と思える。

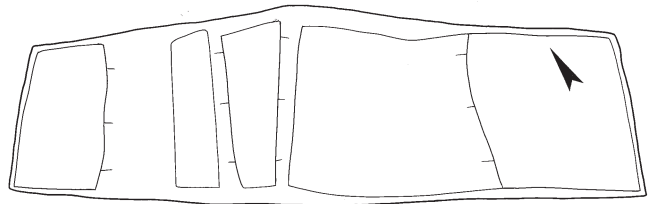
また、今回の調査では若山砦へ通じる登城道を確認できていないことやC地区にも屋敷地が確認されたことから若山砦を含めた各山城と屋敷地との関係などを今後検討する必要がある。



第59図 平成13年度調査A・C地区トレンチ位置図 (1/2,000)



1 トレンチ

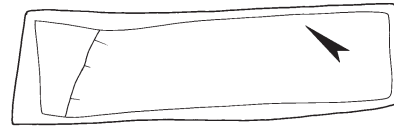


2 トレンチ

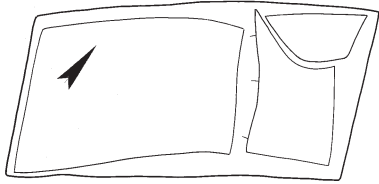
▲ 土層図



3 トレンチ



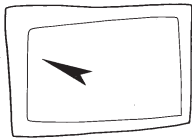
4 トレンチ



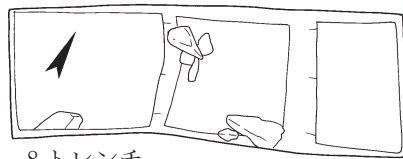
5 トレンチ



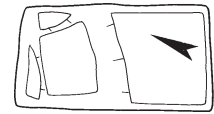
6 トレンチ



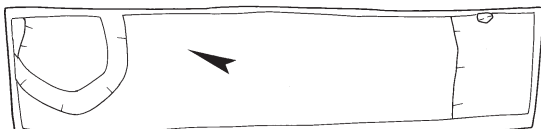
7 トレンチ



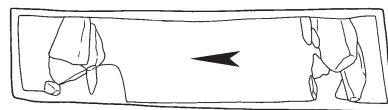
8 トレンチ



9 トレンチ



10 トレンチ

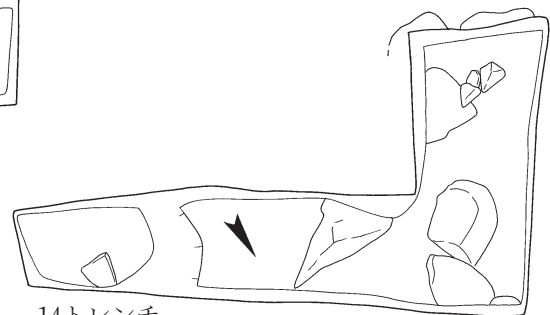


11 トレンチ



12 トレンチ

13 トレンチ



14 トレンチ



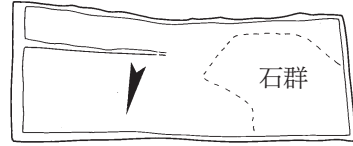
第60図 A地区 1・2・3・4・5・6・7・8・9・10・11・12・13・14 トレンチ (1/100)



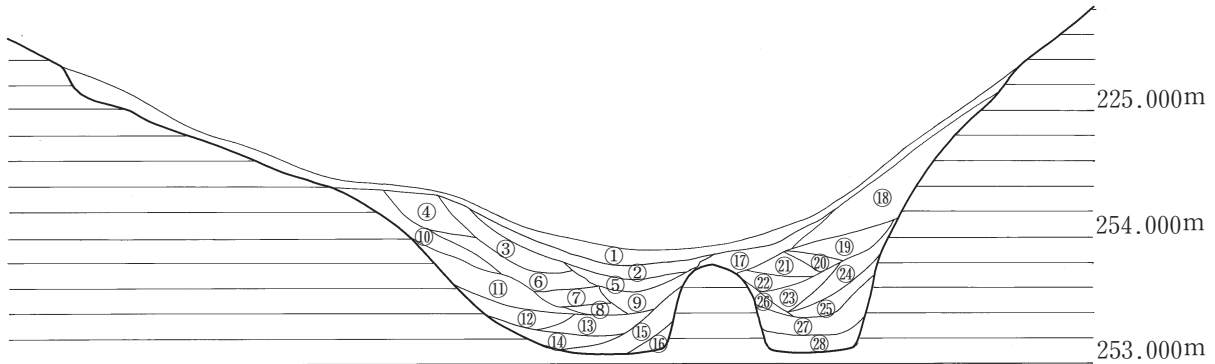
15トレンチ



16トレンチ

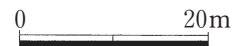
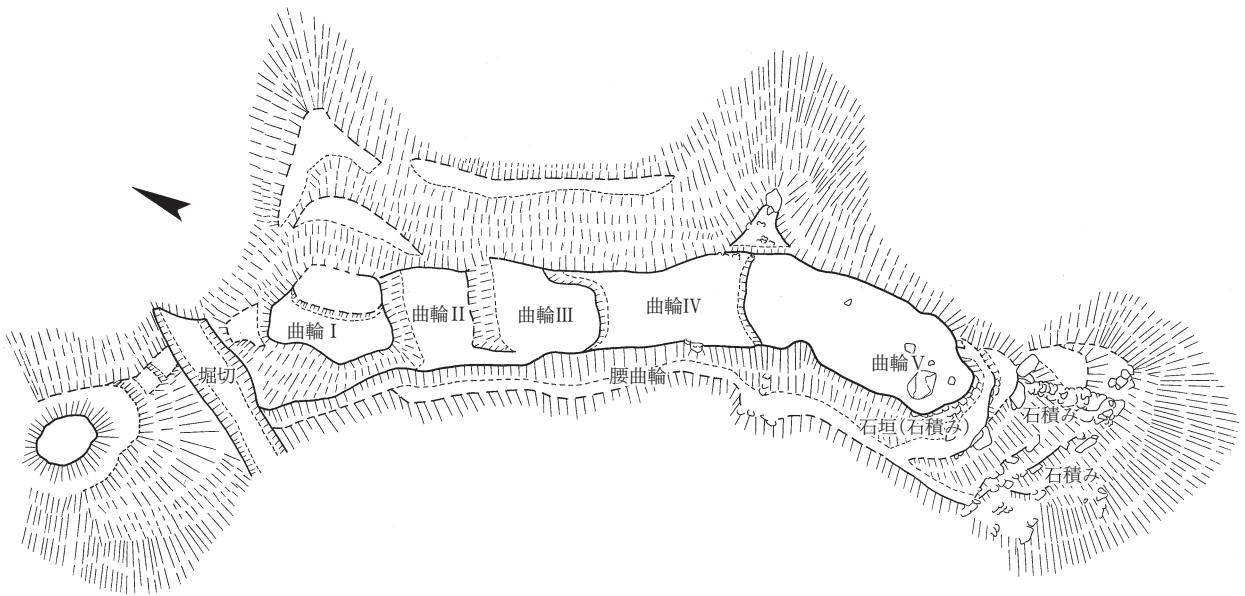


17トレンチ

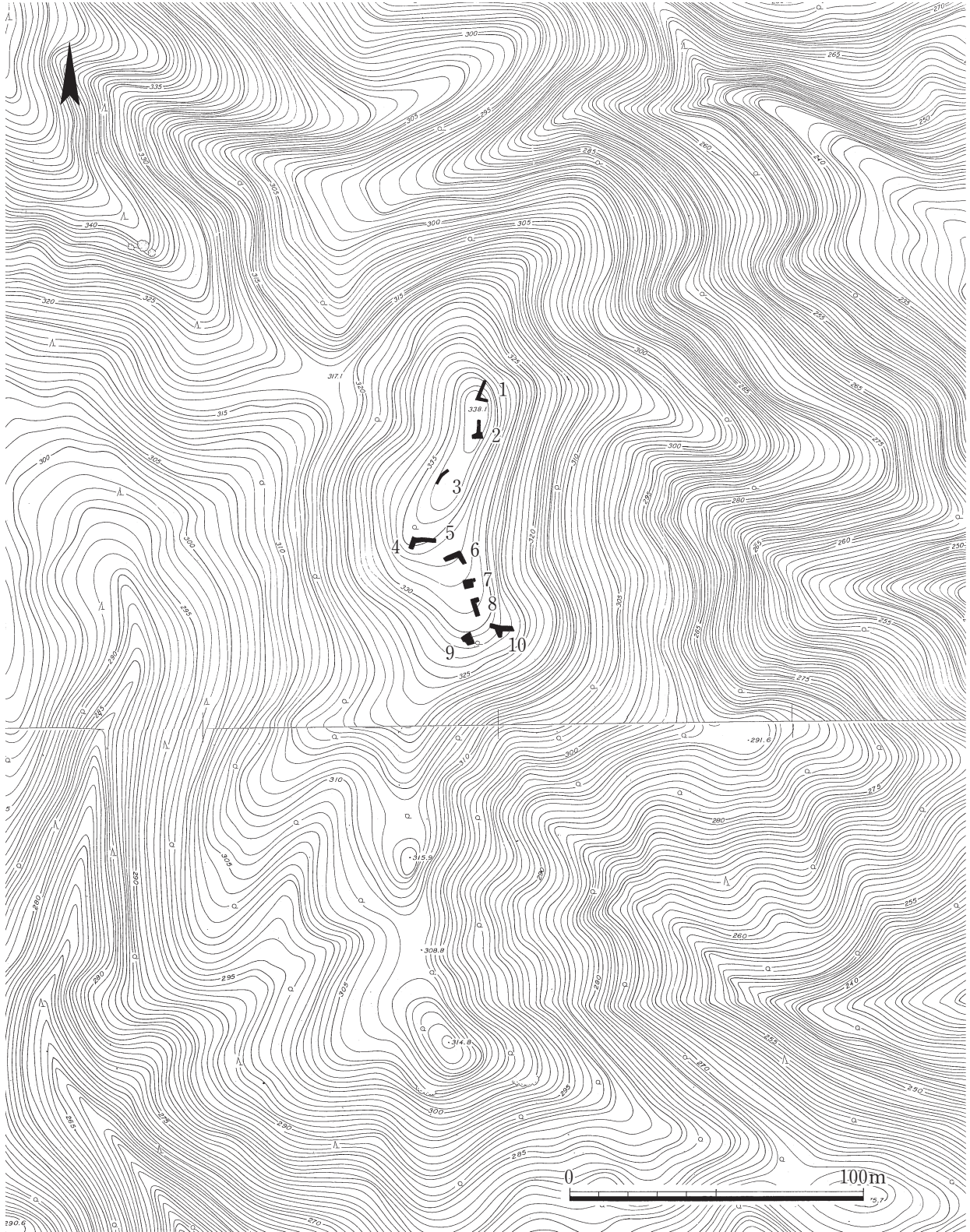


- | | | | |
|--------------|--------------|--------------|--------------|
| ① 黒色腐養土 (表土) | ⑧ 灰褐色砂 | ⑮ 灰白色砂 | ⑳ 褐色砂 |
| ② 暗灰褐色腐養土 | ⑨ 褐色砂 | ⑯ 明黄灰色砂 | ㉑ 黄灰色砂 |
| ③ 灰褐色砂質土 | ⑩ 黄褐色砂質土 | ⑰ 暗褐色砂質土 | ㉒ 明黄褐色砂 |
| ④ 褐色砂質土 | ⑪ 灰黄色砂 | ⑱ 褐色砂質土 | ㉓ 明褐色砂 |
| ⑤ 褐色土 | ⑫ 暗灰褐色砂 | ⑲ 褐色砂 | ㉔ 黄褐色砂 |
| ⑥ 暗黄褐色砂 | ⑬ 明褐色砂 (細かい) | ㉕ 淡黄褐色砂 (粗い) | ㉗ 白黄色砂 (細かい) |
| ⑦ 黄褐色砂 | ⑭ 明灰褐色砂 | ㉖ // (細かい) | ㉘ // (粗い) |

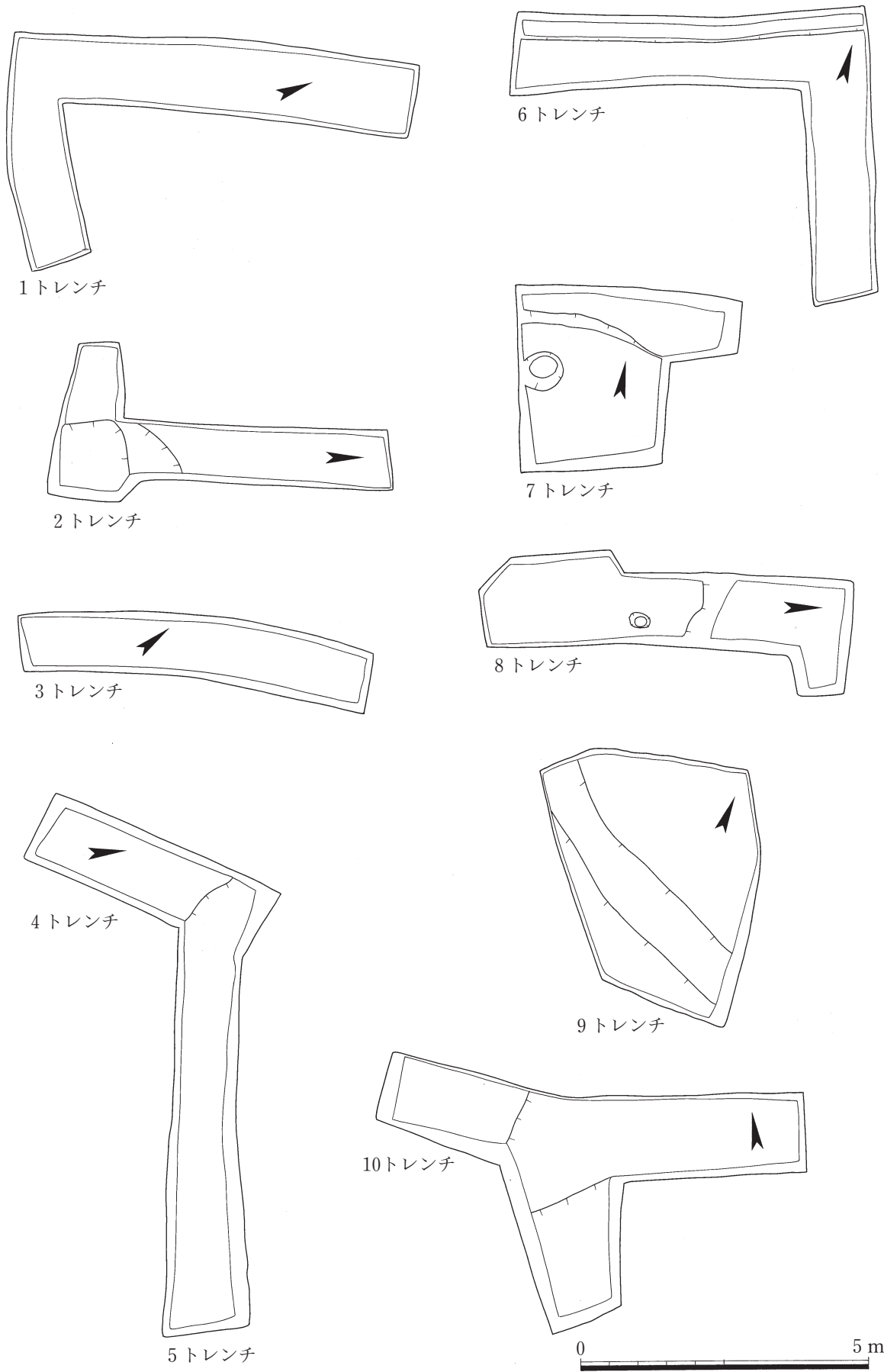
2トレンチ



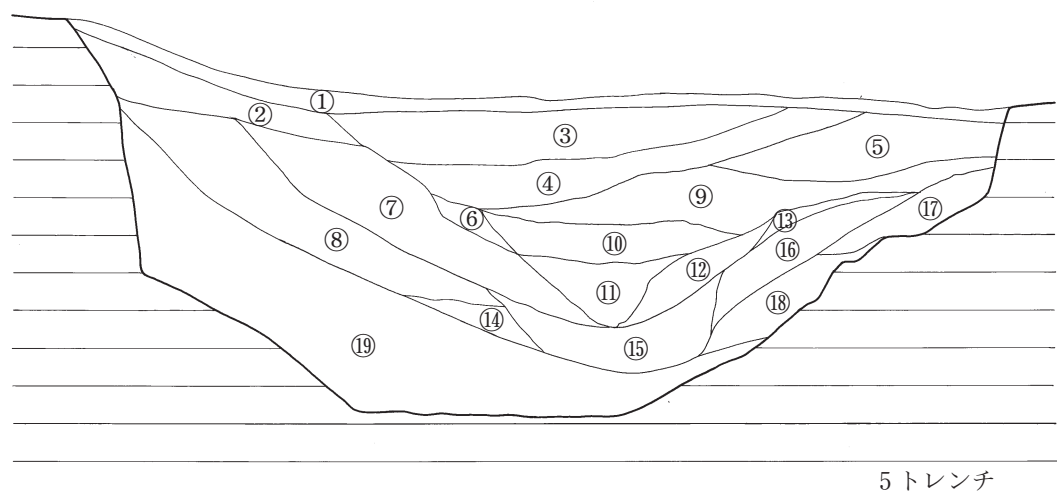
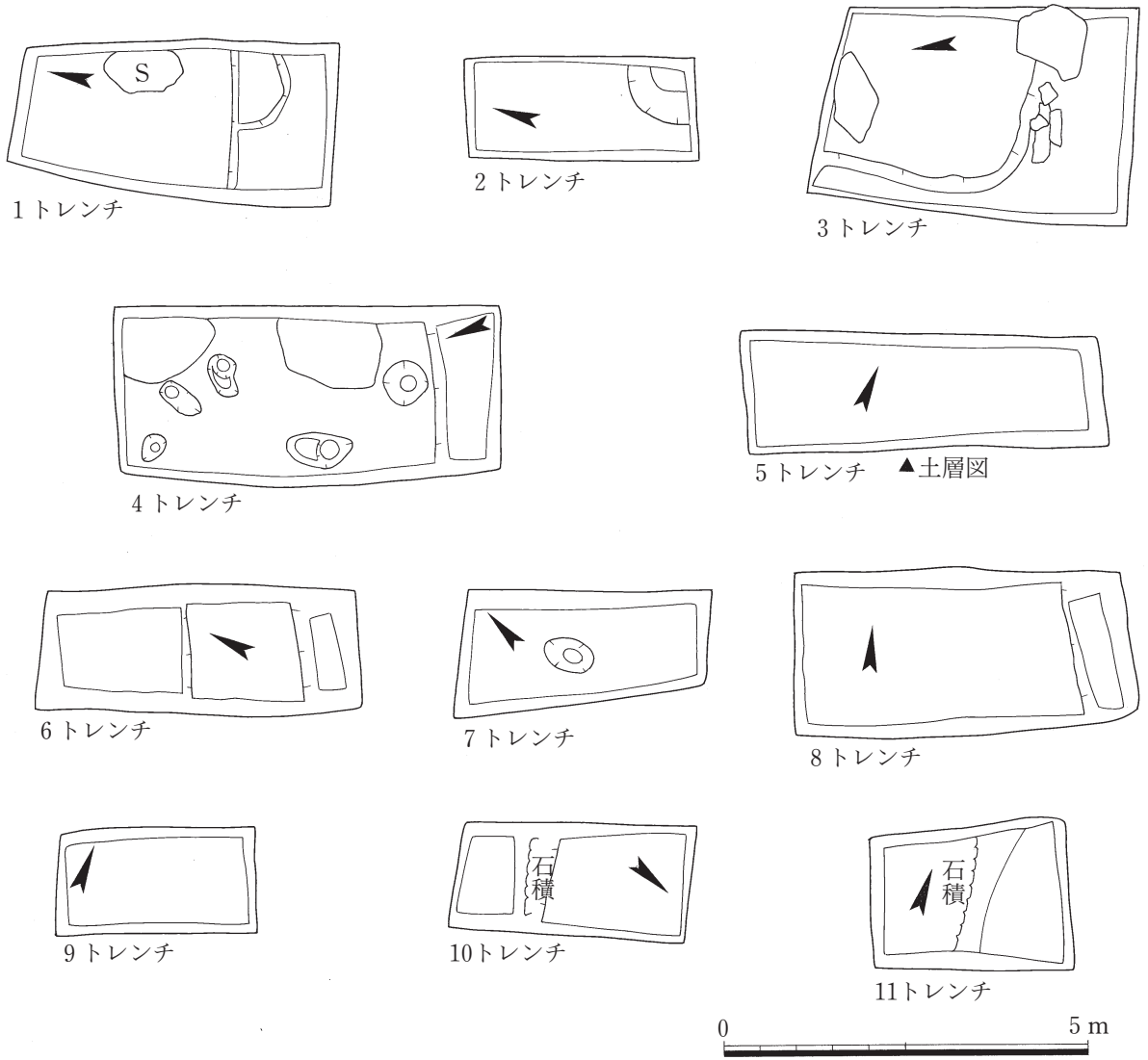
第61図 A地区15・16・17トレンチ (1/100) A地区2トレンチ土層 (1/40) 若山砦縄張図 (1/800)



第62図 平成13年度調査B地区トレンチ位置図 (1 / 2,000)

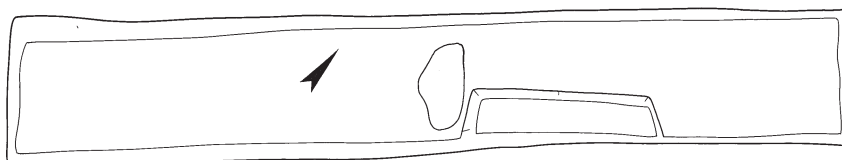
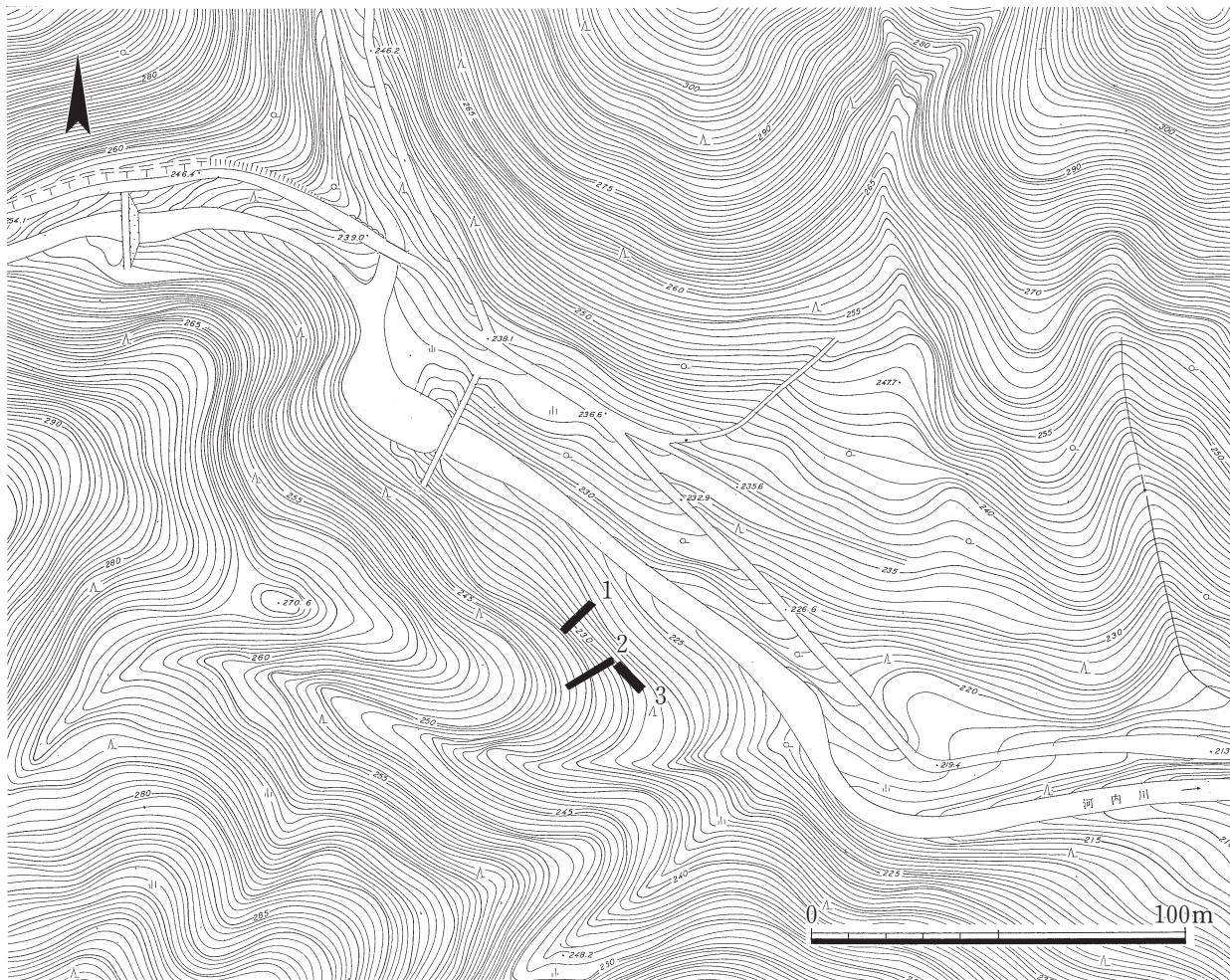


第63図 B地区1・2・3・4・5・6・7・8・9・10トレンチ (1/100)

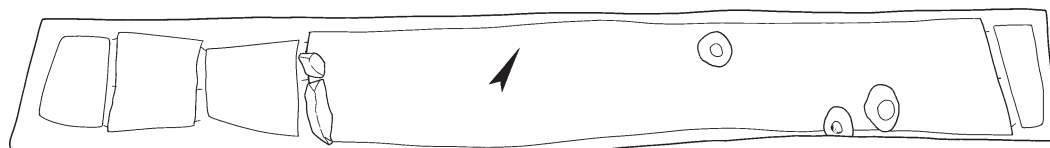


- | | | | |
|---------------|-----------------|---------|---------------|
| ① 黒色土 | ⑥ 暗黄褐色土 | ⑪ 褐色砂 | ⑫ 暗褐色土 |
| ② 暗灰褐色土 | ⑦ 暗褐色土 | ⑬ 暗黄褐色土 | ⑬ 灰褐色土 |
| ③ 黄褐色砂 (砂粒粗い) | ⑧ 黄褐色砂質土 (礫混り) | ⑭ 白色砂 | ⑭ 灰褐色土 |
| ④ 白色砂と黄褐色砂の混合 | ⑨ 黄褐色砂と黄灰色砂との混合 | ⑮ 灰褐色土 | ⑮ 褐色砂質土 (礫混り) |
| ⑤ 黄褐色砂 | ⑩ 黄褐色砂 (砂粒粗い) | ⑯ 暗黄褐色土 | |

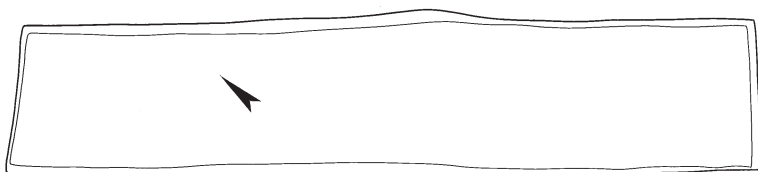
第64図 C地区1・2・3・4・5・6・7・8・9・10・11トレンチ (1/100) C地区5トレンチ土層 (1/40)



1トレンチ



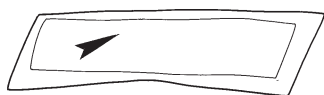
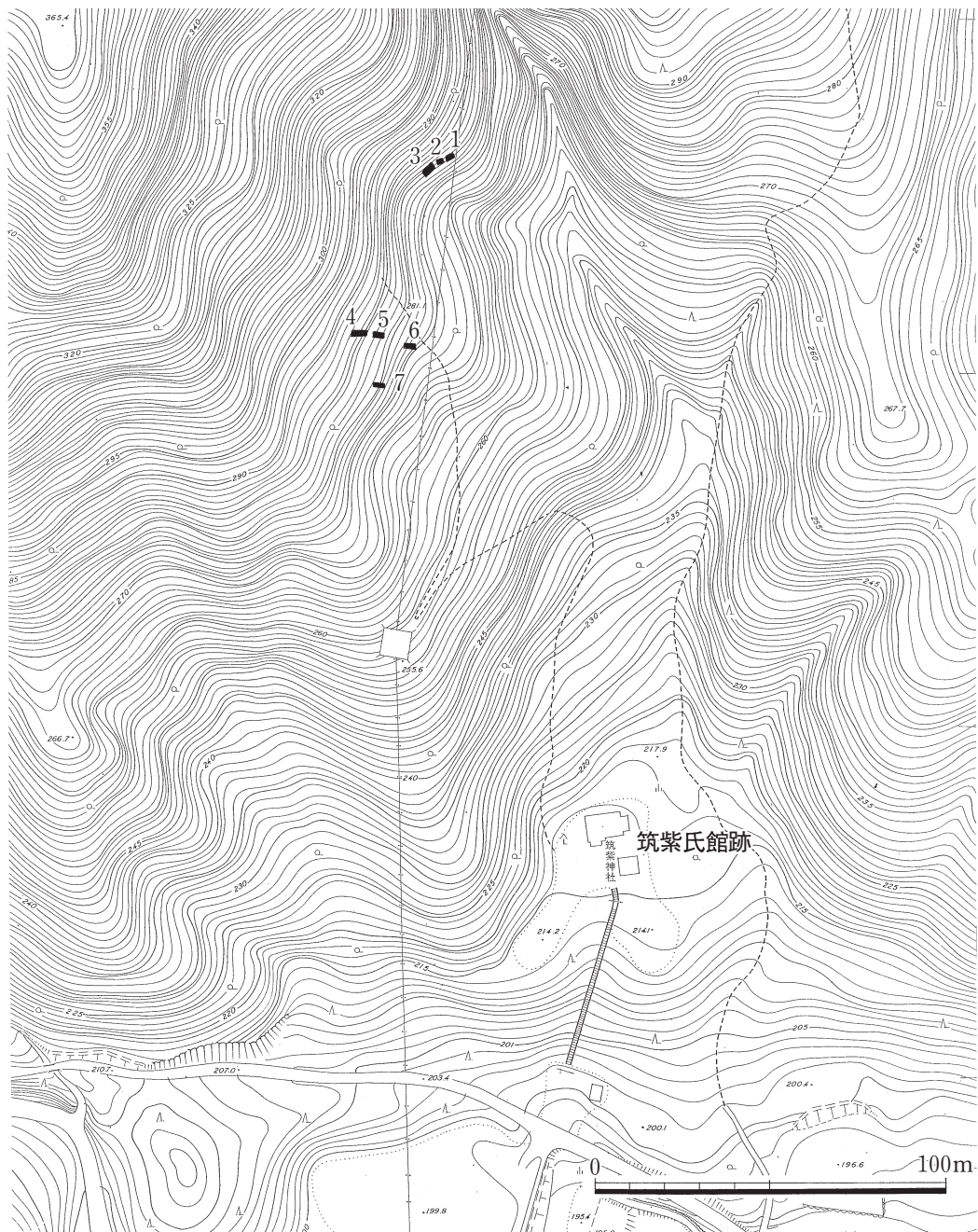
2トレンチ



3トレンチ



第65図 平成13年度調査D地区トレンチ位置図 (1/2,000) D地区1・2・3トレンチ (1/100)



1 トレンチ



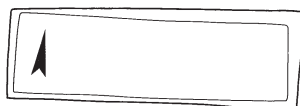
2 トレンチ



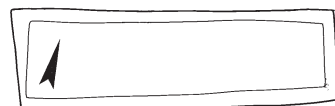
3 トレンチ



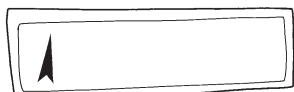
4 トレンチ



5 トレンチ



6 トレンチ

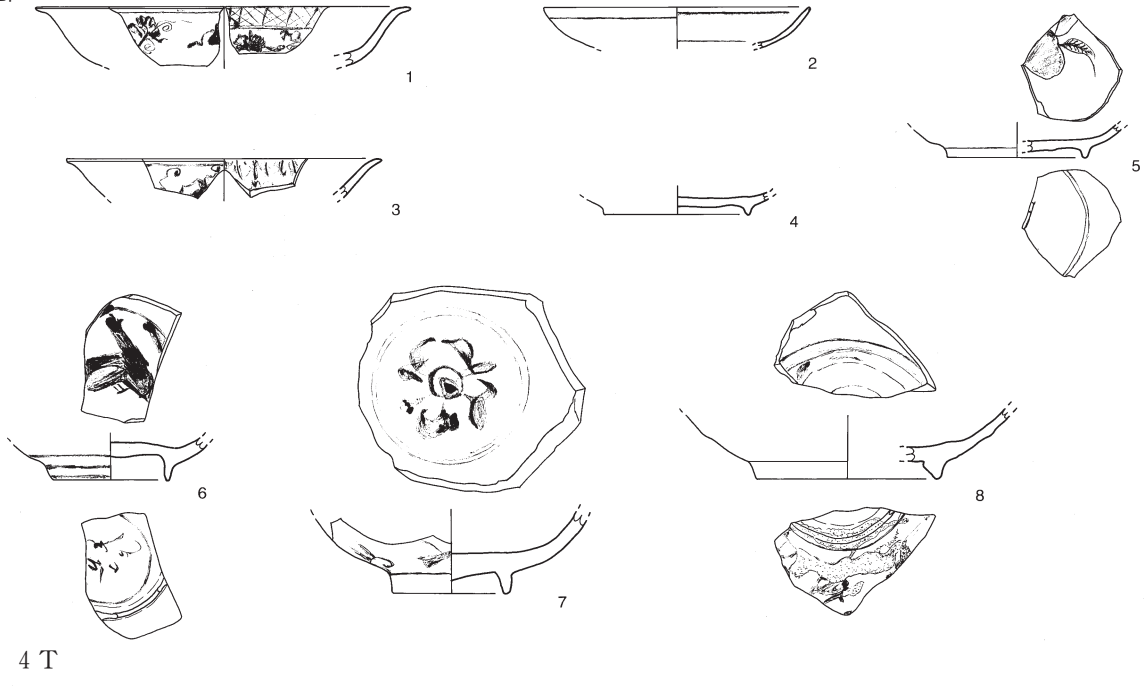


7 トレンチ

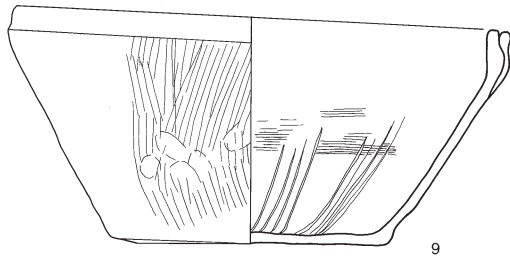


第66図 平成13年度調査E地区トレンチ位置図 (1/2,000) E地区1・2・3・4・5・6・7トレンチ (1/100)

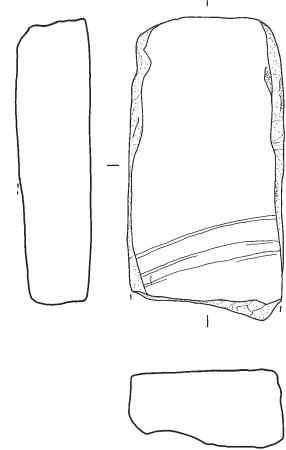
A地区



4 T

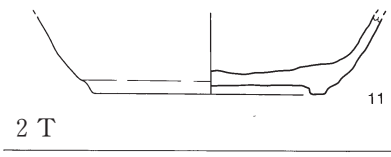


2 T

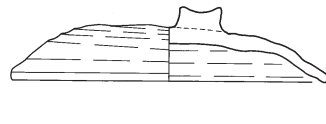


10 T

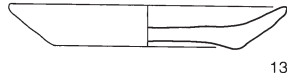
B地区



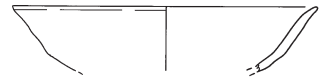
2 T



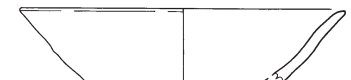
12



13



14



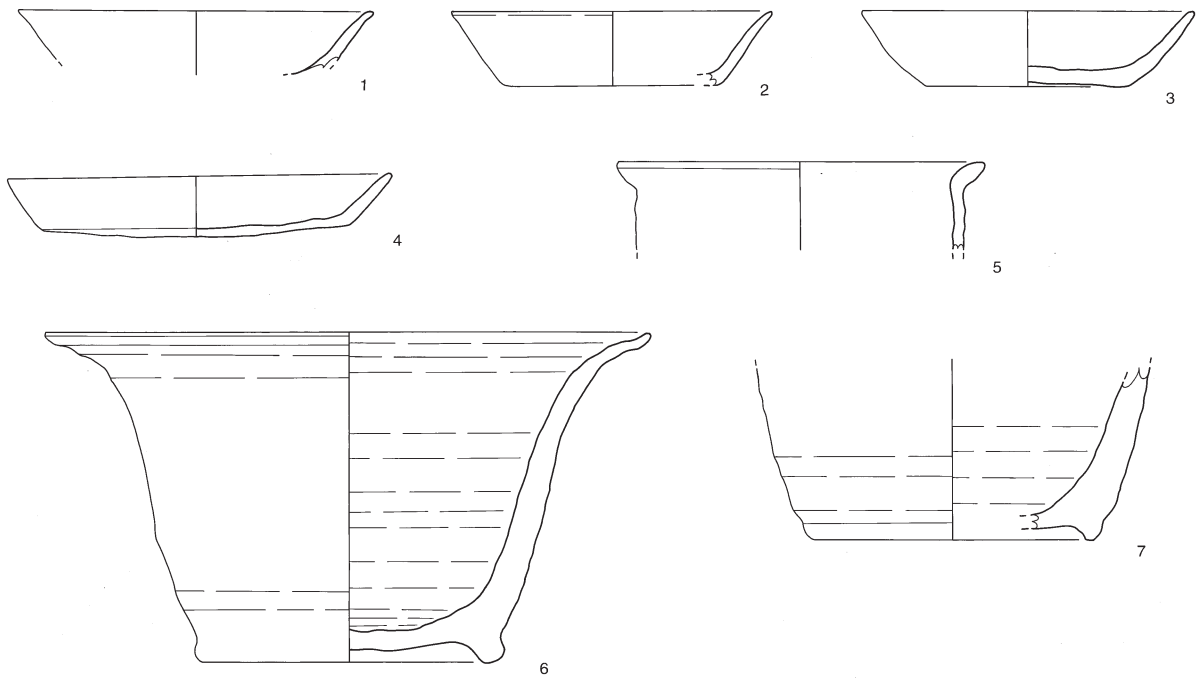
15

7 T



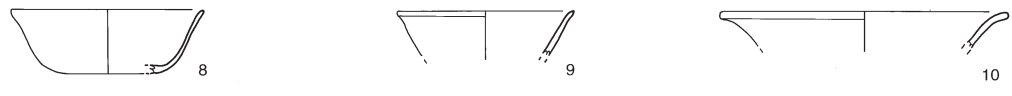
第67図 A地区2・4・10トレンチ、B地区2・7トレンチ出土遺物(1/3)

B地区

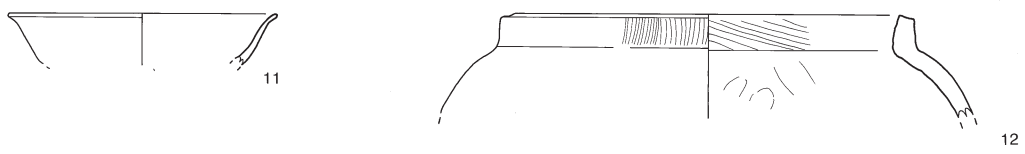


7 T

C地区



2 T



4 T



7 T



第68図 B地区7トレンチ、C地区2・4・7トレンチ出土遺物 (1/3)

表6 平成13年度トレンチ

面積：m²

地区	番号	挿図番号	面積	遺構	主な遺物	備考
A	1	第60図	6	—	—	—
A	2	第60図	16	堀切	—	尾根を切断。底部に鞍部あり
A	3	第60図	5	曲輪・平場	—	—
A	4	第60図	7	曲輪・平場	磁器	—
A	5	第60図	8	斜面	—	—
A	6	第60図	6	斜面	—	—
A	7	第60図	4	曲輪・平場	—	—
A	8	第60図	10	曲輪・平場	—	整地
A	9	第60図	3	曲輪・平場	—	整地
A	10	第60図	9	曲輪・平場	砥石	整地
A	11	第60図	6	曲輪・平場	—	整地
A	12	第60図	8	曲輪・平場	—	整地
A	13	第60図	10	斜面	—	土留めの石列
A	14	第60図	14	斜面	—	—
A	15	第61図	3	斜面	—	—
A	16	第61図	5	斜面	—	—
A	17	第61図	7	斜面	—	—
B	1	第63図	12	—	—	自然地形
B	2	第63図	8	—	須恵器	自然地形
B	3	第63図	7	—	—	自然地形
B	4	第63図	6	—	—	—
B	5	第63図	9	—	—	—
B	6	第63図	12	—	—	—
B	7	第63図	10	焼けた小穴	須恵器・土師器	祭祀？
B	8	第63図	10	—	—	—
B	9	第63図	13	—	—	自然地形
B	10	第63図	15	—	—	自然地形
C	1	第64図	9	平場	—	—
C	2	第64図	4	平場	磁器	—
C	3	第64図	12	平場	—	—
C	4	第64図	12	平場・小穴・石列	磁器・瓦器	屋敷地
C	5	第64図	8	溝・流路	—	—
C	6	第64図	8	平場	—	—
C	7	第64図	5	平場	磁器	—
C	8	第64図	10	平場	—	—
C	9	第64図	4	平場	—	—
C	10	第64図	5	平場	—	—
C	11	第64図	5	平場	—	—
D	1	第65図	20	平場	—	—
D	2	第65図	24	平場	—	—
D	3	第65図	20	平場	—	—
E	1	第66図	4	谷部	—	自然地形
E	2	第66図	3	谷部	—	自然地形
E	3	第66図	3	谷部	—	自然地形
E	4	第66図	5	平場	—	—
E	5	第66図	3	平場	—	—
E	6	第66図	5	平場	—	—
E	7	第66図	5	平場	—	—

表7 平成13年度 出土遺物

番号		出土位置	種別	器種	法量			色調		技法・形態の特徴	備考	登録番号
挿図	遺物				口径	底径	器高	外面	内面			
67	1	A 4 T	青花	皿	(14.8)	—	<2.3>	草花文	—	端反り	景德鎮16C後半	051047
67	2	A 4 T	青花	皿	(10.6)	—	<1.6>	圏線	圏線	—	景德鎮16C後半	050711
67	3	A 4 T	青花	皿	(12.4)	—	<1.5>	—	—	端反り	景德鎮16C後半	050716
67	4	A 4 T	青花	皿	—	(5.6)	<0.8>	圏線	—	—	—	050713
67	5	A 4 T	青花	皿	—	(5.6)	<1.3>	—	—	見込文様	景德鎮16C後半	050712
67	6	A 4 T	青花	碗	—	(5.6)	<1.3>	圏線	—	見込文様	漳州16C後半	050714
67	7	A 4 T	青花	碗	—	(4.7)	<2.2>	唐草文	—	見込花文	漳州16C後半	051048
67	8	A 4 T	青花	碗	—	(7.2)	<2.0>	不明	圏線	—	漳州16C後半	050715
67	9	A 2 T	瓦質土器	搦鉢	19.0	11.1	8.9	褐灰	—	口縁ナデ、外面ハケ	—	050706
67	11	B 2 T	須恵器	杯	—	(9.0)	<3.1>	灰褐	—	内外面ナデ	—	050717
67	12	B 7 T	須恵器	蓋	12.4	—	2.9	灰	—	内外面ナデ	—	050984
67	13	B 7 T	土師器	皿	(11.4)	(7.2)	1.6	橙	—	内外面ナデ	—	050722
67	14	B 7 T	土師器	杯	(12.0)	—	<2.5>	橙	—	内外面ナデ	—	050719
67	15	B 7 T	土師器	杯	(12.8)	—	<2.9>	橙	—	内外面ナデ	—	050720
68	1	B 7 T	土師器	杯	(14.0)	—	<2.5>	橙	—	内外面ナデ	—	050721
68	2	B 7 T	土師器	杯	(12.6)	(8.4)	<2.9>	橙	—	内外面ナデ	—	050718
68	3	B 7 T	土師器	杯	(13.2)	(8.6)	3.0	明赤褐色	—	内外面ナデ	—	050723
68	4	B 7 T	土師器	皿	15.3	—	2.4	橙	—	内外面ナデ	—	050724
68	5	B 7 T	土師器	甕	(14.6)	—	<3.5>	橙	—	内外面ナデ	—	050725
68	6	B 7 T	土師器	鉢	—	(11.6)	<6.9>	橙	—	内外面ナデ	—	050726
68	7	B 7 T	土師器	鉢	24.0	(12.2)	13.0	橙	—	内外面ヘラナデ	—	050727
68	8	C 2 T	白磁	碗	(7.6)	—	<2.5>	乳白	—	—	16C	050700
68	9	C 2 T	白磁	碗?	(7.0)	—	<1.8>	乳白	—	端反り	16C	050701
68	10	C 2 T	白磁	皿	(11.4)	—	<1.4>	乳白	—	端反り	16C	050702
68	11	C 4 T	白磁	皿	(10.6)	—	<2.0>	灰白	—	端反り	16C	050706
68	12	C 4 T	瓦質土器	湯釜	(16.4)	—	<3.9>	灰白	—	口縁ハケ、他ナデ	—	050714
68	13	C 7 T	青花	皿	(15.6)	—	<2.1>	唐草文	圏線	端反り	景德鎮16C後半	050707
68	14	C 7 T	青花	碗	(16.0)	—	<3.0>	圏線	圏線	—	漳州16C後半	050705

番号		出土位置	種別	器種	法量			色調		技法・形態の特徴	備考	登録番号
挿図	遺物				長さ	幅	厚さ	外面	内面			
67	10	A10T	石製品	砥石	<11.3>	<6.2>	<2.9>	—	—	—	1面使用	050709

1. 若山砦遠景（東から）

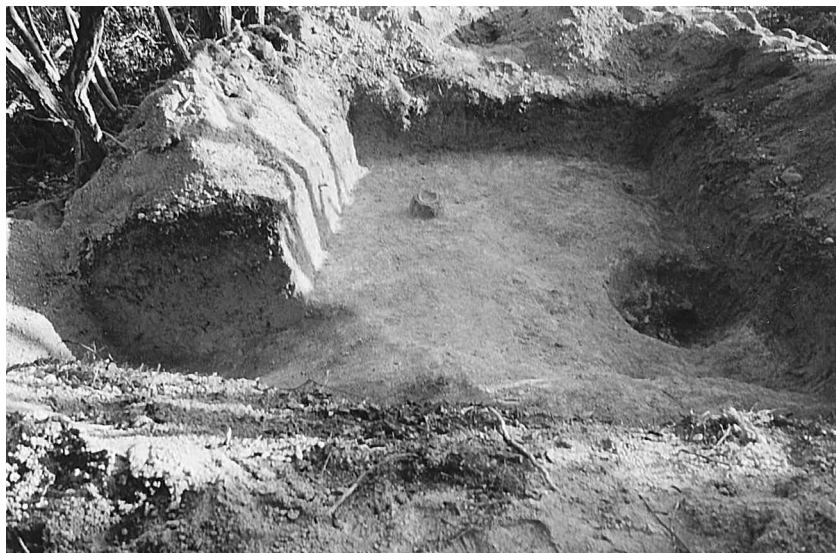


2. 若山砦の曲輪



3. A地区2トレンチ土層
（堀切）





1. B地区7トレンチ



2. C地区4トレンチ



3. C地区5トレンチ

1. D地区2トレンチ

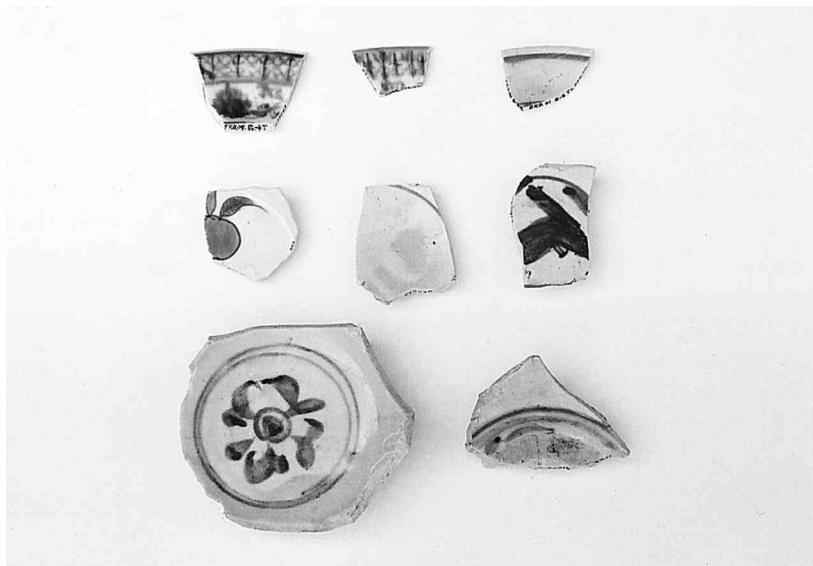


2. E地区5トレンチ



3. A地区1トレンチ出土遺物

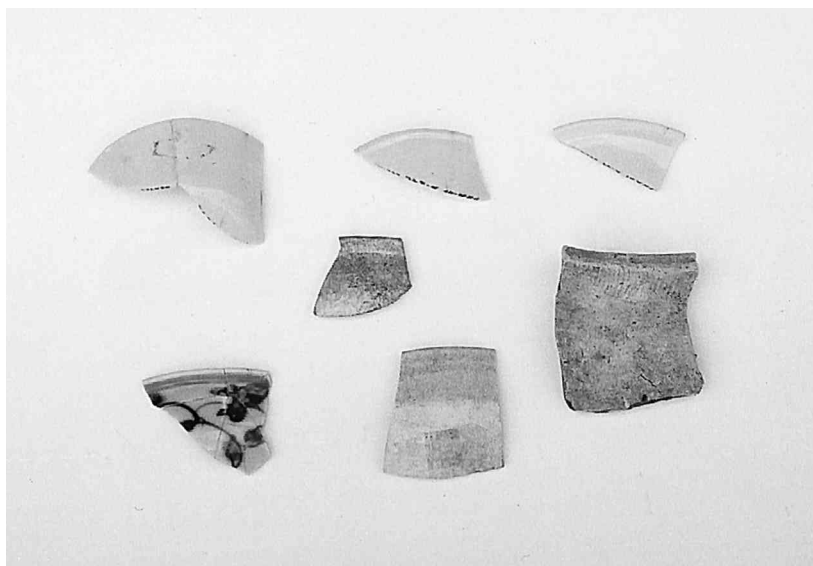




1. A地区4トレンチ出土遺物
(青花)



2. B地区7トレンチ出土遺物



3. C地区出土遺物

IV. 平成14年度の調査

IV. 平成14年度の調査

勝尾城の北側と北西側山麓に所在している平坦部の状況を見るためA～F地区の6地区に分けて調査を実施した。

【A地区】

勝尾城の搦め手へ通じる「城道」と言われる山道の東側に位置し、北に延びる尾根とその西側裾部に平坦部が存在するため、12本のトレンチを設定し調査を実施した。

尾根にはいくつかの曲輪状の平坦部が存在し、一番北側にあたる1T～4Tを設定した地域は土墨状となり、その基部には石積みよる土留めが3～4段みられる部分が存在した。5T～9Tでは平坦部はあるが遺構は確認できなかった。最上部となった(伝)二の丸と言われているところの北側直下には東西に走る幅約5～8m、深さ約2～3mの堀切(10T・11T)を確認し、この堀切は尾根を断ち切るように掘られている出土遺物は少なく、白磁、青花、瓦器片がわずかに出土しただけであった。

【B地区】

勝尾城の搦め手へ通じる「城道」と言われる山道の西側に位置し、北に延びる尾根とその東側裾部に平坦部が存在するため、12本のトレンチを設定し調査を実施した。

尾根にはいくつかの曲輪状の平坦部が存在し、12Tでは切岸状となり、造作(切り盛り)によって尾根に平坦面を造成していた。また、5T西側上部には石積みによって約4m×3mの平坦部を基部に設けていた。さらに尾根裾の平坦部にあたる3Tでは約1.5m×1mを測る長方形の焼けた痕跡のある土坑と7Tでは水の湧き出る直径約1.5mの円形土坑を確認した。

出土遺物は、尾根の造作部分の12Tから青花、瓦器、石製碾き臼など比較的まとまって遺物が出土したほかは、各トレンチから青磁・白磁・青花・瓦器などの破片(16世紀代)がわずかに出土している。なお、4T・5Tからは、縄文土器、黒曜石石核・サヌカイト石核も出土している。

【C地区】

A・B地区の北側で勝尾城の搦め手へ通じる「城道」があったとされる地区であり、山麓部に平坦部が存在しているため、8本のトレンチを設定し調査を実施した。

調査の結果、遺構および道を確認することはできず、青花、瓦器がわずかに数点出土しただけであった。

【D地区】

勝尾城直下の北西へ延びる大きな尾根部に大きな平坦部が存在しているため、5本のトレンチを設定し調査を実施した。

調査の結果、遺構は確認できず、遺物も出土していない。

【E地区】

勝尾城主郭直下の北西へ延びる尾根部で、切岸による幅約15～20mの大規模な堀切が存在している地区に7本のトレンチを設定し調査を実施した。

尾根は大きく、主郭直下に東西に尾根を断ち切るように幅約3～4mの堀切を確認でき、その先の斜面に北側に3条、北西側に2条の縦掘群を確認した。縦掘群は、幅約3～4m、深さ約2～4m(3T・4T)

あり、長さは30～50mほどである。この豎堀の北側に大規模な堀切（5 T～7 T）で尾根部を遮断している。また、この大規模な堀切の北東側斜面には、幅約7～10m、深さ約4～7 mの巨大な豎堀が築かれていた。出土遺物は小さな土器片が2～3点出土しただけである。

【F地区】

勝尾城主郭直下の北西側に位置する方形の突出部とそこから西側に延びる尾根部に4本のトレンチを設定し調査を実施した。

尾根にはいくつかの曲輪が配されているように見えるが、調査の結果遺構を確認することはできず、遺物も出土していない。

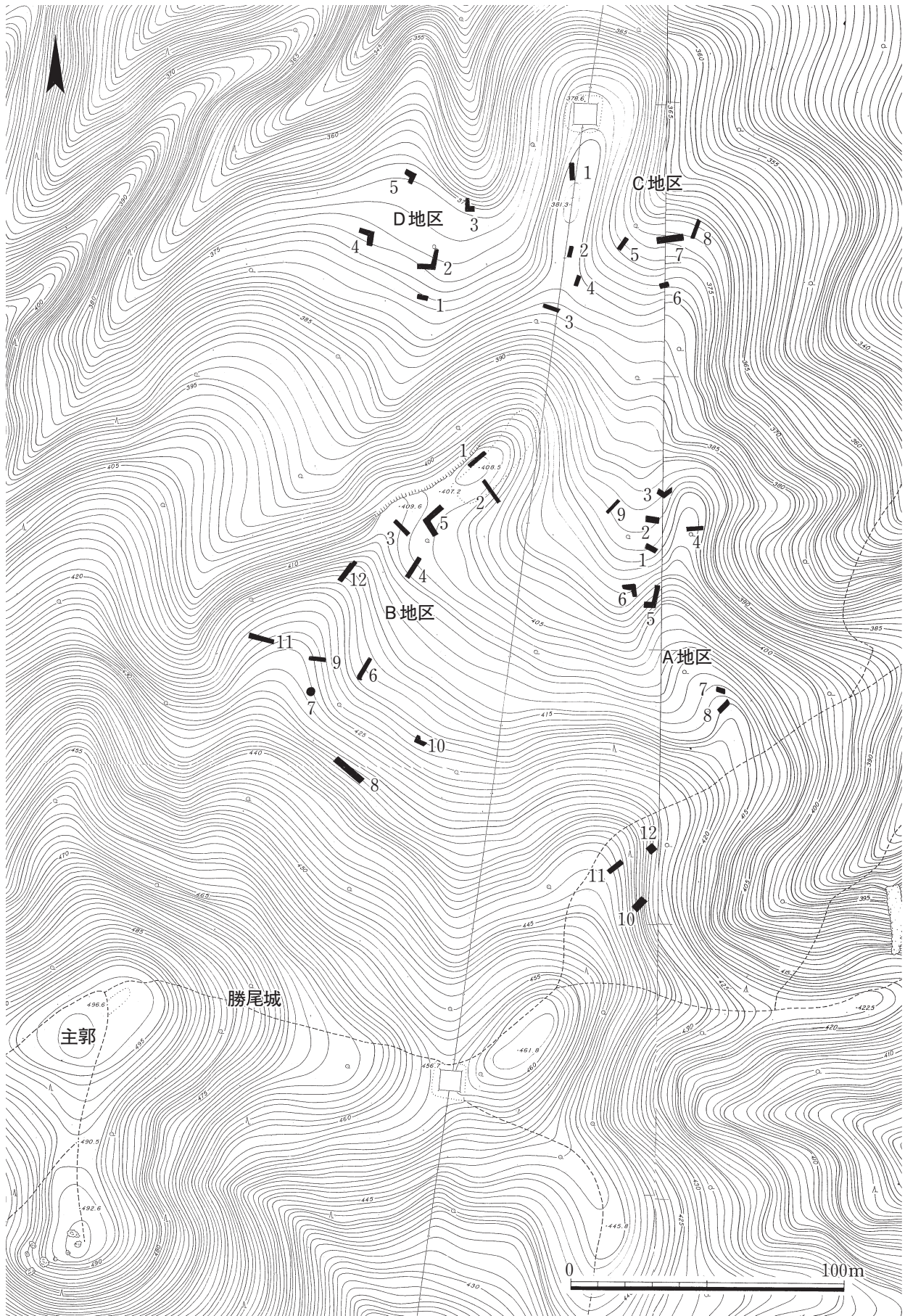
小結

平成14年度の調査から勝尾城の搦め手へ通じる城道が存在するとされている地区では、城道の東西両側の尾根上（A・B地区）に曲輪（平場）や土塁・堀切を設けて防御を固め、その間にある平坦面も意向は確認されていないが利用されているようにうかがえた。また、主郭直下から北側へ延び九千部山へ通じる尾根部（E地区）は、主郭に近く尾根が大きいことから大規模な堀切や豎堀、勝尾城には確認されていなかった畝状豎堀に似た豎堀群などを配してかなり堅固な防御を構えていたことが確認できた。

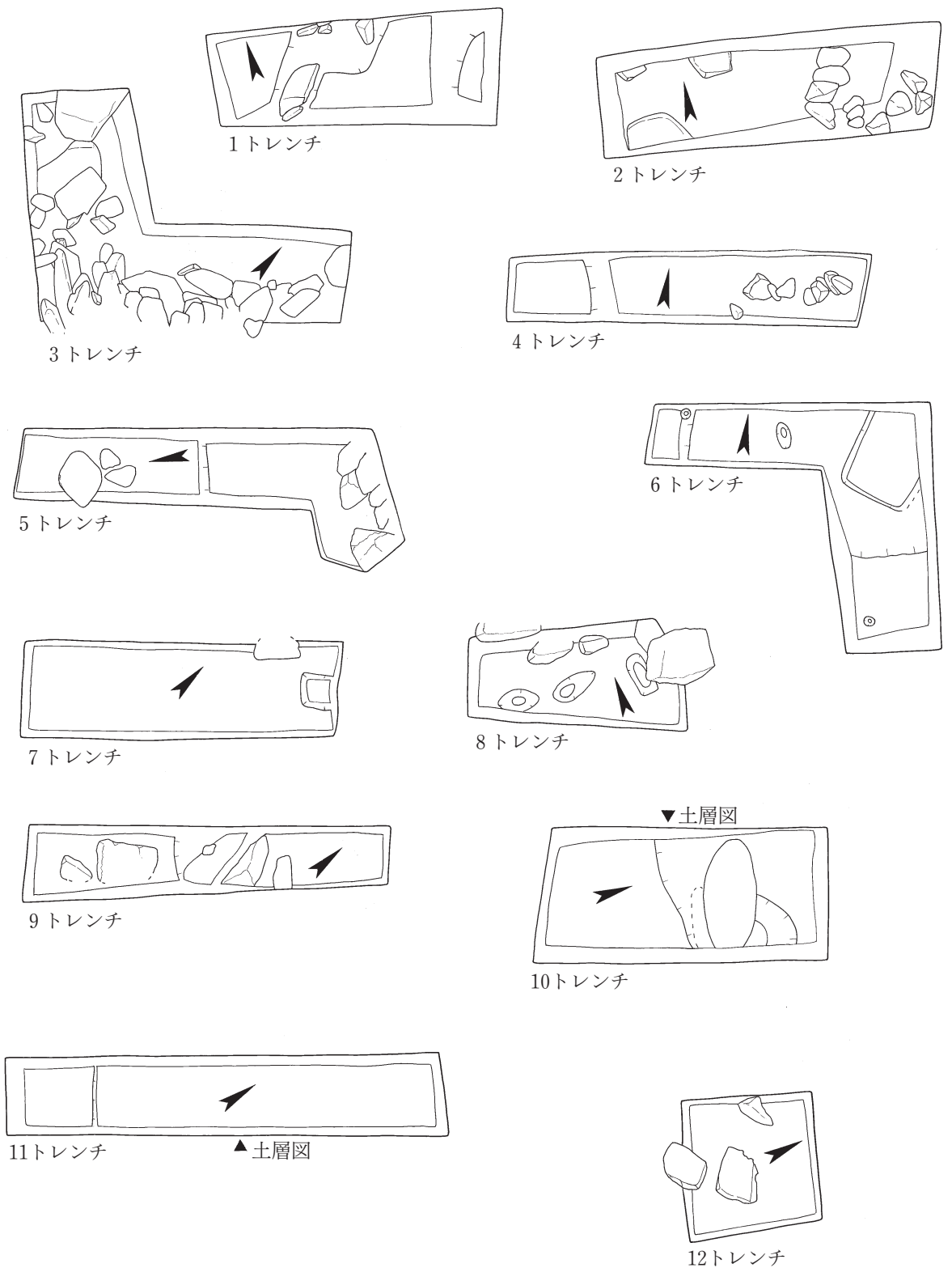
さらに勝尾城から北側や西側に延びているいくつかの尾根や尾根間に所在している平坦部は、すべて利用しているわけではなく、遺構の在り方や遺物の出土状態から利用されている地域と利用されていない地域が存在することが判明した。

勝尾城の搦め手へ通じる城道の資料を得ることはできなかったが、これまであまりはっきりとしていなかった勝尾城の城道や主郭北側部分にも防御に関する遺構が存在していることが明らかとなった。

しかし、豎堀群の外側に大規模な堀切や豎堀が存在していることや堀切の外側に土塁が設けられていることなど、勝尾城の城域の範囲、防御施設を築いた時期や防御の体制などといった課題も多く残った。



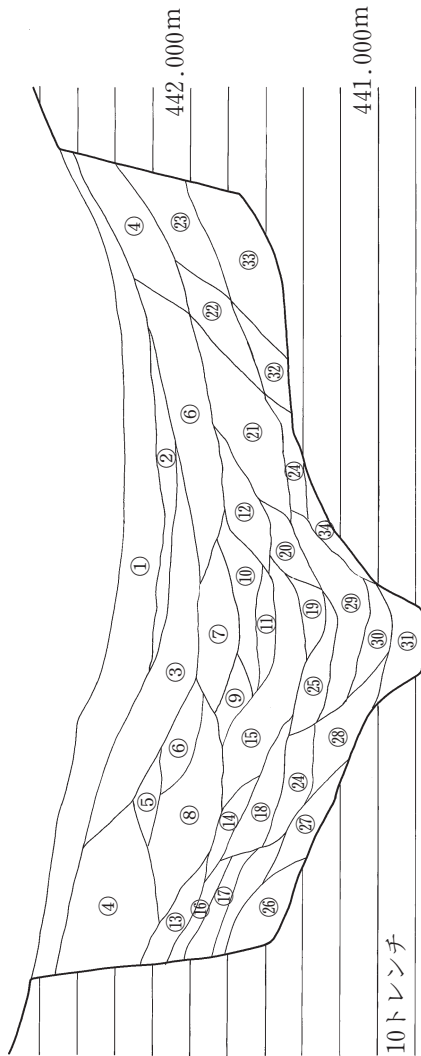
第69図 平成14年度調査A・B・C・D地区トレンチ位置図 (1/2,000)



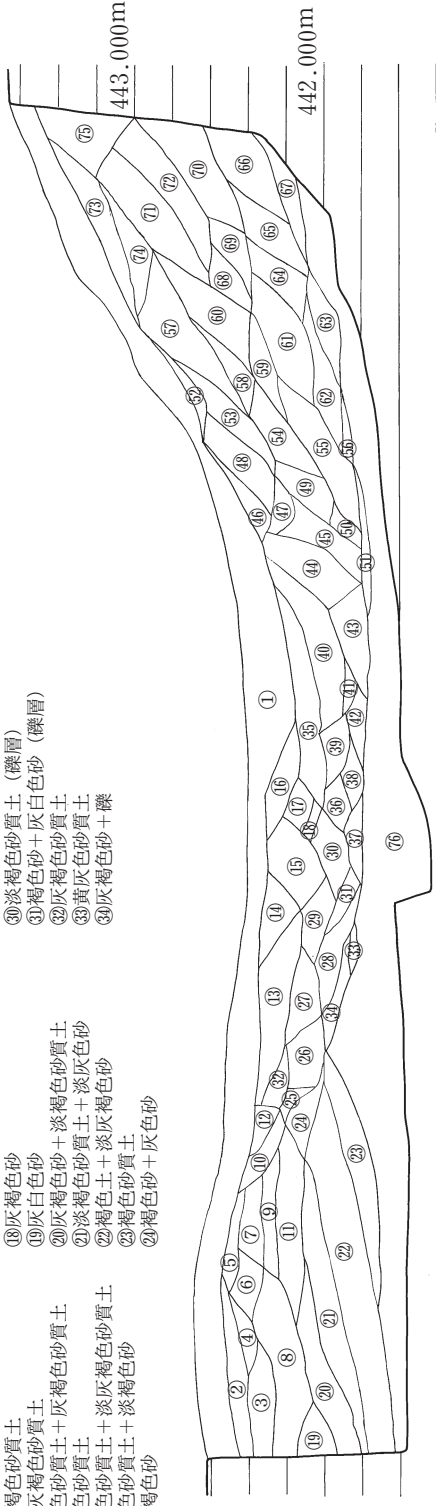
第70図 A地区 1・2・3・4・5・6・7・8・9・10・11・12トレンチ (1/100)

- ① 黄土層 (黒褐色土)
- ② 暗灰色土
- ③ 灰褐色土
- ④ 黄灰褐色土
- ⑤ 暗褐色土
- ⑥ 暗黄褐色土
- ⑦ 暗褐色土 + 淡黄褐色土
- ⑧ 黄褐色土
- ⑨ 淡黄褐色土
- ⑩ 暗褐色土 + 暗褐色砂
- ⑪ 暗褐色土 + 淡黄褐色土
- ⑫ 暗褐色土 + 白色砂
- ⑬ 灰白色砂質土 + 白色砂
- ⑭ 淡黄褐色砂質土
- ⑮ 灰褐色砂質土 + 淡黄褐色砂質土
- ⑯ 灰褐色砂質土 + 灰色砂
- ⑰ 黄褐色砂質土 + 灰褐色砂
- ⑱ 褐色砂質土
- ⑲ 黄褐色土 + 黄褐色土
- ⑳ 茶褐色土 + 灰褐色土
- ㉑ 灰褐色土 + 灰褐色砂
- ㉒ 褐色土
- ㉓ 灰色砂 + 灰褐色砂
- ㉔ 黄灰色砂
- ㉕ 褐色土 + 茶褐色砂質土
- ㉖ 白砂土
- ㉗ 淡黄褐色土
- ㉘ 黄白色砂質土
- ㉙ 黄褐色砂質土 + 茶褐色土
- ㉚ 茶褐色砂質土
- ㉛ 白色砂 + 礫
- ㉜ 淡褐色砂
- ㉝ 淡黄褐色砂質土 + 灰色砂
- ㉞ 淡黄褐色砂質土 + 黄褐色土
- ㉟ 黄灰色砂
- ㊱ 茶褐色砂質土
- ㊲ 茶褐色土
- ㊳ 茶褐色砂質土 + 白灰色土
- ㊴ 茶褐色土 + 白色砂
- ㊵ 褐色砂
- ㊶ 褐色砂 + 灰褐色砂質土
- ㊷ 灰褐色砂質土 + 褐色砂
- ㊸ 灰褐色砂 + 褐色土
- ㊹ 茶褐色砂
- ㊺ 灰白色砂質土 + 白色砂
- ㊻ 灰褐色土 + 白色砂
- ㊼ 白色砂
- ㊽ 地山

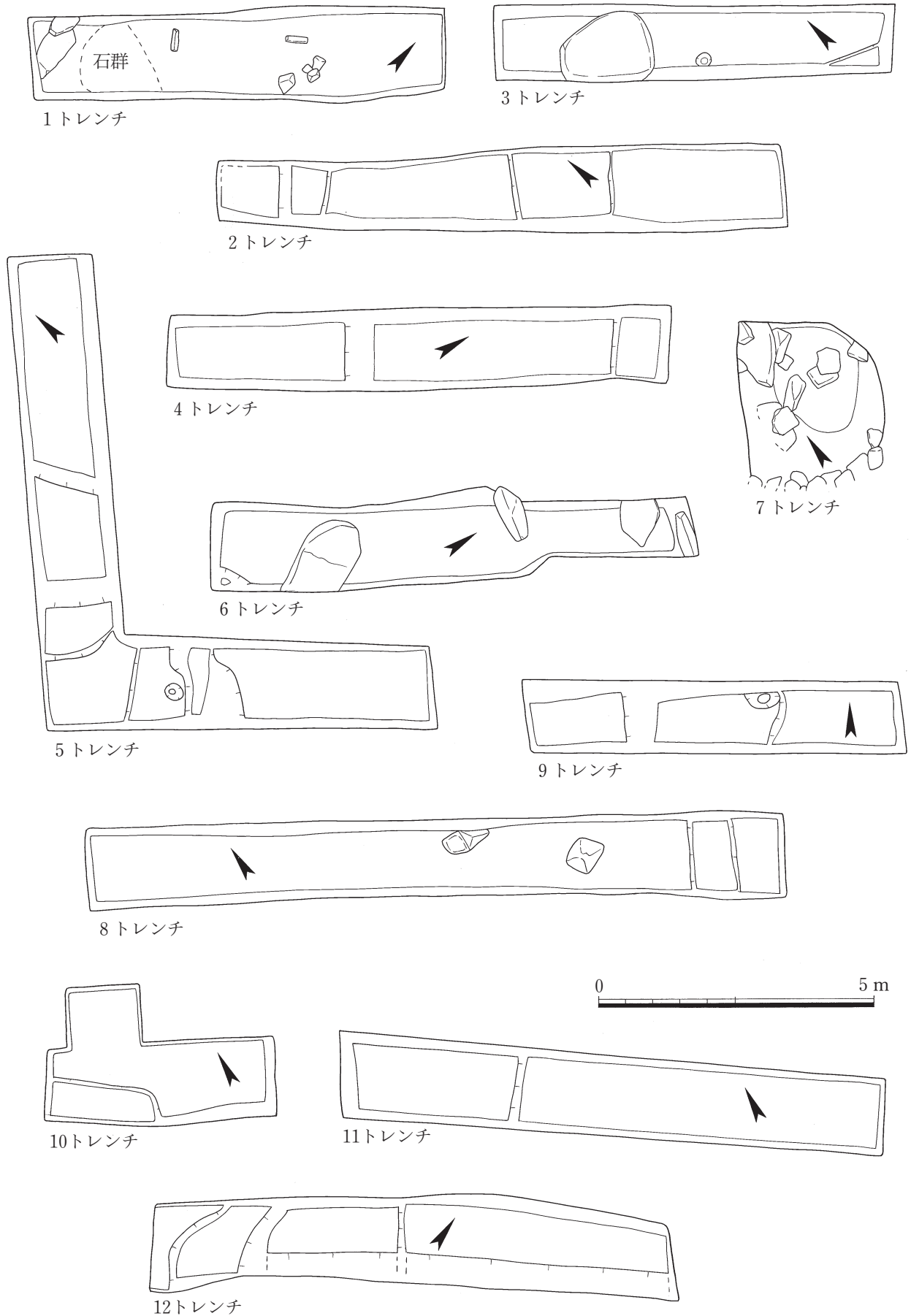
- ① 黄土層 (黒褐色土)
- ② 暗灰色土
- ③ 灰褐色土
- ④ 黄灰褐色土
- ⑤ 暗褐色土
- ⑥ 暗黄褐色土
- ⑦ 暗褐色土 + 淡黄褐色土
- ⑧ 黄褐色土
- ⑨ 淡黄褐色土
- ⑩ 暗褐色土 + 暗褐色砂
- ⑪ 暗褐色土 + 淡黄褐色土
- ⑫ 暗褐色土 + 白色砂
- ⑬ 灰白色砂質土 + 白色砂
- ⑭ 淡黄褐色砂質土
- ⑮ 灰褐色砂質土 + 淡黄褐色砂質土
- ⑯ 灰褐色砂質土 + 灰色砂
- ⑰ 黄褐色砂質土 + 灰褐色砂
- ⑱ 褐色砂質土
- ⑲ 黄褐色土 + 黄褐色土
- ⑳ 茶褐色土 + 灰褐色土
- ㉑ 灰褐色土 + 灰褐色砂
- ㉒ 褐色土
- ㉓ 灰色砂 + 灰褐色砂
- ㉔ 黄灰色砂
- ㉕ 褐色土 + 茶褐色砂質土
- ㉖ 白砂土
- ㉗ 淡黄褐色土
- ㉘ 黄白色砂質土
- ㉙ 黄褐色砂質土 + 茶褐色土
- ㉚ 茶褐色砂質土
- ㉛ 白色砂 + 礫
- ㉜ 淡褐色砂
- ㉝ 淡黄褐色砂質土 + 灰色砂
- ㉞ 淡黄褐色砂質土 + 黄褐色土
- ㉟ 黄灰色砂
- ㊱ 茶褐色砂質土
- ㊲ 茶褐色土
- ㊳ 茶褐色砂質土 + 白灰色土
- ㊴ 茶褐色土 + 白色砂
- ㊵ 褐色砂
- ㊶ 褐色砂 + 灰褐色砂質土
- ㊷ 灰褐色砂質土 + 褐色砂
- ㊸ 灰褐色砂 + 褐色土
- ㊹ 茶褐色砂
- ㊺ 灰白色砂質土 + 白色砂
- ㊻ 灰褐色土 + 白色砂
- ㊼ 白色砂
- ㊽ 地山



- ① 表土 (黒灰色土)
- ② 灰褐色土
- ③ 淡褐色土
- ④ 褐色土
- ⑤ 褐色と淡褐色の混合
- ⑥ 淡褐色砂質土
- ⑦ 淡褐色砂質土 + 灰褐色砂質土
- ⑧ 褐色砂質土 + 灰褐色砂質土
- ⑨ 褐色砂質土
- ⑩ 褐色砂質土 + 淡灰褐色砂質土
- ⑪ 褐色砂質土 + 淡褐色砂
- ⑫ 灰褐色砂
- ⑬ 灰色砂
- ⑭ 淡灰褐色砂
- ⑮ 淡褐色砂質土 + 淡茶褐色砂質土
- ⑯ 灰褐色砂 + 褐色砂
- ⑰ 褐色砂質土 + 褐色砂
- ⑱ 褐色土 (礫層)
- ⑲ 淡褐色砂質土 (礫層)
- ⑳ 褐色土 + 灰白色砂 (礫層)
- ㉑ 淡褐色砂質土
- ㉒ 灰褐色砂質土
- ㉓ 黄灰色砂質土
- ㉔ 灰褐色砂 + 礫
- ㉕ 灰褐色砂質土
- ㉖ 淡黄褐色砂質土
- ㉗ 灰褐色砂質土
- ㉘ 淡黄褐色砂質土
- ㉙ 灰褐色砂質土
- ㉚ 淡黄褐色砂質土
- ㉛ 灰褐色砂質土
- ㉜ 淡黄褐色砂質土
- ㉝ 灰褐色砂質土
- ㉞ 淡黄褐色砂質土
- ㉟ 灰褐色砂質土
- ㊱ 淡黄褐色砂質土
- ㊲ 灰褐色砂質土
- ㊳ 淡黄褐色砂質土
- ㊴ 灰褐色砂質土
- ㊵ 淡黄褐色砂質土
- ㊶ 灰褐色砂質土
- ㊷ 淡黄褐色砂質土
- ㊸ 灰褐色砂質土
- ㊹ 淡黄褐色砂質土
- ㊺ 灰褐色砂質土
- ㊻ 淡黄褐色砂質土
- ㊼ 灰褐色砂質土
- ㊽ 淡黄褐色砂質土
- ㊾ 灰褐色砂質土
- ㊿ 淡黄褐色砂質土

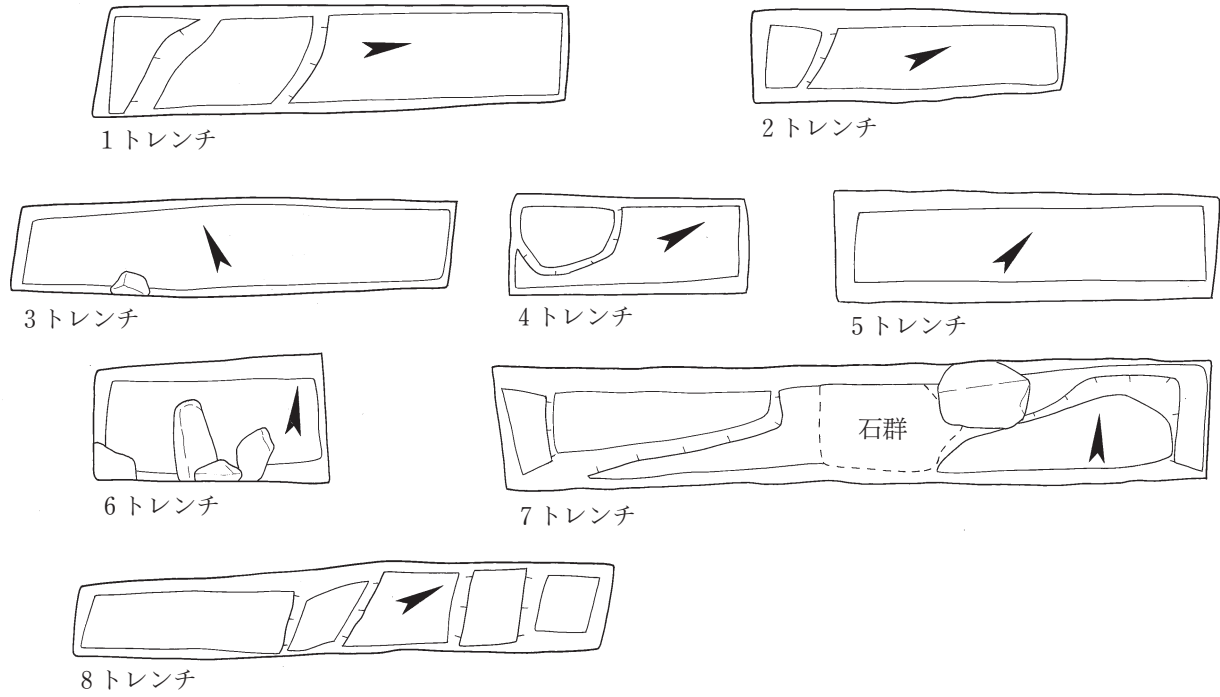


第71図 A地区10・11トレンチ土層 (1/40)

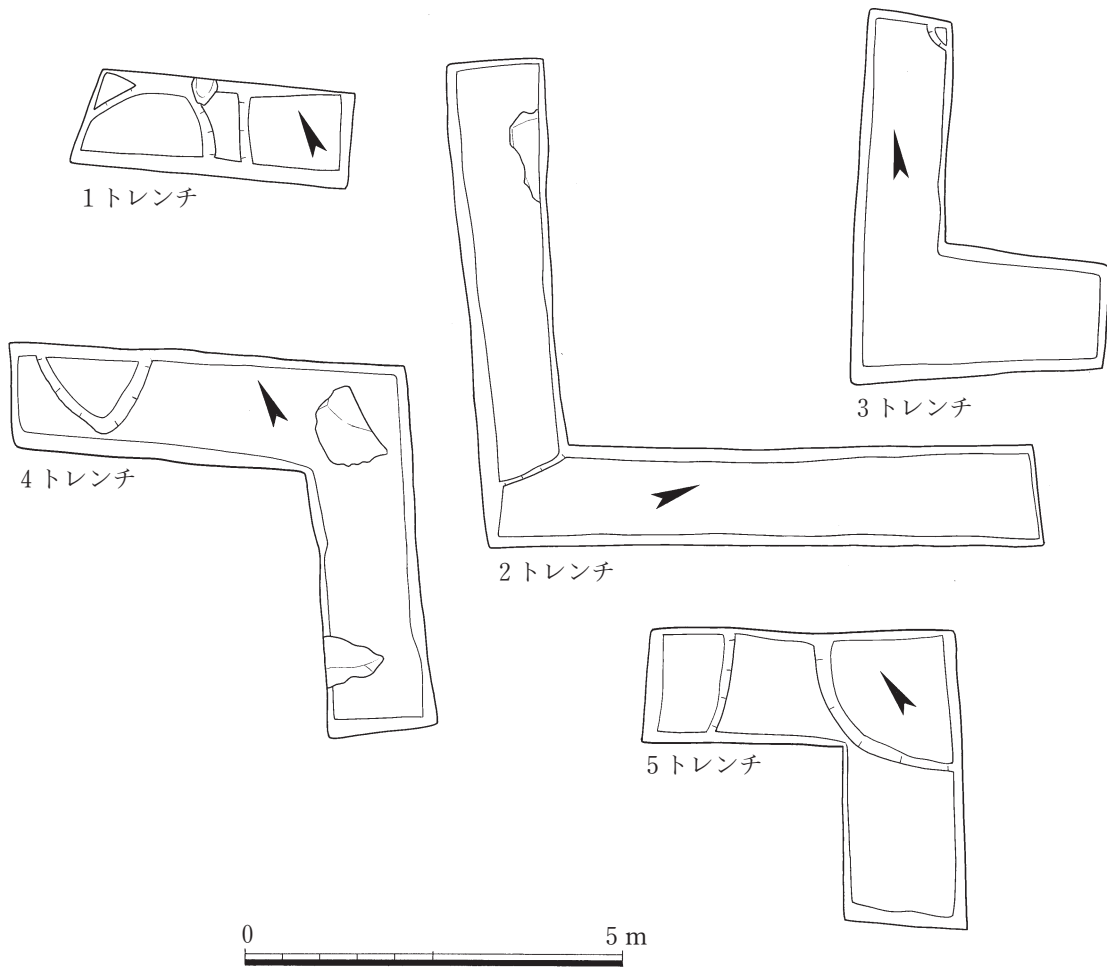


第72図 B地区1・2・3・4・5・6・7・8・9・10・11・12トレンチ (1/100)

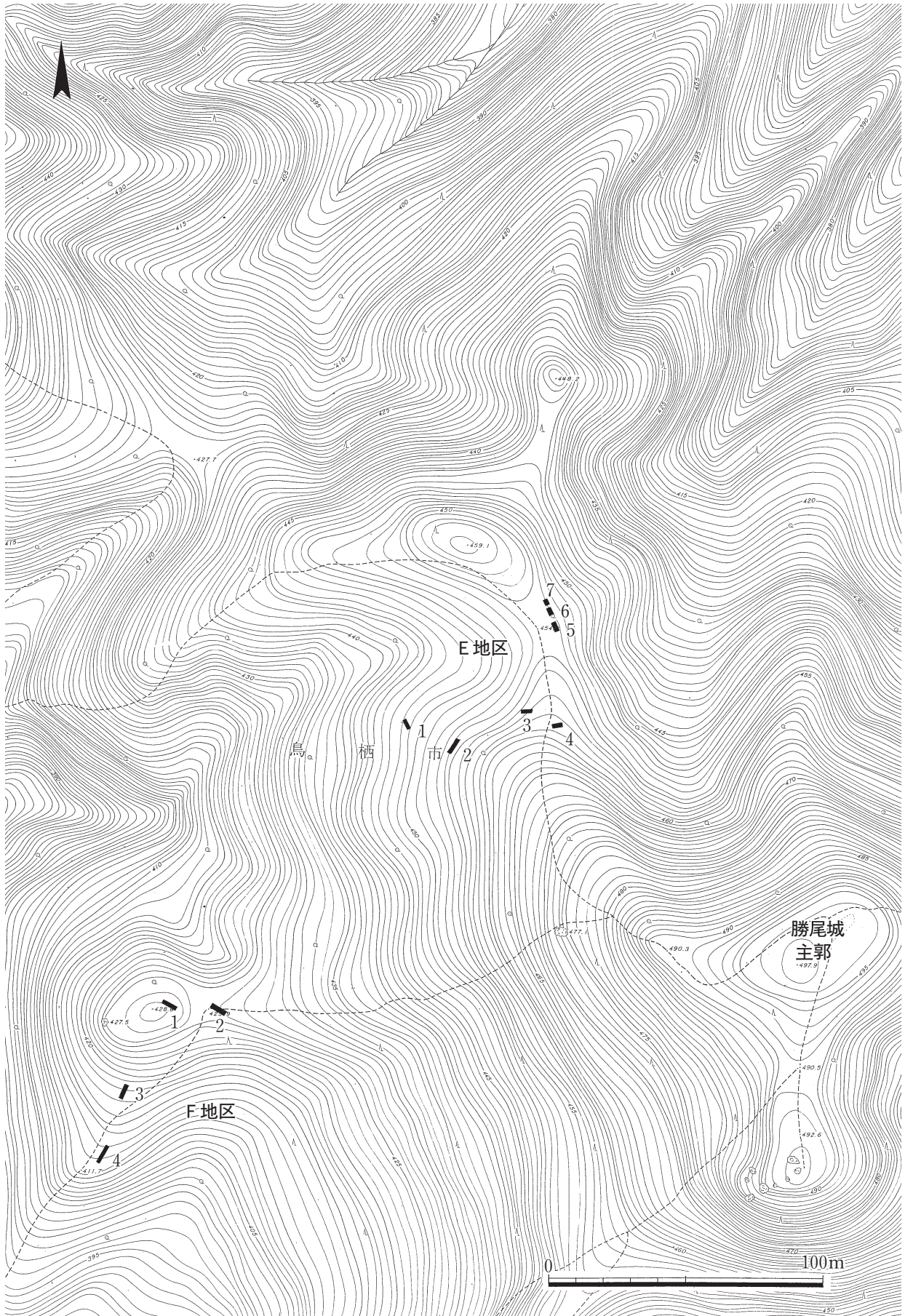
C地区



D地区

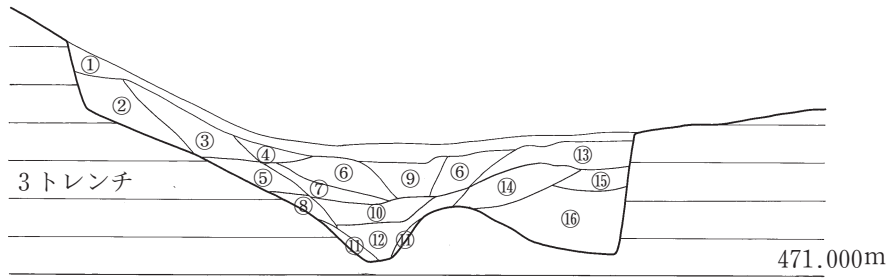
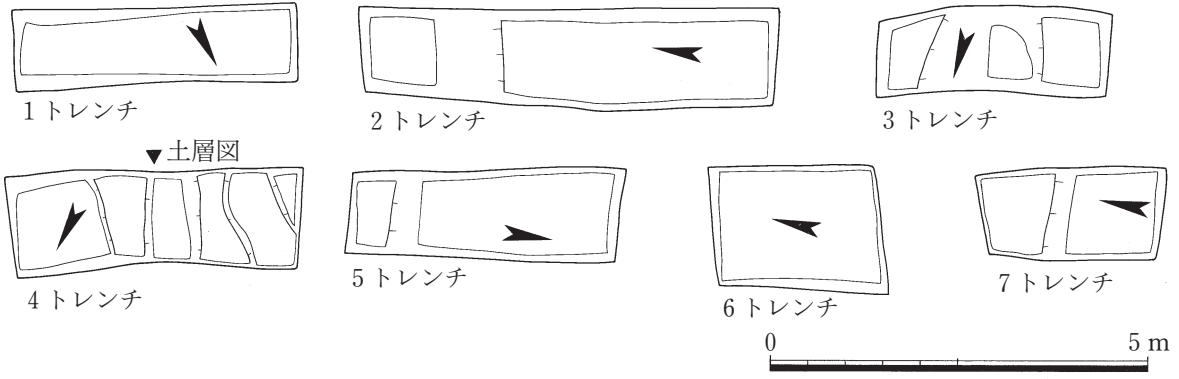


第73図 C地区1・2・3・4・5・6・7・8、D地区1・2・3・4・5トレンチ (1/100)

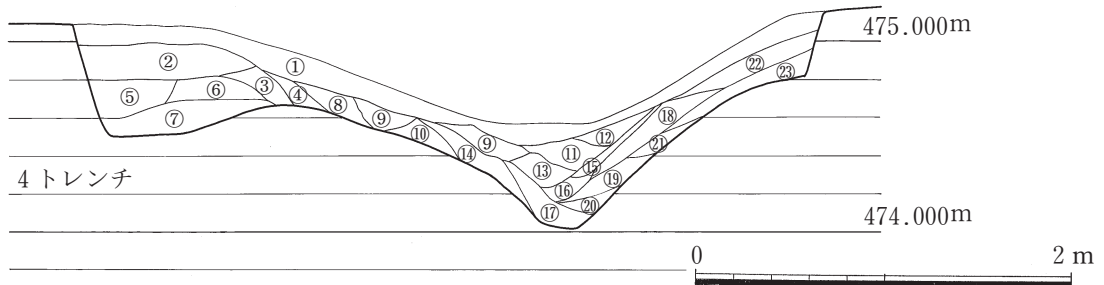


第74図 平成14年度調査E・F地区トレンチ位置図 (1/2,000)

E地区

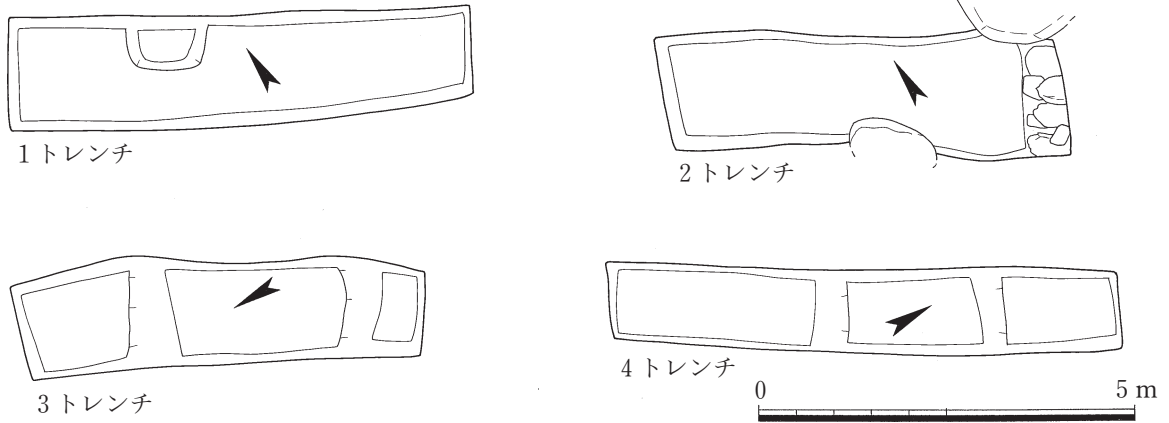


- | | | |
|-----------|--------------|------------|
| ① 黑色腐色土 | ⑥ 暗褐色土+暗灰色土 | ⑪ 褐色砂 |
| ② 暗黄褐色砂質土 | ⑦ 暗褐色土+暗黄褐色土 | ⑫ 黄褐色砂+白色砂 |
| ③ 暗灰色土 | ⑧ 暗褐色土+白色砂 | ⑬ 暗黄褐色土 |
| ④ 暗灰褐色土 | ⑨ 暗黒褐色土 | ⑭ 暗褐色土+白色砂 |
| ⑤ 暗褐色砂質土 | ⑩ 暗黄褐色砂質土 | ⑮ 黄褐色砂質土 |
| | | ⑯ 黄褐色砂 |



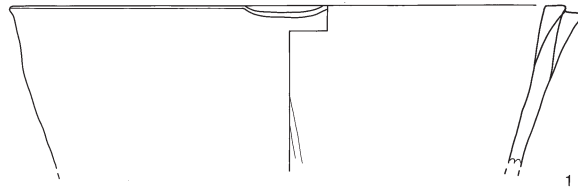
- | | | |
|--------------|-----------------|--------------|
| ① 黑色腐色土 | ⑧ 暗灰色砂質土 | ⑬ 暗灰白色砂質土 |
| ② 灰褐色土 | ⑨ 暗灰色土 | ⑭ 暗灰色砂質土+白色砂 |
| ③ 灰褐色土+灰色砂質土 | ⑩ 暗灰褐色砂質土 | ⑮ 褐色砂質土 |
| ④ 灰色砂質土 | ⑪ 暗灰色土+暗褐色砂質土 | ⑯ 褐色砂質土+白色砂 |
| ⑤ 黄色土 | ⑫ 暗褐色土+暗褐色砂質土 | ⑰ 暗灰褐色砂 |
| ⑥ 黄色土+黄白色砂 | ⑬ 暗褐色砂質土 | ⑱ 黄灰色砂 |
| ⑦ 黄白色砂 | ⑭ 暗褐色砂質土+褐灰色砂質土 | ⑲ 暗褐色土+白色砂 |
| | ⑮ 暗褐色砂質土+暗黄褐色土 | ⑳ 暗黄白色砂質土 |

F地区



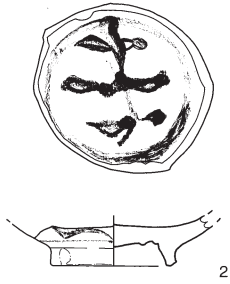
第75図 E地区1・2・3・4・5・6・7トレンチ (1/100) E地区3・4トレンチ土層 (1/40)
F地区1・2・3・4トレンチ (1/100)

A地区

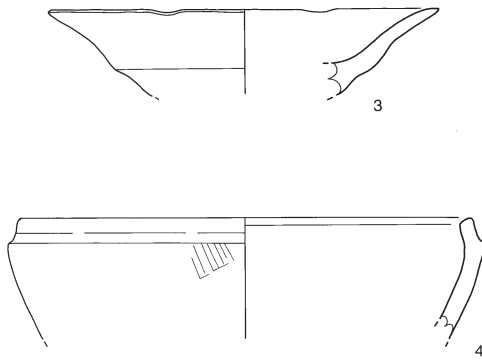


1 T

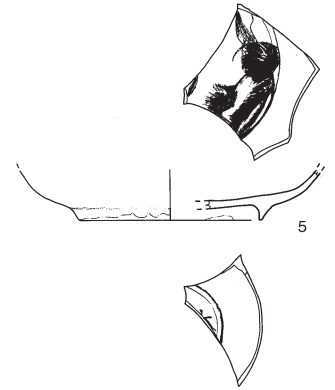
B地区



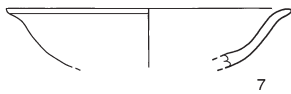
1 T



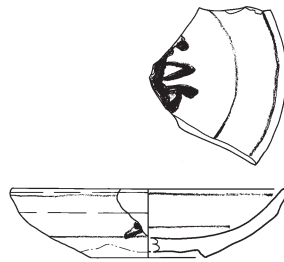
2 T



3 T



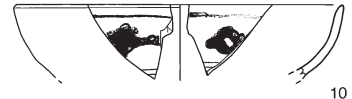
4 T



5 T



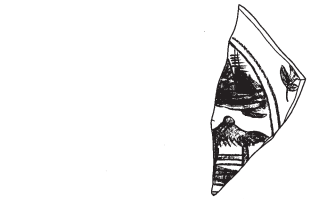
7 T



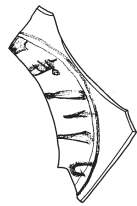
8 T



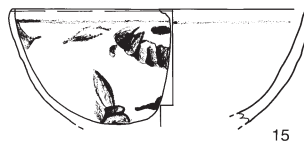
12



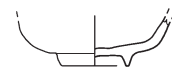
9 T



12 T



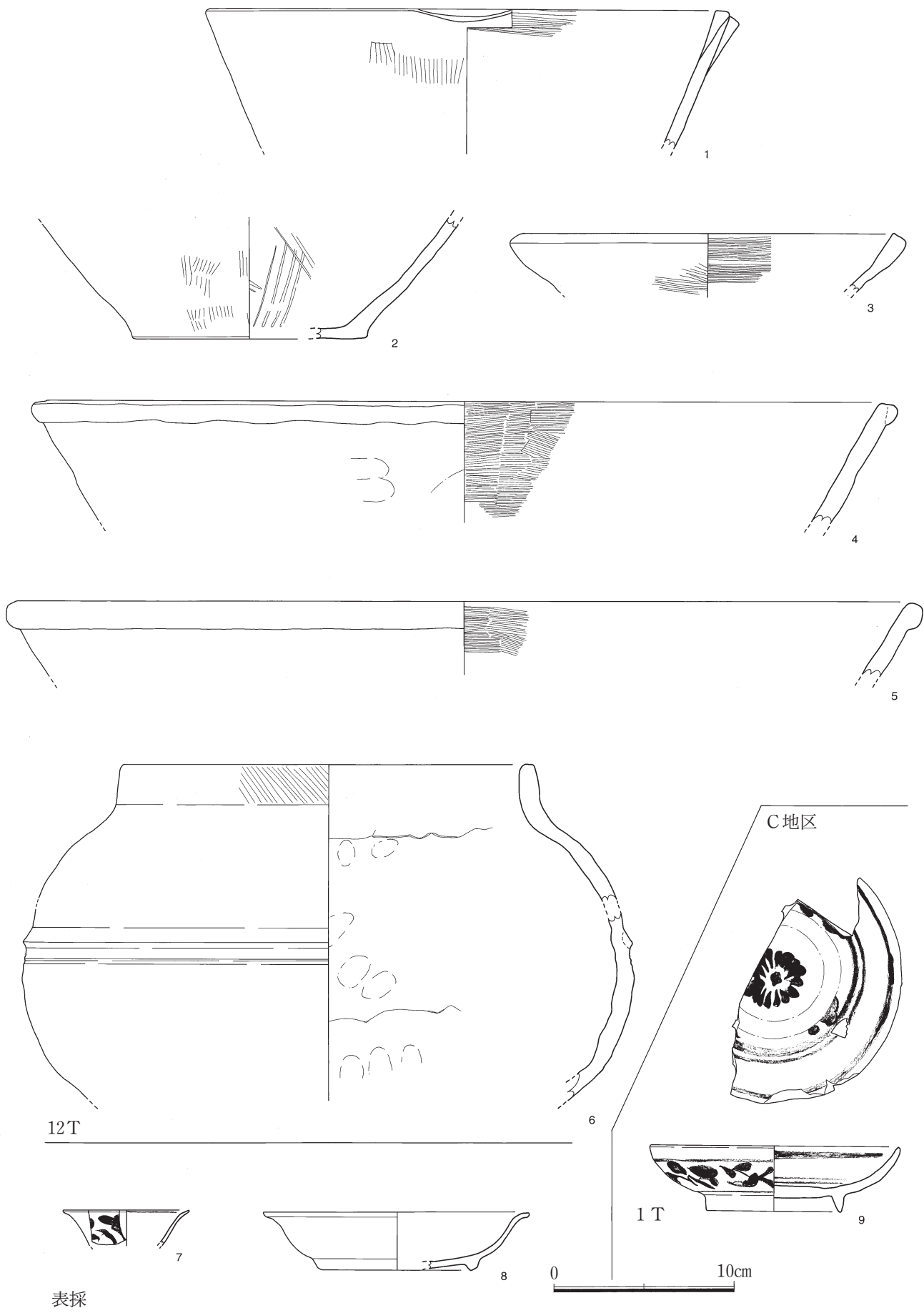
15



16



第76図 A地区1トレンチ、B地区1・2・3・4・5・7・8・9・12トレンチ出土遺物 (1/3)



第77図 B地区12トレンチ・表採、C地区1トレンチ出土遺物（1／3）

表8 平成14年度トレンチ

面積：m²

地区	番号	挿図番号	面積	遺構	主な遺物	備考
A	1	第70図	8	—	瓦器	尾根斜面下部
A	2	第70図	9	石列	—	土留？
A	3	第70図	12	—	—	尾根斜面下部
A	4	第70図	7	土塁状	—	尾根上部平坦面
A	5	第70図	9	石列	—	尾根斜面 土留？
A	6	第70図	10	焼けた方形土坑	—	尾根斜面下部
A	7	第70図	8	—	—	尾根上部 自然地形
A	8	第70図	5	—	—	尾根上部 自然地形
A	9	第70図	6	—	—	—
A	10	第70図	10	堀切	—	—
A	11	第70図	9	堀切	—	—
A	12	第70図	5	—	—	尾根上部 自然地形
B	1	第72図	12	—	—	尾根上部平坦面
B	2	第72図	14	—	磁器・瓦器	尾根斜面
B	3	第72図	10	焼けた方形土坑	磁器	尾根斜面
B	4	第72図	13	—	磁器	尾根斜面
B	5	第72図	22	—	磁器	尾根斜面
B	6	第72図	12	—	—	尾根斜面下部
B	7	第72図	7	円形土坑	磁器	—
B	8	第72図	19	—	磁器	—
B	9	第72図	9	—	磁器	—
B	10	第72図	8	—	—	—
B	11	第72図	14	—	—	—
B	12	第72図	14	切岸	磁器・瓦器・土師器	尾根上部 整地
C	1	第73図	8	—	磁器	尾根上部平坦面 自然地形
C	2	第73図	5	—	—	尾根上部平坦面 自然地形
C	3	第73図	7	—	—	尾根上部平坦面 自然地形
C	4	第73図	4	—	—	尾根斜面
C	5	第73図	7	—	—	尾根斜面
C	6	第73図	5	—	—	尾根斜面
C	7	第73図	16	—	—	尾根斜面
C	8	第73図	8	—	—	尾根上部平坦面 自然地形
D	1	第73図	4	—	—	平坦面 自然地形
D	2	第73図	15	—	—	平坦面 自然地形
D	3	第73図	9	—	—	平坦面 自然地形
D	4	第73図	12	—	—	平坦面 自然地形
D	5	第73図	10	—	—	平坦面 自然地形
E	1	第75図	4	—	—	平坦面 自然地形
E	2	第75図	7	—	—	平坦面 自然地形
E	3	第75図	3	竪堀・土塁	—	—
E	4	第75図	6	竪堀・土塁	—	—
E	5	第75図	4	堀切	—	—
E	6	第75図	4	堀切	—	—
E	7	第75図	3	堀切	—	—
F	1	第75図	9	—	—	尾根上部平坦面 自然地形
F	2	第75図	8	—	—	尾根上部平坦面 自然地形
F	3	第75図	7	—	—	尾根斜面
F	4	第75図	7	—	—	尾根斜面

表9 平成14年度 出土遺物

番号		出土位置	種別	器種	法量			色調(文様)		技法・形態の特徴	備考	登録番号
挿図	遺物				口径	底径	器高	外面	内面			
76	1	A 1 T	瓦質土器	鉢	(22.0)	—	<6.4>	黒褐		—	—	050728
76	2	B 1 T	青花	碗	—	4.9	2.0	—	—	見込花文	漳州16C後半	0501049
76	3	B 2 T	青磁	皿	(15.4)	—	<3.2>	明緑灰		—	景德鎮16C 中～末	050729
76	4	B 2 T	瓦質土器	湯釜	(17.8)	—	<4.8>	褐灰		—	—	050730
76	5	B 3 T	青花	皿	—	(7.8)	<1.6>	—	—	高台裏天下泰平?	景德鎮16C後半	051050
76	6	B 3 T	青花	皿	(12.8)	—	<2.1>	圏線	—	端反り	景德鎮16C後半	050731
76	7	B 4 T	白磁	皿	(11.2)	—	<2.3>	淡緑灰		端反り	漳州16C後半	050732
76	8	B 5 T	青花	皿	(11.0)	(4.6)	2.7	圏線	圏線	碁笥底	漳州16C後半	051051
76	9	B 7 T	青花	碗	(13.6)	—	<1.8>	圏線	圏線	—	景德鎮16C後半	050734
76	10	B 7 T	青花	皿	(13.0)	—	<2.9>	—	花文	—	景德鎮16C後半	050733
76	11	B 7 T	青花	皿	(13.0)	—	<2.5>	—	—	—	景德鎮16C後半	051052
76	12	B 8 T	青花	碗	(13.0)	—	<2.5>	—	松	—	景德鎮16C後半	050735
76	13	B 9 T	青花	皿	—	(7.8)	<1.6>	—	花文	見込山水	景德鎮16C後半	051053
76	14	B12T	青花	皿	—	(7.2)	<1.8>	—	—	—	景德鎮16C後半	051054
76	15	B12T	青花	碗	(11.8)	—	<4.6>	草花文	圏線	—	漳州16C後半	051054
76	16	B12T	白磁	碗	—	(2.6)	<2.0>	乳白		—	景德鎮16C後半	050743
77	1	B12T	瓦質土器	鉢	(29.0)	—	<7.7>	明褐灰	黒褐	内外面ナデ	—	050738
77	2	B12T	瓦質土器	播鉢	—	(13.0)	<6.6>	褐灰		外面ハケ	—	050737
77	3	B12T	土師器	鉢	(20.6)	—	<3.2>	明褐		内外面ハケ	—	050741
77	4	B12T	瓦質土器	土鍋	(46.0)	—	<6.6>	明褐		内面ハケ、外面ナデ	煤付着	050739
77	5	B12T	瓦質土器	土鍋	(49.0)	—	<4.1>	明褐		内面ハケ、外面ナデ	煤付着	050740
77	6	B12T	瓦質土器	湯釜	(22.0)	—	<18.5>	褐灰		内外面ナデ	—	050742
77	7	B地区表採	青花	小杯	(7.0)	—	<1.9>	蓮	圏線	端反り	景德鎮16C後半	050745
77	8	B地区表採	白磁	皿	(14.6)	—	<3.2>	灰白		端反り	景德鎮16C	050744
77	9	C 1 T	青花	皿	(13.9)	(7.4)	3.7	—	圏線	見込花文	漳州16C後半	051056

1. A地区16トレンチ



2. A地区16トレンチ土層



3. B地区11トレンチ





1. E地区3トレンチ土層

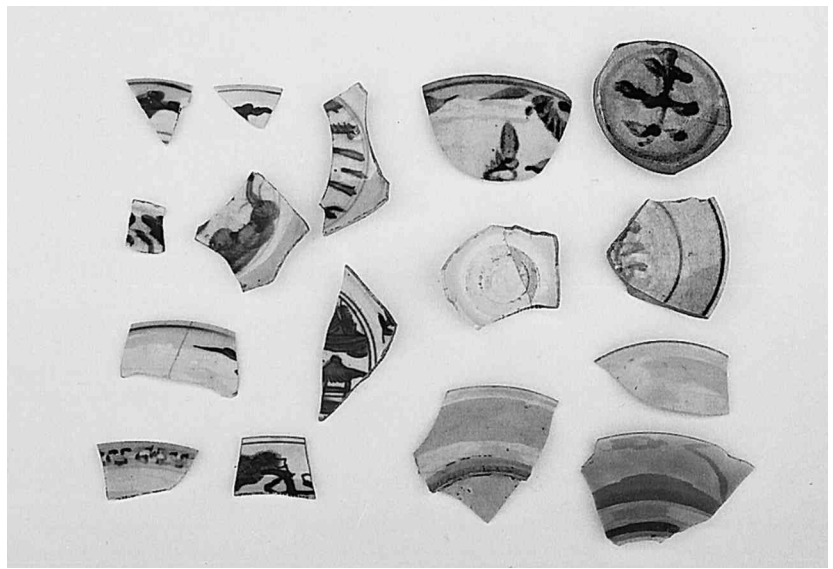


2. E地区4トレンチ



3. E地区6トレンチ

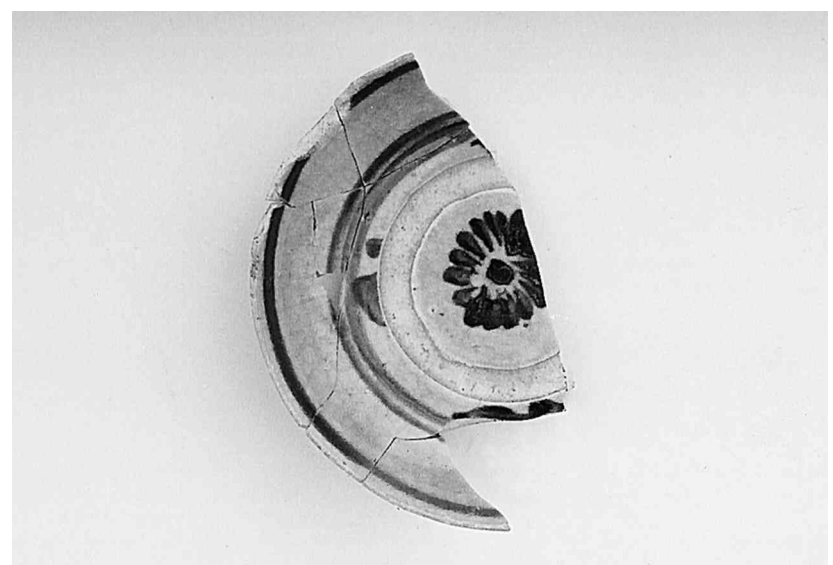
1. A・B地区出土遺物 (磁器類)



2. B地区12トレンチ出土遺物



3. C地区1トレンチ出土遺物
(青花)



V. 平成15年度の調査

V. 平成15年度の調査

平成15年度は、平成14年度の勝尾城北斜面で城域の確認に引き続き、勝尾城の主要部並びに南斜面、鬼ヶ城の主要部の確認調査を行い、遺構、遺物を確認し、その存在時期を確定するとともに、その内容を明らかにする目的で実施した。

【勝尾城】

勝尾城は、標高501.3mの城山にあり、筑紫氏の本城である。山頂に主郭部、東から南にかけて伸びる尾根上に曲輪を配し、谷を取り囲むような構えとなっている。また、南の大手道と考えられる道上に曲輪群が配されている。調査は、主郭周辺と西方面をA地区、主郭から東に伸びる曲輪群とその南の谷をB地区、大手道上と考えられる南の曲輪群をC地区として調査を行った。

A地区

主郭及び周辺の18ヶ所にトレンチを設定し、調査を実施した。

主郭は灰白色土で整地されており、3 Tでは、主郭の土塁も整地と一連に積まれていることが確認できた。また3 Tからは礎石と考えられる石も確認されたが、建物跡を確定するには至らなかった。2 Tからは、握拳よりやや大きい石を一辺約1 mの方形に並べた遺構が確認された。遺構の性格は不明だが、土師器の皿が置かれたような状態で出土していることから、何らかの祭祀に係る遺構であるとも考えられる。また、4 Tは、地表面観察の時点から主郭の虎口であると推定されていた地点であるが、石段が確認され、主郭の虎口であることが確認された。

主郭南下の曲輪の1 Tは、一部攪乱を受けているが、主郭同様の灰白色土の整地面が確認された。(伝)物見岩に方面に通じる段差に設定した5 Tでは、裏込めをせずに積まれた石積みを確認された。また、(伝)物見岩東の曲輪の6 Tでは、石敷きの通路と考えられる遺構が確認された、この曲輪は「肥前国基肄郡牛原村勝尾古城図」(内閣文庫所蔵)によれば、登城道が取り付く曲輪であるが、現在この通路に通じるような道は確認できない。主郭部への登城道に関しては、現在登山道として使われている道の取り付く部分に17 Tを設定した。その結果、整地面と同じレベルから積まれた石段が確認されたが、現在も道として使われているため調査面積が限られ時期を確定するには至らなかった。また、同じ曲輪内の11 Tからは、南北約12.1m、東西約5.8m以上の長方形になると思われる石敷きの遺構が確認された。平たい石をほぼ水平の状態で敷き詰めてあり、建物の土台とも考えられる、位置は主郭のすぐ南西の下にあたり、他のトレンチより播鉢、鉢類の割合が高いことから台所的な施設も想定できる。

主郭部の南西下の7 T、東下の18 Tでは、現状ではほとんど埋没した空堀が確認された。7 Tでは、約1.5 m埋没した横堀とその外側に土塁が確認された。落石が多く確認できない部分もあるが断面逆台形の横堀が北西から南東方向に主郭部に沿って伸びていたものと推定できる。18 Tでは、約1 m埋没した堀切が確認され、東に伸びる尾根を切断していることが明らかになった。また、主郭の北下の一部にも地表面観察で横堀と推定できる遺構があり、主郭部の北、東、西面は空堀で防御ラインを構成していたと思われる。

主郭部から西の尾根上の曲輪部分に12 Tから16 Tを設定した。12 Tの付近には石積みの通路状の遺構が確認されているが、12 Tではこの遺構が盛土で造られていることが確認できた。他のトレンチでは、地山整形

の整地面は確認できたがその他の遺構、遺物は確認されなかった。このことから曲輪構えは在るものの常時の使用は行われていなかったと思われる。

遺物は、主郭部の1 T、2 T、3 T、4 T、6 T、11 Tを中心として勝尾城の遺物総量の50%以上がこの地区から出土した。内容は青花の碗、皿、白磁を中心とした磁器類。鉢、湯釜等の瓦質土器。陶器、土師器皿、瓦など多岐にわたる。青花は景德鎮産が主で漳州窯も含まれる。時期は、16世紀前半から後半にかけて、16世紀後半を主体とする。他に青銅の杓、飾り金具、銅銭なども出土した。

B地区

主郭部から東、さらに南に伸びる尾根上の曲輪群とその南の谷内に12ヶ所にトレンチを設定して調査を実施した。この地区は堀切を埋めて石垣を構築するなどの改修が加えられている様子が観察でき主郭を中心とした、曲輪群より後に築造されたと考えられる地区である。

勝尾城最大の堀切内に設定した1 Tで堀切は、殆ど埋没しておらず北側の石垣天端のレベルとほぼ同一であることからこの地点から北側が堀切を埋めて造成した面と推定できる。3 Tでは、この面に通じる虎口に伴う通路を確認した。石垣の北の2 Tでは、約1 m埋没した横堀が確認され、石垣の前面には横堀が掘られていたことが明らかとなった。

B地区で最大の曲輪に設定した5 Tでは、地山を削平した整地面と柱穴と思われる小穴が確認された、他のトレンチからも礎石と思われるような石も確認されないことから、主郭部の礎石建物に対して、この地区では建物は掘立柱であったと思われる。

(伝) 二の丸と呼ばれる南の尾根上石積みの桁形虎口内に設定した8 Tでは、地表面観察のとおり右折れの通路が確認された。この尾根上には、100mあまりにわたって石垣が構築されており、1 T北側の石垣から連続しており、北から東にかけての防御ラインを構成している。

このラインの南の谷は緩斜面が広がっていることから、10 T、11 Tを設定した、10 Tでは、畧段をつけた整地面、柱穴が確認され、11 Tでも整地面が確認された。遺物もB地区内では大半の主郭部に次ぐ量がこの2ヶ所のトレンチから出土した。B地区内の他のトレンチからの遺物の出土状況から、上部からの落ち込みとは考えられない。この地区は主郭部、北から東にかけてのラインと後述する大手曲輪群(C地区) とにはさまれ、南向きの緩斜面という利用するには好条件の地区であり、何らかの施設の存在がしていたと想定できる。

遺物は10 T、11 Tから多く出土した。内容は青花の碗、皿、白磁を中心とした磁器類、陶器、瓦等で、青花は主郭部と同様、景德鎮が主で、時期も同じである。また、勝尾城内から唯一瀬戸美濃の天目碗が10 Tから出土し、平瓦もこのトレンチより出土した。

C地区

勝尾城の大手道防御の曲輪群と考えられ、石積みの虎口、堀切などが確認されていた地区で、9ヶ所にトレンチを設定して調査を実施した。

1 Tは、石積みの虎口の通路と思われる場所に設定したが、虎口内では落石等により遺構の確認はできなかったが、その前面からは虎口に取り付く握拳大の石を敷き詰めた通路が確認できた。6 Tからはこれに続くと思われる。通路が確認された。また、この虎口を北から見下ろす位置には、櫓台と思われる方形の石組

みが現況で確認できる。

遺物は戦国期の青花などが量は多くないものの出土しているが、A地区と比べ漳州窯産の割合が多くなっている。

勝尾城は調査の結果、主郭部では、建物跡の特定には至らなかったものの整地面に礎石建物が想定された。また、建物土台とも考えられる石敷遺構等の確認でかなりの施設があったことが想定される。また遺物の時期が基本的には筑紫氏館跡と同時期であることから勝尾城と館が同時期に機能していたことが明らかになった。さらに遺物の種類が多様であることから山上で生活が営まれていた可能性が非常に高くなった。

B地区では、従来使用されていないと考えられていた谷内も使用されていたことが明らかになり、14年度の北斜面の調査と同様、南斜面もかなり広範囲に活用していたと想定でき、いわゆる曲輪部分だけでなくその周辺部も城域として活用されていたと考えられる結果となった。

【鬼ヶ城】

鬼ヶ城は、標高約364m、勝尾城の南西部に位置し、遺跡の所在する谷の最深部にあたる。勝尾城の背面の防備の城と考えられている。調査は、主郭とその周辺の曲輪及び西側の尾根続きの箇所、11ヶ所にトレンチを設定して実施した。

主郭の1 T、2 Tでは、地山を削平した整地面、3 Tでは、地山を削平した整地面と盛り土の整地面から掘りこまれた小穴が確認され、主郭部が地山整形と盛り土で造成されており、掘立柱の建物が存在した可能性が確認できた。また、主郭南の虎口と考えられる場所に設定した4 Tからは、虎口に伴う石段を検出した。石段は幅約2 m、長さ約3 mで、4段から5段分確認した。

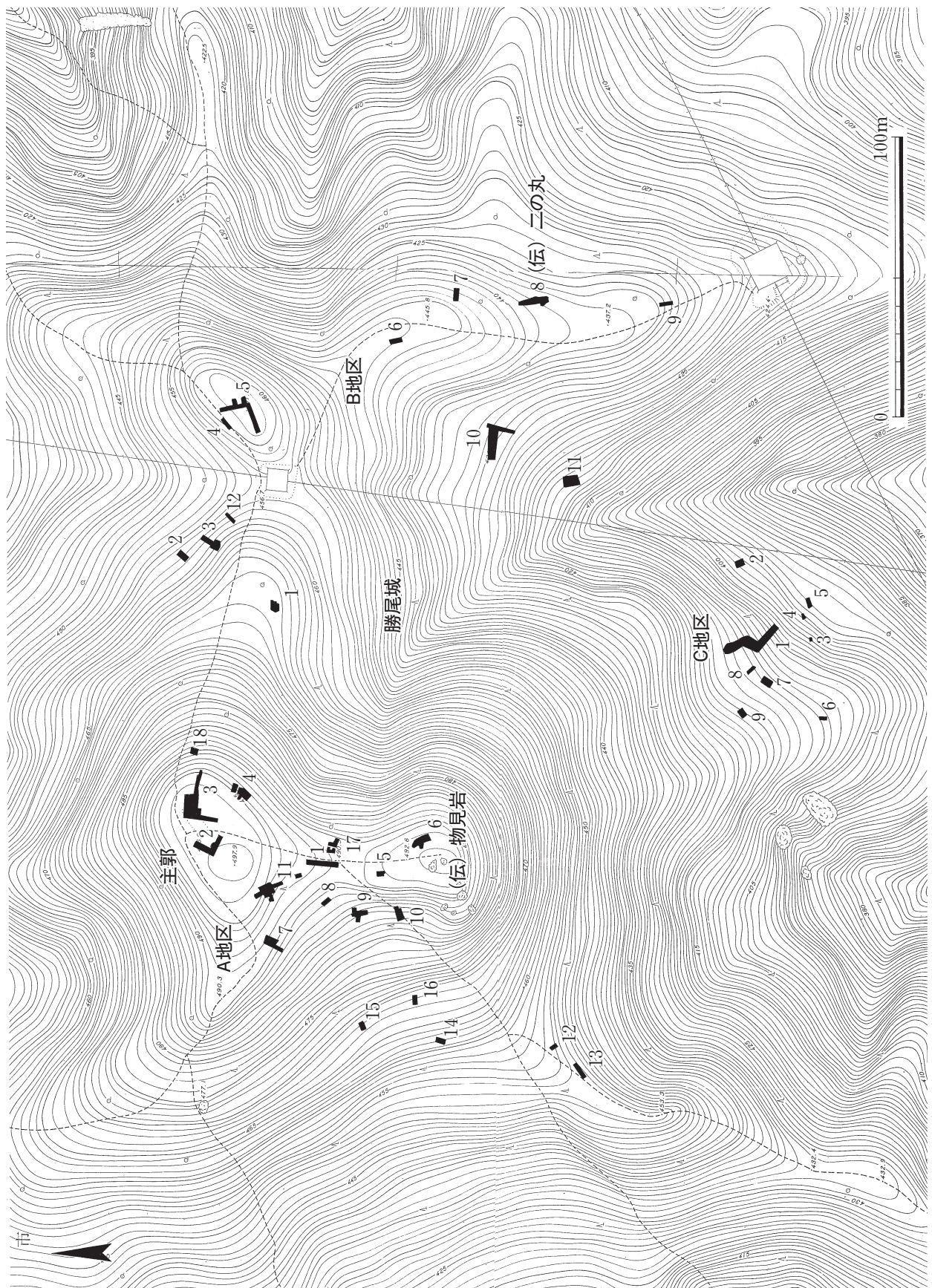
主郭南の曲輪の6 Tでは、曲輪造成に伴う段差が、7 Tでは柱穴と思われる小穴を確認した。また、主郭北の曲輪5 Tでは地山整形の曲輪と盛土の土塁を確認した。

主郭南西の曲輪の8 Tでは、岩盤を利用した切岸とその下端沿って掘られた溝が確認された。また、城の最南部曲輪では現状で石積みの折れを持つ虎口が確認された。

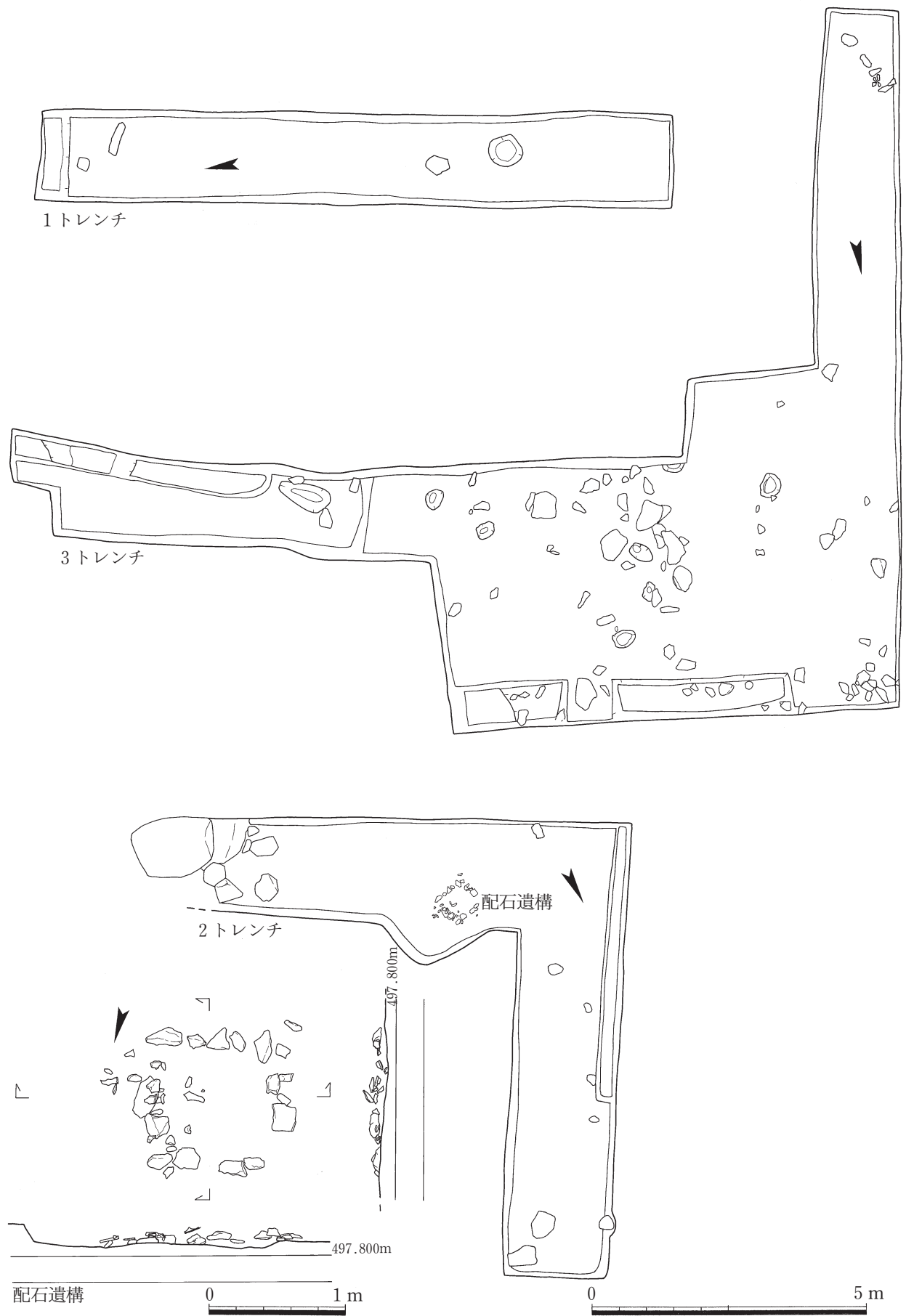
城の西側の尾根続きに設定した10 T、11 Tは他の箇所とは違い表土直下が岩盤となっている。周囲の状況から判断して、城の北西方向に伸びていた尾根を切り落としたものと推定され、その後、切残した部分を通路として使用したと思われる。

遺物は、少量ではあるが青磁、白磁、土師器が出土した。青磁は盤、碗の破片で、龍泉窯系で14世紀から15世紀にかけての物で、遺跡内でも最も古い時期に属し、鬼ヶ城の築城時期を示唆する資料となる可能性がある。また、白磁は16世紀代の景德鎮産の皿である。

鬼ヶ城は立ち木等の関係で、11ヶ所のトレンチしか設定できず小規模な調査にとどまり、遺構等の確認も不十分ではあるが、遺跡内で最も古い時期の遺物が確認された、これは、鬼ヶ城はもちろん遺跡の成立時期を考えさせる上で貴重な資料となると思われる。また、同時に戦国期の遺物も確認され、石積みの虎口が確認されるなど、鬼ヶ城が筑紫氏の城として、機能し続けていたと考えられる。



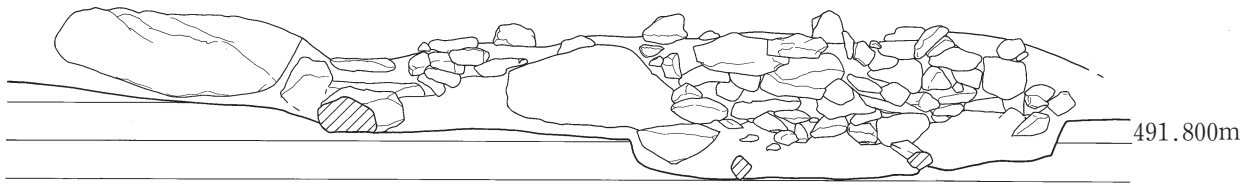
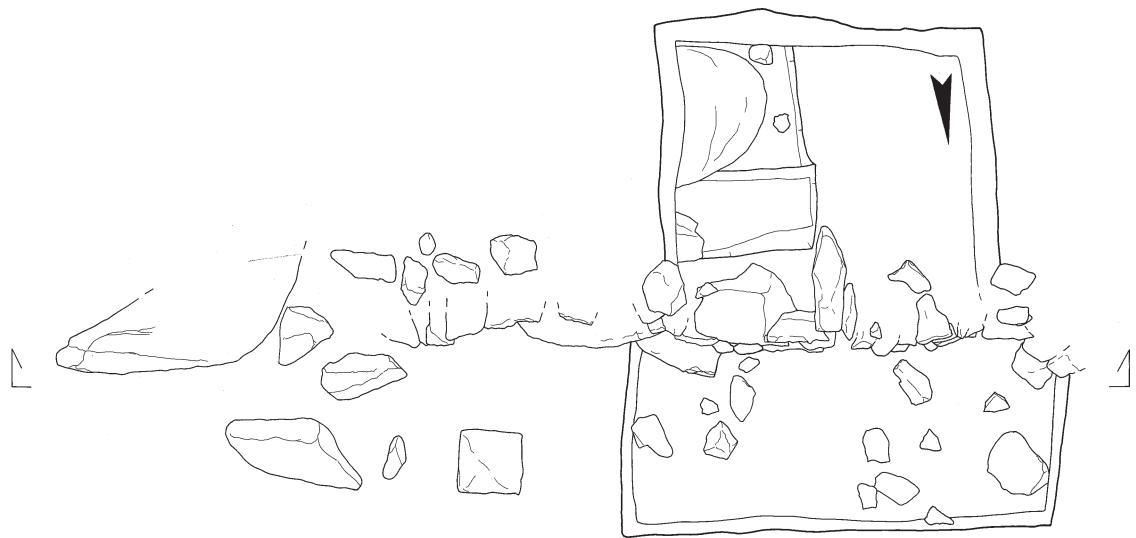
第78図 平成15年度調査勝尾城A・B・C地区トレンチ位置図 (1/2,000)



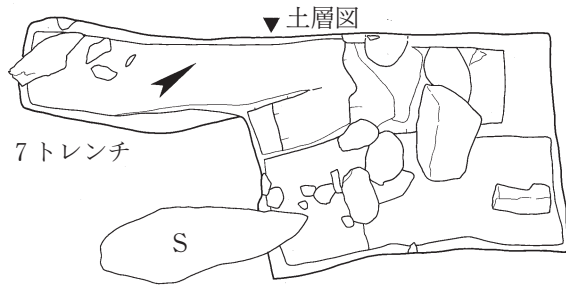
第79図 勝尾城A地区1・2・3トレンチ (1/100) 2トレンチ配石遺構 (1/40)



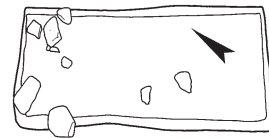
第80図 勝尾城A地区4トレンチ (1/40)



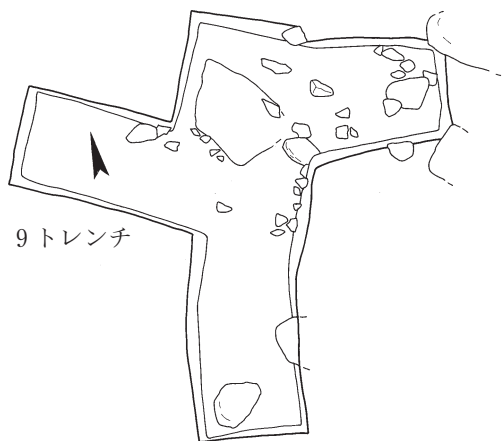
5トレンチ



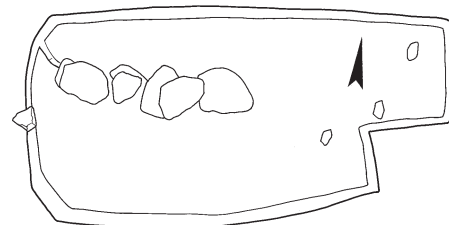
7トレンチ



8トレンチ



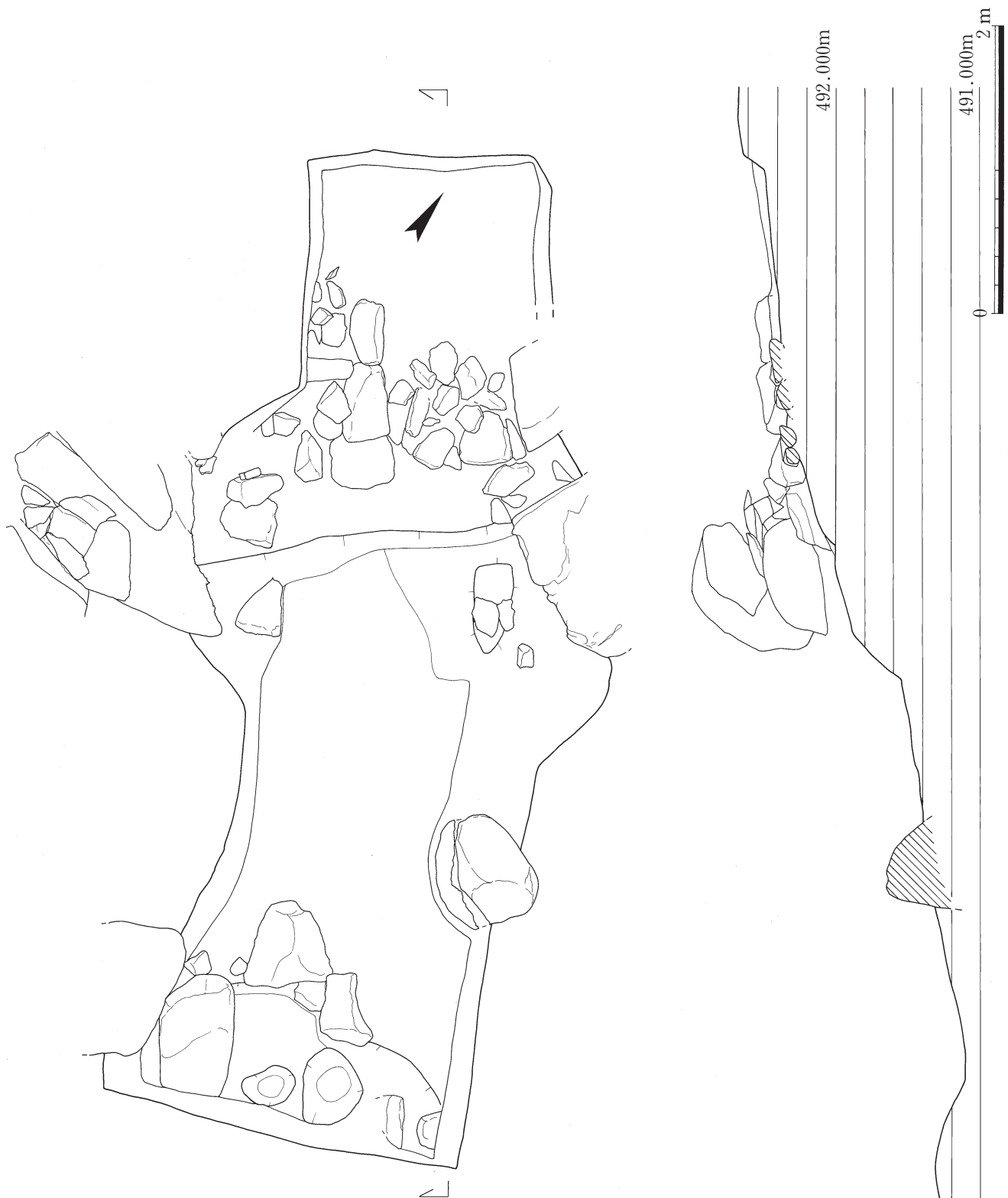
9トレンチ



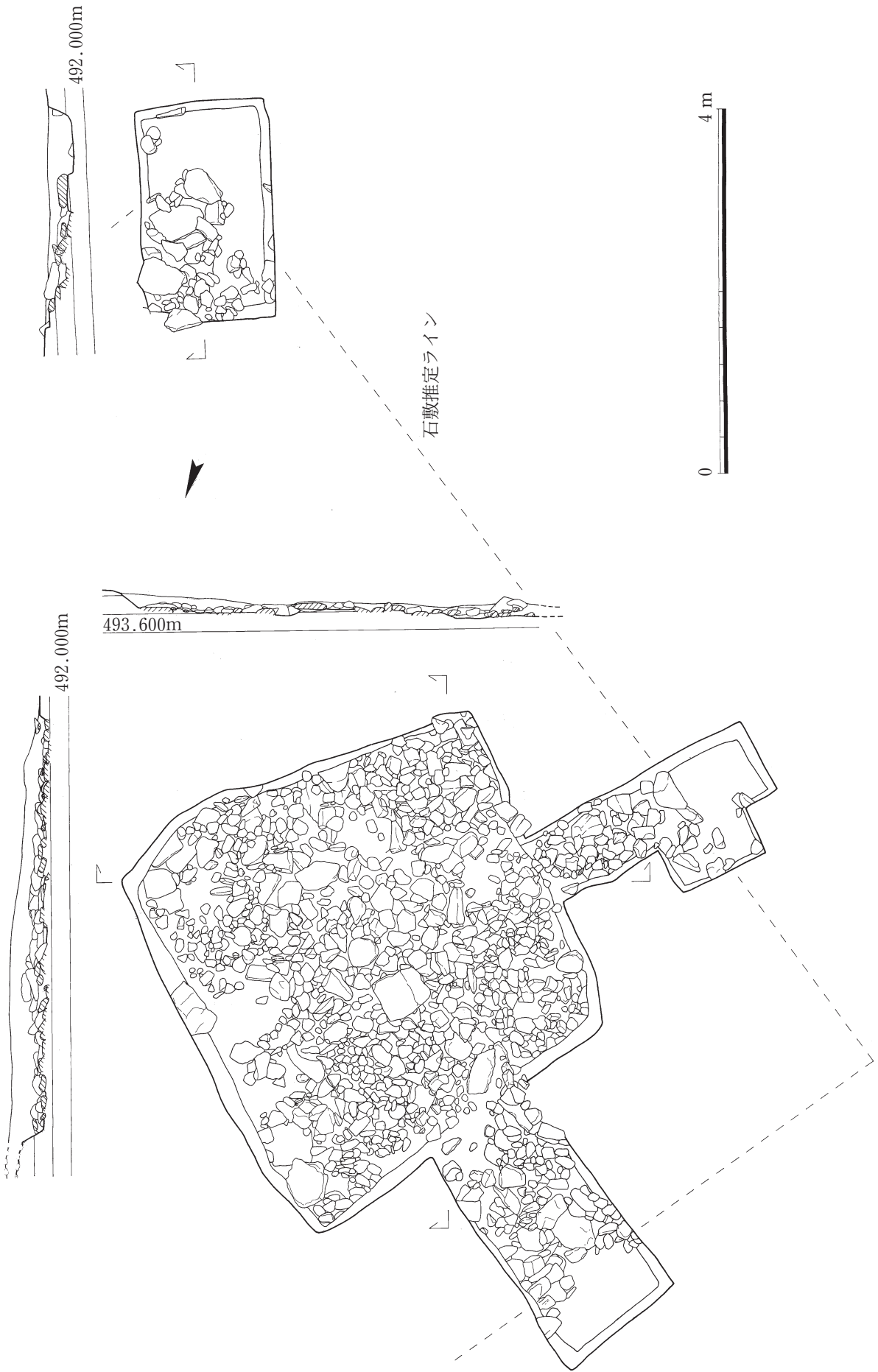
10トレンチ



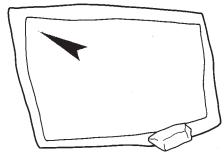
第81図 勝尾城A地区5トレンチ (1/40) 7・8・9・10トレンチ (1/100)



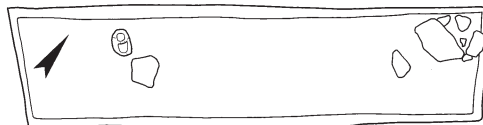
第82図 勝尾城A地区6トレンチ (1/40)



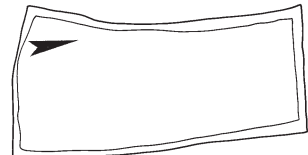
第83図 勝尾城A地区11トレンチ (1/60)



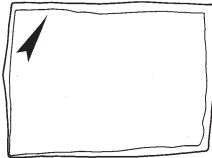
12トレンチ



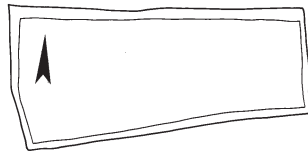
13トレンチ



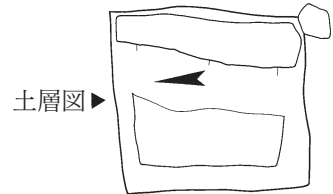
14トレンチ



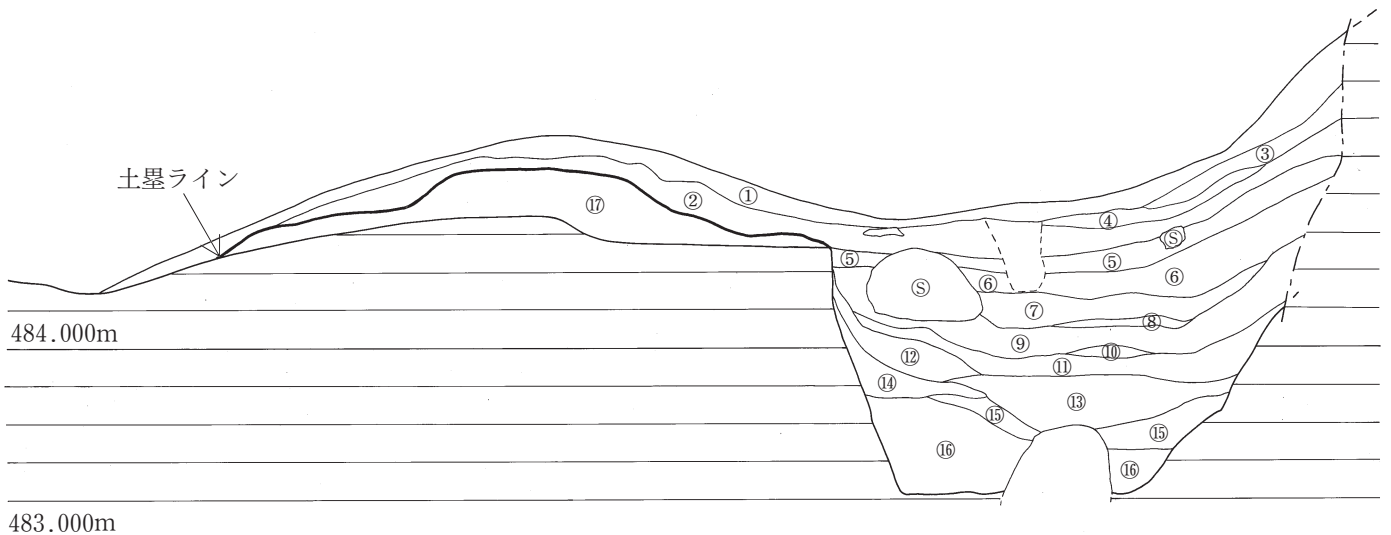
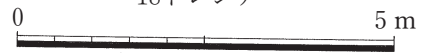
15トレンチ



16トレンチ

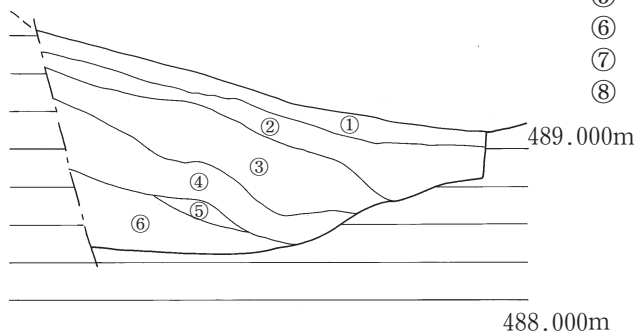


18トレンチ



7トレンチ

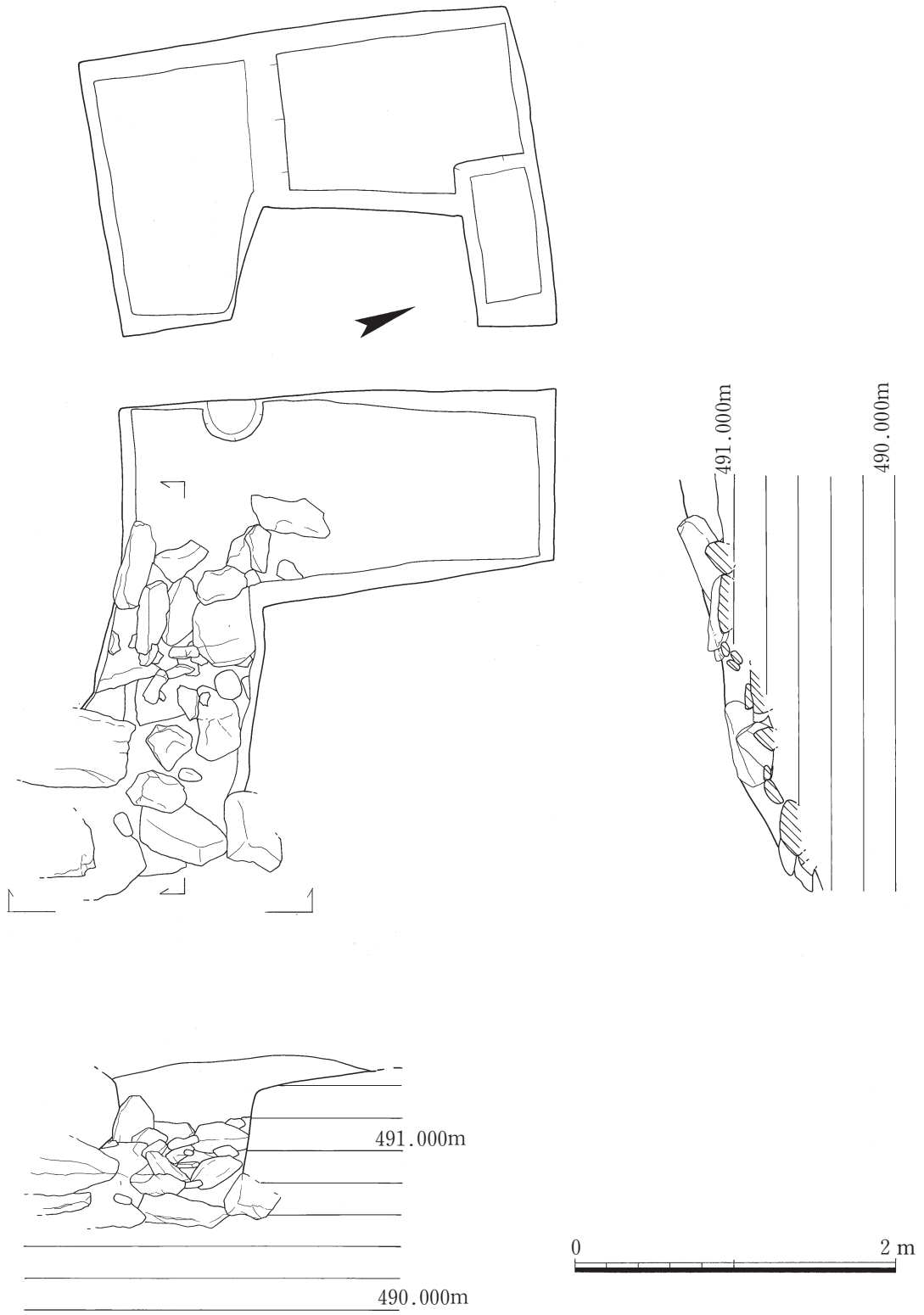
- | | |
|-------------|---------------|
| ① 表土 | ⑨ ⑦より砂粒細かい |
| ② 明茶色砂まじり土 | ⑩ 茶灰色砂質土 |
| ③ ②よりやや暗い | ⑪ 茶灰色に灰白色まじり土 |
| ④ 明灰茶色砂まじり土 | ⑫ 茶色砂質土 |
| ⑤ 明灰茶色砂質土 | ⑬ ⑫より明るい |
| ⑥ ⑤より明るい | ⑭ ⑫より赤みが強い |
| ⑦ ⑥より明るい | ⑮ ⑬より砂粒が細かい |
| ⑧ 茶淡色砂質土 | ⑯ ⑮と同じで砂粒が細かい |
| | ⑰ 地山 |



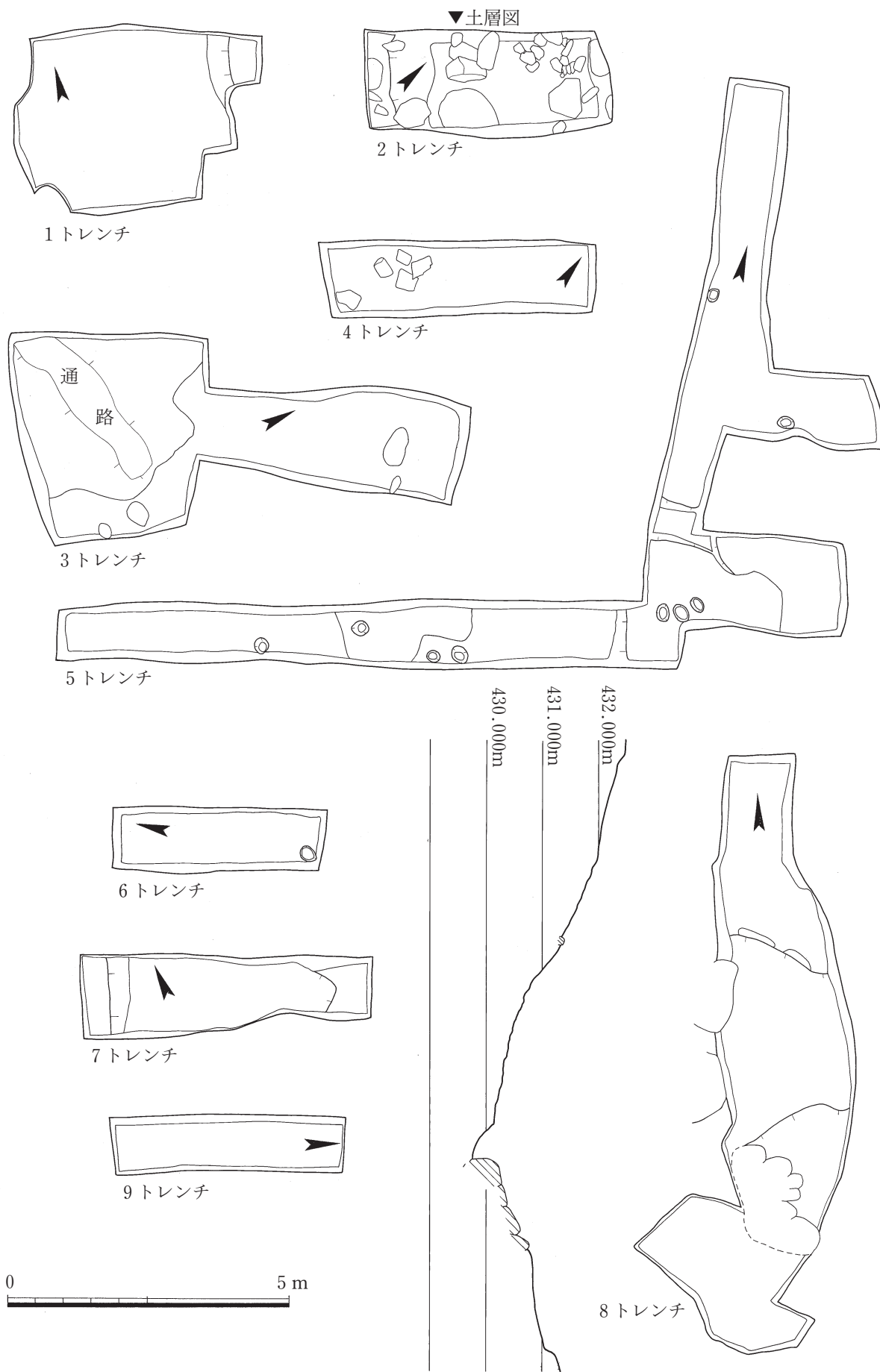
18トレンチ

- | | |
|--------|------------|
| ① 表土 | ④ 明赤褐色土 |
| ② 灰褐色土 | ⑤ 赤褐色土砂まじり |
| ③ 赤褐色土 | ⑥ 明灰褐色土 |

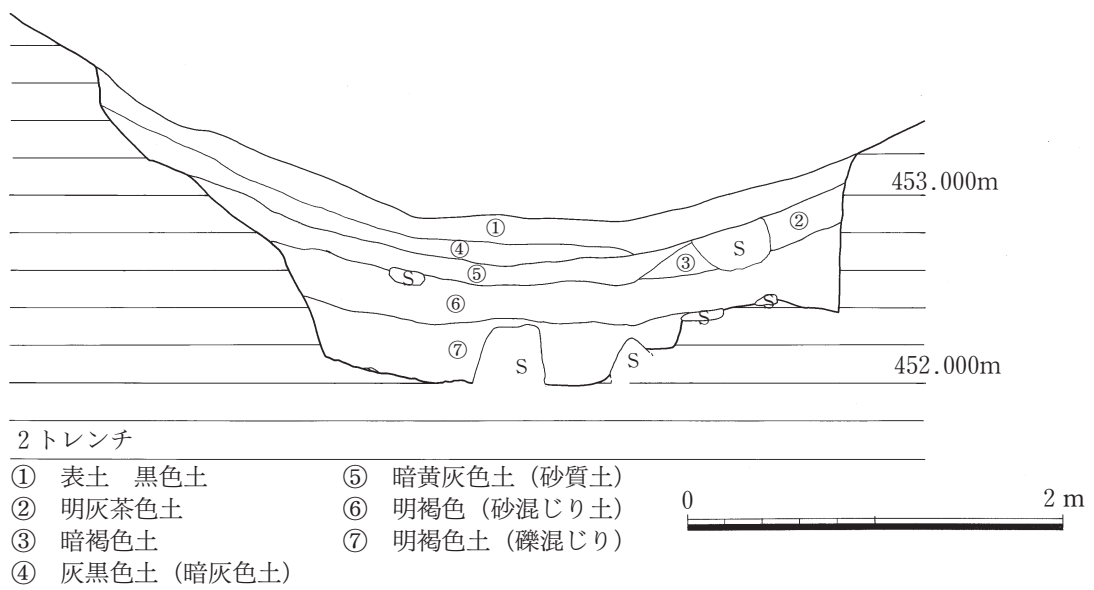
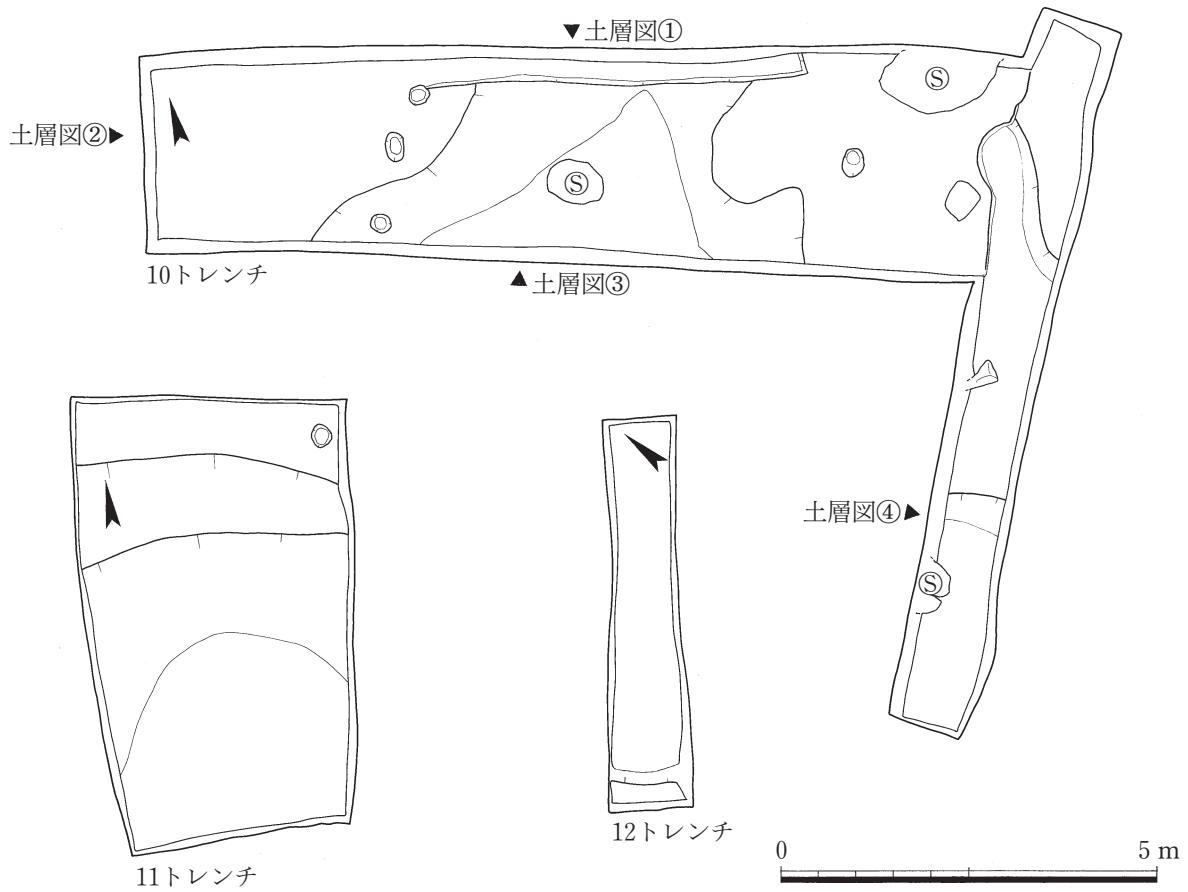
第84図 勝尾城A地区12・13・14・15・16・18トレンチ (1/100) 7・18トレンチ土層 (1/40)



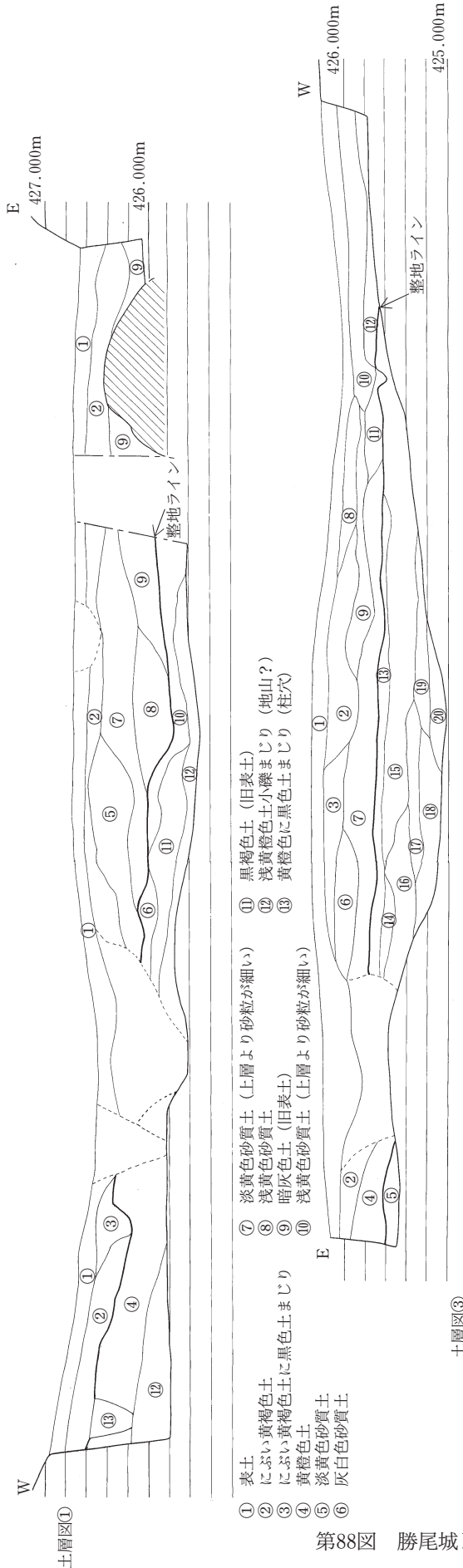
第85図 勝尾城A地区17トレンチ (1/40)



第86図 勝尾城B地区1・2・3・4・5・6・7・8・9トレンチ (1/100)

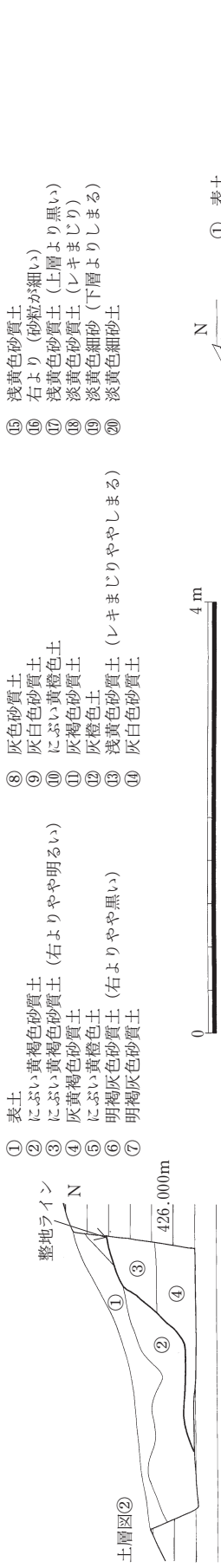


第87図 勝尾城B地区10・11・12トレンチ (1/100) 2トレンチ土層 (1/40)



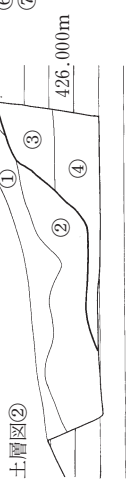
- ① 表土
- ② にぶい黄褐色土
- ③ にぶい黄褐色土に黒色土まじり
- ④ 黄褐色土
- ⑤ 淡黄色砂質土
- ⑥ 灰白色砂質土
- ⑦ 淡黄色砂質土 (上層より砂粒が細かい)
- ⑧ 浅黄色砂質土
- ⑨ 暗灰色土 (旧表土)
- ⑩ 浅黄色砂質土 (上層より砂粒が細かい)
- ⑪ 黒褐色土 (旧表土)
- ⑫ 浅黄褐色土小礫まじり (地山?)
- ⑬ 黄褐色に黒色土まじり (柱穴)

土層図③

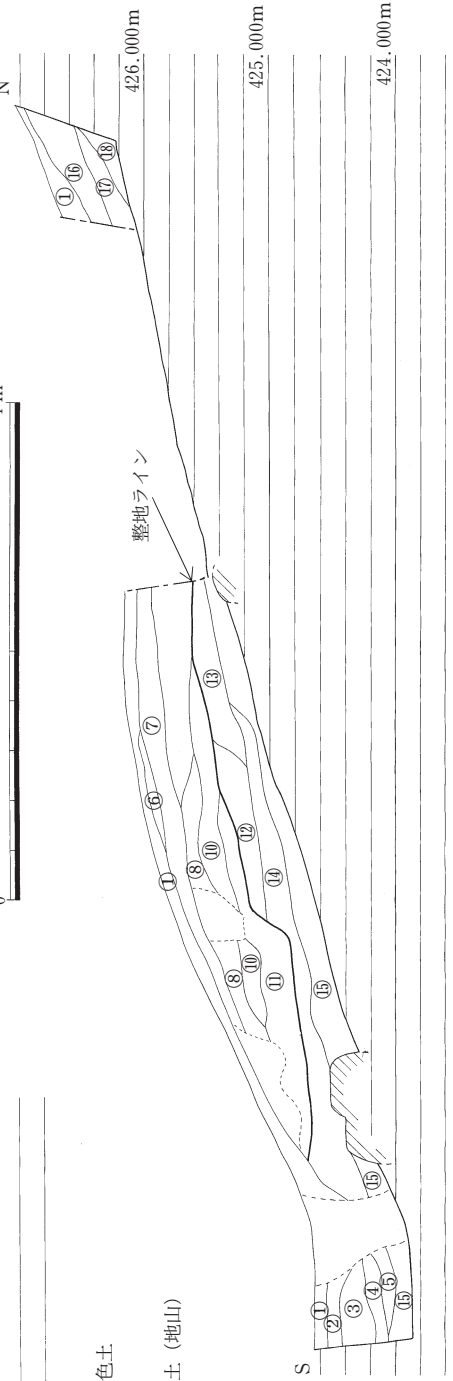


- ① 表土
- ② にぶい黄褐色土
- ③ にぶい黄褐色土 (右よりやや明るい)
- ④ 灰黄褐色砂質土
- ⑤ にぶい黄褐色土
- ⑥ 明褐色砂質土 (右よりやや黒い)
- ⑦ 明褐色砂質土
- ⑧ 灰色砂質土
- ⑨ 灰白色砂質土
- ⑩ にぶい黄褐色土
- ⑪ 灰褐色砂質土
- ⑫ 灰褐色土
- ⑬ 浅黄色砂質土 (レキまじりやや明るい)
- ⑭ 灰白色砂質土
- ⑮ 浅黄色砂質土 (砂粒が細かい)
- ⑯ 右より (砂粒が細かい)
- ⑰ 浅黄色砂質土 (上層より黒い)
- ⑱ 淡黄色砂質土 (レキまじり)
- ⑲ 淡黄色細砂 (下層よりしまる)
- ⑳ 淡黄色細砂

土層図②



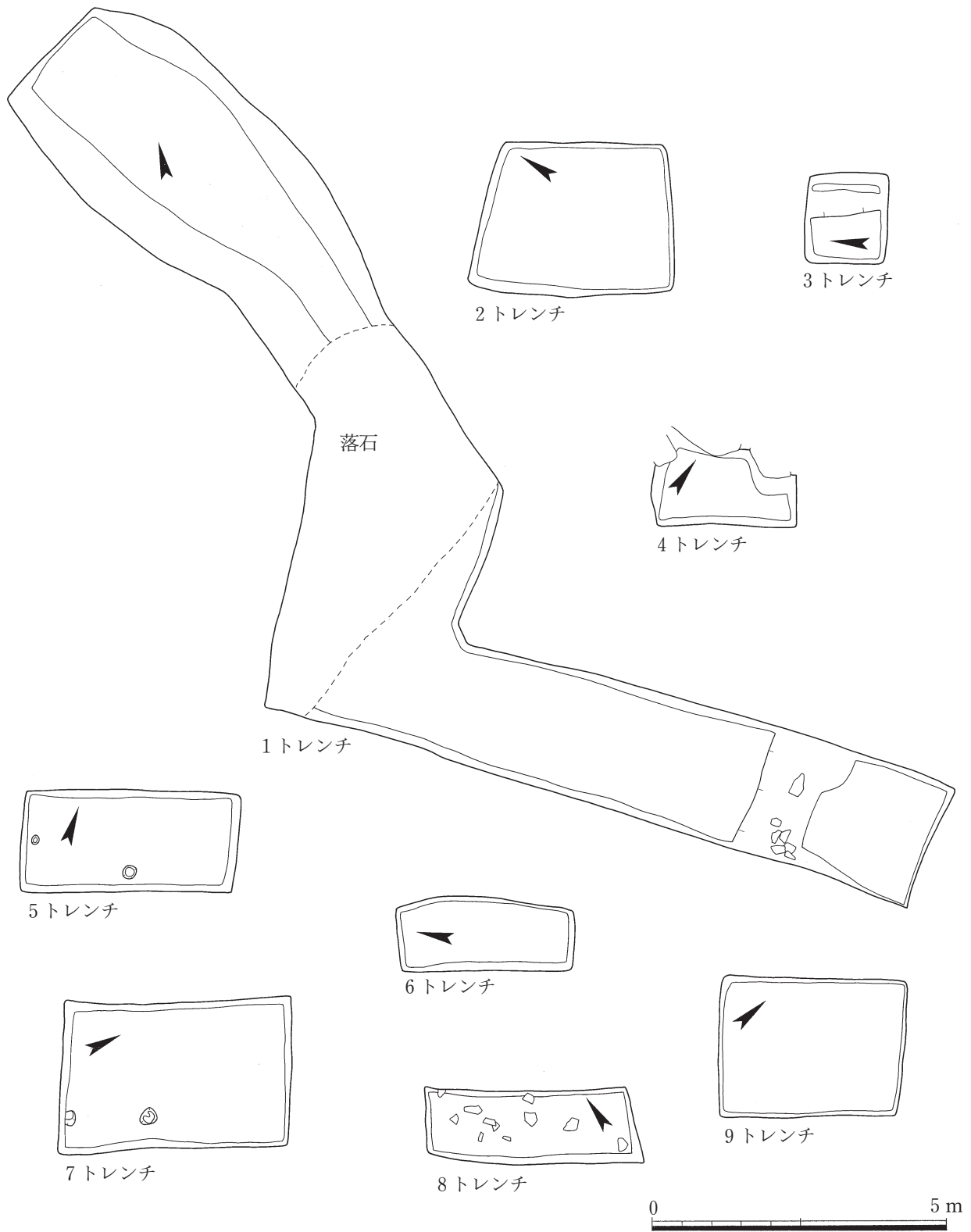
- ① 表土
- ② にぶい黄褐色土
- ③ 黄褐色土
- ④ 浅黄褐色土
- 小礫まじり土 (地山)



- ① 表土
- ② 暗褐色土
- ③ 褐灰色砂質土
- ④ 土層よりやや明るい
- ⑤ 暗褐色砂質土
- ⑥ にぶい黄褐色砂質土に灰黒色土まじり
- ⑦ にぶい黄褐色砂質土
- ⑧ 浅黄褐色砂質土
- ⑨ 灰黄褐色砂質土
- ⑩ 灰白色砂質土 (上層より砂粒細かい)
- ⑪ 灰黄褐色砂質土
- ⑫ 灰黄褐色砂質土
- ⑬ にぶい黄褐色土
- ⑭ にぶい黄褐色砂質土
- ⑮ 黒褐色土 (旧表土)
- ⑯ にぶい黄褐色砂質土
- ⑰ 暗灰色土
- ⑱ 浅黄褐色土
- ⑲ 小礫まじり

土層図④

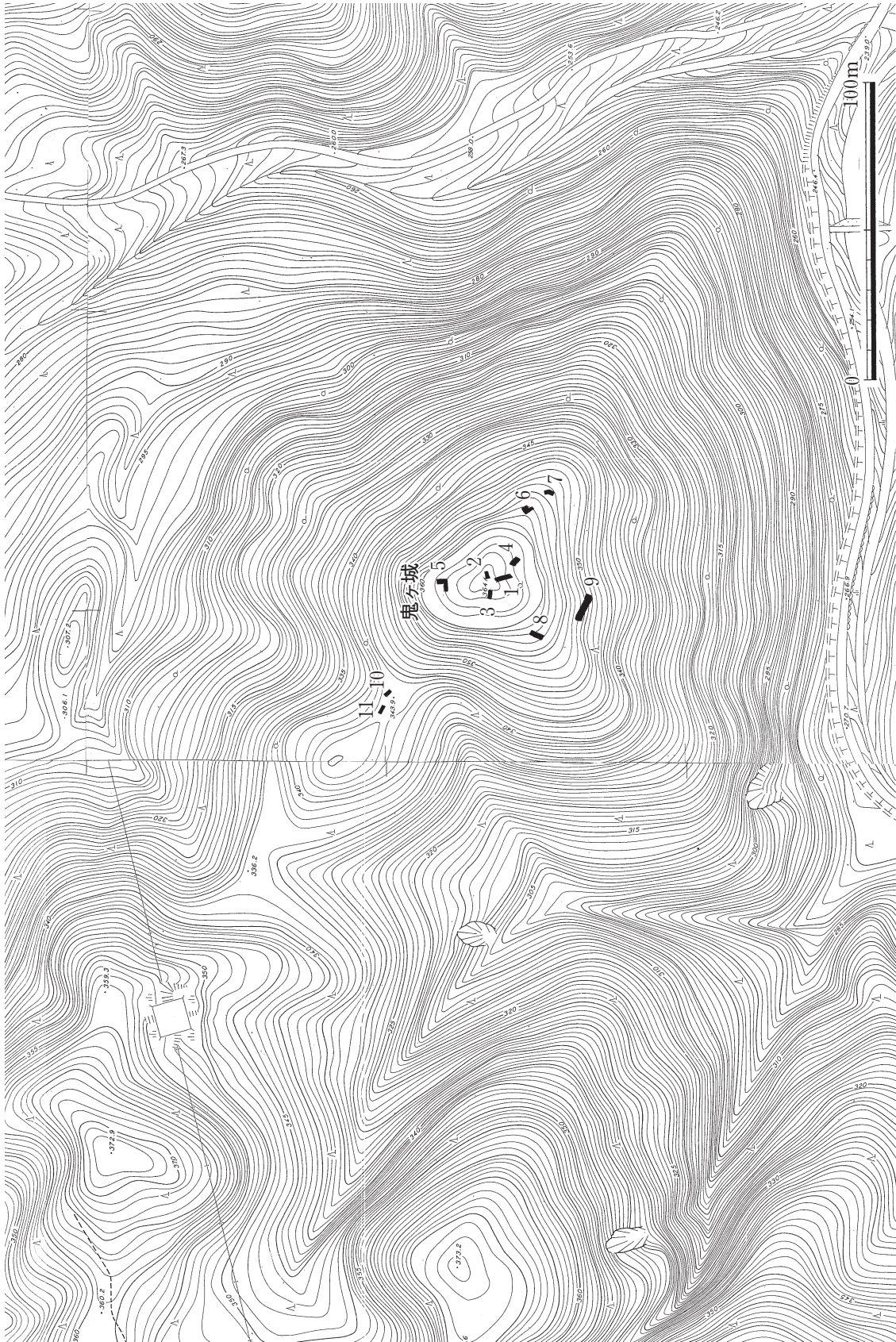
第88図 勝尾城B地区10トレンチ土層 (1/60)



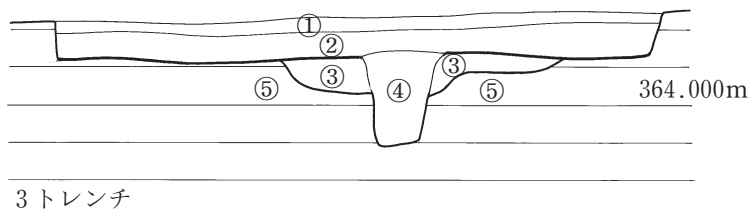
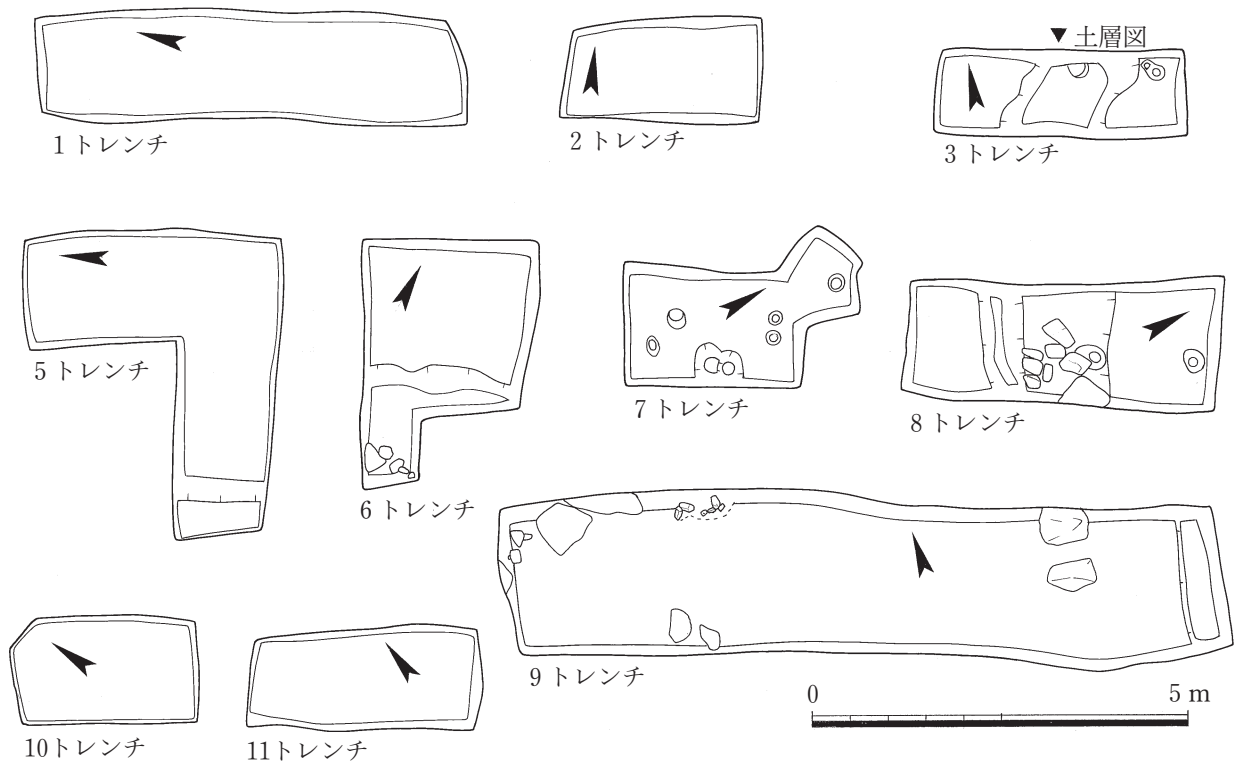
第89図 勝尾城C地区1・2・3・4・5・6・7・8・9トレンチ (1/100)



第90図 勝尾城C地区1トレンチ主要部 (1/60)



第91図 平成15年度鬼ヶ城地区トレンチ位置図 (1 / 2,000)

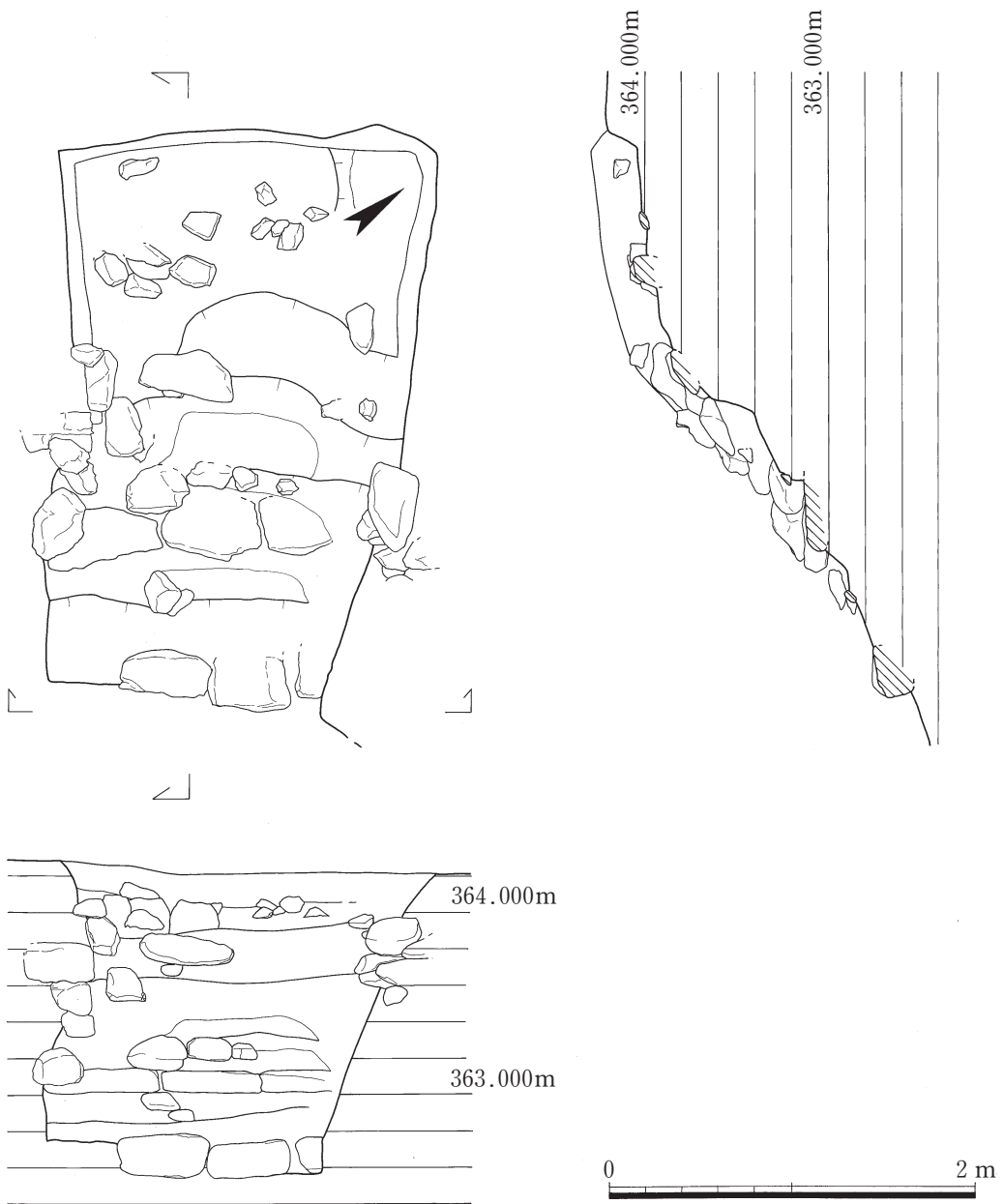


3 トレンチ

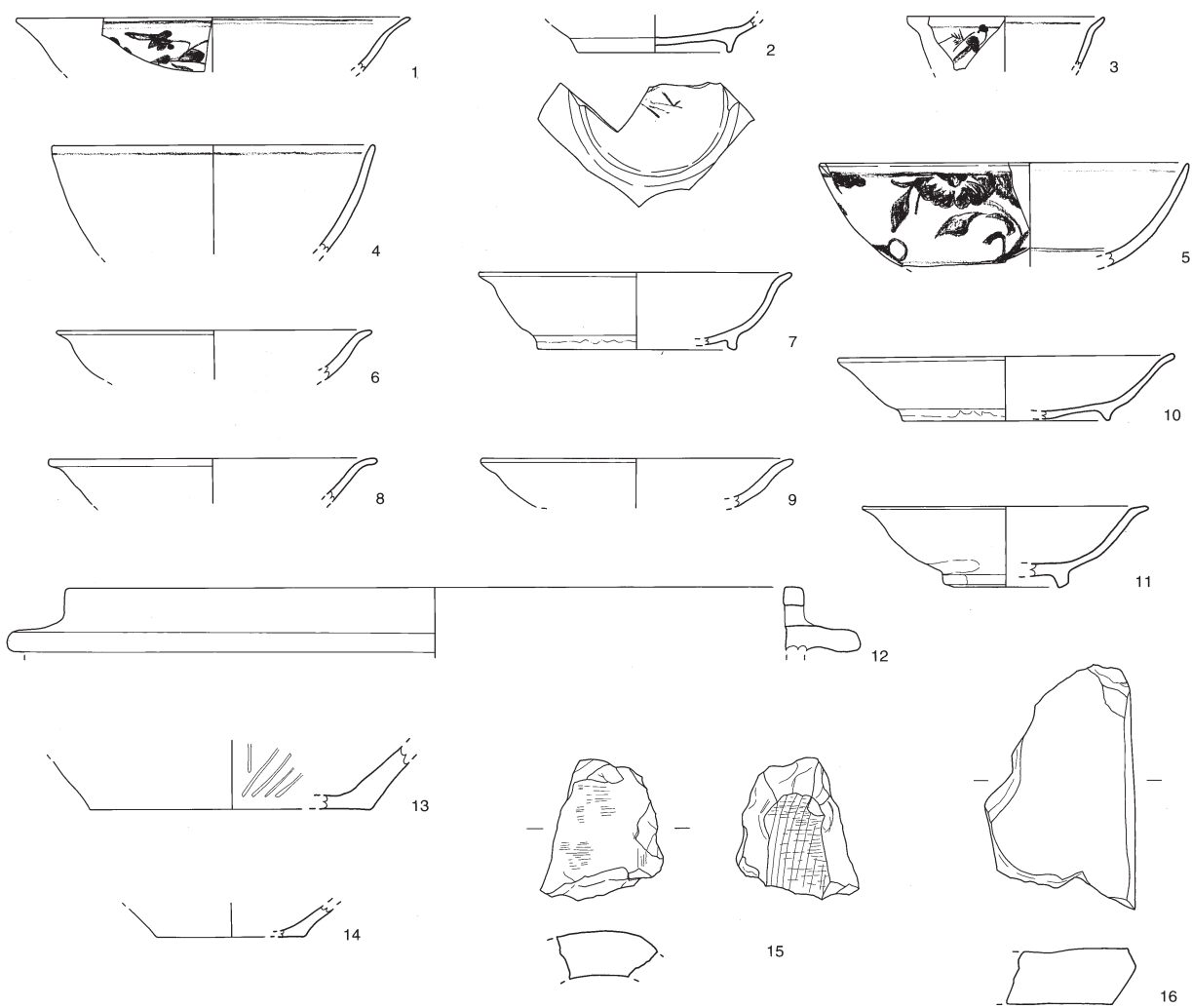
- ① 表土
- ② 暗灰褐色に黄褐色まじり土
- ③ 黄褐色土 (整地土)
- ④ 暗灰褐色土
- ⑤ 明黄褐色土 (地山)



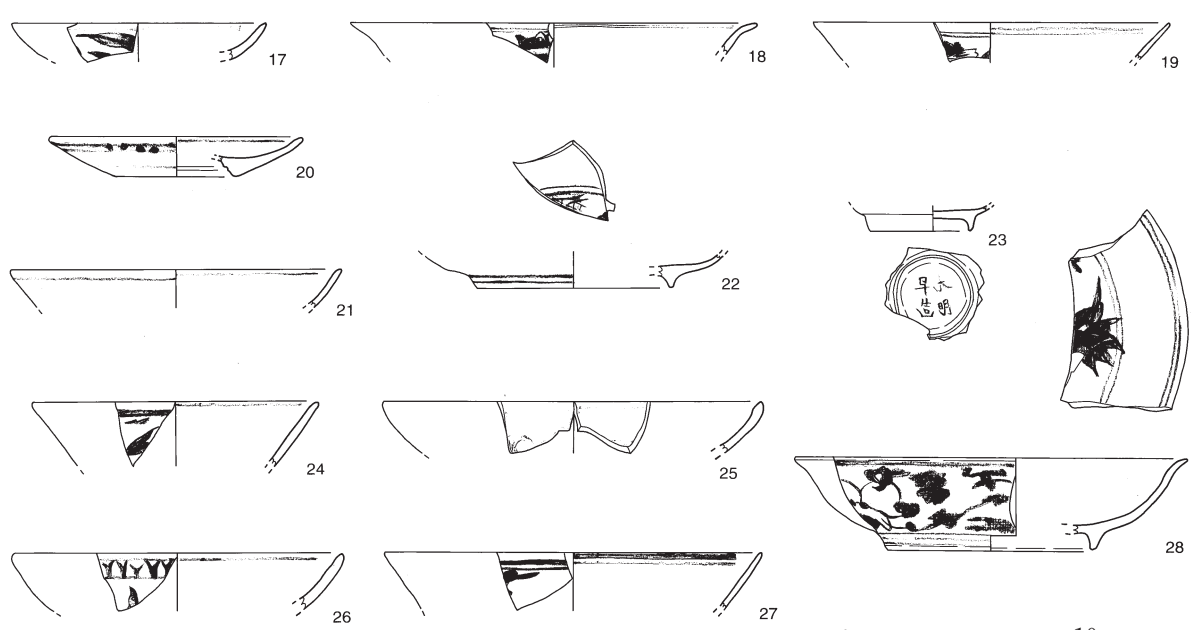
第92図 鬼ヶ城地区 1・2・3・4・5・6・7・8・9・10・11 トレンチ (1/100) 3 トレンチ土層 (1/40)



第93図 鬼ヶ城地区4トレンチ (1/40)

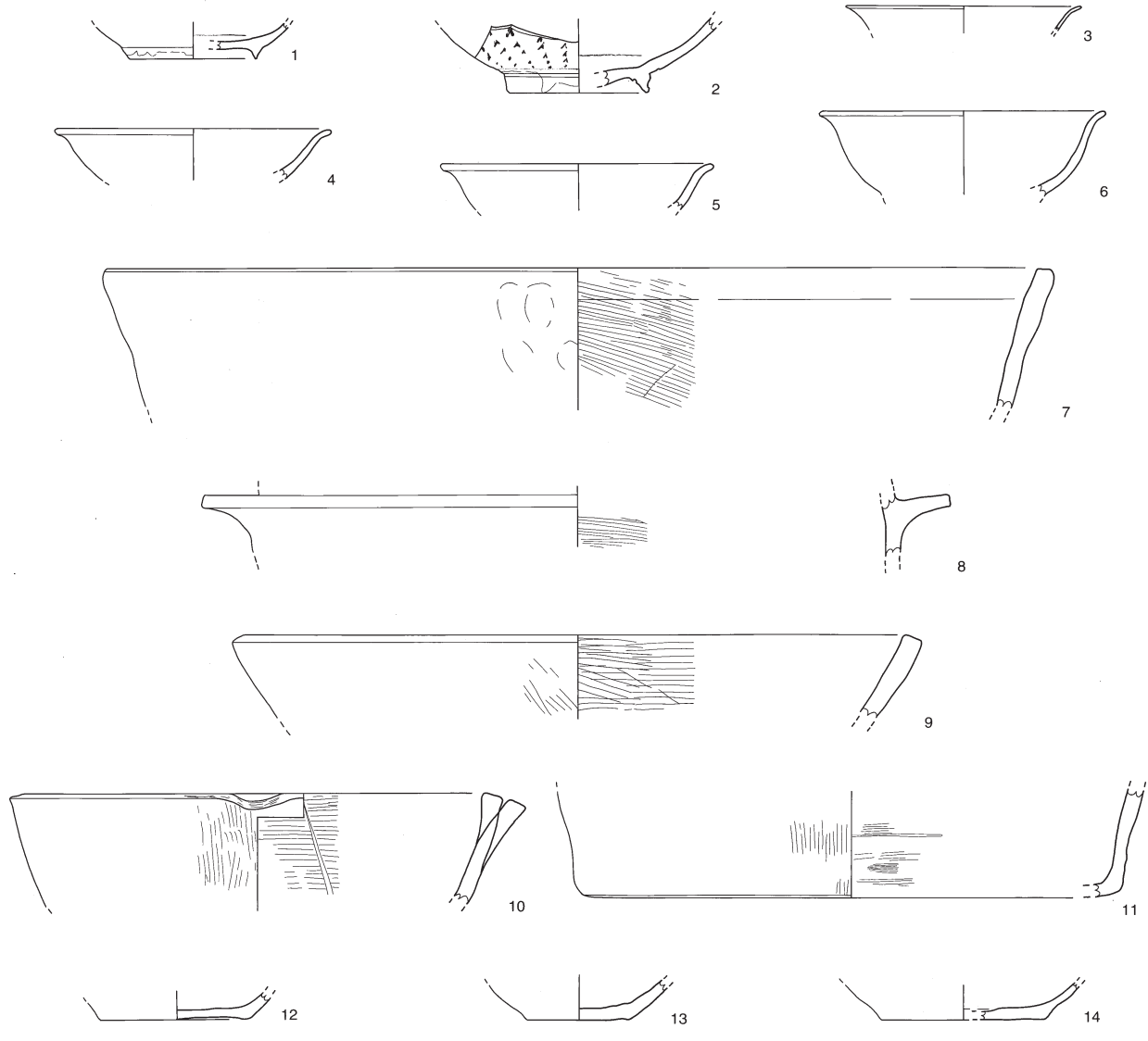


1 T

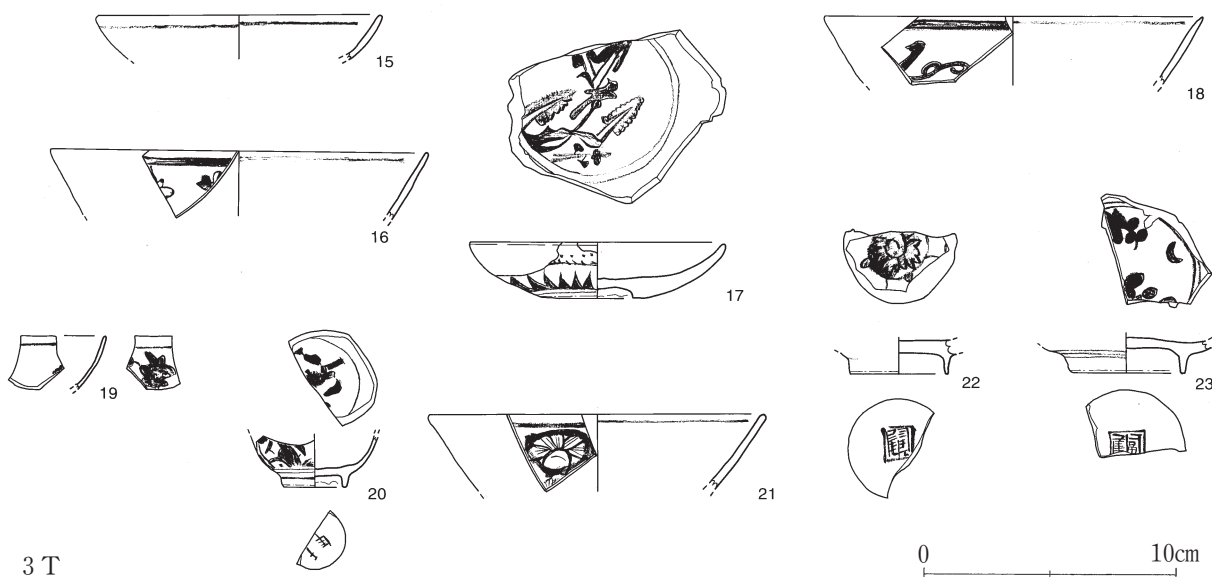


2 T

第94図 勝尾城A地区1・2トレンチ出土遺物 (1 / 3)

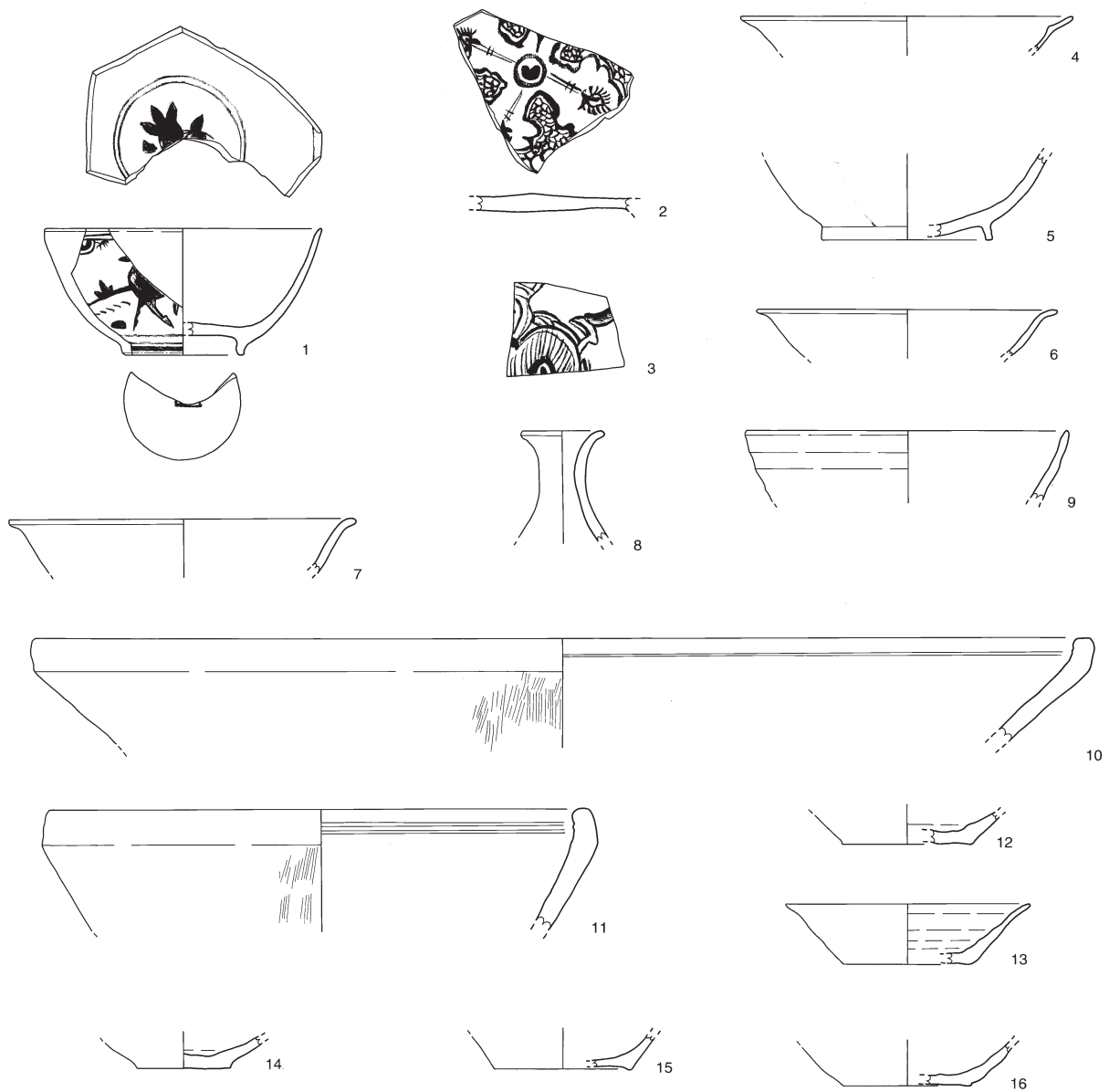


2 T

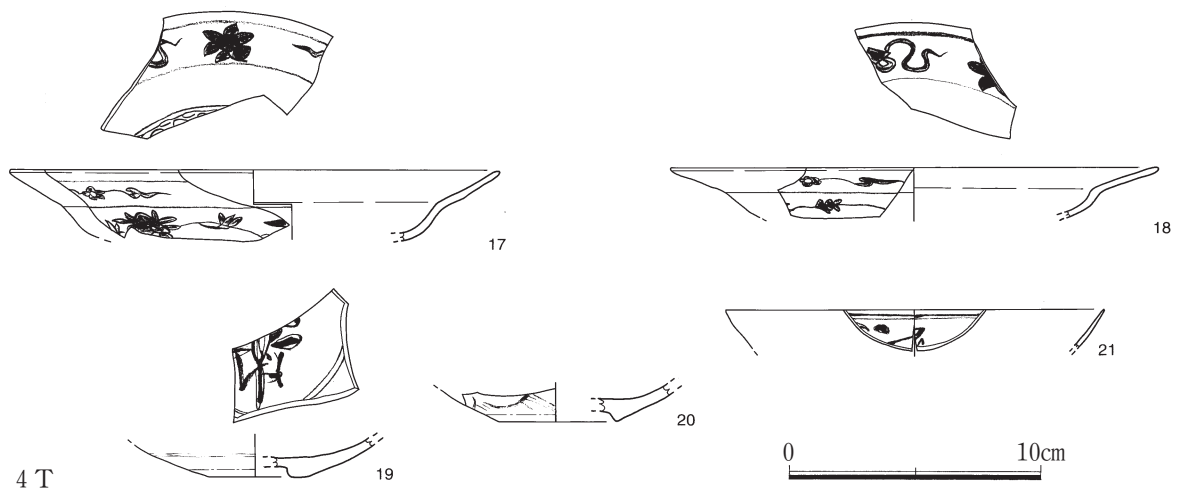


3 T

第95図 勝尾城A地区2・3トレンチ出土遺物(1/3)

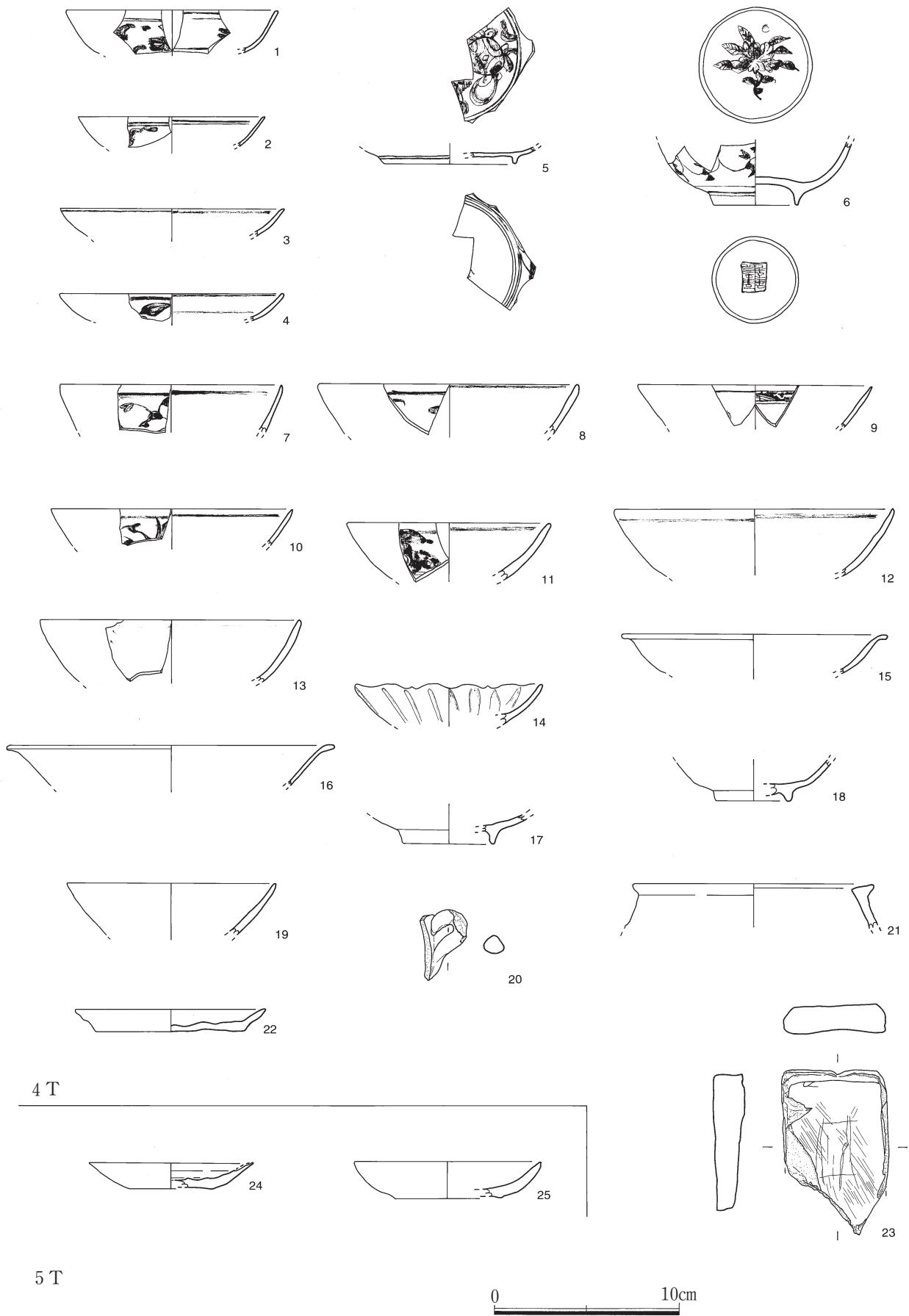


3 T

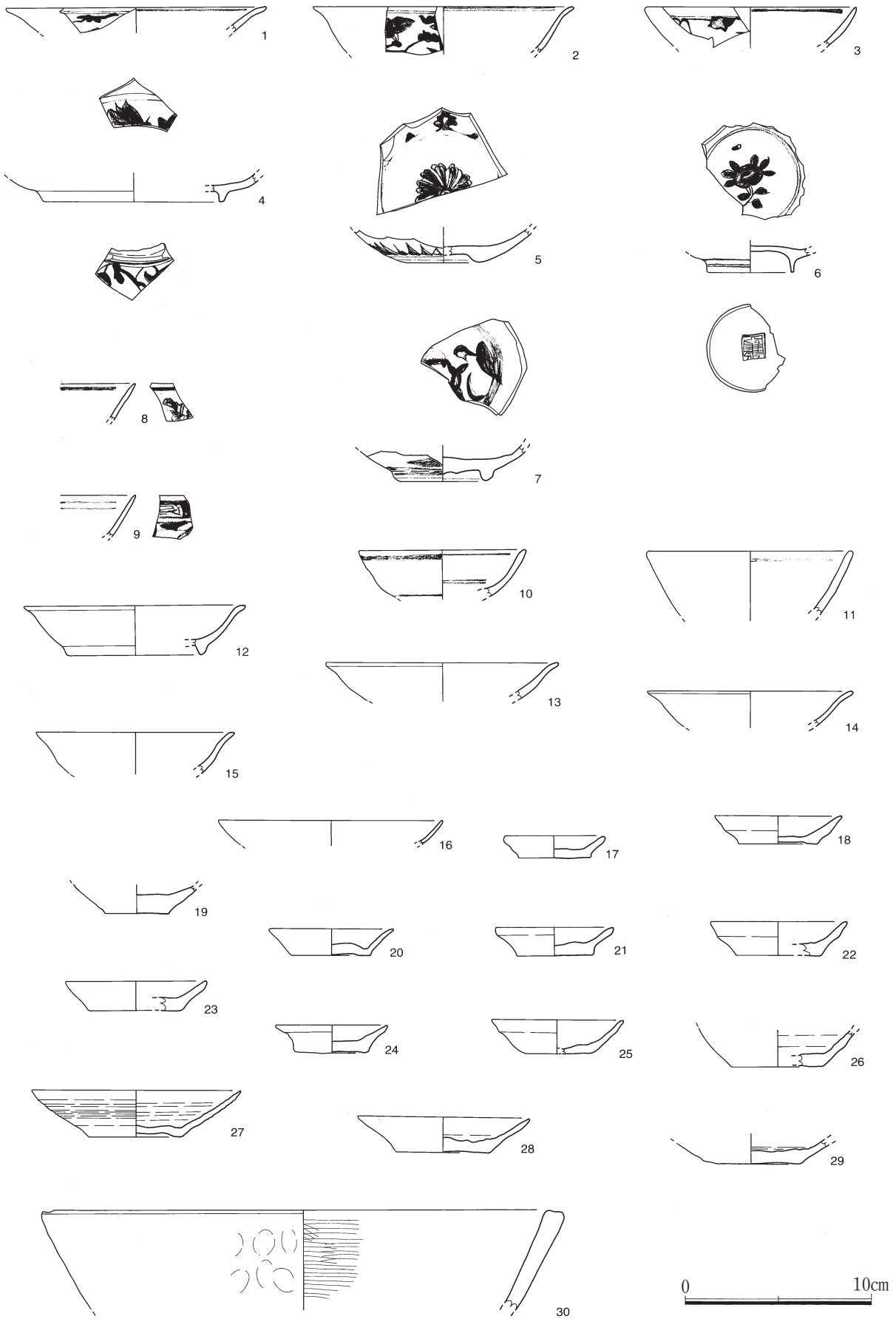


4 T

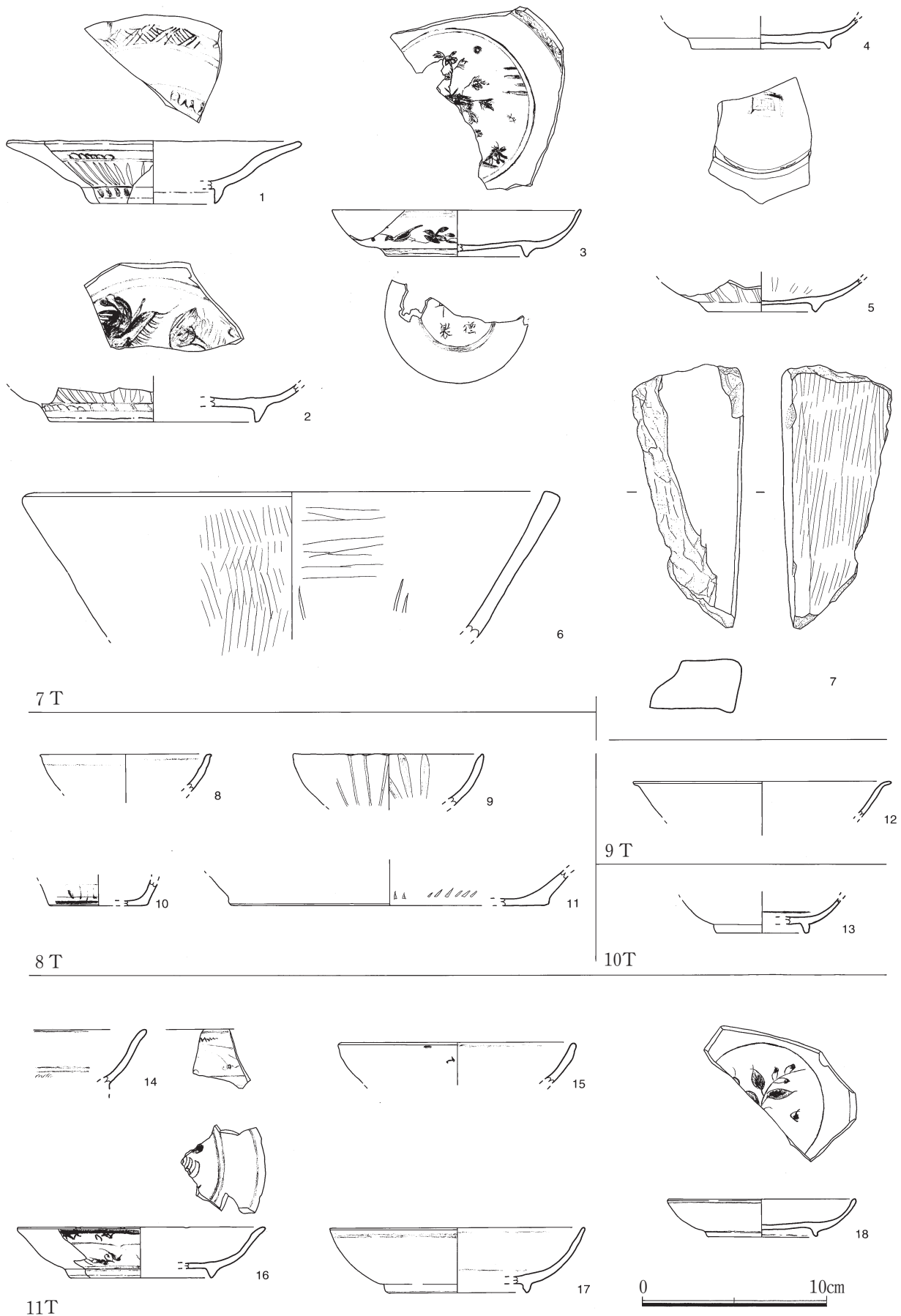
第96図 勝尾城A地区3・4トレンチ出土遺物(1/3)



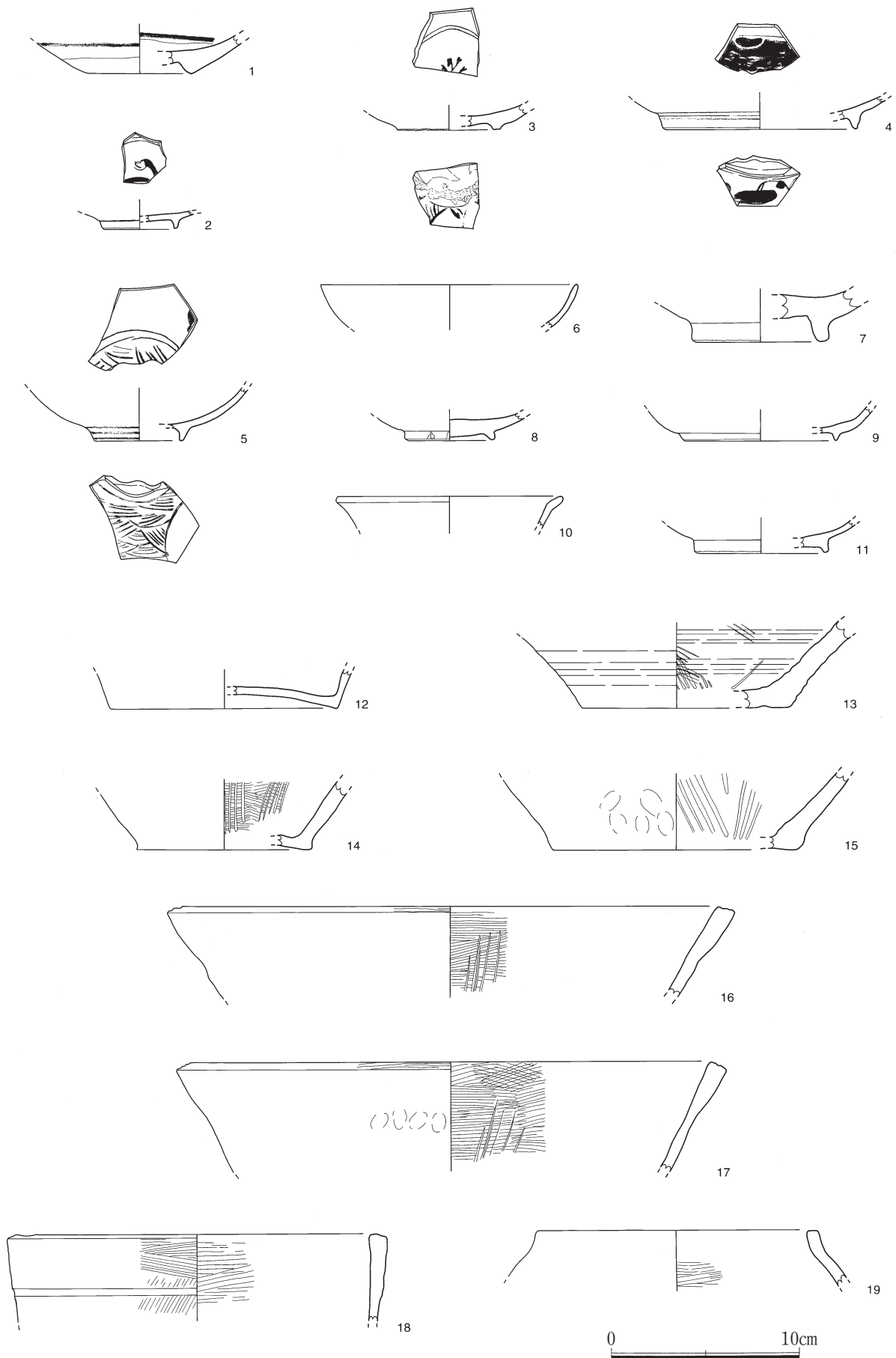
第97図 勝尾城A地区4・5トレンチ出土遺物(1/3)



第98図 勝尾城A地区6トレンチ出土遺物 (1 / 3)

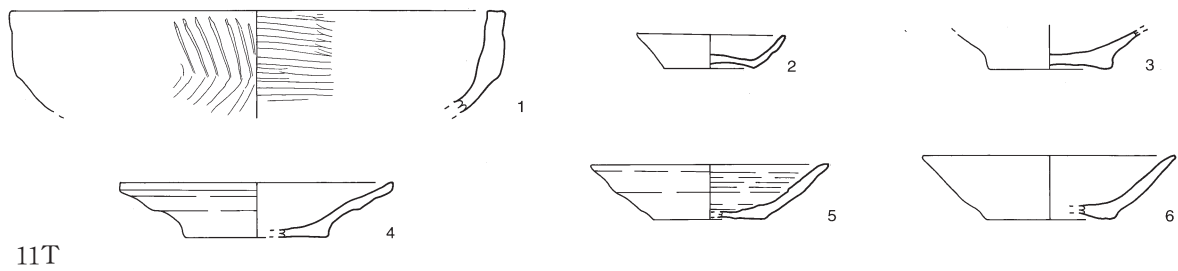


第99図 勝尾城A地区7・8・9・10・11トレンチ出土遺物 (1/3)

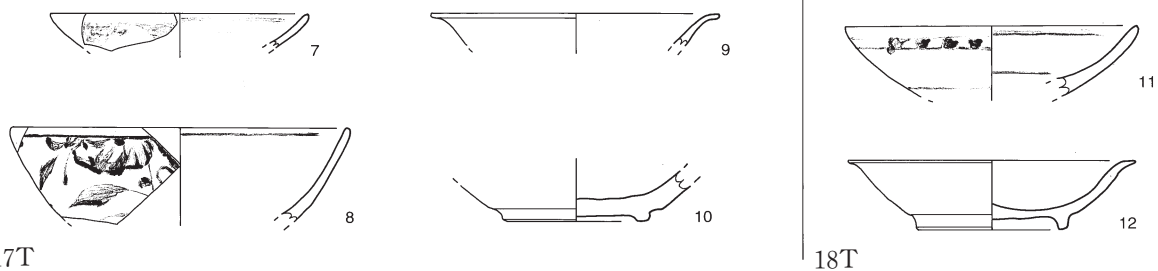


第100図 勝尾城A地区11トレンチ出土遺物 (1 / 3)

A地区



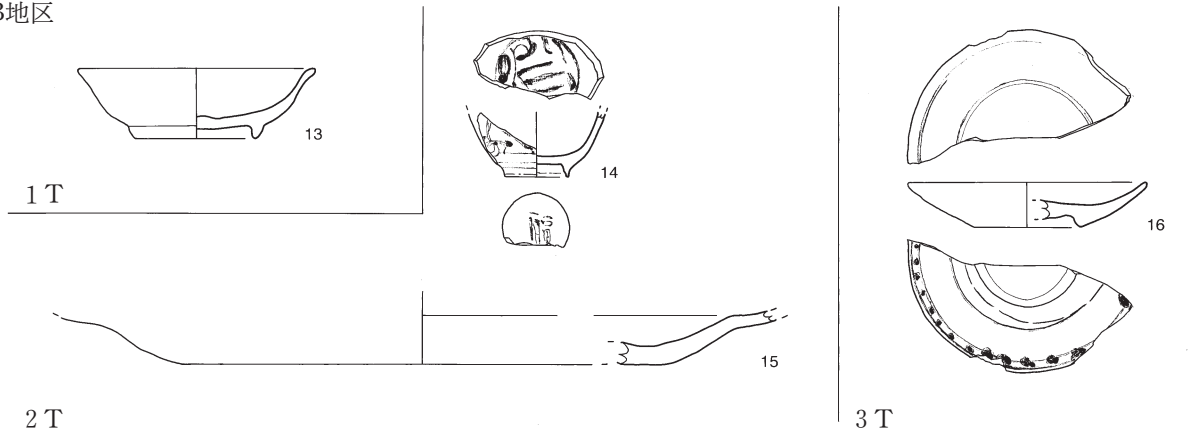
11T



17T

18T

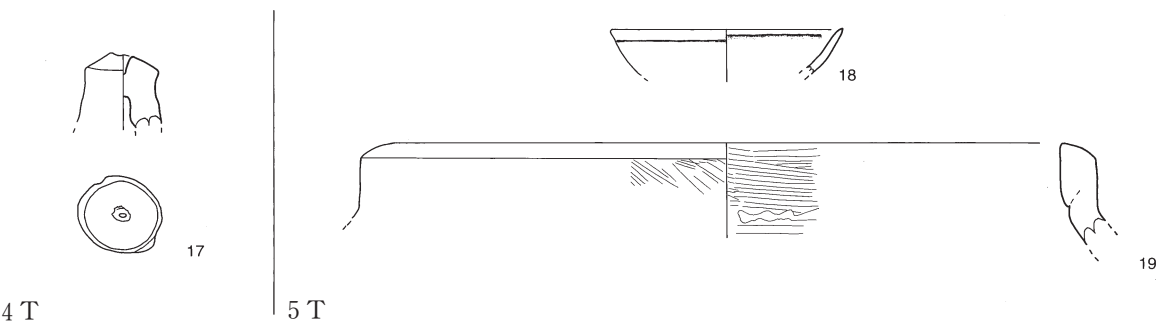
B地区



1 T

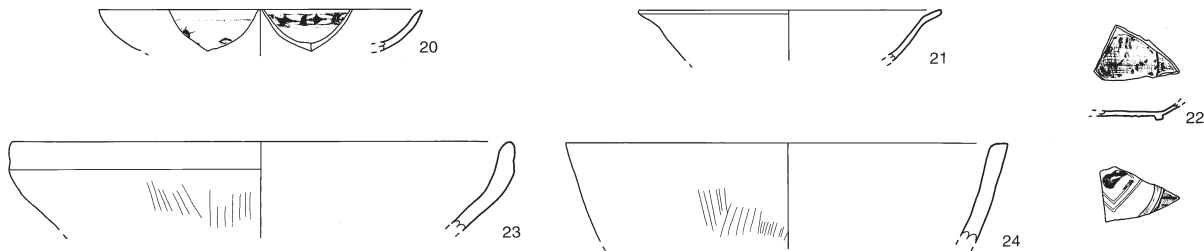
2 T

3 T

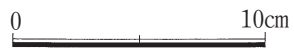


4 T

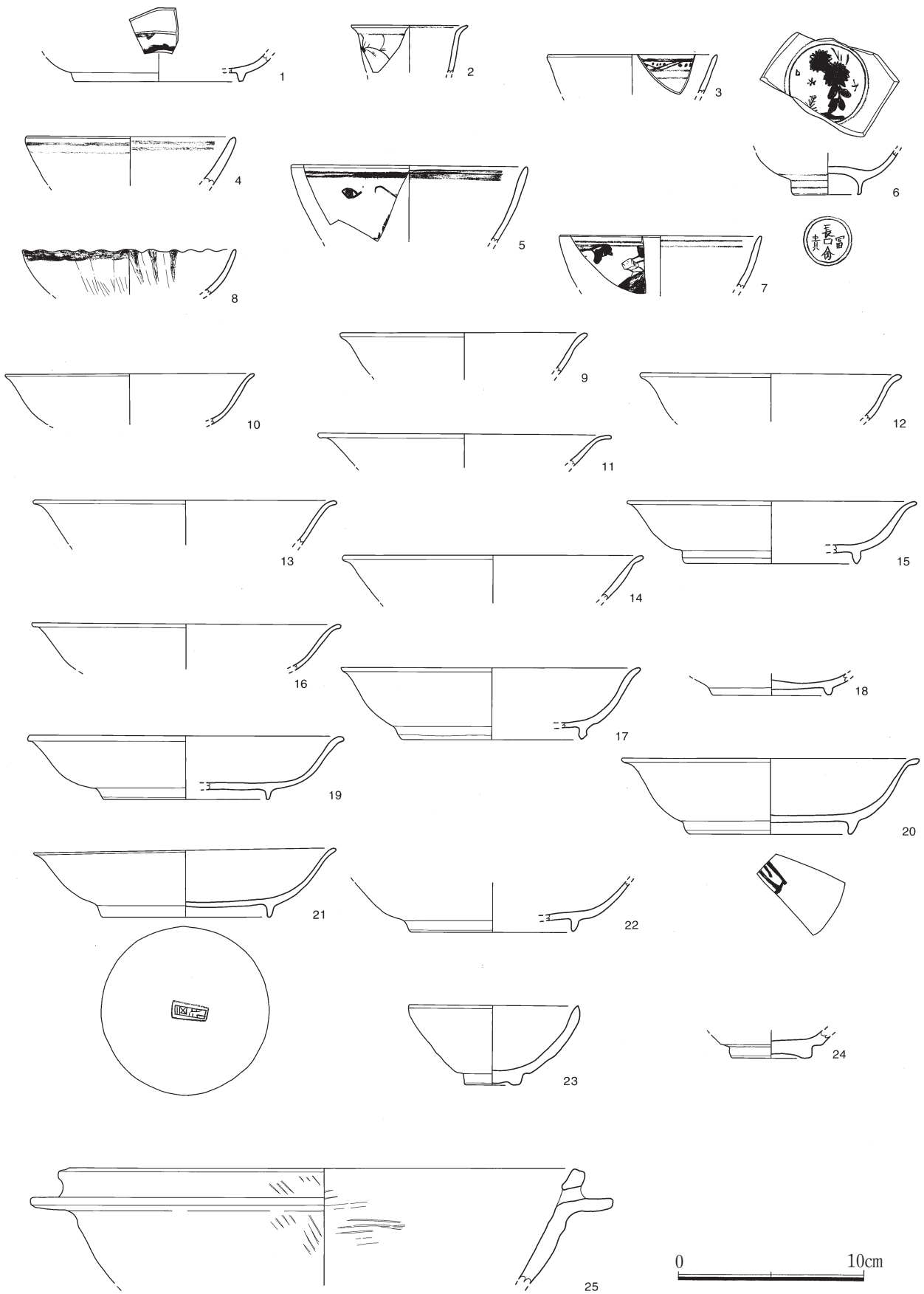
5 T



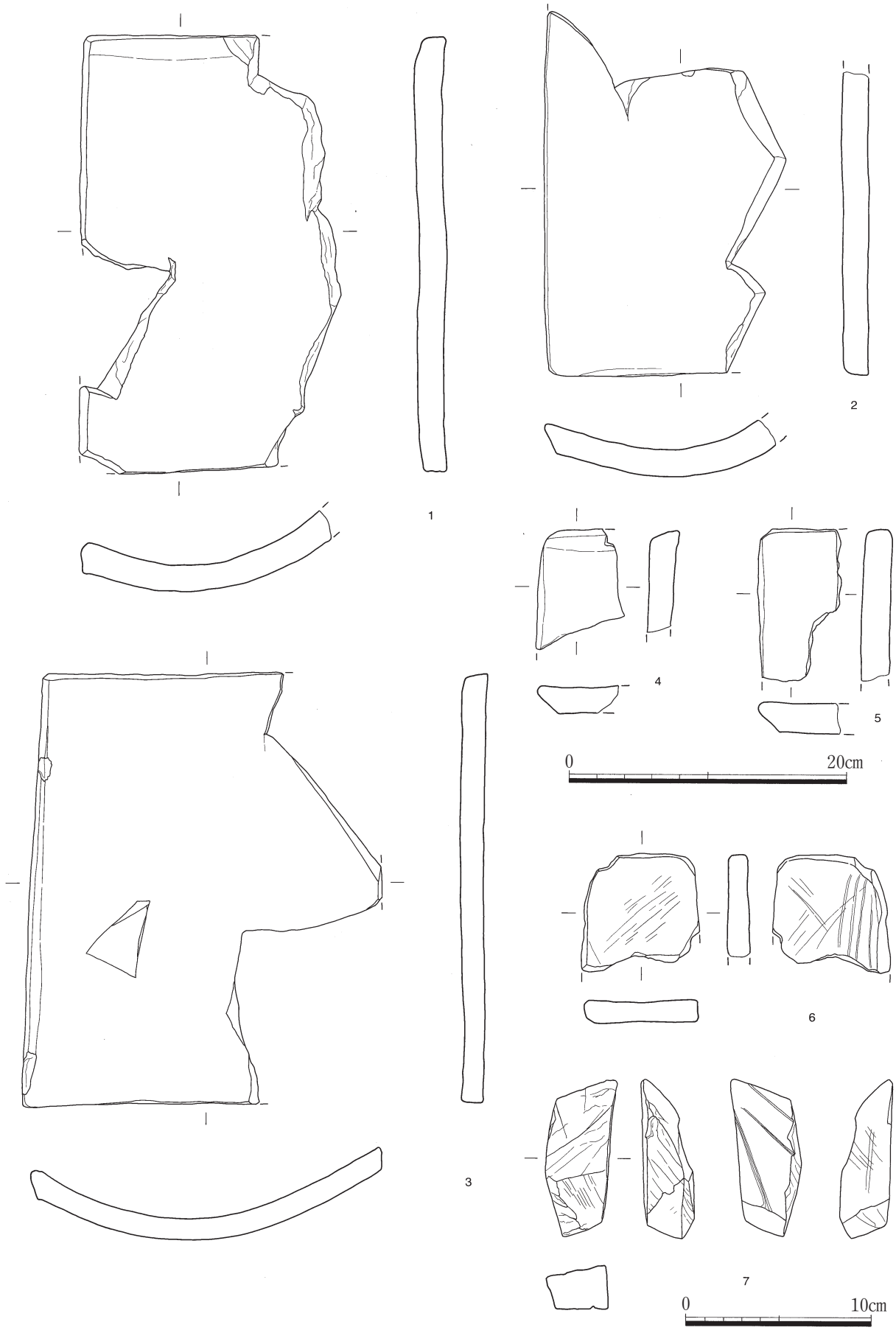
6 T



第101図 勝尾城A地区11・17・18トレンチ，B地区1・2・3・4・5・6トレンチ出土遺物（1／3）

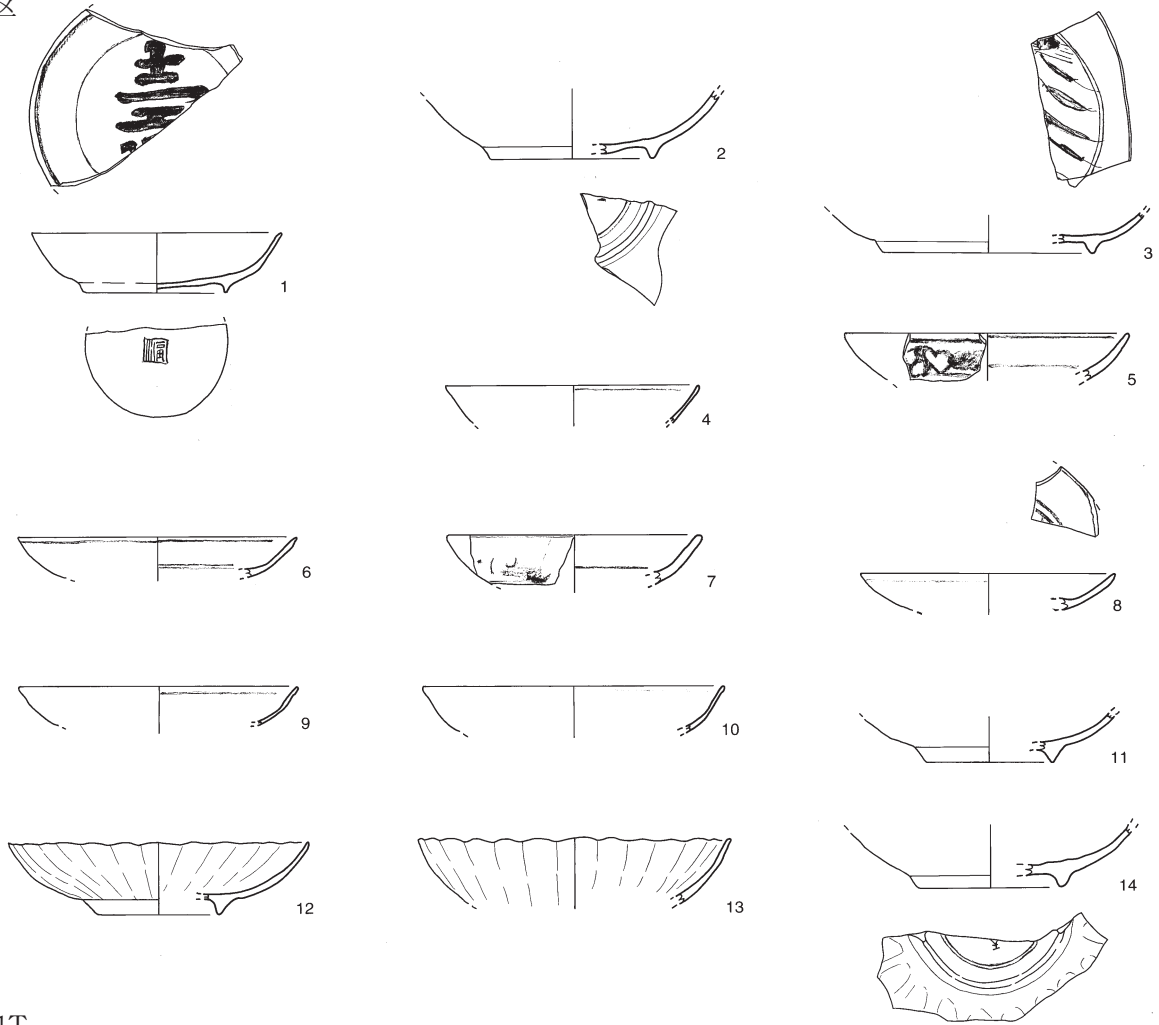


第102図 勝尾城B地区10トレンチ出土遺物1 (1/3)



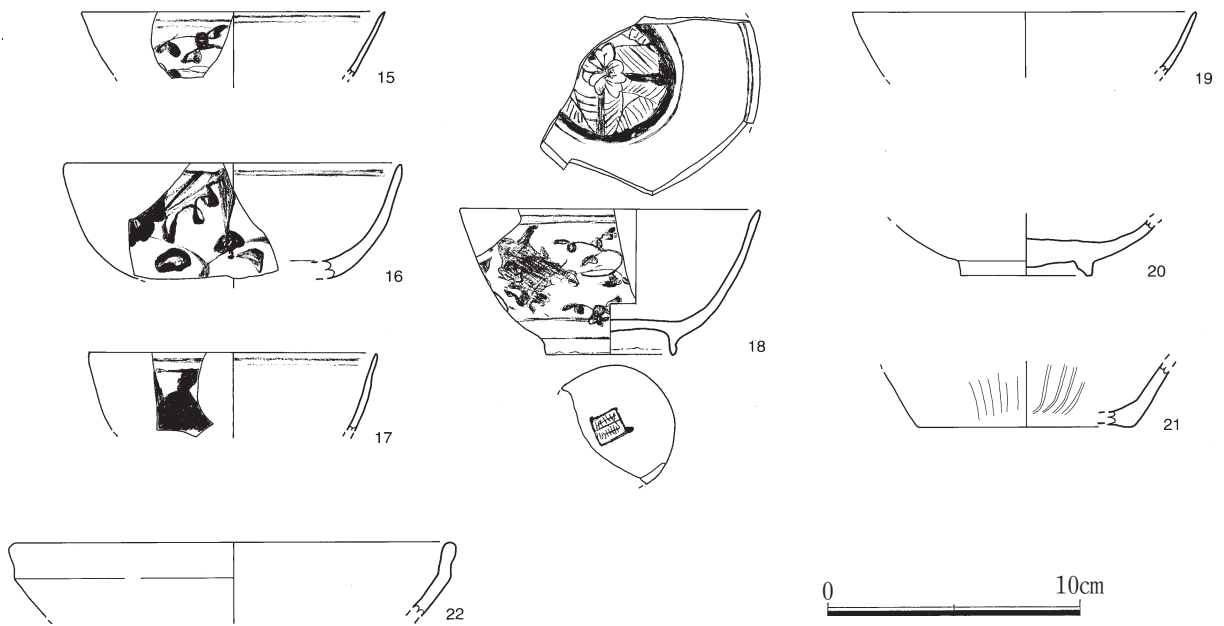
第103図 勝尾城B地区10トレンチ出土遺物 2瓦 (1/4) 砥石 (1/3)

B地区



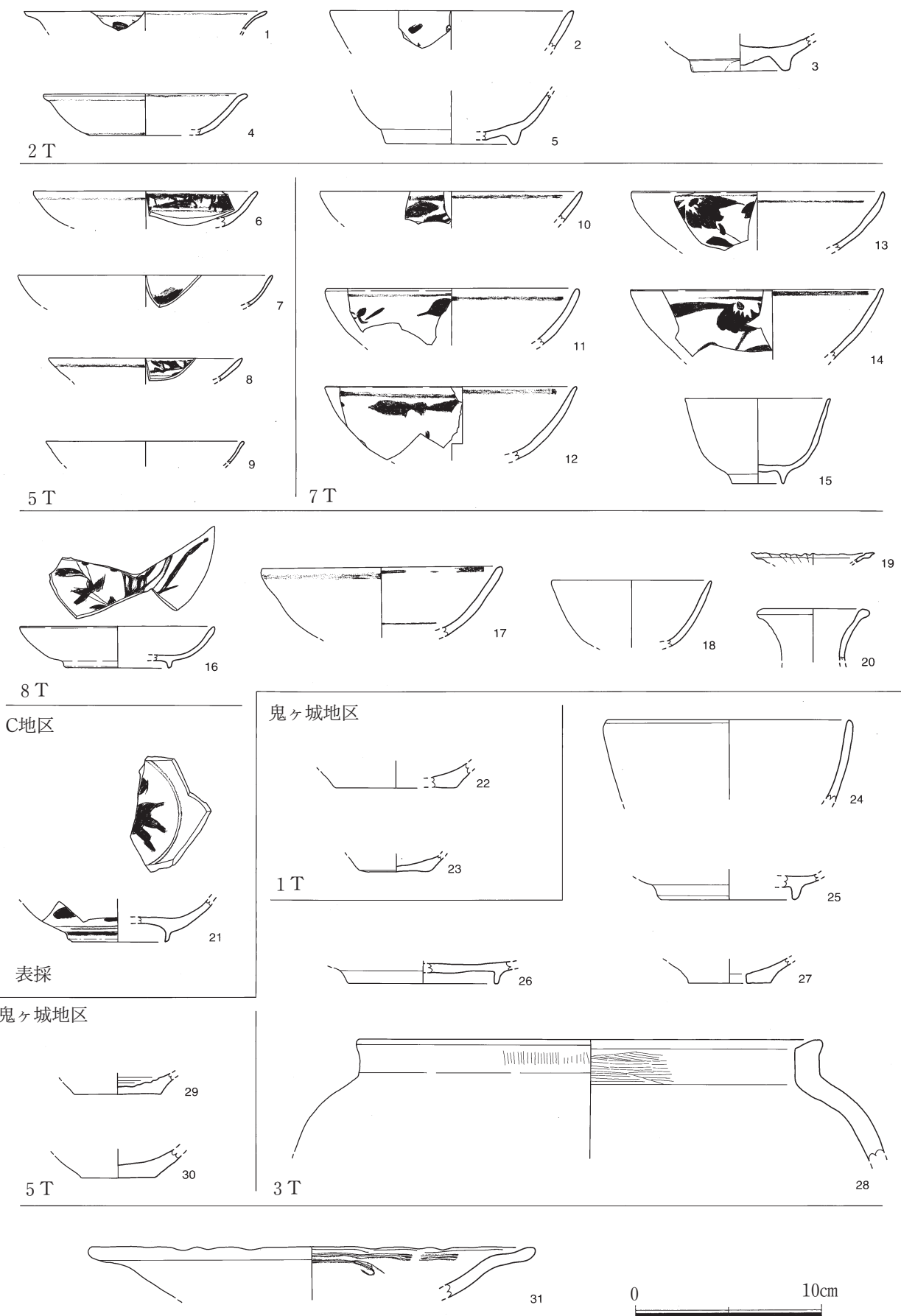
11T

C地区

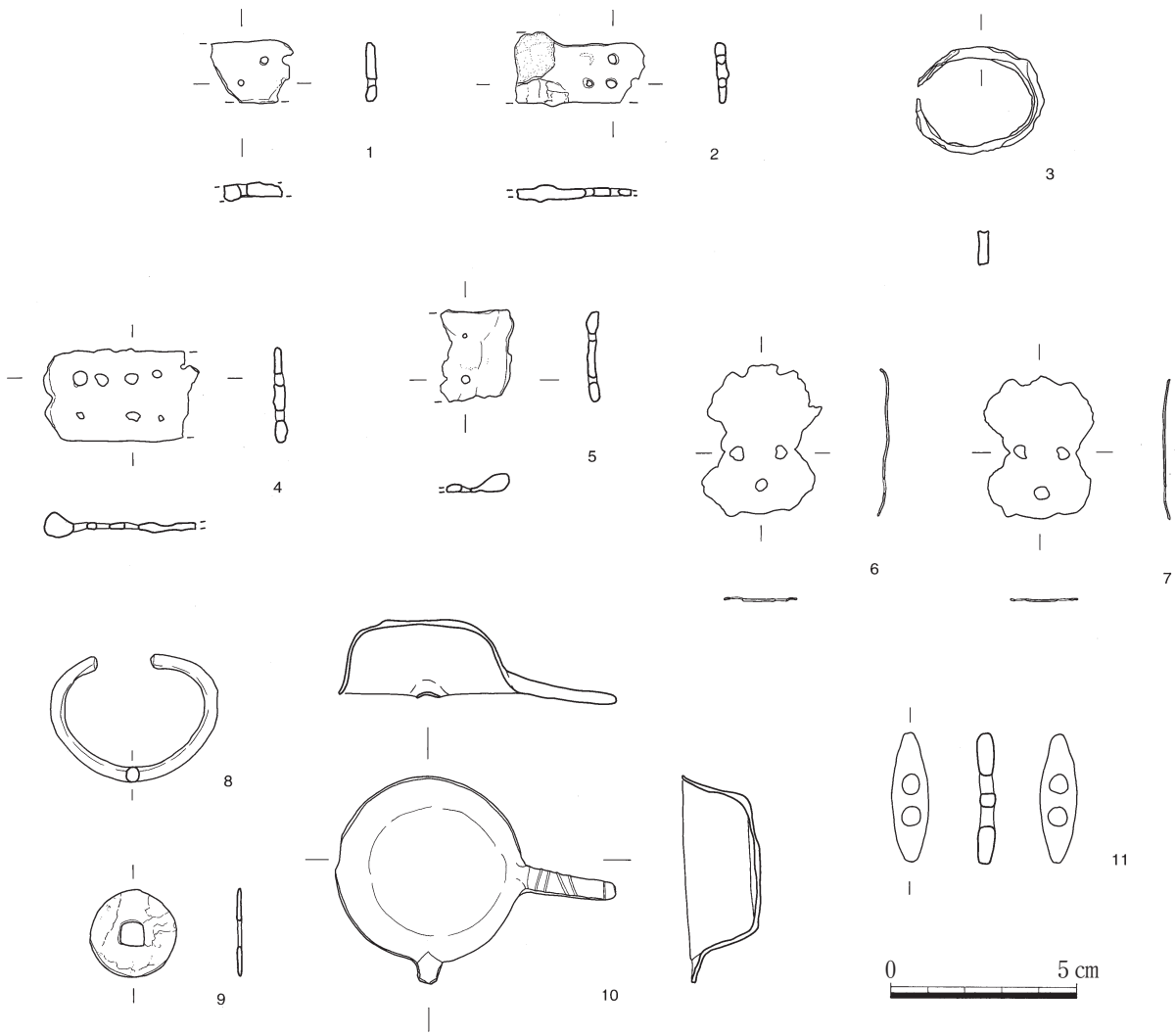


1T

第104図 勝尾城B地区11トレンチ、C地区1トレンチ出土遺物 (1 / 3)



第105図 勝尾城C地区2・5・7・8トレンチ・表採、鬼ヶ城地区出土遺物 (1 / 3)



第106図 勝尾城地区内出土遺物（1／2）

表10 平成15年度トレンチ

面積：m²

地区	番号	挿図番号	面積	遺 構	主な遺物	備 考
勝尾城A	1	第79図	19	整地面	陶磁器・土師器	一部攪乱
勝尾城A	2	第79図	27	整地面・配石遺構	陶磁器・土師器	約1m四方の方形の配石
勝尾城A	3	第79図	68	整地面・土塁・礎石？	陶磁器・土師器	土塁は主郭整地と同時期
勝尾城A	4	第80図	16	石段	陶磁器・青銅器	主郭虎口
勝尾城A	5	第81図	3	石積み	土師器	裏込め石無し
勝尾城A	6	第82図	13	通路？	磁器・瓦	石敷き
勝尾城A	7	第81図	15	横堀・土塁	磁器・土師器	約1.5m埋没、外側に土塁、断面逆台形
勝尾城A	8	第81図	5	削平地・平場	陶磁器	—
勝尾城A	9	第81図	14	削平地・平場	白磁	—
勝尾城A	10	第81図	13	石列	磁器	—
勝尾城A	11	第83図	18	石敷き遺構	陶磁器・瓦器・土師器	約12.1m×5.8m+αの規模
勝尾城A	12	第84図	4	—	—	—
勝尾城A	13	第84図	9	削平地・平場	—	—
勝尾城A	14	第84図	6	削平地・平場	—	—
勝尾城A	15	第84図	5	削平地・平場	—	—
勝尾城A	16	第84図	6	削平地・平場	—	—
勝尾城A	17	第84図	10	石段・整地面	陶磁器	整地面から積まれた石段
勝尾城A	18	第84図	6	堀切	磁器	約1m埋没、断面逆台形？
勝尾城B	1	第86図	12	堀切	磁器	殆ど埋没無し
勝尾城B	2	第86図	8	横堀	磁器	約1m埋没、断面逆台形
勝尾城B	3	第86図	17	通路	磁器	虎口に続く土塁状の高まり
勝尾城B	4	第86図	6	削平地・平場	土師器	—
勝尾城B	5	第86図	7	削平地・小穴	磁器・瓦器	—
勝尾城B	6	第86図	4	削平地・小穴	陶磁器・瓦器	—
勝尾城B	7	第86図	7	削平地・平場	—	—
勝尾城B	8	第86図	19	虎口	—	右折れの通路
勝尾城B	9	第86図	4	削平地・平場	—	—
勝尾城B	10	第87図	42	整地面・小穴	陶磁器・瓦	勝尾城の南谷中の緩斜面
勝尾城B	11	第87図	20	整地面	磁器	勝尾城の南谷中の緩斜面
勝尾城B	12	第87図	5	削平地・平場	—	—
勝尾城C	1	第89図	56	虎口・通路	磁器・瓦器	石積みの虎口に続く石敷通路
勝尾城C	2	第89図	8	削平地・平場	陶磁器	—
勝尾城C	3	第89図	2	通路	—	石敷通路に続くと思われる
勝尾城C	4	第89図	3	—	—	—
勝尾城C	5	第89図	6	削平地・小穴	磁器	—
勝尾城C	6	第89図	10	削平地・平場	—	—
勝尾城C	7	第89図	10	削平地・小穴	磁器	—
勝尾城C	8	第89図	5	削平地・平場	陶磁器	—
勝尾城C	9	第89図	7	堀切	—	殆ど埋没無し
鬼ヶ城	1	第92図	8	削平地	土師器	—
鬼ヶ城	2	第92図	3	削平地	磁器・土師器	—
鬼ヶ城	3	第92図	4	整地面・小穴	—	—
鬼ヶ城	4	第93図	5	虎口・石段	—	—
鬼ヶ城	5	第92図	8	削平地・土塁	土師器	土塁は盛土
鬼ヶ城	6	第92図	6	削平地	—	—
鬼ヶ城	7	第92図	5	削平地・小穴	—	—
鬼ヶ城	8	第92図	7	切岸・溝	磁器	地山削りだし
鬼ヶ城	9	第92図	20	整地面	—	—
鬼ヶ城	10	第92図	3	削平地	—	尾根の切残し
鬼ヶ城	11	第92図	5	削平地	—	尾根の切残し

表11 平成15年度出土遺物

番号 挿図	遺物	出土位置	種別	器種	法量			色調(文様)		技法・形態の特徴	備考	登録番号
					口径	底径	器高	外面	内面			
94	1	勝尾城A 1 T	青花	皿	(16.0)	—	<2.2>	草花文 圏線	圏線	端反り	景德镇16C中~末	050753
94	2	勝尾城A 1 T	白磁	皿	—	(6.0)	<1.5>	—	—	—	景德镇16C	050754
94	3	勝尾城A 1 T	青花	小杯	(8.0)	—	<2.2>	草花文 圏線	圏線	端反り	景德镇16C後半	501023
94	4	勝尾城A 1 T	青花	碗	(13.2)	—	<4.4>	圏線	圏線	—	景德镇16C後半	055746
94	5	勝尾城A 1 T	青花	碗	(15.0)	—	<4.2>	草花文 圏線	圏線	—	漳州16C後半	051093
94	6	勝尾城A 1 T	白磁	皿	(12.8)	—	<2.0>	暗灰白		端反り	16C	050752
94	7	勝尾城A 1 T	白磁	皿	(12.6)	(8.0)	3.1	灰白		端反り	16C	050748
94	8	勝尾城A 1 T	白磁	皿	(13.4)	—	<1.8>	灰白		端反り	16C	050751
94	9	勝尾城A 1 T	白磁	皿	(12.8)	—	<2.0>	灰白		端反り	16C	050750
94	10	勝尾城A 1 T	白磁	皿	(13.8)	(8.4)	2.6	灰白		端反り	16C	050749
94	11	勝尾城A 1 T	白磁	皿	(11.6)	(5.0)	3.3	くすんだ灰白		端反り	漳州16C	050747
94	12	勝尾城A 1 T	瓦質土器	湯釜	(30.0)	—	<1.6>	にぶい橙		—	—	050555
94	13	勝尾城A 1 T	瓦質土器	搦鉢	—	(11.4)	<2.6>	灰褐色		—	—	050756
94	14	勝尾城A 1 T	土師器	皿	—	(6.0)	<1.3>	にぶい橙		底部糸切	—	050759
94	17	勝尾城A 2 T	青花	皿	(10.0)	—	<1.4>	圏線	圏線	—	漳州16C中	050722
94	18	勝尾城A 2 T	青花	皿	(16.0)	—	<1.3>	花文? 圏線	圏線	端反り	景德镇16C後半	050771
94	19	勝尾城A 2 T	青花	皿?	(14.0)	—	<1.5>	花文? 圏線	圏線	—	景德镇16C後半	050773
94	20	勝尾城A 2 T	青花	皿	(10.0)	(4.6)	1.5	圏線	圏線	碁笥底	漳州16C後半	050784
94	21	勝尾城A 2 T	青花	皿?	(13.5)	—	<1.5>	圏線	圏線	—	漳州16C後半	050765
94	22	勝尾城A 2 T	青花	皿?	—	(7.6)	<1.3>	圏線	—	—	景德镇16C後半	050774
94	23	勝尾城A 2 T	白磁	碗?	—	(5.0)	<1.0>	乳白		高台裏に大明年造	景德镇16C後半	050775
94	24	勝尾城A 2 T	青花	碗?	(11.4)	—	<2.5>	圏線	圏線	—	景德镇16C後半	050770
94	25	勝尾城A 2 T	青花	皿?	(15.0)	—	<2.0>	—	—	—	漳州16C後半	050746
94	26	勝尾城A 2 T	青花	碗?	(13.0)	—	<2.3>	—	圏線	碁笥底	漳州16C代	050769
94	27	勝尾城A 2 T	青花	碗?	(15.0)	—	<2.3>	圏線	圏線	—	景德镇16C後半	050768
94	28	勝尾城A 2 T	青花	皿	(15.6)	(8.5)	3.6	草花文 圏線	圏線	見込に花文?	景德镇16C中~末	051094
95	1	勝尾城A 2 T	青花	皿?	—	(5.4)	<1.5>	—	圏線	—	景德镇16C後半	050766
95	2	勝尾城A 2 T	青花	碗	—	(6.0)	<3.2>	花?	圏線	—	漳州16C後半	050767
95	3	勝尾城A 2 T	白磁	皿	(10.0)	—	<1.1>	灰白		端反り	中国16C後半	050763
95	4	勝尾城A 2 T	白磁	皿	(11.8)	—	<2.2>	灰白		端反り	16C	050761
95	5	勝尾城A 2 T	白磁	皿	(11.6)	—	<2.0>	灰白		端反り	16C	050762
95	6	勝尾城A 2 T	白磁	碗	(11.2)	—	<3.7>	灰白		端反り	16C	050760
95	7	勝尾城A 2 T	瓦質土器	鉢	(40.6)	—	<5.9>	にぶい橙		外面ナデ、内面ハケ	—	050776
95	8	勝尾城A 2 T	瓦質土器	湯釜	—	—	<2.6>	褐灰	褐	外面ナデ、内面ハケ	—	050777
95	9	勝尾城A 2 T	瓦質土器	鉢	(29.4)	—	<3.5>	にぶい橙		内外面ハケ	—	050781
95	10	勝尾城A 2 T	瓦質土器	鉢	(21.0)	—	<4.7>	灰褐		内外面ハケ	—	050778
95	11	勝尾城A 2 T	土師器	鉢	—	(23.0)	<4.5>	明褐		内外面ハケ	—	050782
95	12	勝尾城A 2 T	土師器	皿	—	6.4	<1.1>	にぶい橙		底部糸切	—	050779
95	13	勝尾城A 2 T	土師器	皿	—	4.4	<1.7>	にぶい橙		底部糸切	—	050780
95	14	勝尾城A 2 T	土師器	皿	—	(7.0)	<1.6>	にぶい橙		底部糸切	—	050783
95	15	勝尾城A 3 T	青花	皿?	(11.4)	—	<1.7>	圏線	圏線	—	景德镇	050790
95	16	勝尾城A 3 T	青花	碗	(15.0)	—	<2.6>	花文? 圏線	圏線	—	景德镇? 16C	050791
95	17	勝尾城A 3 T	青花	皿	(10.1)	2.8	2.2	列点 蕉文	—	碁笥底 見込花鳥文	景德镇16C前半~中	051099

挿図	番号	出土位置	種別	器種	法量			色調(文様)		技法・形態の特徴	備考	登録番号
					口径	底径	器高	外面	内面			
95	18	勝尾城A 3 T	青花	碗	(15.0)	—	<2.7>	圏線 龍?	圏線	—	景德鎮16C後半	050793
95	19	勝尾城A 3 T	青花	碗	—	—	<2.1>	花文?圏線	圏線	—	景德鎮16C後半	050795
95	20	勝尾城A 3 T	青花	小杯	—	(2.4)	<2.1>	草花文	—	見込花文	景德鎮16C後半	051101
95	21	勝尾城A 3 T	青花	碗	(13.4)	—	<3.0>	花文 圏線	圏線	—	景德鎮16C後半	050794
95	22	勝尾城A 3 T	青花	碗	—	4.0	<1.3>	—	—	見込花唐草	景德鎮16C 第4四半期	051096
95	23	勝尾城A 3 T	青花	碗	—	(4.7)	<1.4>	—	—	見込草花文	景德鎮16C後半	051098
96	1	勝尾城A 3 T	青花	碗	(12.0)	5.2	5.4	鹿	圏線	見込花文	景德鎮16C後半	051097
96	2	勝尾城A 3 T	青花	皿	—	—	<0.8>	—	—	見込十字文	景德鎮16C 前~中葉	051100
96	3	勝尾城A 3 T	青花	盤?	—	—	<0.3>	—	—	見込玉取獅子	景德鎮16C 前~中葉	050797
96	4	勝尾城A 3 T	磁器	皿	(14.4)	—	<1.5>	瑠璃	—	端反り	景德鎮16C後半	050792
96	5	勝尾城A 3 T	青磁	碗	—	(7.4)	<3.7>	明緑灰	—	—	16C後半	050785
96	6	勝尾城A 3 T	白磁	皿	(13.0)	—	<2.1>	灰白	—	端反り	16C	050788
96	7	勝尾城A 3 T	白磁	皿	(15.0)	—	<2.8>	灰白	—	端反り	16C	050786
96	8	勝尾城A 3 T	陶器	瓶	(3.6)	—	<4.7>	暗灰黄	—	—	16C代	050796
96	9	勝尾城A 3 T	陶器	碗	(14.0)	—	<3.0>	灰オリーブ	—	—	—	050789
96	10	勝尾城A 3 T	瓦質土器	鉢	(46.0)	—	<4.5>	灰横	—	外面ハケ、内面ナデ	—	050778
96	11	勝尾城A 3 T	瓦質土器	鉢	(23.4)	—	<5.2>	橙	—	外面ハケ、内面ナデ	—	050799
96	12	勝尾城A 3 T	土師器	皿	—	(5.6)	<1.3>	にぶい橙	—	底部糸切	—	050802
96	13	勝尾城A 3 T	土師器	皿	(10.6)	(5.6)	2.6	淡橙	—	底部糸切	—	050800
96	14	勝尾城A 3 T	土師器	皿	—	(4.0)	<1.4>	にぶい橙	—	底部糸切	—	050801
96	15	勝尾城A 3 T	土師器	皿	—	(6.0)	<1.5>	にぶい橙	—	底部糸切	—	050804
96	16	勝尾城A 3 T	土師器	皿	—	(5.6)	<1.9>	灰横	—	底部糸切	—	050803
96	17	勝尾城A 4 T	青花	皿	(19.4)	—	<2.7>	草花文 圏線	草花文 圏線	—	景德鎮16C 第4四半期	051104
96	18	勝尾城A 4 T	青花	皿	(19.4)	—	<2.0>	草花文 圏線	草花文 圏線	—	17と同一固体?	051105
96	19	勝尾城A 4 T	青花	皿	—	(3.8)	<1.6>	圏線	—	碁笥底	景德鎮16C 前~中葉	051107
96	20	勝尾城A 4 T	青花	皿	—	(4.6)	<1.6>	—	—	碁笥底	漳州16C後半	051106
96	21	勝尾城A 4 T	青花	碗	(15.8)	—	<1.1>	—	—	—	景德鎮16C後半	050811
97	1	勝尾城A 4 T	青花	碗	(11.4)	—	<2.3>	花文?圏線	花文?圏線	—	景德鎮16C後半	050514
97	2	勝尾城A 4 T	青花	皿	(10.0)	—	<1.6>	—	圏線	—	景德鎮	050819
97	3	勝尾城A 4 T	青花	皿	(12.0)	—	<1.5>	圏線	圏線	—	景德鎮	050817
97	4	勝尾城A 4 T	青花	皿	(12.0)	—	<1.5>	—	圏線	—	漳州	050820
97	5	勝尾城A 4 T	青花	皿	—	(7.2)	<0.9>	—	—	見込玉取獅子	景德鎮16C後半	051103
97	6	勝尾城A 4 T	青花	碗	—	4.6	<3.4>	唐草?	—	見込花文 漆継	景德鎮16C後半	051102
97	7	勝尾城A 4 T	青花	碗	(12.0)	—	<2.5>	圏線 唐草?	圏線	—	景德鎮16C後半	050813
97	8	勝尾城A 4 T	青花	碗	(14.0)	—	<2.6>	—	圏線	—	漳州16C後半	050808
97	9	勝尾城A 4 T	青花	碗	(12.6)	—	<2.3>	圏線	—	—	景德鎮	050822
97	10	勝尾城A 4 T	青花	碗	(13.0)	—	<2.0>	—	—	—	景德鎮16C後半	050818
97	11	勝尾城A 4 T	青花	碗	(11.0)	—	<3.0>	草花文? 圏線	草花文? 圏線	—	漳州16C後半	050514
97	12	勝尾城A 4 T	青花	碗	(15.0)	—	<3.6>	圏線	圏線	—	漳州16C後半	050807
97	13	勝尾城A 4 T	青花	碗	(14.0)	—	<3.3>	圏線	圏線	—	漳州	050809
97	14	勝尾城A 4 T	白磁	皿	(10.0)	—	<2.2>	灰白	—	型押し	16C	050805
97	15	勝尾城A 4 T	白磁	皿	(14.4)	—	<2.1>	灰白	—	端反り	16C	050810
97	16	勝尾城A 4 T	白磁	皿	(17.6)	—	<2.2>	灰白	—	端反り	16C	050806
97	17	勝尾城A 4 T	磁器	碗	—	(5.0)	<1.6>	オリーブ褐	—	褐釉	景德鎮16C	050812

挿図	番号	出土位置	種別	器種	法量			色調(文様)		技法・形態の特徴	備考	登録番号
					口径	底径	器高	外面	内面			
97	18	勝尾城A 4 T	白磁	碗	—	(4.0)	<2.3>	灰白		—	漳州16C後半	050815
97	19	勝尾城A 4 T	陶器	碗	(11.2)	—	<2.7>	灰オリーブ		—	—	050816
97	20	勝尾城A 4 T	陶器	瓶	—	—	<3.8>	オリーブ褐		—	16C代	051025
97	21	勝尾城A 4 T	陶器	壺	(13.0)	—	<2.1>	褐灰		—	—	050825
97	22	勝尾城A 4 T	土師器	皿	(10.2)	(8.0)	1.2	にぶい橙		底部糸切	内面煤付着	050826
97	24	勝尾城A 5 T	土師器	皿	(8.8)	(4.4)	1.4	にぶい橙		底部糸切	—	050829
97	25	勝尾城A 6 T	土師器	皿	(10.0)	—	2.0	にぶい橙		—	—	050830
98	1	勝尾城A 5 T	青花	皿	(14.0)	—	<1.3>	草花文? 圏線	圏線	端反り	景德鎮16C後半	050860
98	2	勝尾城A 6 T	青花	皿	(14.0)	—	<2.5>	草花文? 圏線	圏線	端反り	景德鎮16C後半	050860
98	3	勝尾城A 6 T	青花	皿	(14.4)	—	<2.6>	—	圏線	焼成不良	景德鎮16C後半	050859
98	4	勝尾城A 6 T	青花	皿	—	(9.6)	<1.5>	草花文? 圏線	—	見込	景德鎮16C後半	050862
98	5	勝尾城A 6 T	青花	皿	—	(3.8)	<1.8>	蕉文	花文?	見込に花文碁笥底	景德鎮16C前~中葉	051110
98	6	勝尾城A 6 T	青花	碗	—	<4.6>	<1.4>	—	—	見込に花文	景德鎮16C後半	051108
98	7	勝尾城A 6 T	青花	碗	—	(5.2)	<2.0>	—	—	見込に文様	漳州16C後半	051109
98	8	勝尾城A 6 T	青花	碗	—	—	<2.0>	圏線	圏線	—	景德鎮	050864
98	9	勝尾城A 6 T	青花	碗	—	—	<2.2>	—	圏線	—	景德鎮	050863
98	10	勝尾城A 6 T	青花	碗	(9.0)	—	<2.5>	圏線	圏線	—	漳州	050858
98	11	勝尾城A 6 T	青花	碗	(11.0)	—	<3.5>	—	圏線	—	—	050852
98	12	勝尾城A 6 T	白磁?	皿	(11.8)	(7.0)	<2.6>	乳白		端反り	16C	050855
98	13	勝尾城A 6 T	白磁	皿	(12.4)	—	<2.0>	明緑灰		端反り	漳州16C後半	050851
98	14	勝尾城A 6 T	白磁	皿	(11.0)	—	<1.9>	灰白		端反り	16C	050853
98	15	勝尾城A 6 T	白磁?	皿	(10.6)	—	<2.2>	灰白		端反り	漳州16C後半	050854
98	16	勝尾城A 6 T	白磁	皿	(12.0)	—	<1.3>	灰白		—	16C	050856
98	17	勝尾城A 6 T	土師器	皿	(5.4)	3.4	1.2	浅黄橙		底部糸切	—	050833
98	18	勝尾城A 6 T	土師器	皿	(6.8)	(4.2)	1.5	にぶい橙		底部糸切	—	050836
98	19	勝尾城A 6 T	土師器	皿	—	3.4	<2.0>	にぶい橙		底部糸切	—	050832
98	20	勝尾城A 6 T	土師器	皿	(6.6)	(4.2)	1.4	にぶい橙		底部糸切	—	050835
98	21	勝尾城A 6 T	土師器	皿	(6.2)	(4.0)	1.5	にぶい橙		底部糸切	—	050844
98	22	勝尾城A 6 T	土師器	皿	(7.2)	(4.6)	1.8	にぶい橙		底部糸切	—	050835
98	23	勝尾城A 6 T	土師器	皿	(7.6)	(5.0)	1.6	にぶい橙		—	—	050822
98	24	勝尾城A 6 T	土師器	皿	(6.0)	4.0	1.5	にぶい橙		底部糸切	—	050843
98	25	勝尾城A 6 T	土師器	皿	(7.0)	(3.5)	1.8	にぶい橙		底部糸切	—	050837
98	26	勝尾城A 6 T	土師器	皿	—	(5.0)	<2.0>	にぶい橙		底部糸切	—	050841
98	27	勝尾城A 6 T	土師器	皿	(11.2)	(5.0)	2.5	にぶい橙		底部糸切	—	050848
98	28	勝尾城A 6 T	土師器	皿	(9.2)	5.0	1.9	橙		底部糸切	—	050849
98	29	勝尾城A 6 T	土師器	皿	—	5.4	1.4	にぶい橙		底部糸切	—	050850
98	30	勝尾城A 6 T	土師器	鉢	(28.0)	—	<5.2>	にぶい橙		外面ナデ、内面ハケ	—	050831
99	1	勝尾城A 7 T	青花	皿	(16.0)	(6.8)	3.4	—	—	口縁輪花	景德鎮16C後半	051115
99	2	勝尾城A 7 T	青花	皿	—	(11.3)	2.1	—	—	—	景德鎮16C後半	051116
99	3	勝尾城A 7 T	青花	皿	(13.4)	(7.7)	2.5	—	見込草花文	高台裏に宣徳年製	景德鎮16C後半	051117
99	4	勝尾城A 7 T	白磁	皿	—	(7.4)	<1.7>	灰白		—	景德鎮16C	050868
99	5	勝尾城A 7 T	青磁	碗	—	(5.8)	<1.8>	明緑灰		—	—	050869
99	6	勝尾城A 7 T	瓦質土器	鉢	(29.0)	—	<7.8>	浅黄橙		外面ハケ、内面ナデ	—	050866
99	8	勝尾城A 8 T	青花	碗	(9.2)	—	<2.0>	圏線	圏線	—	景德鎮	055875

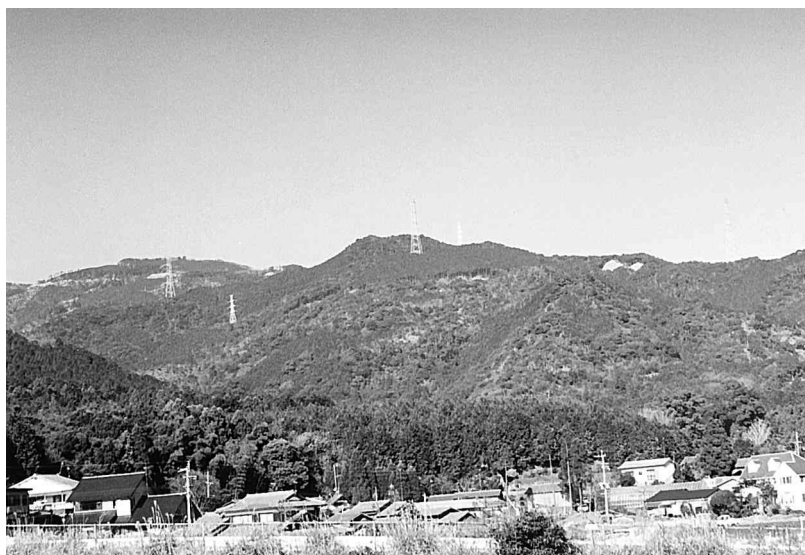
番号 挿図	遺物	出土位置	種別	器種	法量			色調(文様)		技法・形態の特徴	備考	登録番号
					口径	底径	器高	外面	内面			
99	9	勝尾城A 8 T	白磁	皿	(10.2)	—	<2.8>	灰白		型押し	—	050847
99	10	勝尾城A 8 T	磁器	壺	—	(5.4)	<1.4>	灰白		赤絵	—	050873
99	11	勝尾城A 8 T	瓦質土器	鉢	—	(17.2)	<1.9>	灰白		内外面ナデ	—	050872
99	12	勝尾城A 9 T	白磁	皿	(14.0)	—	<1.9>	灰白		端反り	—	050876
99	13	勝尾城A10T	青磁	碗	—	(5.0)	<1.9>	—	圏線	—	漳州	050877
99	14	勝尾城A11T	青花	皿	—	—	<3.2>	草花文? 圏線	圏線	端反り	景德鎮16C 前~中葉	050892
99	15	勝尾城A11T	青花	碗?	(12.8)	—	<2.1>	—	圏線	—	景德鎮	050887
99	16	勝尾城A11T	青花	皿	<13.4>	(7.9)	2.8	—	圏線	端反り	景德鎮16C後半	051122
99	17	勝尾城A11T	青花	碗	(13.8)	(7.8)	3.5	圏線	圏線	—	景德鎮16C後半	050878
99	18	勝尾城A11T	青花	皿	(10.2)	(6.0)	2.1	圏線	圏線	見込草文?	景德鎮	051121
100	1	勝尾城A11T	青花	皿	—	(5.4)	<2.0>	圏線	圏線	碁笥底	漳州16C後半	050889
100	2	勝尾城A11T	青花	皿	—	(4.0)	<0.9>	—	—	見込猿?	景德鎮16C後半	050891
100	3	勝尾城A11T	青花	皿	—	(5.4)	<1.3>	蕉文	圏線	碁笥底	漳州16C後半	050891
100	4	勝尾城A11T	青花	皿	—	(10.2)	<1.7>	—	—	—	景德鎮16C後半	050890
100	5	勝尾城A11T	青花	碗	—	(4.6)	<2.8>	波文	—	暗花文	景德鎮16C後半	050880
100	6	勝尾城A11T	白磁	碗?	(13.6)	—	<3.2>	灰白		—	—	050881
100	7	勝尾城A11T	白磁	鉢?	—	(7.2)	<2.6>	灰白		—	漳州16C後半	050886
100	8	勝尾城A11T	白磁	皿	—	4.8	<1.4>	灰白		—	漳州16C	050885
100	9	勝尾城A11T	白磁	皿	—	(8.2)	<1.8>	灰白		—	16C	050888
100	10	勝尾城A11T	白磁	皿	(12.0)	—	<1.7>	灰白		端反り	16C	050883
100	11	勝尾城A11T	白磁	皿	—	(7.0)	<1.7>	灰白		—	16C	050879
100	12	勝尾城A11T	陶器	壺?	—	(12.0)	<2.1>	灰黄褐		—	—	050893
100	13	勝尾城A11T	陶器	搦鉢	—	(12.0)	<4.5>	暗赤褐		—	備前16C	050894
100	14	勝尾城A11T	瓦質土器	搦鉢	—	(9.2)	<3.5>	にぶい黄橙		外面ナデ	—	050896
100	15	勝尾城A11T	瓦質土器	搦鉢	—	(13.0)	<4.0>	黒褐		外面ナデ	—	050897
100	16	勝尾城A11T	瓦質土器	鉢	(30.0)	—	<5.8>	にぶい橙	褐灰	外面ナデ、内面ハケ	—	050901
100	17	勝尾城A11T	瓦質土器	鉢	(29.0)	—	<5.8>	にぶい橙	褐灰	外面ナデ、内面ハケ	—	050900
100	18	勝尾城A11T	瓦質土器	鉢	(20.0)	—	<4.5>	暗灰		外面ナデ、内面ハケ	—	050899
100	19	勝尾城A11T	瓦質土器	壺	(19.6)	—	<2.9>	灰褐		内外面ナデ	—	050898
101	1	勝尾城A11T	瓦質土器	鉢	(19.6)	—	<4.0>	褐灰		内面ハケ、外面タタキ	—	050902
101	2	勝尾城A11T	土師器	皿	5.9	3.6	1・3	にぶい橙		内外面ナデ	—	050904
101	3	勝尾城A11T	土師器	皿	—	4.8	<1.5>	にぶい橙		底部糸切	—	050908
101	4	勝尾城A11T	土師器	皿	(10.8)	(5.6)	2.2	にぶい橙		内外面ナデ	—	050903
101	5	勝尾城A11T	土師器	皿	(9.4)	(4.5)	2.2	にぶい橙		底部糸切	—	050906
101	6	勝尾城A11T	土師器	皿	(10.0)	(5.0)	2.5	にぶい橙		内外面ナデ	—	050907
101	7	勝尾城A17T	青花	皿	(10.2)	—	<1.4>	—	圏線	—	漳州	050914
101	8	勝尾城A17T	青花	碗	(13.4)	—	<3.7>	草花文 圏線	圏線	—	漳州16C後半	050913
101	9	勝尾城A17T	白磁	皿	(11.4)	—	<1.3>	灰白		端反り	—	050912
101	10	勝尾城A17T	陶器	碗	—	(5.8)	<2.0>	浅黄		—	—	050915
101	11	勝尾城A18T	青花	皿	(11.6)	—	<2.8>	列点 圏線	圏線	—	漳州16C後半	055017
101	12	勝尾城A18T	白磁	皿	(11.4)	(8.0)	2.7	灰白		端反り	漳州16C後半	055916
101	13	勝尾城B 1 T	白磁	皿	(9.4)	(4.8)	2.8	灰白		端反り	漳州16C後半	051065
101	14	勝尾城B 3 T	青花	小杯	—	(2.6)	<2.6>	—	—	見込蓬莱山	景德鎮16C後半	051095
101	15	勝尾城B 2 T	白磁	盤?	—	—	<2.1>	灰白		—	—	051066

挿図	番号 遺物	出土位置	種別	器種	法量			色調(文様)		技法・形態の特徴	備考	登録番号
					口径	底径	器高	外面	内面			
101	16	勝尾城B 2 T	青花	皿	—	(4.2)	1.8	列点 圏線	圏線	碁笥底	漳州16C後半	051067
101	17	勝尾城B 4 T	土師器	—	—	—	<2.7>	橙		—	摘み?	050918
101	18	勝尾城B 5 T	青花	皿	(7.2)	—	1.8	圏線	圏線	—	景德鎮	050920
101	19	勝尾城B 5 T	瓦質土器	湯釜	(26.4)	—	<4.0>	にぶい黄橙		—	—	050919
101	20	勝尾城B 6 T	青花	皿	(12.8)	—	<1.6>	—	—	—	景德鎮	051068
101	21	勝尾城B 6 T	白磁	皿	(12.0)	—	<2.0>	灰白		端反り	景德鎮16C	051069
101	22	勝尾城B 6 T	青磁	小皿	—	—	<0.7>	ブルーグリーン		—	中国 16C	051130
101	23	勝尾城B 6 T	瓦質土器	鉢	(19.8)	—	<3.6>	にぶい黄橙		外面ハケ、内面ナデ	—	050922
101	24	勝尾城B10T	瓦質土器	鉢	(17.4)	—	<3.9>	にぶい黄橙		口縁内部ナデ、外部ハケ	—	050921
102	1	勝尾城B10T	青花	碗	—	(9.0)	<1.5>	—	—	—	景德鎮16C後半	050926
102	2	勝尾城B10T	青花	小杯	(6.2)	—	<2.5>	—	圏線	端反り	景德鎮16C後半	050923
102	3	勝尾城B10T	青花	碗	(10.8)	—	<2.1>	—	—	—	景德鎮?16C後半	050940
102	4	勝尾城B10T	青花	碗	(11.2)	—	<2.6>	圏線	圏線	—	漳州16C後半	0509424
102	5	勝尾城B10T	青花	碗	(12.6)	—	<4.0>	圏線	圏線	—	景德鎮16C後半	050928
102	6	勝尾城B10T	青花	碗	—	(3.7)	<2.4>	圏線	—	見込菊 高台裏長命富貴	景德鎮16C後半	051119
102	7	勝尾城B10T	青花	碗	(10.8)	—	<2.8>	圏線	圏線	—	景德鎮	050939
102	8	勝尾城B10T	青磁	皿	(11.5)	—	<2.4>	オリーブ灰		型押し	—	050941
102	9	勝尾城B10T	白磁	皿	(13.2)	—	<2.2>	灰白		端反り	景德鎮16C	050931
102	10	勝尾城B10T	白磁	皿	(13.4)	—	<2.7>	灰白		端反り	景德鎮16C	050936
102	11	勝尾城B10T	白磁	皿	(15.8)	—	<1.7>	灰白		端反り	景德鎮16C	050930
102	12	勝尾城B10T	白磁	皿	(14.0)	—	<2.5>	灰白		端反り	景德鎮16C	050932
102	13	勝尾城B10T	白磁	皿	(16.2)	—	<2.4>	灰白		端反り	景德鎮16C	050933
102	14	勝尾城B10T	白磁	皿	(16.2)	—	<2.4>	灰白		端反り	13と同一固体?	050937
102	15	勝尾城B10T	白磁	皿	(15.6)	(9・2)	3.3	灰白		端反り	景德鎮16C	050927
102	16	勝尾城B10T	白磁	皿	(16.6)	—	<2.4>	灰白		端反り	景德鎮16C	0509033
102	17	勝尾城B10T	白磁	皿	(16.0)	(9.6)	3.8	灰白		端反り	景德鎮16C	050034
102	18	勝尾城B10T	白磁	皿	—	(6.4)	<1.1>	灰白		—	景德鎮16C	050942
102	19	勝尾城B10T	白磁	皿	(17.0)	(9.2)	3.4	灰白		端反り	景德鎮16C	050928
102	20	勝尾城B10T	白磁	皿	(16.0)	(8.8)	4.0	灰白		端反り	13と同一固体?	050935
102	21	勝尾城B10T	白磁	皿	16.2	9.0	3.6	灰白		端反り	景德鎮16C	051072
102	22	勝尾城B10T	白磁	皿	—	(8.8)	<2.6>	灰白		—	景德鎮16C	050929
102	23	勝尾城B10T	陶器	碗	(9.0)	3.0	4.2	黒褐		天目	瀬戸美濃16C	050943
102	24	勝尾城B10T	陶器	碗	—	4.4	<1.5>	黒褐		天目	瀬戸美濃16C	050944
102	25	勝尾城B10T	瓦質土器	鍋	(28.0)	—	<6.2>	黒	にぶい橙	外面ハケ、内面ヘラナデ	—	051071
104	1	勝尾城B11T	青花	皿	(10.0)	(5.8)	2.4	—	圏線	見込壽文	景德鎮16C後半	051120
104	2	勝尾城B11T	白磁	皿	—	(6.6)	<2.6>	—	—	高台裏染付天文年造か	景德鎮16C中	050960
104	3	勝尾城B11T	青花	皿	—	(8.4)	<1.6>	—	—	—	景德鎮16C後半	050962
104	4	勝尾城B11T	青花	碗	(10.0)	—	<1.5>	—	圏線	—	景德鎮16C後半	050953
104	5	勝尾城B11T	青花	皿	(11.2)	—	<1.8>	—	圏線	—	漳州16C後半	050964
104	6	勝尾城B11T	青花	皿	(10.0)	—	<1.6>	圏線	圏線	—	漳州16C後半	050954
104	7	勝尾城B11T	青花	皿	(10.0)	—	<1.9>	—	—	—	漳州16C後半	050963
104	8	勝尾城B11T	青花	皿	(10.0)	—	<1.4>	圏線	圏線	—	漳州16C後半	050952
104	9	勝尾城B11T	青花	皿	(11.0)	—	<1.5>	—	圏線	—	景德鎮	050952
104	10	勝尾城B11T	青花	皿	(12.0)	—	<1.9>	—	圏線	—	景德鎮	050956

挿図	番号	出土位置	種別	器種	法量			色調(文様)		技法・形態の特徴	備考	登録番号
					口径	底径	器高	外面	内面			
104	11	勝尾城B11T	白磁	皿	—	(5.0)	<1.9>	灰白		型押し	景德鎮16C中	050961
104	12	勝尾城B11T	白磁	皿	(11.8)	(4.8)	2.8	灰白		型押し	景德鎮16C中	050958
104	13	勝尾城B11T	白磁	皿	(12.4)	—	<2.5>	灰白		菊型	景德鎮16C中	050957
104	14	勝尾城B11T	白磁	皿	—	(6.0)	<2.5>	灰白		型押し	景德鎮16C中	050959
104	15	勝尾城C1T	青花	碗	(12.0)	—	<2.5>	草花文? 圏線	圏線	—	景德鎮16C後半	050966
104	16	勝尾城C1T	青花	碗	(13.4)	—	<4.5>	草花文? 圏線	圏線	—	漳州16C後半	051074
104	17	勝尾城C1T	青花	碗	(11.4)	—	<4.6>	草花文? 圏線	圏線	—	景德鎮16C後半	051076
104	18	勝尾城C1T	青花	碗	(11.9)	5.2	5.7	唐草文	圏線	見込花文	景德鎮16C後半	051092
104	19	勝尾城C1T	磁器	碗	(11.4)	—	<4.6>	明褐		褐釉	景德鎮16C後半	051073
104	20	勝尾城C1T	白磁	碗	—	(5.2)	<2.2>	灰白		—	—	051075
104	21	勝尾城C1T	瓦質土器	播鉢	—	(8.6)	<2.5>	褐灰		外面ハケ	—	050967
104	22	勝尾城C1T	瓦質土器	鉢	(17.6)	—	<2.9>	明褐灰		内外面ナデ	—	050968
105	1	勝尾城C2T	青花	碗	(13.0)	—	<1.0>	圏線	圏線	端反り	景德鎮16C前半	050971
105	2	勝尾城C2T	青花	碗	(13.0)	—	<2.0>	—	—	—	漳州	050970
105	3	勝尾城C2T	青花?	碗	—	(5.2)	<1.8>	—	—	—	漳州?	050969
105	4	勝尾城C2T	青花	皿	(11.0)	—	<2.2>	圏線	圏線	端反り	漳州	051079
105	5	勝尾城C2T	白磁	碗	—	(7.0)	<2.9>	灰白		—	—	051080
105	6	勝尾城C5T	青花	皿	(12.0)	—	<1.9>	—	圏線	—	景德鎮16C後半	051081
105	7	勝尾城C5T	青花	皿	(13.6)	—	<1.7>	—	—	—	景德鎮16C後半	050973
105	8	勝尾城C5T	青花	皿	(10.4)	—	<1.2>	圏線	—	—	景德鎮	050972
105	9	勝尾城C5T	白磁?	碗	(10.6)	—	<1.2>	灰白		—	—	050974
105	10	勝尾城C7T	青花	碗	(14.0)	—	<1.6>	—	圏線	—	漳州16C後半	050975
105	11	勝尾城C7T	青花	碗	(13.6)	—	<3.0>	—	圏線	—	漳州16C後半	051113
105	12	勝尾城C7T	青花	碗	(13.6)	—	<3.7>	圏線	圏線	—	漳州16C後半	051111
105	13	勝尾城C7T	青花	碗	(13.6)	—	<3.0>	花文	圏線	—	漳州16C後半	051114
105	14	勝尾城C7T	青花	碗	(13.6)	—	<3.7>	花文?	圏線	—	漳州16C後半	051112
105	15	勝尾城C7T	白磁	碗	(7.8)	(2.8)	4.6	乳白		—	景德鎮16C後半	051083
105	16	勝尾城C8T	青花	皿	(10.4)	(5.7)	2.2	—	—	見込草花文?	景德鎮16C後半	051118
105	17	勝尾城C8T	青花	碗	(13.0)	—	<3.7>	圏線	圏線	—	漳州16C後半	050976
105	18	勝尾城C8T	白磁	碗	(8.6)	—	<3.5>	灰白		—	—	050977
105	19	勝尾城C8T	青磁	小皿	(6.6)	—	<0.5>	ブルーグリーン		型押し	中国 16C	050978
105	20	勝尾城C8T	陶器	瓶	(6.0)	—	<2.8>	にぶい橙		—	16C	051084
105	21	勝尾城C区	青花	碗	—	(11.3)	<2.1>	圏線	—	見込花文?	漳州16C後半	051123
105	22	鬼ヶ城1T	土師器	皿	—	(6.6)	<1.4>	にぶい橙		—	—	050979
105	23	鬼ヶ城1T	土師器	皿	—	3.8	0.9	にぶい橙		—	—	051087
105	24	鬼ヶ城3T	青磁	碗	(13.0)	—	<4.4>	オリーブ灰		—	龍泉14C後半~15C中葉	051088
105	25	鬼ヶ城3T	白磁	皿	—	(7.2)	<1.4>	乳白		—	16C	051090
105	26	鬼ヶ城3T	白磁	皿	—	(8.0)	<1.2>	乳白		—	16C	051091
105	27	鬼ヶ城3T	土師器	皿	—	(4.4)	<1.4>	にぶい橙		底部穿孔	—	050980
105	28	鬼ヶ城3T	瓦質土器	湯釜	(25.0)	—	<6.5>	灰褐色		口縁部ハケ、他ナデ	—	051089
105	29	鬼ヶ城5T	土師器	皿	—	(4.6)	<1.1>	にぶい黄橙		底部糸切	—	050981
105	30	鬼ヶ城5T	土師器	皿	—	4.0	<1.5>	浅黄橙		底部糸切	—	051085
105	31	鬼ヶ城8T	青磁	盤	(24.0)	—	<2.7>	緑灰		クシガキ	龍泉14C後半~15C中葉	051086

番号		出土位置	種別	器種	法量			色調		技法・形態の特徴	備考	登録番号
挿図	遺物				長さ	幅	厚さ	外面	内面			
94	15	勝尾城A 1 T	瓦	丸瓦	<5.5>	<4.1>	1.8	灰白		—	—	050758
94	16	勝尾城A 1 T	瓦	平瓦	<11.0>	<5.3>	2.3	にぶい黄橙		—	—	050757
97	24	勝尾城A 4 T	石製品	硯	<8.8>	5.7	1.6	—		滑石	—	050828
99	7	勝尾城A 7 T	瓦	平瓦	<14.0>	<6.0>	2.6	明灰黒		—	—	050867
103	1	勝尾城B 10 T	瓦	平瓦	31.4	<17.8>	1.9	灰白		—	—	050947
103	2	勝尾城B 10 T	瓦	平瓦	<21.0>	<16.5>	1.9	表 灰	裏 灰白	—	—	050947
103	3	勝尾城B 10 T	瓦	平瓦	31.0	26.0	1.6	表 灰	裏 灰白	—	—	050945
103	4	勝尾城B 10 T	瓦	平瓦	<7.0>	<5.7>	2.0	灰白		—	—	050949
103	5	勝尾城B 10 T	瓦	平瓦	<10.4>	<5.9>	2.2	灰白		—	—	050948
103	6	勝尾城B 10 T	石製品	砥石	<5.5>	6.1	1.1	—		—	—	050950
103	7	勝尾城B 10 T	石製品	砥石	<7.6>	<3.4>	<2.1>	—		—	—	050951
107	1	勝尾城A 2 T	鉄製品	—	<1.2>	<1.7>	0.4	—		—	留め金具？	051013
107	2	勝尾城A 2 T	鉄製品	—	<3.4>	<2.0>	0.4	—		—	留め金具？	051012
107	3	勝尾城A 3 T	鉄製品	—	3.4	2.7	0.9	—		—	締め金具？	051014
107	4	勝尾城B 10 T	鉄製品	—	<4.2>	2.4	0.2	—		—	留め金具？	051016
107	5	勝尾城B 10 T	鉄製品	—	<1.9>	2.4	0.2	—		—	留め金具？	051027
107	6	勝尾城C 1 T	銅製品	—	<4.0>	<3.1>	0.1	—		—	飾り金具？	051078
107	7	勝尾城C 1 T	銅製品	—	<3.8>	<2.9>	0.1	—		—	飾り金具？	051077
107	8	勝尾城A 1 T	真鍮？	—	4.5	3.5	0.3	—		—	取っ手？	051022
107	9	勝尾城A 4 T	銅銭	—	2.4	—	0.2	—		—	腐食が大きい	051024
107	10	勝尾城A 4 T	青銅	杓	7.5	5.6	高さ2.1	—		—	—	050823
107	11	勝尾城A 2 T	金属製品	靴	3.4	1.0	0.5	—		一部金鍍金が残る	—	050983

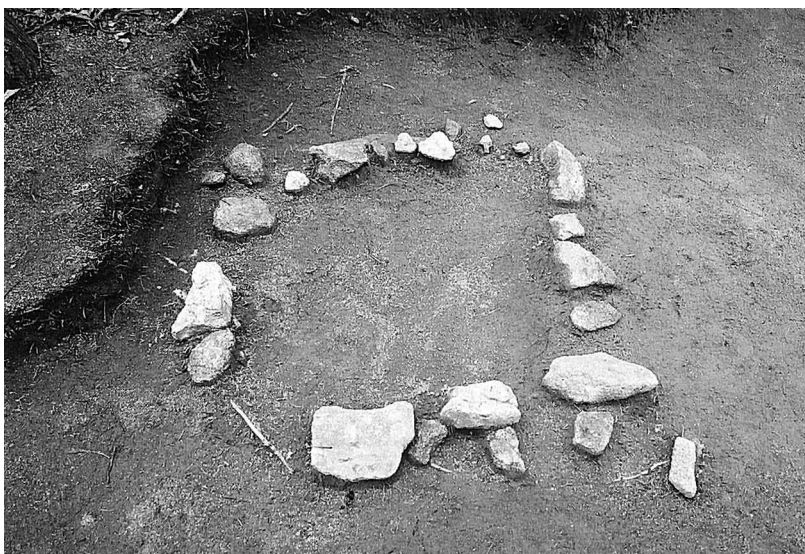
1. 勝尾城遠景（南東から）



2. 勝尾城A地区3トレンチ（東から）



3. 勝尾城A地区2トレンチ配石遺構（南東から）





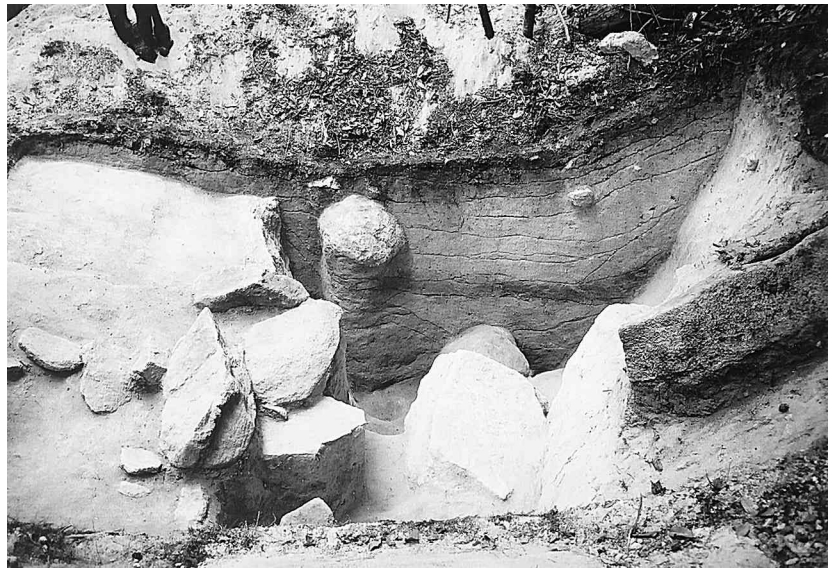
1. 勝尾城A地区4トレンチ石段
(南西から)



2. 勝尾城A地区6トレンチ
(北西から)



3. 勝尾城A地区11トレンチ
石敷遺構 (北東から)



1. 勝尾城A地区7トレンチ横堀
(南東から)



2. 勝尾城A地区18トレンチ堀切
(北東から)



3. 勝尾城B地区石垣 (東から)



1. 勝尾城B地区3トレンチ通路
(南西から)



2. 勝尾城地B区5トレンチ
(西から)



3. 勝尾城B地区8トレンチ虎口
(北から)

1. 勝尾城B地区10トレンチ
(東から)



2. 勝尾城C地区石垣 (南西から)



3. 勝尾城C地区1トレンチ
(南東から)





1. 勝尾城C地区1トレンチ石敷
通路部分（南西から）



2. 勝尾城C地区1トレンチ
（北西上段曲輪から）



3. 鬼ヶ城遠景（東から）



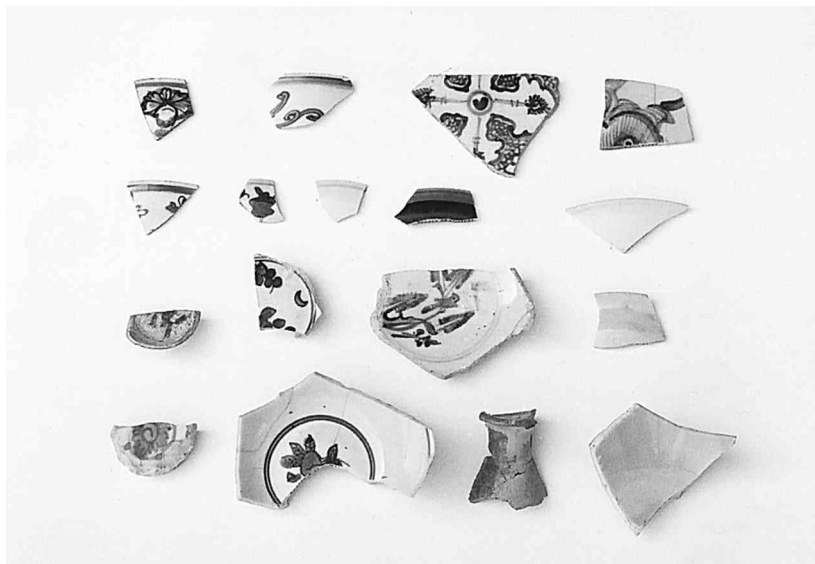
1. 鬼ヶ城3トレンチ (東から)



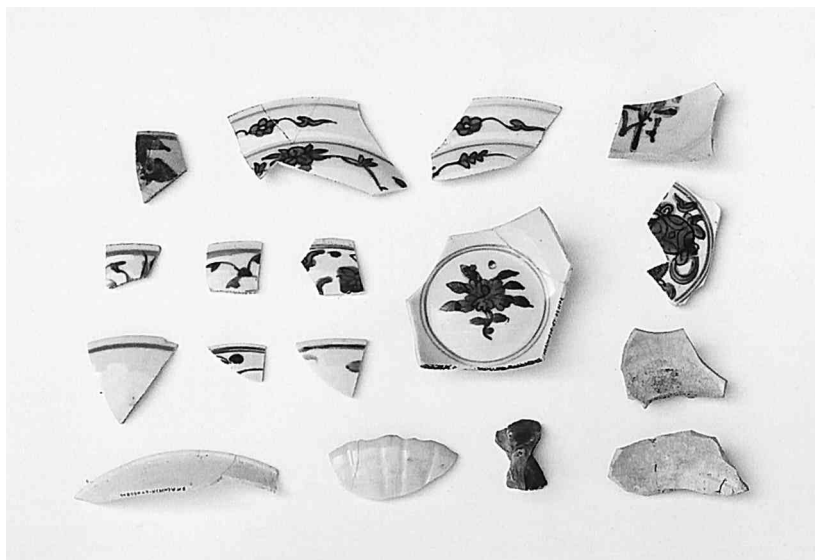
2. 鬼ヶ城4トレンチ石段
(南東から)



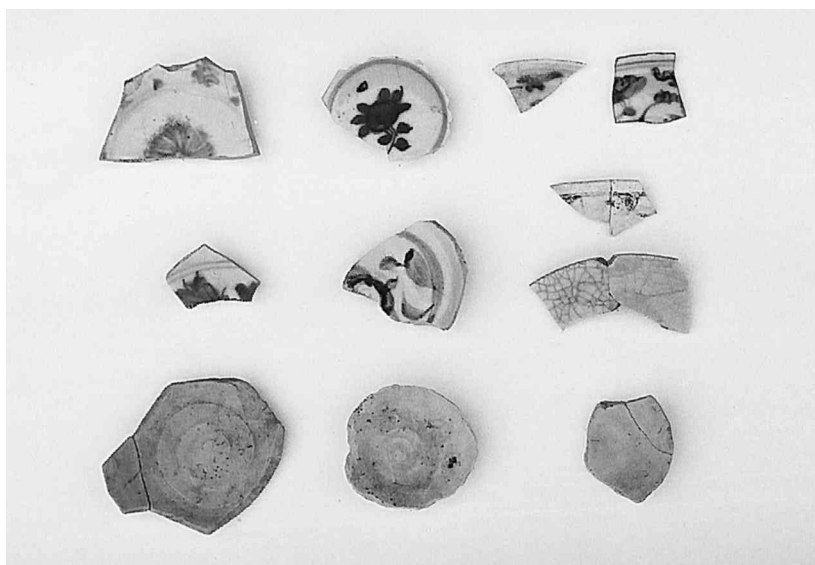
3. 鬼ヶ城8トレンチ (南西から)



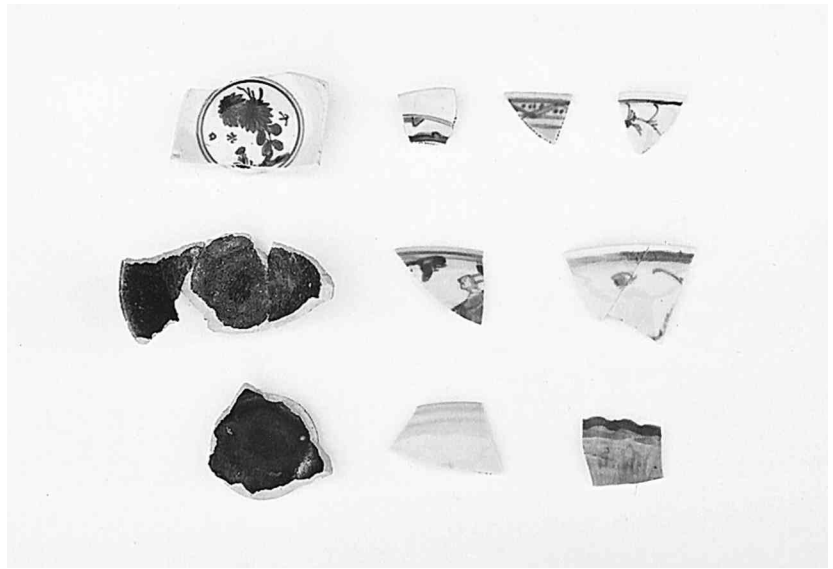
1. 勝尾城A地区3トレンチ出土遺物（陶磁器）



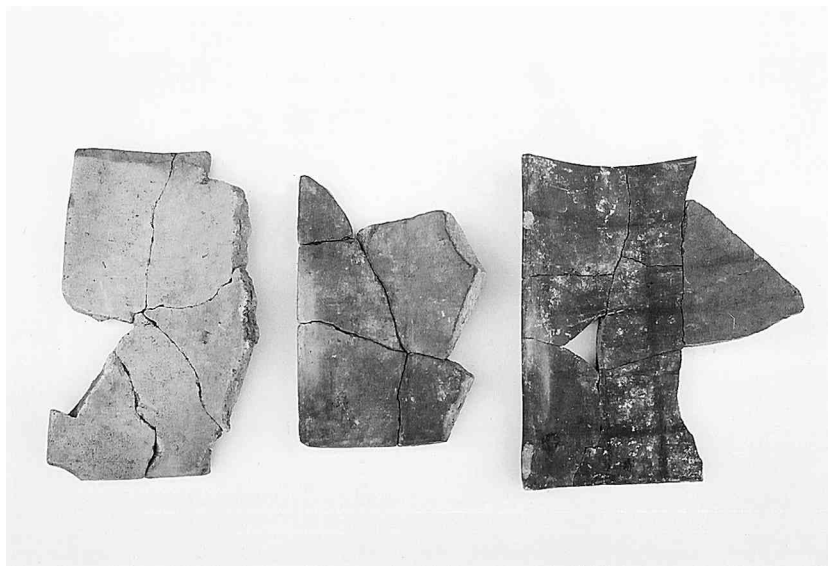
2. 勝尾城A地区4トレンチ出土遺物（陶磁器）



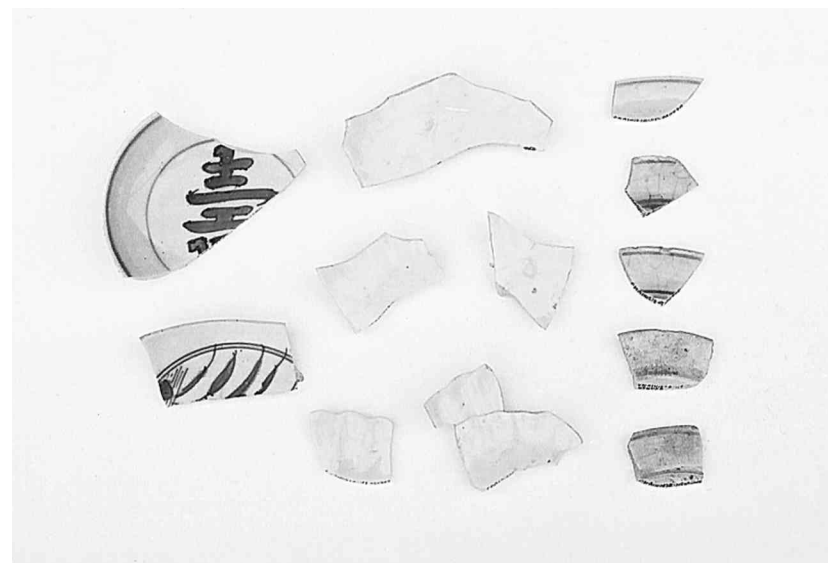
3. 勝尾城A地区6トレンチ出土遺物



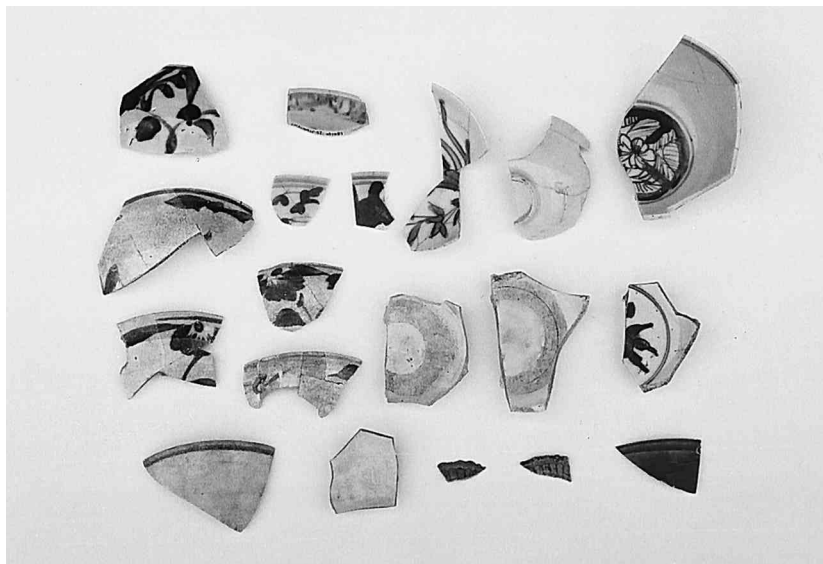
1. 勝尾城B地区10トレンチ出土
遺物 (陶磁器)



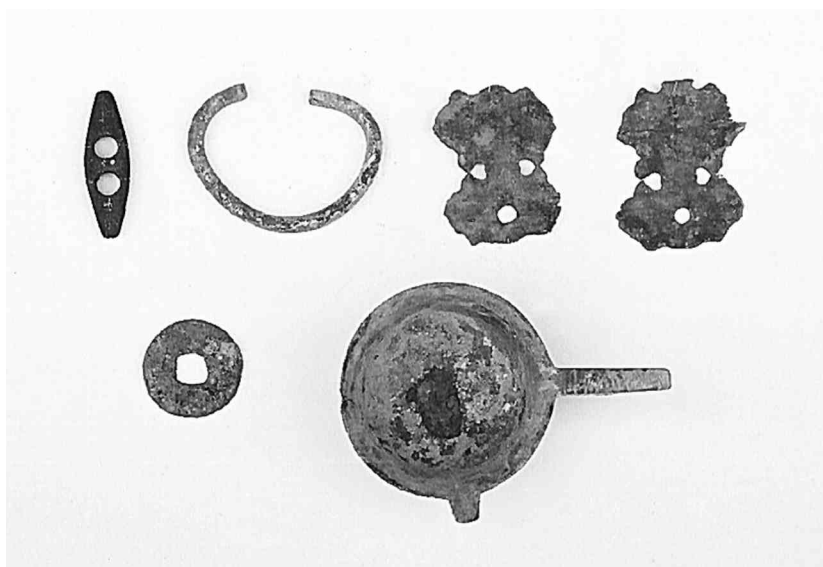
2. 勝尾城B地区10トレンチ出土
遺物 (瓦)



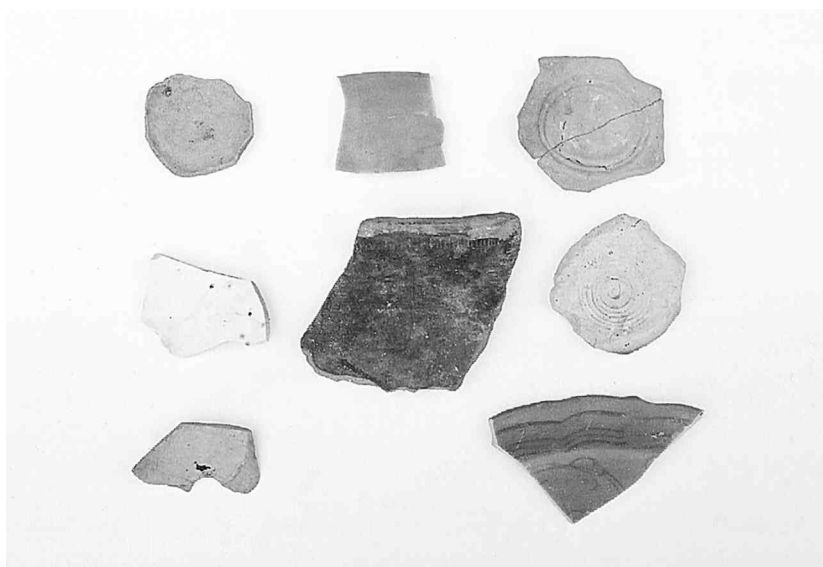
3. 勝尾城B地区10トレンチ出土
遺物 (磁器)



1. 勝尾城C地区出土遺物（陶磁器）



2. 勝尾城地区内出土遺物



3. 鬼ヶ城出土遺物

VI. 平成16年度の調査

VI. 平成16年度の調査

平成16年度は、平成15年度の勝尾城、鬼ヶ城の確認調査に引き続き、調査されていない支城の葛籠城、高取城、鏡城とその周辺部の確認調査を行い、遺構、遺物を確認し、その存在時期を確定するとともに、その内容を明らかにする目的で実施した。

【葛籠城】

葛籠城は、遺跡の南東部に位置し、横堀と土塁に囲まれた単郭の主郭の前面に、二重の横堀を東西に伸ばす防塁型の城郭で、主郭の標高は約126mである。葛籠城の最大の特徴である、二重の横堀は、現状で約550mが確認できるが、平成8年度の調査で城下域の山浦新町地区まで伸びていたことが確認され、城下町全体の防塁線であることが明らかになっている。このことから葛籠城は、城下町防備の要となる城であると考えられる。調査は、城の東の平坦面、主郭周辺、土塁、空堀、城の周辺部に33ヶ所にトレンチを設定し、実施した。

葛籠城の東部には、空堀に沿って広大な平坦面が広がっており、従来から、何らかの施設の存在が想定されていた地点である。調査の結果、1T、2T周辺は後世の神社建設で削平されており、遺物も近世の陶磁器類が出土した。また、付近3Tからは整地面は確認できるが、他の遺構、遺物は確認できなかった。空堀を挟んだ北側の4Tから10Tにおいても同様の結果で、表土直下から削平された地山の整地面が確認された。整地面は硬化しておらず、遺物も土師器の小片が出土したのみであった。北東端に設定した11Tからは石積み出入口とそれに伴う石段が確認された。出入口は東に向き、幅約2.8mで、両脇は連続した石積みが確認でき、前面には3段の石段と南東方向にスロープ状の通路が確認された。この遺構は、周囲の状況から防御的な虎口とは考えにくく、何らかの宗教的施設の可能性が考えられる。

葛籠城の主郭は、南北約50m、東西約30mの卵型の曲輪の周囲に横堀を巡らせており、南東部に虎口と思われる開口部がある。主郭中心部に設定した14Tでは、主郭が切土と盛土で整地されていることが確認できた。また周囲の土塁及び切岸の上部は、29Tから盛土によるものであることが明らかになった。虎口と思われる開口部の付近の24Tからは、土橋状の掘り残しが確認され、虎口の可能性が高くなった。周囲の横堀は、15Tでは約0.7m埋没しており、外側の土塁は盛土である。堀底は平坦になっており、堀底を通路として使用していたものと思われる。

城の南面の二重の横堀は、16Tで約1.8m埋没しており、断面はV字形、下部は岩盤を掘り込んでおり、内側の土塁天端からの深さは約5mとなった。この堀に伴う土塁に設定した12Tでは、旧表土と思われる黒褐色土上に直接盛土されている様子が確認された。二重の横堀のうち、南側の一部現状では堀が確認できない部分に設定した22T、24Tの土層観察の結果、現状で確認できる土塁の延長上に土塁と思われる高まりを連続して確認した。このことから、この部分の横堀は土砂の流入で完全に埋没しており、南の横堀も連続して造られていたものと思われる。この延長上の27Tでは、堀の落ちの片面もしくは切岸と思われる落ち込みを確認した。また、南の横堀に直行する縦堀状の遺構が観察されたため33Tを設定したが、約0.4mの落ちこみを確認したが、縦堀と判断するには至らなかった。

また、城域の広がりを確認するために18T、19T、28T、30T、31T、32Tを設定したが、31T、32Tか

ら整地面が確認されたのみである。

葛籠城は、長大な横堀を持ち、主郭部分は石積みを行うなど、大規模な普請を行い、城下町防御の要の位置に築かれているが、時期を特定できる遺物がなく、建物等の遺構も確認されないなど、過去に調査された屋敷地以外の城郭部分は使用された痕跡が乏しい。また、旧表土上に直接土塁を積むように、急な普請を行った様子うかがえる。このことは、現在の葛籠城遺構は遺跡の最終段階で形成された可能性を示すものと思われる。

【高取城】

高取城は葛籠城の西、尾根続きの標高約290m山上に位置し、曲輪、堀切等が確認されている。調査は、葛籠城と連続した尾根部分から、高取城の西の尾根上まで12ヶ所のトレンチを設定し実施した。

葛籠城から西の尾根続きの部分は明瞭な切岸は確認できないものの1 Tから4 Tかけては、削平された平坦面が確認された。また5 Tでは東に開口し、土塁を伴った右折れで入る虎口が確認された。虎口上段の曲輪の6 Tでは、虎口に伴う段差及び、岩盤を削平した平坦面が確認された。主郭部の7 T、8 Tでも岩盤の削平しており、高取城の主要部は、地山の岩盤の整形が主になっていることが確認された。

高取城から西の尾根上でも、10 Tから削平地が確認され、地表面観察でも明瞭な切岸はないものの平坦地が認められる。また、この尾根上から土塁状の遺構が確認された。尾根の鞍部をつなぐ様に造られており、最も高い部分で約2 mである。土塁は、11 Tでは地山整形、12 Tでは盛土であることが確認された。

遺物は16世紀後半の漳州窯産の青花、白磁が6 Tから、5 Tからは銅製品が出土した。

今回の調査では、高取城主要部以外から遺物の出土がなく、時期の確定ができず城郭遺構とは断言できないが、葛籠城から西の尾根上に防御ラインを構成し、高取城がその中枢の位置を占めていたとも考えられる。

【鏡城】

鏡城は、勝尾城筑紫氏遺跡の最も東に位置する城郭で、標高は約190m、曲輪、堀切、筑紫氏の城郭では例の少ない畝状空堀があることが知られている。調査は、主郭部とその周辺の曲輪、東側の谷内、及び南に伸びる尾根上に9ヶ所にトレンチを設定し、調査を実施した。

鏡城の主郭は、削平があまりなされておらず、浅い堀切があるなど、古い様相を残しているのといわれている。1 Tは、この主郭の南の曲輪に設定した、地山のバイラン土上に灰白色土で整地されており、小穴が確認された。その東下段の曲輪の2 T部分は盛土されており、小穴が確認された。また盛土中からは火舎の破片が出土した。

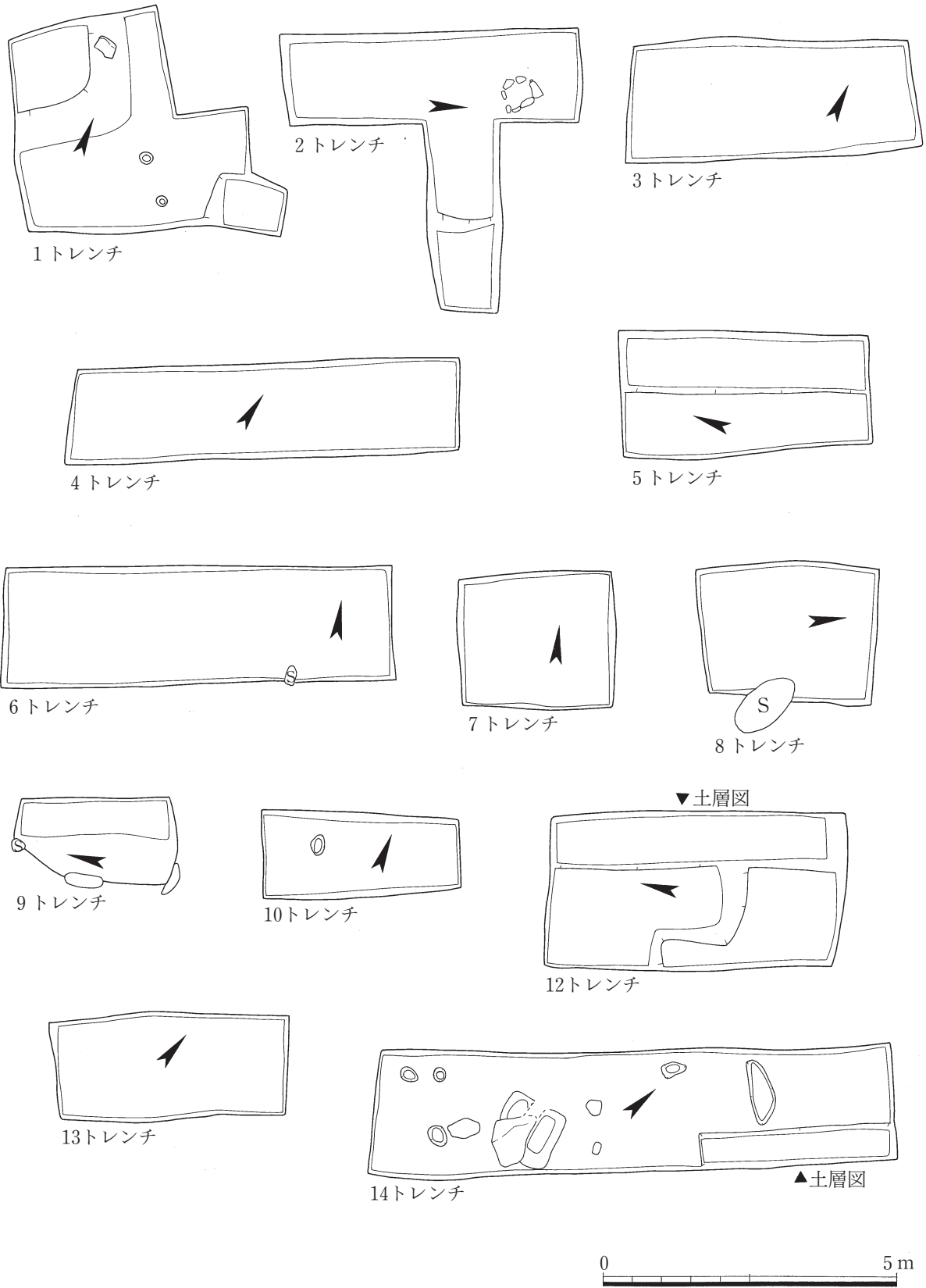
東の谷中に設定した6 Tでは、灰白色の砂質土で整地され、小穴が確認された。7 Tでは、整地面が確認され、土師器片が出土したことから、谷が利用されていたことが確認できた。また、南に伸びる尾根上に3 T、4 T、8 T、9 Tを設定したが、9 Tから削平地が確認されただけで、遺構、遺物の確認には至らなかった。

遺物は、1 T、2 Tを中心出土し、白磁の皿、瓦質土器、土師器などが出土した。

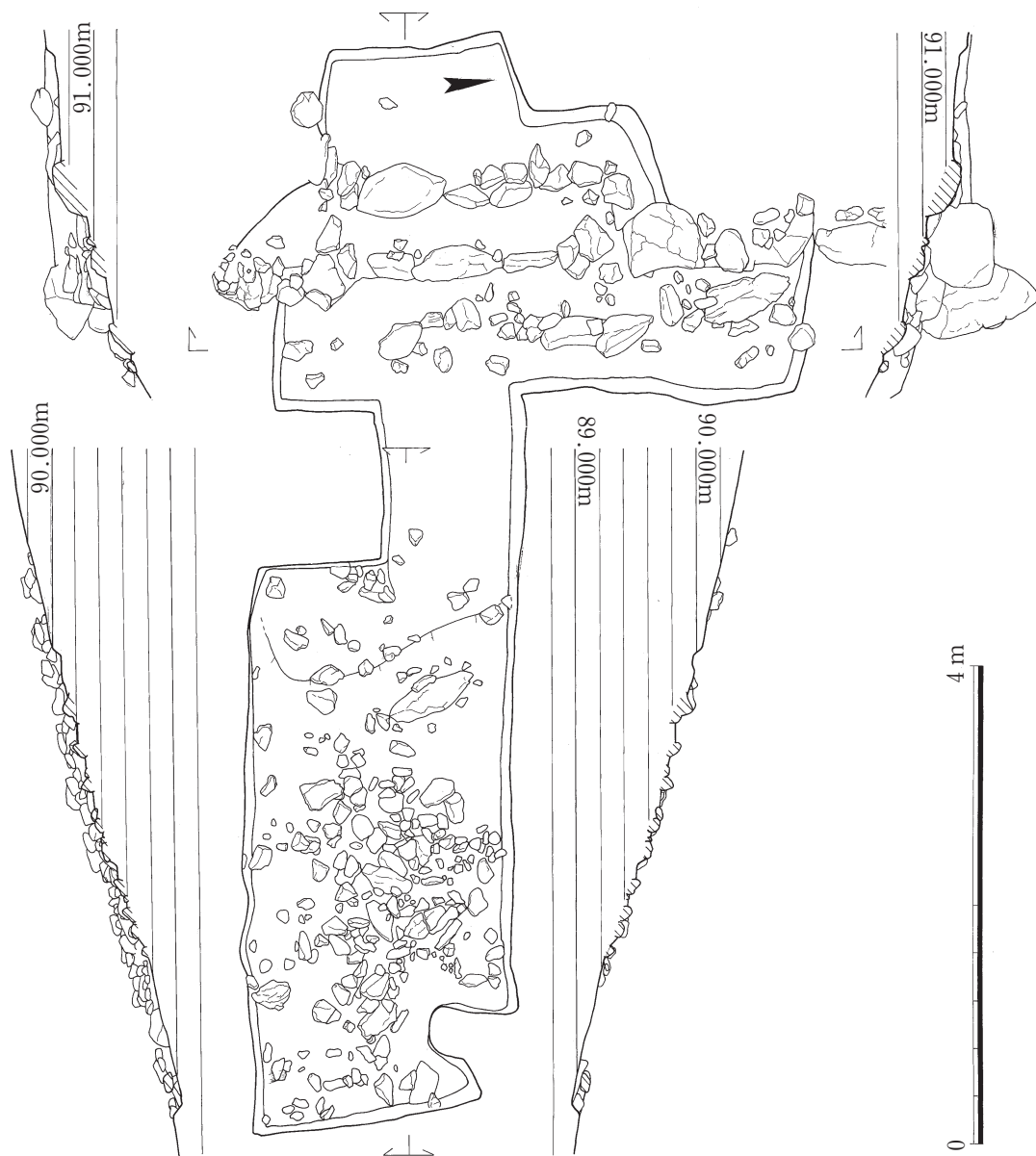
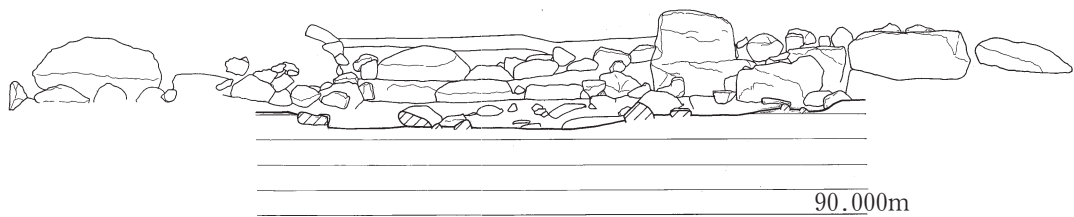
鏡城は調査地点が少なく確定はできないが、16世紀後半の白磁が出土しており、勝尾城と同時代に機能していたことが明らかになった。



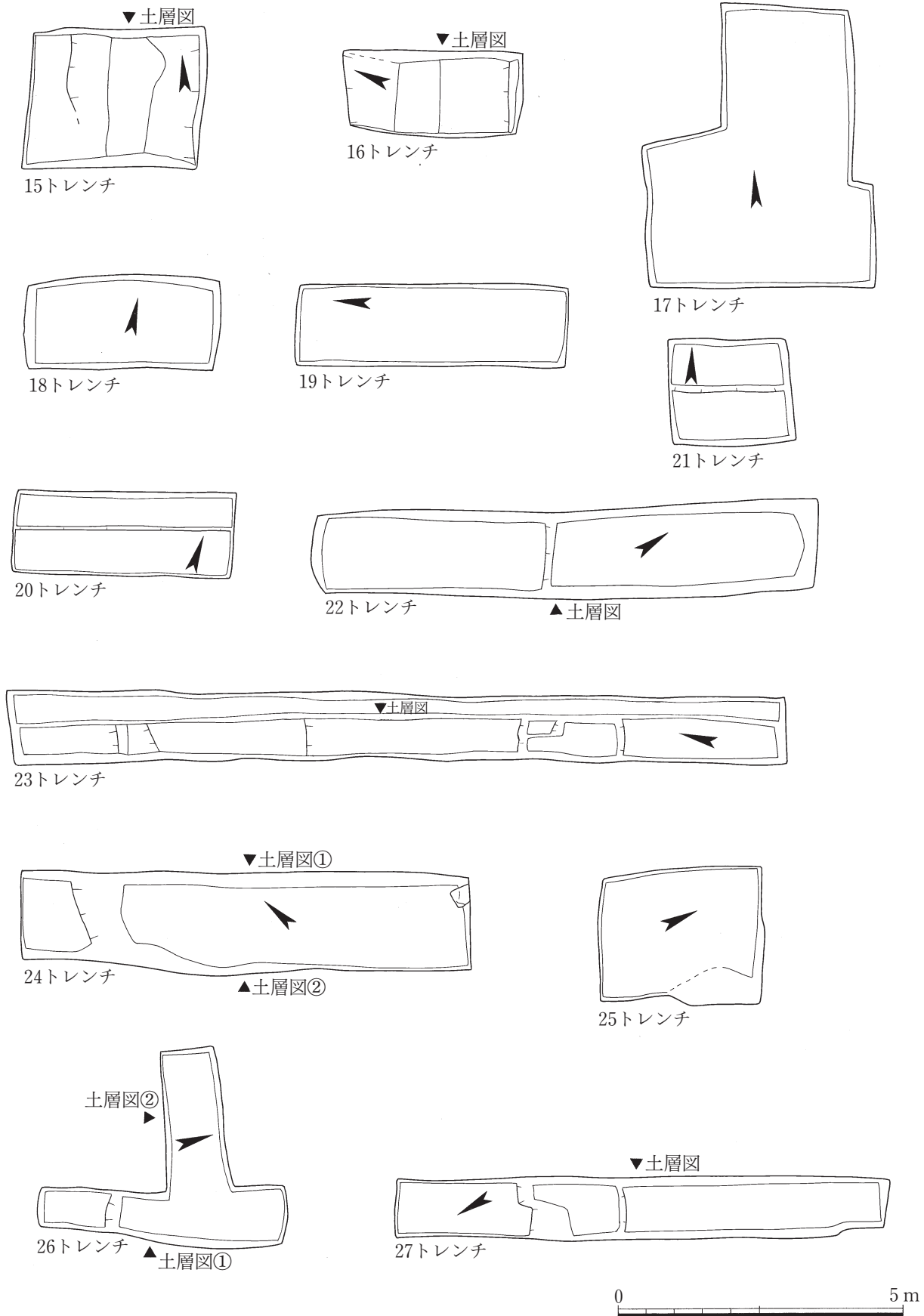
第107図 平成16年度調査葛籠城地区トレンチ位置図 (1 / 3,000)



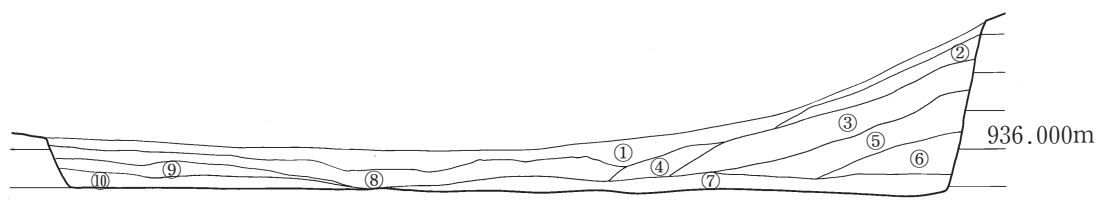
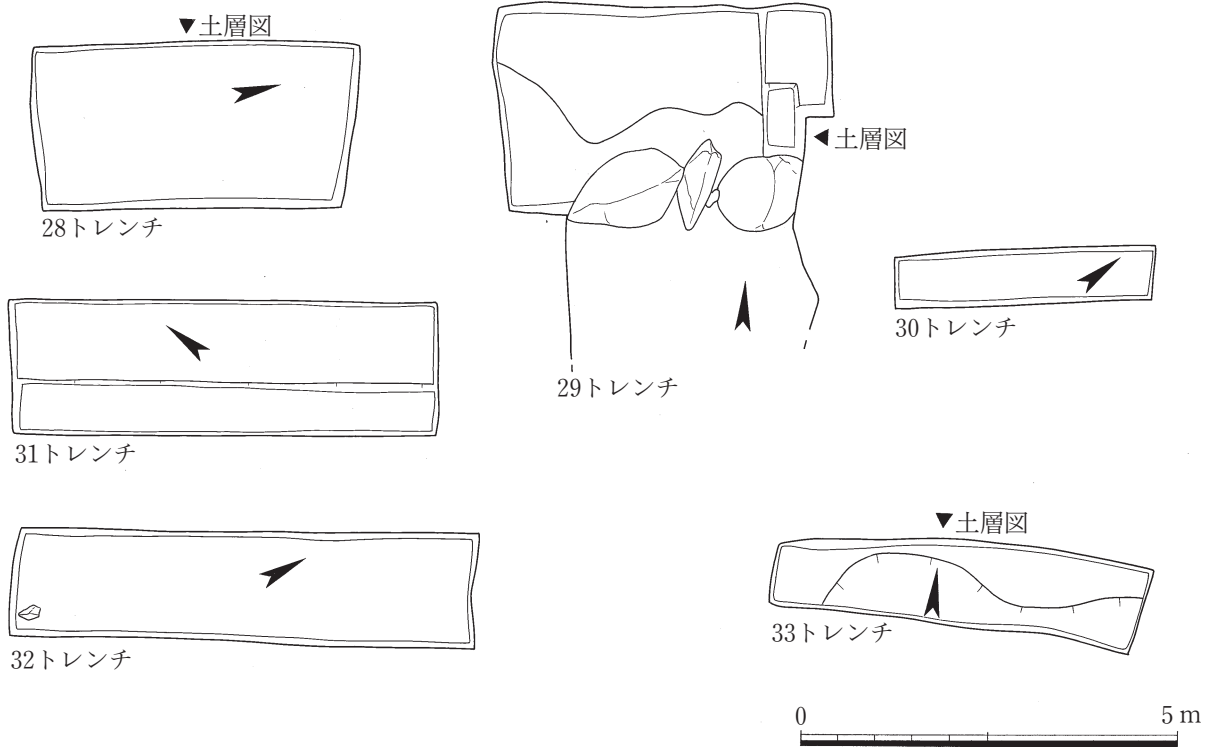
第108図 葛籠城地区1・2・3・4・5・6・7・8・9・10・12・13・14トレンチ (1/100)



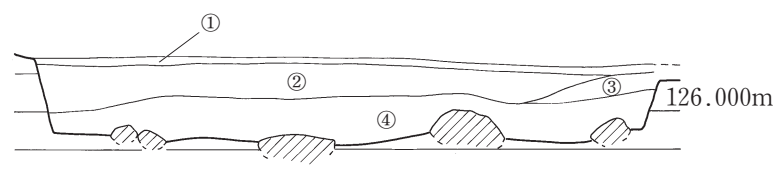
第109図 葛籠城地区11トレンチ (1/60)



第110図 葛籠城地区15・16・17・18・19・20・21・22・23・24・25・26・27トレンチ (1/100)



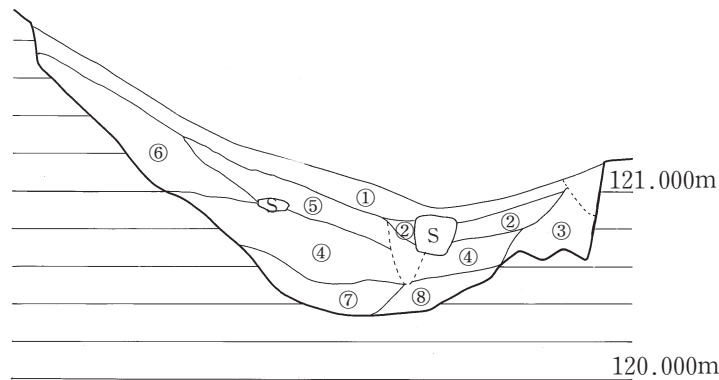
- 12トレンチ
- | | |
|------------|---------------|
| ① 表土 | ⑥ にぶい赤褐色土 |
| ② 淡橙色土 | ⑦ 黒褐色土 (旧表土) |
| ③ にぶい橙色土 | ⑧ 橙色土 |
| ④ ⑤と同じ | ⑨ 褐灰色土 (旧表土) |
| ⑤ ③よりやや明るい | ⑩ にぶい橙色土 (地山) |



- 14トレンチ
- | |
|---------------|
| ① 暗褐色土 (表土) |
| ② にぶい橙色土 (盛土) |
| ③ 橙色土 (地山) |
| ④ 明赤褐色土 |

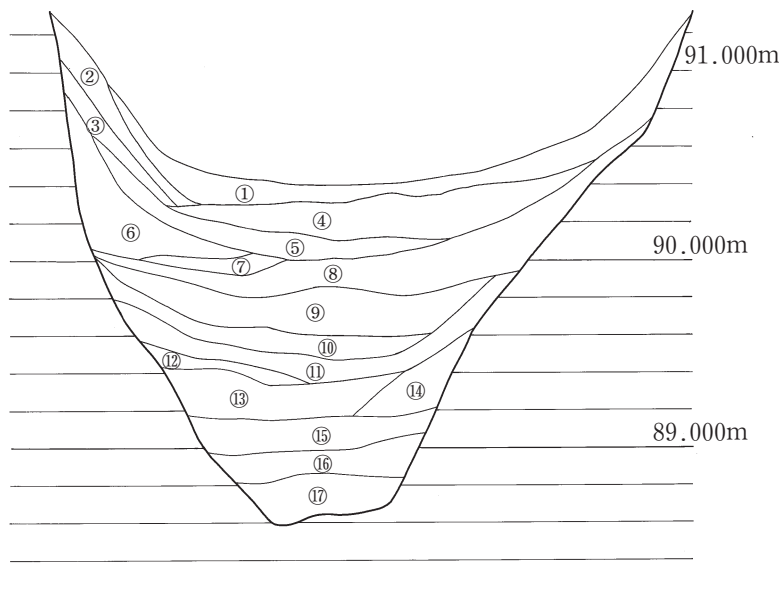


第111図 葛籠城地区28・29・30・31・32・33トレンチ (1/100) 12・14トレンチ土層 (1/40)



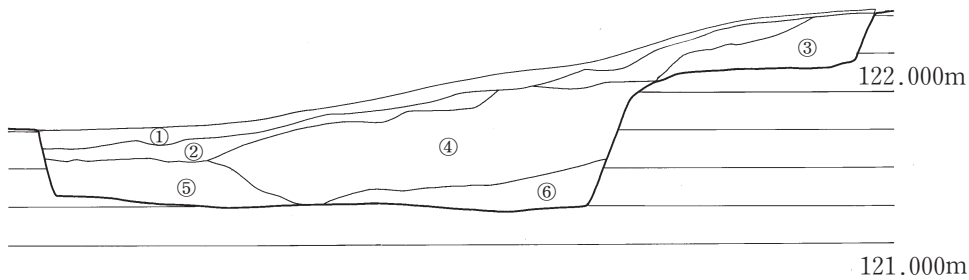
- ① 表土
- ② 暗赤灰色土
- ③ 赤褐色土 (土塁盛土)
- ④ 明赤褐色土
- ⑤ にぶい赤褐色土
- ⑥ 明赤褐色土
- ⑦ 赤灰色土
- ⑧ 橙色土 地山パイランド土混じり

15トレンチ



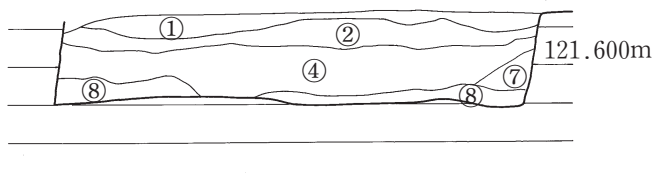
- ① 表土 (灰黒色土)
- ② 暗褐色土
- ③ 灰褐色土
- ④ にぶい褐色土
- ⑤ ④よりやや暗い
- ⑥ 灰褐色土
- ⑦ ⑥よりやや暗い
- ⑧ 明赤褐色土
- ⑨ 橙色土
- ⑩ 橙色土に灰褐色土混じり
- ⑪ にぶい橙色土
- ⑫ 明褐色土
- ⑬ ⑪よりやや暗い
- ⑭ 褐灰色土
- ⑮ にぶい橙色土 (砂質土)
- ⑯ 褐灰色土 (砂質土)
- ⑰ 浅黄色土 (砂質土)

16トレンチ



- ① 表土 (暗褐色土)
- ② 淡橙色土
- ③ 橙色土
- ④ 明赤褐色土
- ⑤ にぶい橙色土
- ⑥ 黄橙色土
- ⑦ 橙色土
- ⑧ ⑦より明るい橙色土

26トレンチ①



26トレンチ②



第112図 葛籠城地区15・16・26トレンチ土層 (1/40)



22トレンチ

- ① 表土
- ② にぶい黄褐色土
- ③ 浅黄褐色砂質土
- ④ にぶい橙色砂質土
- ⑤ 黄褐色粘質土(鉄分多くむ)
- ⑥ 灰白色粘質土(鉄分多む)
- ⑦ ⑤と同じ
- ⑧ ⑥と同じ(⑥より鉄分多い)
- ⑨ 灰白色粘質土
- ⑩ 淡黄色粘質土(黒褐色ブロック混入)
- ⑪ 灰黄褐色土黒褐色土まじり
- ⑫ 明褐色粘質土
- ⑬ 黒灰色、灰色粘質土まじり
- ⑭ 青灰色粘質土、灰色粘質土まじり(砂質)
- ⑮ 青灰色粘質土、黄褐色砂質土まじり
- ⑯ 暗オリーブ褐色土(粘質)
- ⑰ オリーブ褐色土(粘質)
- ⑱ 黒褐色土
- ⑲ ⑬よりくらい
- ⑳ 暗青灰色土(粘質)
- ㉑ 暗褐色砂質土
- ㉒ 青褐色土(砂質)
- ㉓ 22よりやや明るい
- ㉔ オリーブ褐色砂質土
- ㉕ 褐灰色土粘質土(砂質土まじり)
- ㉖ 青黒色粘質土砂まじり
- ㉗ 青灰色粘質土
- ㉘ 青灰色粘質土
- ㉙ 黒褐色砂質土(バランブロック混入)
- ㉚ 青灰色砂質土
- ㉛ 青灰色粘質土
- ㉜ 灰白色砂質土、暗灰色ブロック混入
- ㉝ 灰白色

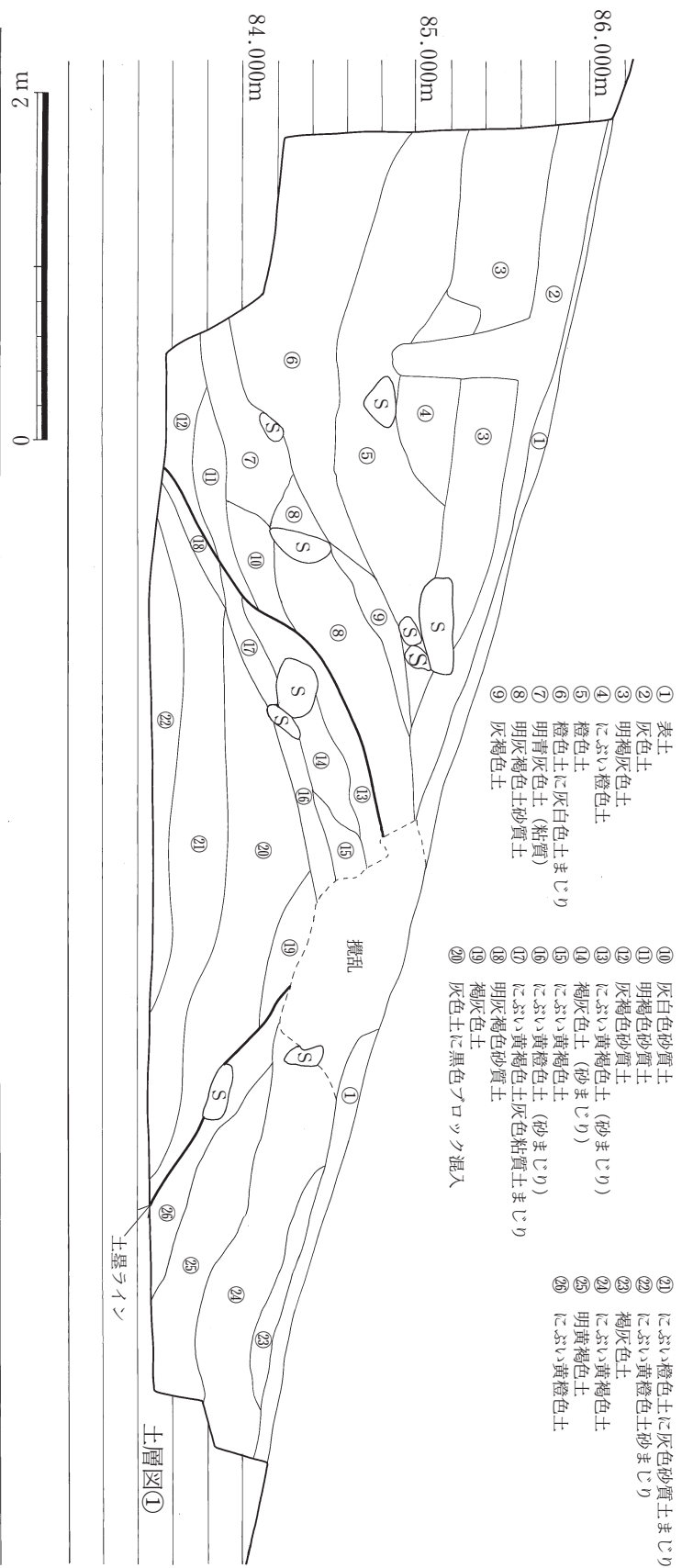
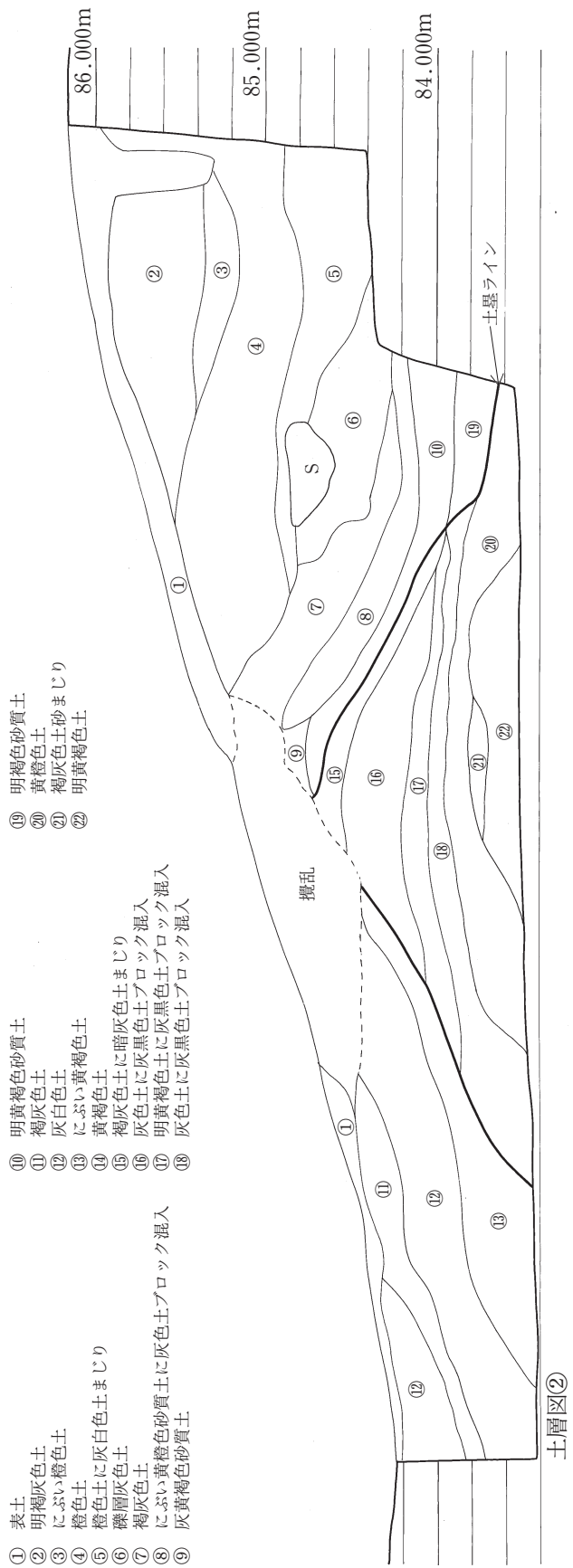
23トレンチ

- ① 表土
- ② 褐灰色土
- ③ 明褐色土
- ④ にぶい橙色土(地山)
- ⑤ にぶい赤褐色土(溝埋土)
- ⑥ 明褐色土
- ⑦ 灰褐色に灰黒色土まじり
- ⑧ 淡黄色土
- ⑨ 灰黒色土(旧表土)
- ⑩ 灰褐色土(溝埋土)
- ⑪ 褐灰色土に黒灰色土まじり
- ⑫ 灰褐色土に灰黒色土ブロック混入
- ⑬ にぶい褐色土
- ⑭ 橙色土(地山)

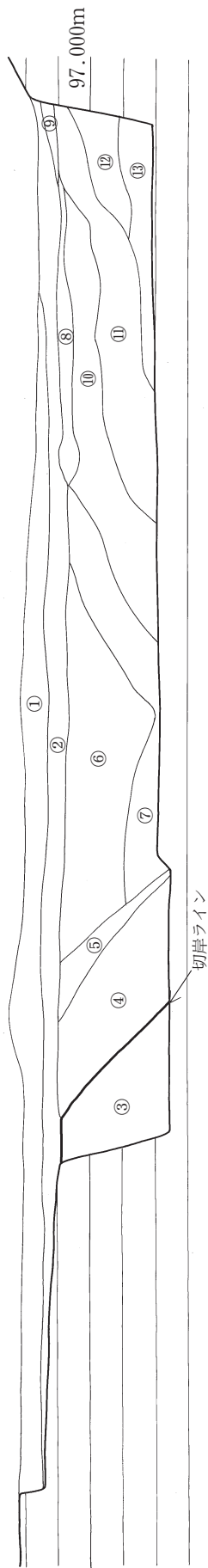
23トレンチ

- ① 表土
- ② 褐灰色土
- ③ 明褐色土
- ④ にぶい橙色土(地山)
- ⑤ にぶい赤褐色土(溝埋土)
- ⑥ 明褐色土
- ⑦ 灰褐色に灰黒色土まじり
- ⑧ 淡黄色土
- ⑨ 灰黒色土(旧表土)
- ⑩ 灰褐色土(溝埋土)
- ⑪ 褐灰色土に黒灰色土まじり
- ⑫ 灰褐色土に灰黒色土ブロック混入
- ⑬ にぶい褐色土
- ⑭ 橙色土(地山)

第113図 葛籠城地区22トレンチ土層 (1/40) 23トレンチ土層 (1/60)

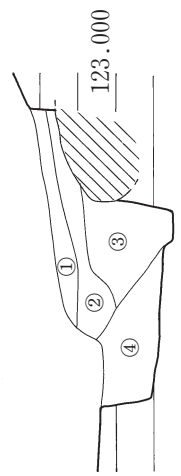


第114図 葛籠城地区24トレンチ土層 (1/40)



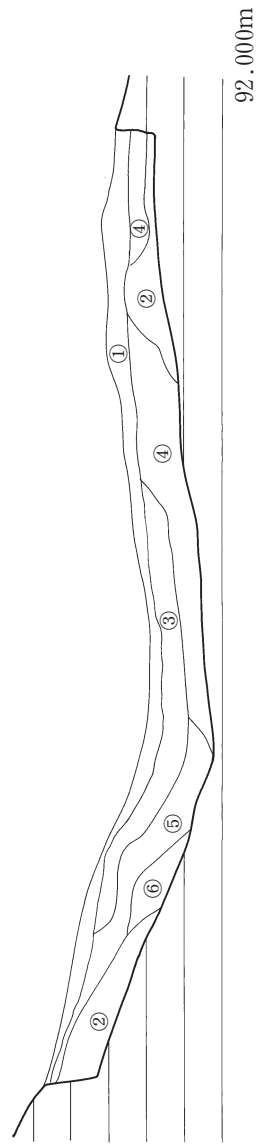
27トレンチ

- | | |
|---------------|------------|
| ① 表土 | ⑧ 灰色砂礫まじり土 |
| ② 灰色土 | ⑨ 黄灰色粘質土 |
| ③ 灰白色砂礫土 | ⑩ 赤褐色砂礫土 |
| ④ 灰色砂礫土 | ⑪ 灰色砂質土 |
| ⑤ 暗灰色土 | ⑫ 青黒色土 |
| ⑥ 灰オリーブ砂礫まじり土 | ⑬ 暗赤褐色砂礫土 |
| ⑦ 青灰色砂礫土 | |



29トレンチ

- | |
|---------------|
| ① 表土 |
| ② にぶい橙色土 (盛土) |
| ③ 明赤褐色土 (盛土) |
| ④ 橙色土 (地山) |

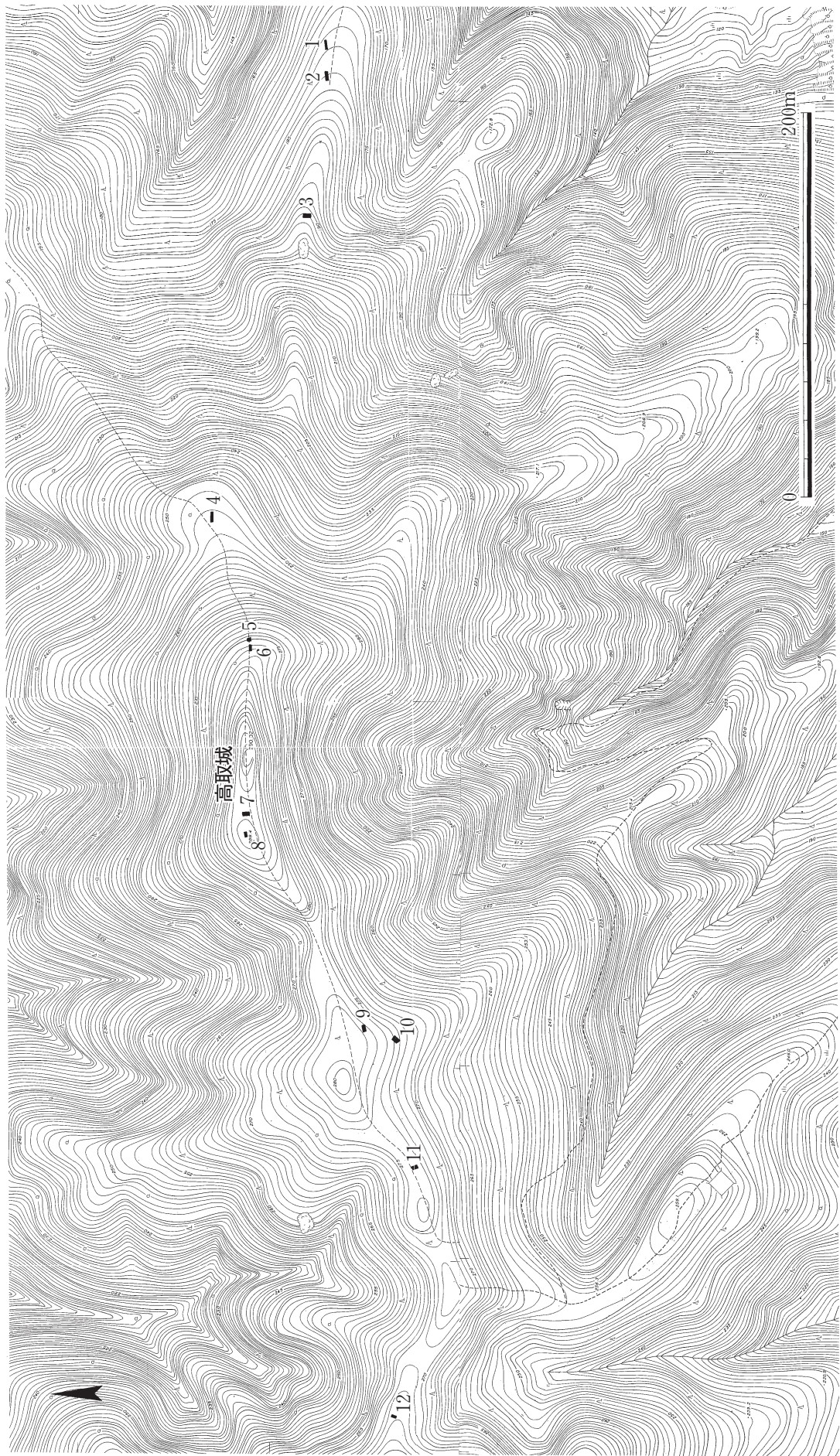


33トレンチ

- | |
|------------|
| ① 表土 |
| ② 橙色土 (地山) |
| ③ にぶい橙色土 |
| ④ ③より明るい |
| ⑤ 淡褐色土 |
| ⑥ 明褐色土 |



第115図 葛籠城地区27・29・33トレンチ土層 (1/40)



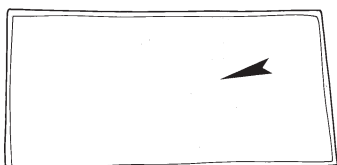
第116図 平成16年度調査高取城地区トレンチ位置図 (1 / 3,000)



1 トレンチ



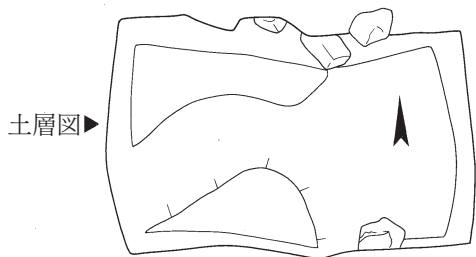
2 トレンチ



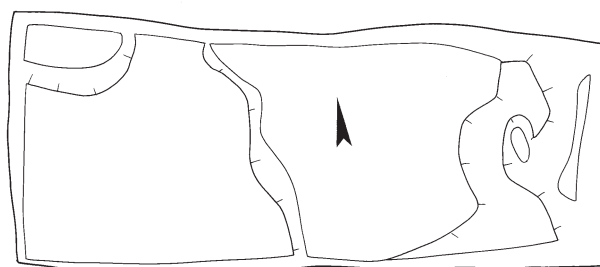
3 トレンチ



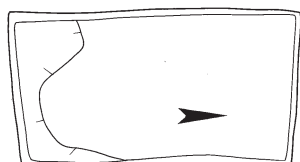
4 トレンチ



5 トレンチ



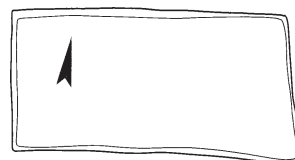
6 トレンチ



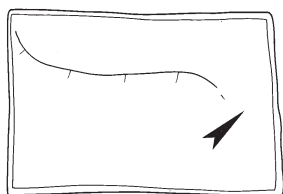
7 トレンチ



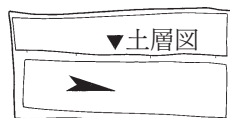
8 トレンチ



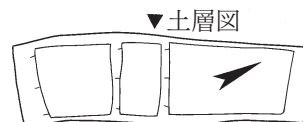
9 トレンチ



10 トレンチ



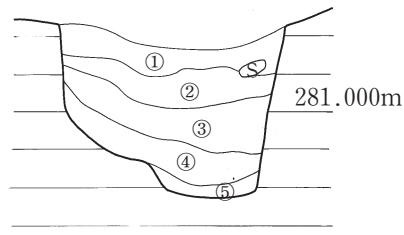
11 トレンチ



12 トレンチ

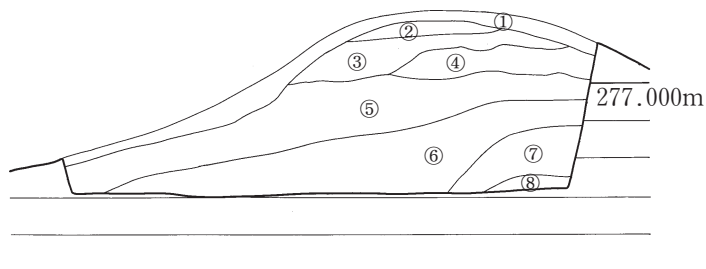


第117図 高取城地区1・2・3・4・5・6・7・8・9・10・11・12トレンチ (1/100)



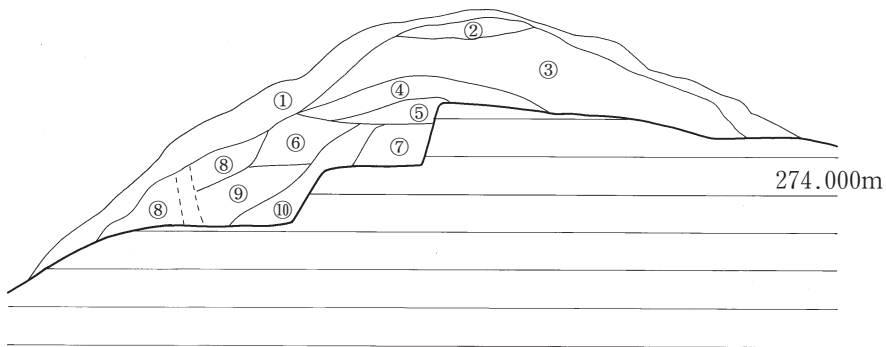
- ① 表土
- ② 浅黄橙色土、砂質土
- ③ にぶい橙色土、砂質土
- ④ 淡橙色土、砂質土
- ⑤ 灰白色砂質土

5 トレンチ



- ① 表土
- ② 灰白色土
- ③ 明褐灰色土
- ④ にぶい橙色土
- ⑤ 橙色土
- ⑥ 明灰褐色土
- ⑦ 浅黄橙色土
- ⑧ 灰白色バイラン土

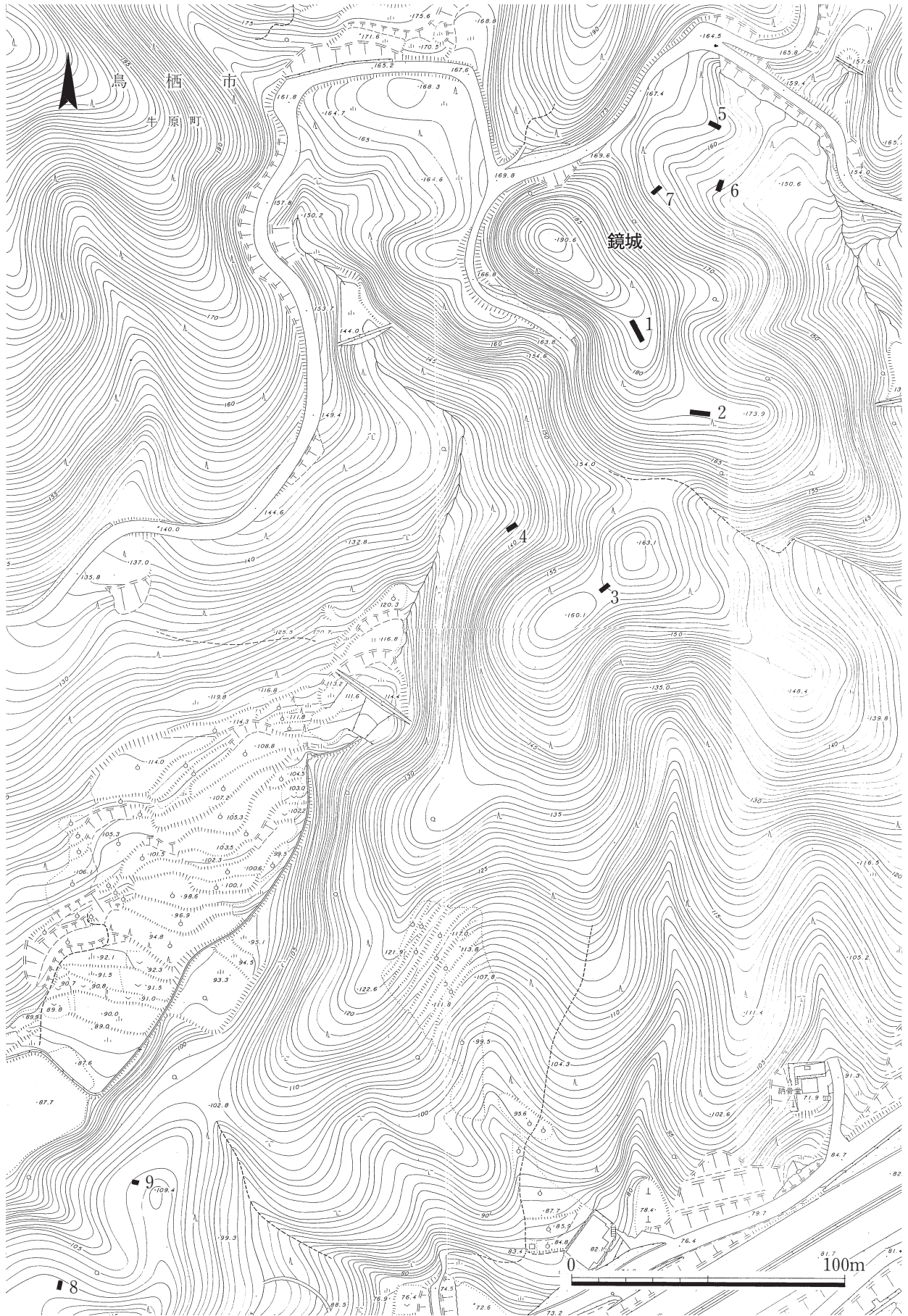
11 トレンチ



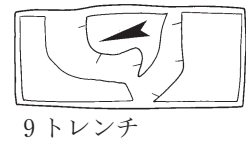
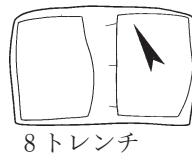
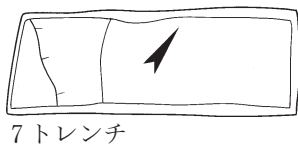
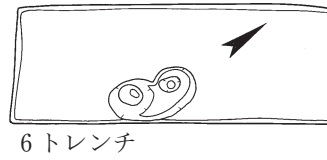
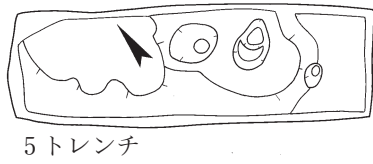
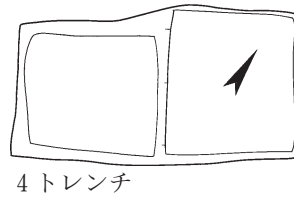
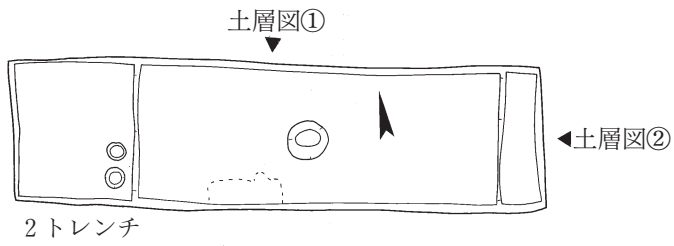
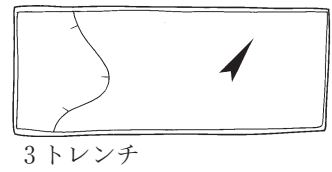
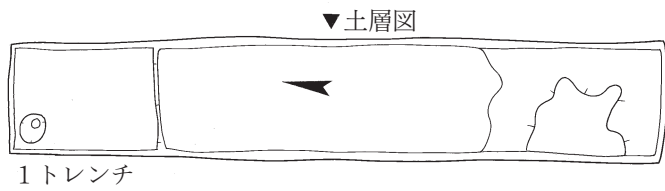
- 12 トレンチ
- ① 表土
 - ② 明灰褐色礫まじり土
 - ③ にぶい橙色砂質土 礫まじり
 - ④ 灰白色砂質土 (鉄分まじり)
 - ⑤ ④より明るい (鉄分を含まない)
 - ⑥ にぶい褐色砂質土
 - ⑦ にぶい橙色砂礫土
 - ⑧ 褐色土
 - ⑨ 灰色土
 - ⑩ 明灰色砂質土



第118図 高取城地区 5・11・12 トレンチ土層 (1/40)



第119図 平成16年度調査鏡城地区トレンチ位置図 (1 / 2,000)

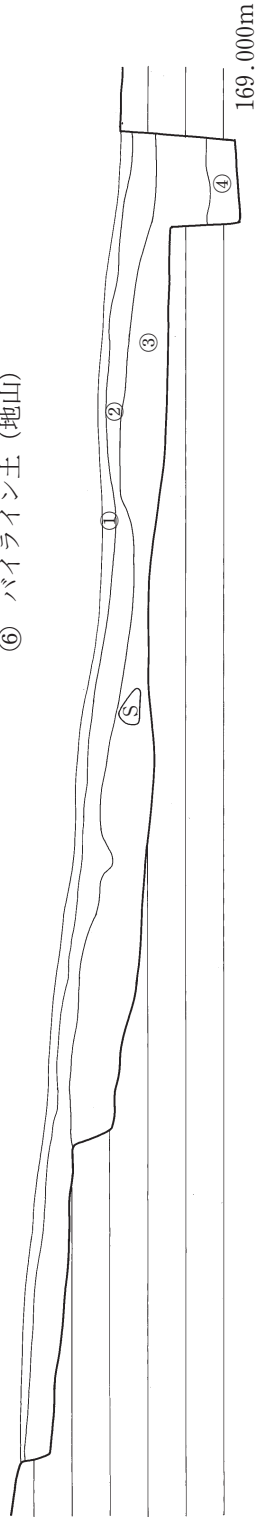


第120図 鏡城地区1・2・3・4・5・6・7・8・9トレンチ (1/100)



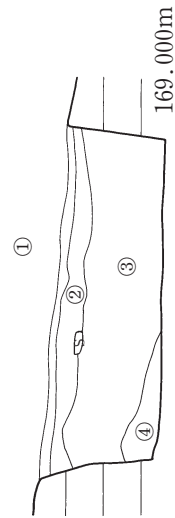
1トレンチ

- ① 表土
- ② 黄灰色土
- ③ ②よりやや暗い
にぶい黄橙色土 (遺物含む)
- ④ 灰白色土 (整地土)
- ⑤ バイライン土 (地山)
- ⑥



2トレンチ①

- ① 表土
- ② 褐灰色土
- ③ 明褐灰色土 (整地土遺物含む)
- ④ 灰褐色土

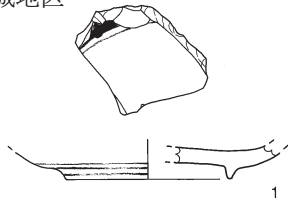


2トレンチ②



第121図 鏡城地区1・2トレンチ土層 (1/40)

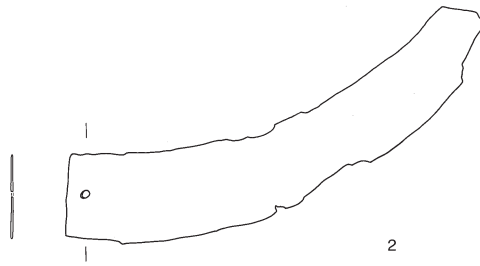
葛籠城地区



1

表採

高取城地区

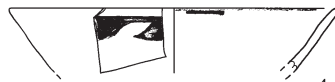


2

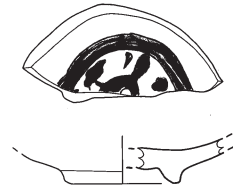
5 T



3



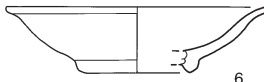
4



7



5

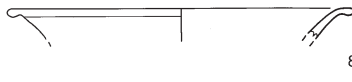


6

表採

6 T

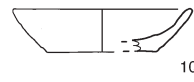
鏡城地区



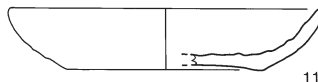
8



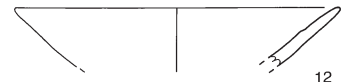
9



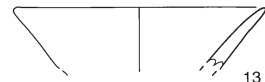
10



11



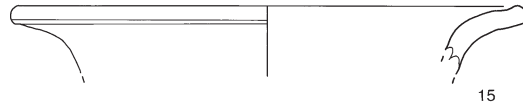
12



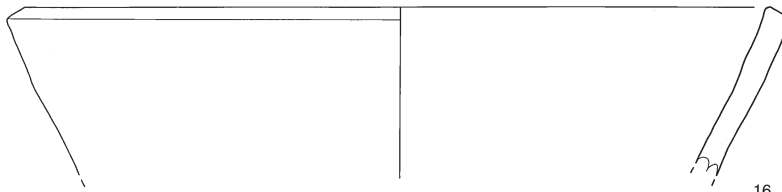
13



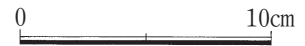
14



15



16



1 T



17



18



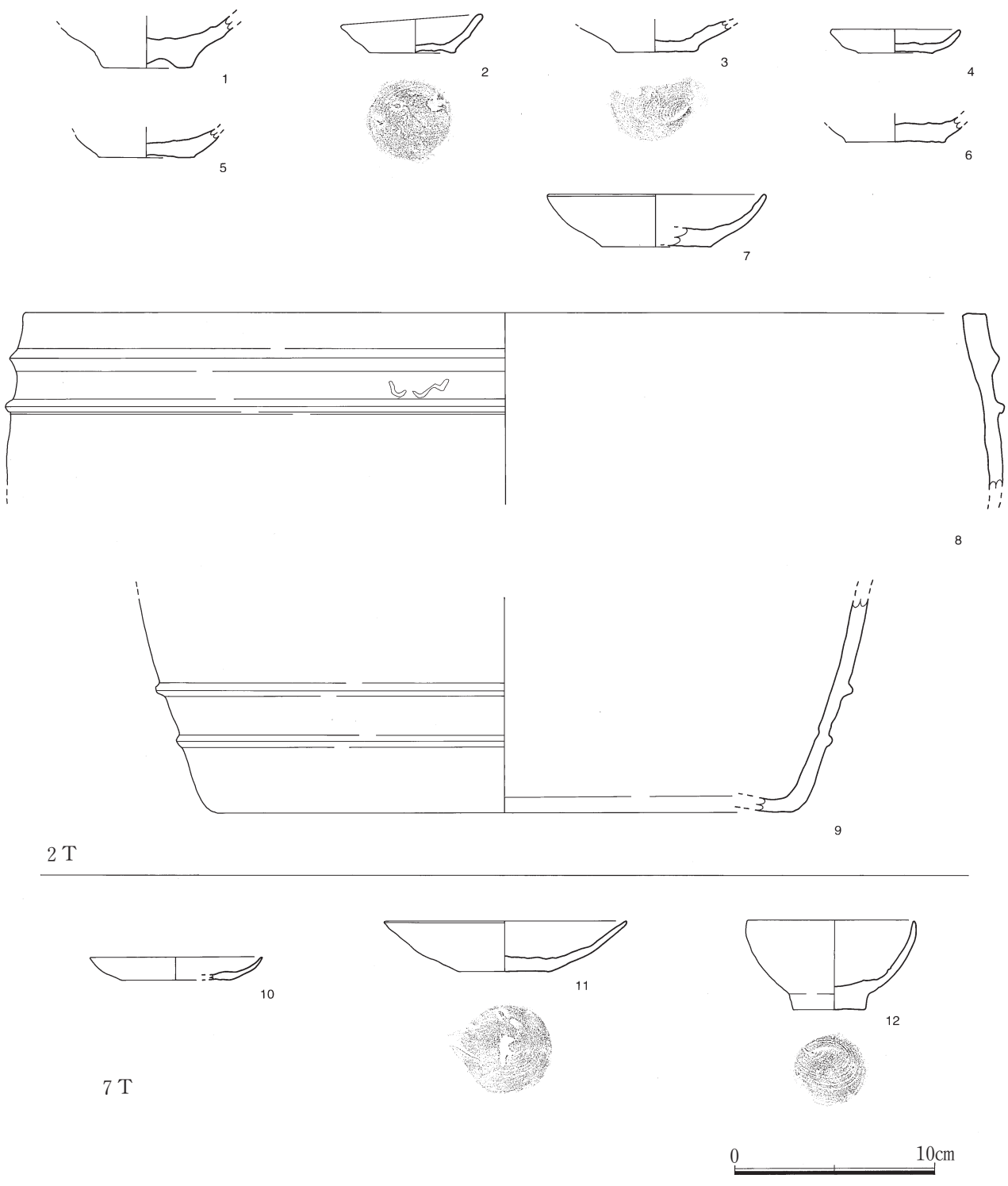
19



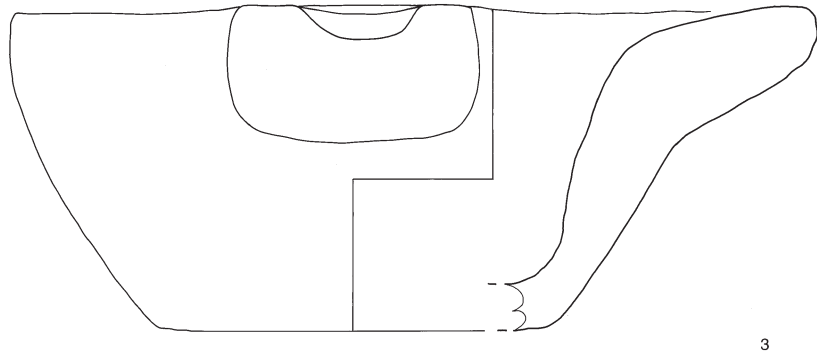
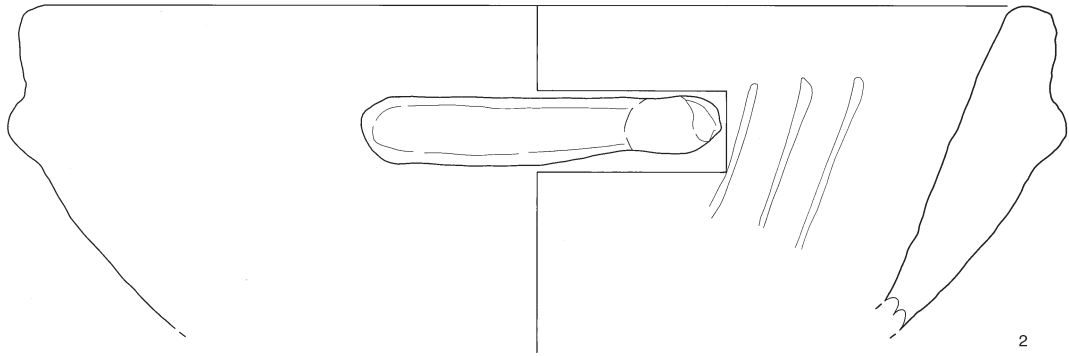
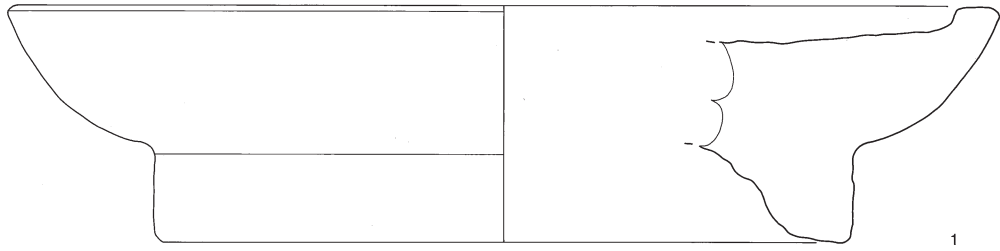
20



第122図 葛籠城地区、高取城地区、鏡城地区1トレンチ出土遺物(1/3)(1/2)



第123図 鏡城地区2・7トレンチ出土遺物（1／3）



第124図 武家屋敷地区表採石製品 (1 / 3)

表12 平成16年度トレンチ

面積：㎡

地区	番号	挿図番号	面積	遺 構	主な遺物	備 考
葛籠城	1	第108図	12	—	近世陶磁器類	神社造成時に削平
葛籠城	2	第108図	11	—	近世陶磁器類	神社造成時に削平
葛籠城	3	第108図	10	削平地 平場	—	—
葛籠城	4	第108図	11	削平地 平場	—	—
葛籠城	5	第108図	9	削平地 平場	土師器片	—
葛籠城	6	第108図	13	削平地 平場	土師器片	—
葛籠城	7	第108図	6	削平地 平場	土師器片	—
葛籠城	8	第108図	7	削平地 平場	—	—
葛籠城	9	第108図	3	削平地 平場	—	—
葛籠城	10	第108図	5	削平地 平場	—	—
葛籠城	11	第109図	22	石積み、石段	—	宗教施設？
葛籠城	12	第108図	13	土塁	—	旧表土に盛土
葛籠城	13	第108図	7	削平地 平場	—	—
葛籠城	14	第109図	18	整地面	—	主郭中央、切土と盛土で整地
葛籠城	15	第109図	7	主郭空堀・土塁	—	断面逆台形、約0.7m埋没、土塁盛土
葛籠城	16	第109図	5	空堀	—	断面V字形、約1.8m埋没、岩盤掘り込み
葛籠城	17	第109図	15	—	—	—
葛籠城	18	第109図	5	削平地 平場	—	城郭に係るか不明
葛籠城	19	第109図	7	削平地 平場	—	城郭に係るか不明
葛籠城	20	第109図	6	—	近世陶磁器類・土師器片	現況の土塁状の高まりは後世の切残し、遺物は上面より出土
葛籠城	21	第109図	4	—	—	—
葛籠城	22	第109図	14	土塁	—	谷中で現況では埋没している土塁を確認
葛籠城	23	第109図	16	土塁・溝	近世陶磁器類・土師器片	遺物は上面より出土
葛籠城	24	第109図	13	土塁	—	谷中で現況では埋没している土塁を確認
葛籠城	25	第109図	6	—	—	—
葛籠城	26	第109図	6	土橋	—	主郭虎口部分 地山掘り残し
葛籠城	27	第109図	9	空堀？	—	空堀延長上で落ち込み、切岸？
葛籠城	28	第111図	9	—	—	表土下、粘土、礫層 水田
葛籠城	29	第111図	21	切岸	—	切岸の盛土確認
葛籠城	30	第111図	3	—	—	表土下、粘土、礫層 水田
葛籠城	31	第111図	10	削平地 平場	—	—
葛籠城	32	第111図	8	削平地 平場	—	—
葛籠城	33	第111図	5	竪堀？	—	—
高取城	1	第117図	6	削平地 平場	—	—
高取城	2	第117図	8	削平地 平場	—	—
高取城	3	第117図	9	削平地 平場	—	—
高取城	4	第117図	8	削平地 平場	—	—
高取城	5	第118図	14	虎口通路	銅製品	右折れの通路
高取城	6	第117図	25	虎口段差 削平地	青花・白磁	岩盤を削平
高取城	7	第117図	8	削平地 平場	—	岩盤を削平
高取城	8	第117図	4	削平地 平場	—	岩盤を削平
高取城	9	第117図	7	削平地？	須恵器片	岩盤
高取城	10	第117図	8	削平地 平場	—	—
高取城	11	第117図	4	土塁？	—	地山削り出し
高取城	12	第117図	4	土塁？	—	盛土
鏡城	1	第120図	14	整地面・小穴	白磁	パイラン土上盛土整地
鏡城	2	第120図	13	整地面・小穴	土師器・瓦器	盛土整地
鏡城	3	第120図	7	—	—	自然地形
鏡城	4	第120図	7	—	—	自然堆積 斜面崩落跡有
鏡城	5	第120図	7	—	—	自然地形
鏡城	6	第120図	7	整地面・小穴	土師器片	灰色砂質土で整地
鏡城	7	第120図	5	整地面	土師器片	—
鏡城	8	第120図	4	—	—	自然地形
鏡城	9	第120図	4	削平地	—	城郭に係るか不明

表13 平成16年度 出土遺物

挿図	番号 遺物	出土位置	種別	器種	法量			色調(文様)		技法・形態の特徴	備考	登録番号	
					口径	底径	器高	外面	内面				
	122	1	葛籠城表採	染付	皿?	—	(6.6)	<1.3>	圏線	—	高台裏圏線	肥前18C前半	051010
	122	3	高取城6 T	青花	皿	(13.6)	—	<2.0>	草花文 圏線	圏線	—	漳州16C後半	051008
	122	4	高取城6 T	青花	皿	(13.0)	—	<2.5>	草花文 圏線	圏線	—	漳州16C後半	051007
	122	5	高取城6 T	青花	碗	(12.0)	—	<3.5>	圏線	圏線	—	漳州16C後半	051006
	122	6	高取城6 T	白磁	皿	(10.4)	(4.0)	2.6	灰オリーブ	—	—	漳州16C後半	051009
	122	7	高取城表採	青花	碗	—	(4.6)	<1.7>	—	—	見込花文?	漳州16C後半	050982
	122	8	鏡城1 T	白磁	皿	(13.7)	—	<1.2>	灰白	—	端反り	景德鎮16C後半	051060
	122	9	鏡城1 T	白磁	皿	(13.2)	—	<2.6>	白灰	—	端反り	景德鎮16C	050986
	122	10	鏡城1 T	土師器	皿	(7.0)	(4.3)	1.7	にぶい橙	—	内外面ナデ	—	050989
	122	11	鏡城1 T	土師器	皿	(12.3)	—	2.4	浅黄橙	—	底部糸切	—	050988
	122	12	鏡城1 T	土師器	皿	(12.8)	—	<3.1>	浅黄橙	—	内外面ナデ	—	050991
	122	13	鏡城1 T	土師器	皿	(10.0)	—	<2.4>	浅黄橙	—	内外面ナデ	—	050992
	122	14	鏡城1 T	土師器	碗	(9.6)	—	<3.4>	浅黄橙	—	内外面ナデ	—	050987
	122	15	鏡城1 T	瓦質土器	壺	(20.4)	—	<2.7>	にぶい黄橙	—	内外面ヨコナデ	—	050990
	122	16	鏡城1 T	瓦質土器	鉢	(31.0)	—	<6.6>	橙	—	内外面ヨコナデ	—	050985
	123	1	鏡城2 T	白磁	碗	—	4.5	<2.5>	灰白	—	軟質	朝鮮16C	051006
	123	2	鏡城2 T	土師器	皿	7.0	4.7	1.9	にぶい橙	褐灰	底部糸切	—	050993
	123	3	鏡城2 T	土師器	皿	—	4.0	<1.5>	にぶい橙	—	底部糸切	—	050995
	123	4	鏡城2 T	土師器	皿	(6.4)	(3.6)	1.2	にぶい赤褐	にぶい橙	内外面ナデ	—	050996
	123	5	鏡城2 T	土師器	皿	—	4.6	<1.4>	浅黄橙	—	底部糸切	—	055997
	123	6	鏡城2 T	土師器	皿	—	(4.9)	<1.3>	浅黄橙	—	底部糸切	—	050998
	123	7	鏡城2 T	土師器	皿	(10.8)	(5.4)	2.6	にぶい橙	—	底部糸切	—	050994
	123	8	鏡城2 T	瓦質土器	火舎	(48.0)	—	<8.8>	褐灰	—	内外面ヨコナデ	—	051101
	123	9	鏡城2 T	瓦質土器	火舎	—	(29.0)	<10.6>	褐灰	—	内外面ヨコナデ	8と同一固体?	051102
	123	10	鏡城7 T	土師器	皿	(8.6)	—	<1.1>	橙	—	内外面ナデ	—	051005
	123	11	鏡城7 T	土師器	皿	(12.0)	4.6	2.5	にぶい橙	—	底部糸切	—	051003
	123	12	鏡城7 T	土師器	碗	8.3	3.7	4.5	にぶい橙	—	底部糸切	—	051004

挿図	番号 遺物	出土位置	種別	器種	法量			色調		技法・形態の特徴	備考	登録番号	
					長さ	幅	厚さ	外面	内面				
	122	1	高取城5 T	銅製品	—	<16.5>	<3.6>	0.1	—	—	兜前立?	051011	
	122	17	鏡城1 T	鉄製品	—	<2.3>	<2.0>	0.5	—	—	端部折り曲げ	—	051063
	122	18	鏡城1 T	鉄製品	—	<2.0>	<2.2>	0.4	—	—	端部折り曲げ	—	051064
	122	19	鏡城1 T	鉄製品	釘	<3.5>	<0.7>	0.5	—	—	—	—	051062
	122	20	鏡城1 T	石製品	—	2.0	1.5	0.6	—	—	—	基石?	051101

表14 武家屋敷地区表採石製品

挿図	番号 遺物	出土位置	種別	器種	法量			色調		技法・形態の特徴	備考	登録番号	
					口径	底径	器高	外面	内面				
	124	1	武家屋敷地区	石製品	皿	(39.0)	(26.9)	9.3	—	—	—	8年度表採	051129
	124	2	武家屋敷地区	石製品	鉢	(40.4)	—	<12.7>	—	—	—	9年度表採	051126
	124	3	武家屋敷地区	石製品	鉢	(26.4)	(15.6)	12.8	—	—	—	—	051128

1. 葛籠城（手前）高取城（奥）
（南東から）



2. 葛籠城11トレンチ石段（東から）



3. 葛籠城14トレンチ（南東から）





1. 葛籠城29トレンチ (東から)



2. 葛籠城26トレンチ (北から)



3. 葛籠城15トレンチ主郭横堀
(南から)



1. 葛籠城12トレンチ (北東から)



2. 葛籠城16トレンチ横堀埋没状態
(南東から)



3. 葛籠城22トレンチ土層 (東面)



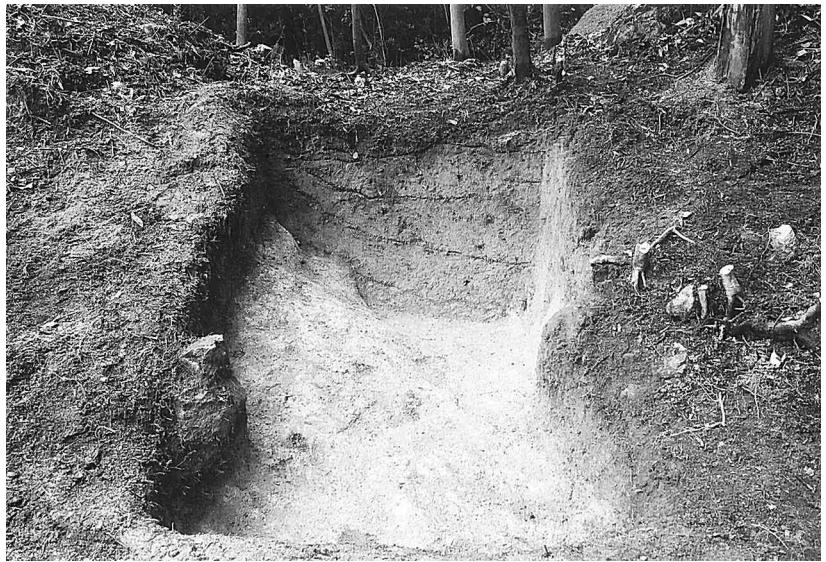
1. 葛籠城24トレンチ土層（西面）



2. 葛籠城27トレンチ（南から）



3. 高取城遠景（西から）



1. 高取城5トレンチ虎口（東から）



2. 高取城6トレンチ（西から）



3. 高取城西尾根上の土塁状の遺構
（東から）



1. 高取城11トレンチ土層
(南東から)



2. 高取城12トレンチ土層 (東から)



3. 鏡城遠景 (南西から)

1. 鏡城1トレンチ (北西から)

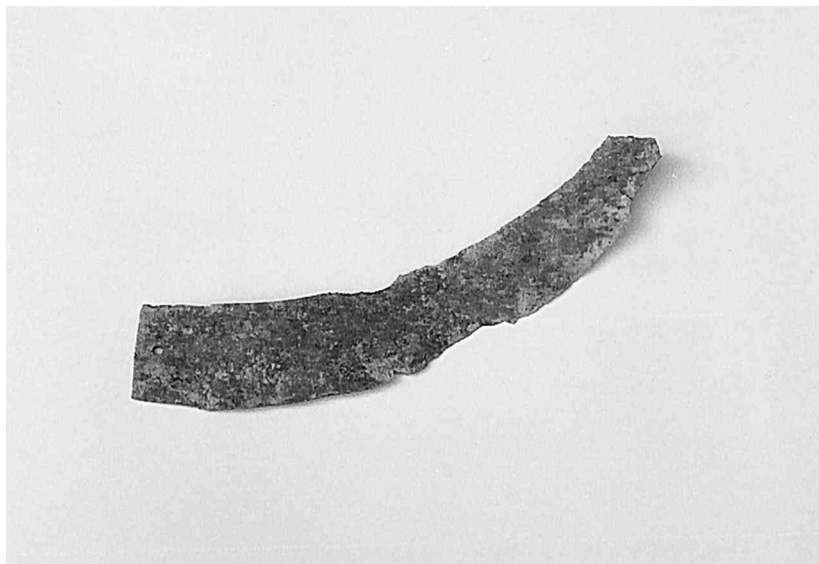


2. 鏡城2トレンチ (東から)

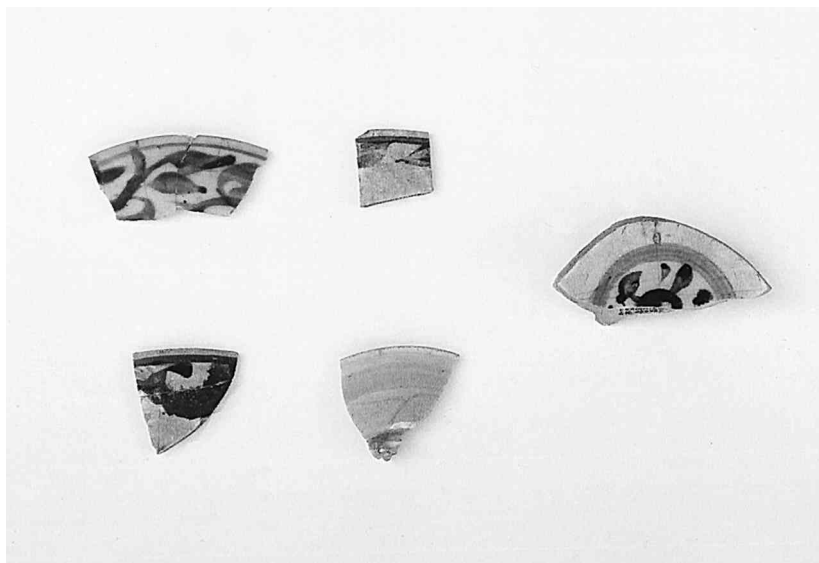


3. 鏡城2トレンチ遺物出土状態 (東から)





1. 高取城5トレンチ出土銅製品



2. 高取城6トレンチ出土遺物
(磁器)



3. 鏡城出土遺物

第4章 まとめ

本報告書は勝尾城筑紫氏遺跡の平成11年度から16年度に調査を実施した、遺跡確認調査の報告書である。調査は平成11年度が筑紫氏館跡を中心にした地区、平成12年度が勝尾城背面（北）の貝方集落を中心にした地区、平成13年度が若山砦一帯と鬼ヶ城周辺と勝尾城南東・南山麓地区、平成14年度が勝尾城の北及び北西山麓地区、平成15年度が勝尾城主要部並びに周辺一帯地区、平成16年度が葛籠城、高取城、鏡城などの支城地区、を対象に実施した。

調査の目的はそれぞれの地区の状況を把握することであるが、特に筑紫氏館跡についてはその残存状態と遺構の広がり並びに館の構造の解明、貝方集落を中心とする地区では搦め手口の様相の解明と貝方集落の成立、若山砦では城跡と北側平場の状況確認、勝尾城並びに山麓地区については本城の在り方、構造とその広がり、各支城群についてはそれぞれの城郭の時期と状況の把握などを主眼に調査を実施した。以下、主要な調査成果並びに問題点について整理し、まとめとしたい。

【11年度の調査—筑紫氏館跡】

筑紫氏館跡は良好な状態で遺構、遺物が遺存していることが明らかになった。現地表下0.3m～1mで焼土面、石積み列、柱穴等が確認された。出土遺物は多種、多量に及ぶ。これら遺物の分布（灯明皿、塩壺、土師皿、瓦等）や遺構の状態などから、館の基本構造が主殿を中心に左手が台所などの「ケ」の場、右手が会所、庭園などの「ハレ」の場という配置であったことが推測されるようになった。また、館は虎口の付け替えと枳形虎口の採用、石積みの多用並びに出土遺物の時期などから、天正期に大改修されていることが考えられた。

館を中心にする遺構がB地区（北側）、C地区（西側）まで広がっていることが確認されたが、それぞれの場所の性格については今後解明すべき課題として残った。

館出土の遺物は多種、多量に及ぶが、陶磁器の時期が伝世品と考えられるもの以外はほとんどが16世紀後半のもので占められることが明らかになった。館が天正期に大改修されたと考える根拠である。また、17世紀代の陶磁器は一切無く、館の下限が明らかになるとともにその時期が筑紫氏の在城時期と一致することが裏付けられた。なお遺物で注目されることは、硯、中国銭、刀装具や小柄の柄、塩壺、漆塗り椀など他地点には無い遺物が出土しており、館としての性格が裏付けられた。

【12年度の調査—貝方集落地区】

貝方集落から地元で「城道」と呼ぶ山道が延び勝尾主郭と「(伝) 二の丸」との間の曲輪に通じている。この地区は勝尾城北麓に当たり、勝尾城南麓の館・家臣屋敷などの勝尾城下町中枢域とは城山（勝尾城）を間に、勝尾城の搦め手という位置を占めている。「城道」の存在もあり、勝尾城の搦め手口としての在り方並びに貝方集落が城下集落であるかどうかについて注目したが、戦国時代の明瞭な遺構は確認できなかった。なお、貝方集落の成立に係ると考えられる廃絶家屋出土の遺物は17世紀前半を上限としており、貝方集落は勝尾城廃絶後に成立したことが明らかになった。

14世紀～15世紀前半、16世紀後半の陶磁器、土師器が出土している。このうち16世紀後半のものは景德鎮産の磁器（皿）1点のみである。勝尾城存続時期にはこの搦め手口（谷最奥部）の利用はあまりされておら

ず、むしろ木戸によって封鎖されていた空間と考えられる。また、14世紀～15世紀前半の資料は量も多くまとまっているが点的であり、その在り方や性格を明らかにすることはできなかったが修験関係の場があった可能性が考えられた。

【13年度の調査―若山砦ほか】

若山砦については、「肥前州基肄郡勝尾山筑紫広門公城跡之図」の勝尾城二の丸手前の山頂に描かれている。また、福岡藩筑紫辰五郎家伝来の「筑紫家覚書」に島津合戦の様態とともに、金屋左衛門が守備したと記されている。しかし、その場所については今回の確認調査まで明瞭ではなかった。調査は、まず若山砦の位置を確認する目的で勝尾城南東の尾根（B地区）から開始したが、この地点からは城郭遺構は認められず焼成跡の残る小穴とともに古代に遡る土師器の鉢、皿、須恵器などが出土した。他の生活の痕跡を示す遺構、遺物はなく、特殊な埋納遺構と考えられた。調査の項で指摘しているとおり、山岳祭祀に関わる遺構、遺物であろう。勝尾城前史を考える資料である。

B地区のさらに南東で表面観察の結果、堀切、石積み、平場（曲輪）などが確認され、明らかに城郭関連遺構と考えられた。調査の結果、16世紀後半の陶磁器並びに瓦器の捏ね鉢などが曲輪、堀切から出土した。この場所は絵図の若山砦の位置とも一致しており、この地点が若山砦であることを裏付けた。城郭の基本構造は、尾根の基部に掘り切り先端にかけ階段状の削平を施す単郭の曲輪であり、裾部に帯状の腰曲輪を巡らす。曲輪の規模は長さ約80m、幅約10mである。なお土塁は認められない。また堀切の溝内部には中央を境に仕切りが設けられていた。小規模の城郭であり土塁など新しい城普請の手は認められないが、出土遺物から勝尾城の支城として16世紀後半まで機能していたことが判明した。

C地区はB地区（若山砦）の北東側山裾の谷にある平場で、かつて水田として利用されていた場所である。この谷は勝尾城下町中枢部（四阿屋川沿い）の谷とは異なり、背面に入り組む安良川に注ぐ谷である。調査では地表下約0.3mから焼土を含む造成面が確認され、石列、柱穴などとともに16世紀代の白磁、青花などの輸入磁器が出土した。今回の調査によって、勝尾城下町の屋敷地が城下中枢部とは異なる谷にまで広がっていること、この屋敷地が若山砦とセットとなる空間の可能性があることなどが明らかになった。

【14年度の調査―勝尾城北及び北西山麓】

勝尾城北及び北西山麓は緩やかな傾斜地となっており、その中を伝「城道」が通っている。また字名で「城の本」とされるのがこの一帯である。また、この一帯ではかつて「城道」沿いから陶磁器が採集されると共に、主郭から北へ延びる二本の尾根には堀切、塁段、平場などが確認されていた。調査はA～Fの6地区で実施し、上述した城道沿い、平場からは数は多くないが輸入陶磁器類、瓦器、石臼などが出土した。陶磁器（青花）の時期は16世紀後半である。今回の調査を通じ城域がさらに北側に広がることが明らかになった。また城道東・西の尾根（A・B地区）を塁段、平場等で堅め、その間の緩斜面を城域として利用していること、九千部山へ通じる尾根（E地区）には畝状塹堀、大規模な堀切などを備え防御ラインを形成していることが明らかになった。

【15年度の調査―勝尾城曲輪群・鬼ヶ城】

勝尾城並びに鬼ヶ城を対象に遺構・遺物を確認し、その時期や状況を明らかにすることを調査の目的とした。調査地区は勝尾主郭一帯をA地区、主郭から東・南へ展開する曲輪一帯をB地区、大手道を取り込んだ

出曲輪をC地区とした。

今回の調査を通じ勝尾城ではいくつかの重要な発見があった。まず遺構では主郭のA地区18Tで埋没した横堀が検出された。この場所は従来主郭下の小平場（腰曲輪）と認識されていた所で、今回の調査で主郭主要部下（7T・18T）には横堀が巡らされることが明らかになった。また、主郭2T・3Tでは並びは明瞭ではないものの礎石が確認され、礎石立ちの建物があったことが推測された。さらに11Tでは東西12.1m、東西5.8m以上に及ぶ石敷き遺構が検出された。この上に建物が立つと考えられるがその性格は不明である。なおB地区では柱穴が検出され、主郭が礎石立ち建物であるのに対し周辺の曲輪は掘立て柱建物であったことがうかがわれた。B地区谷部斜面の10T・11Tで非常に鈍い塁段の平場が視認され、調査の結果遺構であることが判明した。尾根筋だけではなく谷部にまで遺構が広がることが明らかになった。この他、主郭通路の石段やC地区（出曲輪）の石段と通路など、遺構が良く残っていることが判明した。

出土遺物も多種、多量に及んだ。遺物の種類は輸入陶磁器（白磁・青磁・青花・華南産陶器）、国産陶器（備前）、瓦器（鉢・湯釜）、土師器（皿）、硯、瓦、金属器（留金具・飾り金具・青銅製杓）などである。陶磁器の磁器は16世紀後半を主体とする。このうち輸入陶磁器で華南三彩、瀬戸、美濃産の天目茶碗などはこの勝尾城で初めて確認された資料である。なお、遺物の出土量は主郭がもっとも多く、周辺になるにつれ出土量は減少する。また、A地区11Tでは甕、鉢などが多くも出土しており、山上で生活（居城市化）していたことが窺われた。瓦が出土していることも注目される。少量でありその使い方が問題となろう。

鬼ヶ城では虎口に伴う石段、折れをもつ石積みの虎口などが新たに確認された。また、土塁は曲輪を連結してつくられており、石積みの虎口などととも16世紀後半代に改修されている様子を窺わせた。遺物は青磁、白磁などの輸入磁器、土師器（皿）、瓦器（湯釜）などが出土した。遺物で注目されることは14世紀後半～15世紀中頃の白磁、青磁を含んでいることである。勝尾城下町では最も古い一群であり、鬼ヶ城の築城時期が他の城郭に比し古くなる可能性を示唆した。

【16年度の調査—葛籠城・高取城・鏡城】

山城調査の最終年度として支城群の調査を実施した。過去葛籠城については平成8年度に一部確認調査を実施し、城郭に付随する16世紀代の屋敷空間が確認されていた。高取城、鏡城については今回初めての調査である。また、いずれの山城においてもこれまでの視認調査によって、良好な状態で堀切、塹堀、土塁、曲輪などが残っていることが分かっていた。

調査ではこれら遺構の残存状態が追認されると共に、新たに葛籠城では11Tから宗教的空間の可能性のある平場と石段の出入り口、高取城では土塁を伴う右折れの虎口、鏡城では城に付随する平場（6T・7T）が発見された。

遺物はそれぞれ表13に示したとおり輸入陶磁器（白磁・青花）瓦器、土師器などが出土した。時期は16世紀後半が主体で、これら山城が勝尾城の支城として最後まで機能していたことが証明された。なお、鏡城から比較的多くの土師皿が出土したことが注目される。

以上、調査について概観した。城下町の全体構造とその展開、場の性格、総構の意識、町屋の性格、瓦、陶磁器、銭などの遺物の在り方等、整理すべき諸問題について諸般の事情で言及できなかった。別稿を期したい。また、本文中の筑紫氏の系る内容については堀本一繁氏の論文に負うところが大きい。記して感謝したい。

報告書抄録

ふりがな	かつのおじょうちくししいせき							
書名	勝尾城筑紫氏遺跡							
副書名	勝尾城筑紫氏（勝尾城下町）遺跡確認調査報告書							
巻次	(2)							
シリーズ名	鳥栖市文化財調査報告書							
シリーズ番号	第78集							
編著者名	鹿田昌宏 石橋新次 向田雅彦 久山高史 内野武史							
編集機関	鳥栖市教育委員会							
所在地	〒841-8511 佐賀県鳥栖市宿町1118番地 TEL0942-85-3695							
発行年月日	2006年3月31日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 ° ' "	東経 ° ' "	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
かつのおじょう 勝尾城 ちくししい 筑紫氏	さがけんとうすし 佐賀県鳥栖市 やまうらまち うしわら 山浦町・牛原 まち かわちまち 町・河内町	410213	—	33° 23' 42"	130° 27' 59"	19991204 ～ 20050331	3,142m ² (トレンチ面積)	重要遺跡 確認調査
所収遺跡名種別		主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
勝尾城筑紫 氏遺跡 11年度	城郭 城下町	戦国時代 (16世紀)	館跡の建物跡(柱穴) 焼けた土壁、庭園、 石組み	青花碗・皿類、青白磁、 陶器、瓦、瓦質土器、 土師器等		筑紫氏館跡跡の詳細 確認。		
12年度	集落	古代 近世初期	17世紀前半の建物関 連遺構	近世陶磁器類、瓦質土 器、土師器、須恵器等		勝尾城の北谷(搦手) の確認。		
13年度	城郭 城下町	古代 戦国時代 (16世紀)	若山砦の曲輪、空堀 屋敷跡の柱穴	青花碗・皿類、青白磁、 陶器、瓦質土器、須恵 器、土師器等		位置が不明であった 「若山砦」を確認。		
14年度	城郭 城下町	戦国時代 (16世紀)	勝尾城の北斜面の曲 輪、空堀	青花碗・皿類、青白磁、 陶器、瓦質土器、土師 器等		勝尾城北斜面の城域 の確認。		
15年度	城郭 城下町	戦国時代 (16世紀)	勝尾城—空堀、虎口、 石敷き遺構 鬼ヶ城—虎口に伴う 石段、石積みの虎口	青花碗・皿類、青白磁、 陶器、瓦質土器、土師 器等		勝尾城、鬼ヶ城の遺構 及び、時期の確認。		
16年度	城郭 城下町	戦国時代 (16世紀)	葛籠城—空堀、土塁 高取城—虎口、土塁 鏡城—整地面、小穴	青花皿、青白磁、瓦質 土器、土師器等		葛籠城、高取城、鏡城 の遺構及び、時期の確 認。		

鳥栖市文化財調査報告書第78集

勝尾城筑紫氏遺跡

勝尾城筑紫氏（勝尾城下町）遺跡
確認調査報告書（2）

平成18年3月31日 発行

編集
発行 鳥栖市教育委員会
佐賀県鳥栖市宿町1118番地

印刷 松雪印刷所
佐賀県鳥栖市本町3丁目